

辛未、四高駢密に金を以て守者に遺る。畢師鐸、之を聞き、壬午、復た駢を迎へて、道院に入れ、高氏の子弟甥姪十餘人を收め、同じく之を幽す。前の蘇州の刺史張雄、其衆を帥る、海より江を泝り、東塘に屯し、其將趙暉を遣はし、入りて上元に據らしむ。

畢師鐸が廣陵を攻むるや、呂用之詐りて高駢の牒を爲り、廬州の刺史楊行密を行軍司馬に署し、兵を追うて入り援けしむ。廬州の人袁襲、行密に説きて曰はく、「高公は昏惑、用之は姦邪、師鐸は悖逆、凶徳、五參會し、而して兵を我に求むるは、此れ天、淮南を以て明公に授くるなり。趣かに之に赴け」と。行密乃ち悉く廬州の兵を發し、復た兵を和州の刺史孫端に借り、數千人を合せて之に赴く。五月、天長に至る。鄭漢章が師鐸に従ふや、其妻を留めて淮口を守らしむ。用之、衆を帥るて之を攻む。旬日にして、克たず。漢章、兵を引きて之を救ふ。用之、行密が天長に至るを聞き、兵を引きて之に歸す。丙子、朱全忠出でて張旺を撃ち、大に之を破る。秦宗權、之を聞き、鄭州より、六精兵を引きて之に會す。

張神劍、貨を畢師鐸に求む。師鐸、報するに秦司空の命を俟つを以てす。神劍怒り、亦、其衆を以て

【四二】駢、守者が之を思とするを冀ひ、因つて以て出でんとを求む。  
【四三】道院、高駢が起して以て神仙を迎ふる所。  
【四四】三者合集するを參會と爲す。  
【四五】秦宗權、兵を引きて旺に會し以て全忠を撃つ。

て楊行密に歸す。及び海陵鎮遏使高霸、七曲溪の人劉金、盱眙の人賈令威、悉く其衆を以て焉に屬す。行密の衆、萬七千人に至る。張神劍、高郵の糧を運び、以て之に給す。

朱全忠、救を兗鄆に求む。朱瑄、朱瑾、皆、兵を引きて之に赴く。八義

成軍も亦至る。辛巳、全忠、四鎮の兵を以て、秦宗權を、九邊孝村に攻め、大に之を破る。斬首二萬餘級。宗權宵遁る。全忠、之を追ひ、一〇陽武橋に至りて還る。全忠深く朱瑄を徳とし、之に兄事す。蔡人の、一一東都・河陽・許・汝・懷・鄭・陝・虢を守る者、宗權敗れぬと聞き、皆、棄て去る。宗權、鄭州を發し、孫儒、河陽を發し、皆、其人を屠滅し、其廬舎を焚きて去る。宗權の勢、是より稍く衰ふ。朝廷、扈駕都頭楊守宗を以て許州の事に知たらしむ。朱全忠、其將孫從益を以て鄭州の事に知たらしむ。錢鏐、一二東安の都將杜稜、浙江の都將阮結、靜江の都將成及を遣はし、兵を將りて、一三薛朗を討たしむ。

【四六】揚州盱眙縣の西南十里に曲溪有り。劉金は曲溪の屯將なり。  
【四七】二年、朱全忠、義成軍を并せ、其兵を徴して以て蔡人を撃つ。  
【四八】邊孝村、汴州の北郊に在り。  
【四九】陽武橋は、鄭州陽武縣(今、河南省河北道)に在り。縣は汴州の西北九十里に在り。  
【五〇】東安、浙江、靜江、杭州新城縣(今の浙江省錢塘道新登縣)に東安鎮、浙江、靜江の二都有り。蓋し分れて杭州城外に屯す。  
【五一】薛朗を討つは、其の周寶を逐ひしを以てなり。

甲午、秦彦、宣歙の兵三萬餘人を將り、竹筏に乗りて江に沿うて下る。趙暉、上元に邀へ撃ち、殺溺殆ど半す。丙申、彦、廣陵に入り、自ら權知淮南節度使と稱し、仍ほ畢師鐸を以て行軍司馬と爲し、池州の刺史に補し、趙錕を宣歙觀察使と爲す。戊戌、楊行密、諸軍を



帥ひきめて廣陵城下に抵り、八塞さいを爲りて以て之を守る。秦彥しんげん、城を閉ぢて自ら守る。

六月戊申、〔五〕天威都頭楊守立、鳳翔節度使李昌符と道を争ひ、麾下相殿あひうつ。帝、中使に命じて之を

諭さとさしむ。止めず。是夕、宿衛、皆、兵を嚴にし備を爲す。己酉、昌符、兵を擁して行宮を燒く。庚

戌、復た大安門を攻む。守立、昌符と、通衢に戦ふ。昌符、兵敗れ、麾下を帥ひきる、走りて〔五三〕隴州を

保つ。杜讓能、難を聞き、身を挺ひきんて歩いて入り侍す。韋昭度、其家を軍中に質とし、誓つて反賊を誅

せんとす。故に軍士、力戦して之に勝てり。守立は復恭の假子なり。壬子、

〔五二〕隴州を討たしむ。

甲寅、河中の牙將常行儒、節度使王重榮を殺す。重榮、法を用ふること

嚴に、末年尤も甚だし。行儒嘗て罰せられ、之を恥ぢ、遂に亂を作し、夜、

府舎を攻む。重榮、別墅に逃る。明旦、行儒、得て之を殺す。制して、陝

虢節度使王重盈を以て護國節度使と爲し、又、重盈の子珙を以て陝虢留後を權知せしむ。重盈、河中

に至り、行儒を執へて之を殺す。

戊午、秦彥、畢師鐸、秦稠を遣はし、兵八千を將ひきる、城西に出で、楊行密を撃たしむ。稠、敗れ死

し、士卒の死する者什に七八。城中、食乏しく、樵採の路絶ゆ。〔五四〕宣州の軍始めて人を食ふ。

壬戌、亳州の將謝殷、其刺史宋衮を逐ふ。

孫儒既に河陽を去るや、〔五五〕李罕之、張全義を澤州より召し、之と與に餘衆を收合し、罕之は河陽に

據り、全義は東都に據り、共に援を河東に求む。李克用、其將安金俊を

以て澤州の刺史と爲し、騎を將ひきりて之を助けしめ、罕之を表して河陽節度

使と爲し、全義を河南の尹と爲す。初め東都、黃巢の亂を經、遺民聚まり

て三城を爲り、以て相保つ。繼つぎに秦宗權、孫儒の殘暴を以てし、僅に壞

垣を存するのみ。全義初めて至るや、白骨、地を蔽ひ、荆棘彌望、居民、

百戸に満たず。全義の麾下に百餘人、相與に中州城を保つ。四野俱

に耕者無し。全義乃ち麾下に於て、十八人の材器、任ず可き者を選び、人

ごとに一旗一勝を給し、之を屯將と謂ひ、十八縣の故墟落中に詣り、旗

を植て勝を張り、流散を招懷し、之に樹藝を勸めしめ、惟だ人を殺す者は

死し、餘は但だ笞杖するのみ、嚴刑無く、租稅無し。民の之に歸する者市

の如し。又、壯者を選び、之に戰陳を教へ、以て寇盜を禦がしむ。數年の

後、都城坊曲、漸く舊制に復し、諸縣の戸口、率ね皆歸復し、桑麻蔚然として、野に曠土無し。

其の兵に勝ふる者、大縣は七千人に至り、小縣は二千人を滅せず。乃ち奏して令佐を置きて以て之を

唐僖宗惠聖恭定孝皇帝光啓三年

五九〇

〔五二〕 天威も亦神策五十四都の

一。

〔五三〕 鳳翔より西のかた隴州に

至るまで一百五十里。

〔五四〕 李茂貞、時に武定の節を

領して宿衛す。

〔五五〕 宣州の軍は、秦彥の兵な

り。

〔五六〕 去年、孫儒、河陽を陥る

るや、張全義、懷州に據り、

李罕之、澤州に據り、以て之

を拒ぐ。蓋し懷州は河陽に逼

近す。全義尋ぎて退きて澤州

に屯するなり。

〔五七〕 城、三城の間に在るを以

て、中州城といふ。

〔五八〕 河南の二十縣、河南・洛

陽二縣は城中に在り、其外、

偃師・鞏・緱氏・陽城・登封・陸

渾・伊闕・新安・滎池・福昌・長

水・永寧・壽安・密・河清・潁陽・

伊陽・王屋凡そ十八縣。

〔五九〕 曠土。耕さざるの土をい

ふ。曠は空しき也。

〔六〇〕 曠土無し。

五九一

唐僖宗惠聖恭定孝皇帝光啓三年

五九一



治む。全義・明察にして、人、欺く能はず。而して政を爲すこと寛簡なり。出でて田疇の美なる者を見れば、輒ち馬を下り、僚佐と共に之を觀、田主を召し、勞ふに酒食を以てし、蠶麥の善く收まる者有れば、或は親ら其家に至り、悉く老幼を呼び出し、賜ふに茶綵衣物を以てす。民間言ふ、「張公、聲伎を喜ばず、之を見れども未だ嘗て笑はず。獨り佳麥・良繭を見れば則ち笑ふのみ」と。田の荒穢する者有れば、則ち衆を集めて之を杖す。或るひと訴ふるに人牛に乏しきを以てす。乃ち其鄰里を召し、之を責めて曰はく、「彼誠に人牛に乏しくば、何ぞ之を助けざる」と。衆皆謝す。乃ち之を釋す。是に由りて、鄰里有無相助く。故に比屋皆蓄積有り、凶年にも饑ゑず。(五九二) 遂に富庶を成す。

杜稜等、薛朗の將李君暉を(五九三) 陽羨に敗る。 秋七月癸未、淮南の將吳苗、其徒八千人を帥ゐ、城を踰えて楊行密に降る。八月壬寅朔、李茂貞・奏す、「隴州の刺史薛知壽、城を以て降り、(五九四) 李昌符を斬り、其族を滅ぼせり」

朱全忠、兵を引ききて亳州に過り、其將霍存を遣はし、(五九五) 謝殷を襲ひ、之を斬る。

丙子、李茂貞を以て同平章事とし、鳳翔節度使に充つ。  
韋昭度を以て太保を守り、侍中を兼ねしむ。

朱全忠、兗鄆を兼ねんと欲す。而れども(五九六) 朱瑄兄弟が己に功有るを以て、之を攻むること名無し。

乃ち「瑄、宣武の軍士を招誘せり」と誣ひ、移書して誚讓す。瑄復書するに不遜なり。全忠、其將朱珍・葛從周を遣はして曹州を襲はしむ。壬子、之を抜き、刺史丘弘禮を殺す。又、濮州を攻め、兗鄆の兵と(五九七) 劉橋に戦ひ、數萬人を殺す。朱瑄・朱瑾、僅に身を以て免る。全忠、兗鄆と、始めて隙有り。

秦彦、張雄の兵彊きを以て、其用を得んことを冀ひ、(五九八) 僕射の告身を以て雄に授け、尙書の告身三通を以て裨將馮弘鐸等に授く。廣陵の人、競うて珠玉金繒を以て雄の軍に詣りて食に(五九九) 買ふ。通犀帶一、米五升を得、錦衾一、糠五升を得。雄の軍既に富み、復た肯て戦はず。未だ幾ばくならずして、復た楊行密を助く。丁卯、彦悉く城中の兵萬二千人を出し、畢師鐸・鄭漢章を遣はし、之を將ゐて城西に陳せしむ。延袤數里、軍勢甚だ盛なり。行密、帳中に安臥して曰はく、「賊近づかば我に告げよ」と。牙將李宗禮曰はく、「衆寡、敵せず。宜しく壁を堅くし自ら守り、徐ろに師を還さんことを圖るべし」と。李濤怒りて曰はく、「吾、順を以て逆を討つ、何ぞ衆寡を論せん。大軍此

【五九三】 史、張全義が河南を治むるの績效を究言す。  
【五九四】 陽羨。漢の古縣。晉、義興郡を立つ。隋、郡を廢して陽羨を改めて義興縣と爲す。唐の武德七年、義興を分ちて陽羨縣を置く。今の江蘇省蘇常道宜興縣の南に在り。  
【五九五】 中和元年、李昌言、鄭畋を逐ひ、岐に據り、兄弟七年にして滅ぶ。  
【五九六】 是年六月、謝殷、刺史を殺し、亳州に據る。  
【五九七】 朱瑄兄弟、汴州を救ひ、蔡の兵を敗る。  
【五九八】 劉橋。曹州の乘氏縣の東北、濮州の范縣の西南に在り。  
【五九九】 此等の告身は、蓋し高駢が諸道の都統たる時、朝廷の給する所の空名の告身なり。  
【六〇〇】 物を以て物に易ふるを買と曰ふ。  
【六一〇】 通犀帶。通天犀の帶なり。



に至り、去りて將に安に歸せんとする。濤願はくは所部を將ゐて前鋒と爲らん。公の爲めに之を破らんとことを保す」と。濤は趙州の人なり。行密乃ち金帛、麩米を一寨に積み、羸弱をして之を守らしめ、多く精兵を其旁に伏せ、自ら千餘人を將ゐて其陳を衝く。兵始めて交はるや、行密陽りて勝たずして走る。廣陵の兵、之を追ひ、空寨に入り、争うて金帛麩米を取る。伏兵四より起り、廣陵の衆亂る。行密、兵を縦ちて之を撃ち、俘斬して殆ど盡く。積尸十里、溝瀆皆滿つ。師鐸・漢章、單騎にて僅に免る。是より、秦彦、復た師を出すを言はず。

九月、戸部侍郎判度支張濬を以て兵部侍郎・同平章事と爲す。

高駢、道院に在り。秦彦の供給甚だ薄し。左右、食無く、木像を然し。革帶を煮て之を食ひ。相啗ふ者有るに至る。彦、畢師鐸と與に、師を出して屢敗れ、駢が厭勝を爲すならんと疑ふ。外圍益急なり。駢の黨に内應を爲す者有らんことを恐る。妖尼王奉仙有り、彦に言つて曰はく、「楊州の分野、災を極む。必ず一人の死する有り、此より喜ばん」と。甲戌、其將劉匡時に命じて駢を殺さしめ、其子弟・甥姪を并せ、少長と無く皆死す。坎を同じくして之を瘞む。乙亥、楊行密、之を聞き、士卒を帥ゐて縞素し、城に向つて大に哭すること三日。

朱珍、濮州を攻む。朱瑄、弟罕を遣はし、歩騎萬人を將ゐて之を救はし

【六六】 雖は小麥なり。

【六九】 范。漢の縣、唐、濮州に屬す。州の東六十里に在り。

今の山東省東臨道范縣の東南二十里。

【七〇】 張神劍・高翽、各々奔りて舊屯の地に歸る。

【七二】 濮州より東のかた鄆州に至るまで一百八十里。

辛卯、朱全忠、罕を范に逆へ撃ち、擒にして之を斬る。

冬十月、秦彦、鄭漢章を遣はし、歩騎五千を將ゐ、出でて張神劍・高翽の寨を撃たしめ、之を破る。神劍は高郵に奔り、翽は海陵に奔る。

丁未、朱珍、濮州を抜く。刺史朱裕、鄆に奔る。珍、兵を進めて、鄆を攻む。瑄、裕をして詐りて珍に書を遣らしめ、内應を爲さんことを約す。珍、夜、兵を引きて之に赴く。瑄、門を開きて汴の軍を納れ、閉ちて之を殺す。死する者數千人。汴の軍乃ち退く。瑄、勝に乗じて復た曹州を取り、其屬郭詞を以て刺史と爲す。

甲寅、皇子陞を立てて益王と爲す。

杜稜等、常州を抜く。丁從實、海陵に奔る。錢鏐、周寶を奉じて、杭州に歸る。囊鞬を屬し、部將の禮を具し、之を郊迎す。

楊行密、廣陵を圍むこと且に半年ならんとす。秦彦・畢師鐸、大小數十戰、多く利あらず。城中、食無く、米斗ごとに直錢五十緡。草根木實皆盡き、葦泥を以て餅を爲りて之を食ふ。餓死する者大半。宣軍、人を掠め、肆に詣りて之を賣る。驅縛して屠割すること羊豕の如し。訖に一聲無し。積骸流血、坊市に滿つ。彦・師鐸、之を如何ともする無く、嘖蹙するのみ。外圍益急に、彦・師鐸・憂

【七三】 光啓二年六月、丁從實、常州を取る、是に至りて敗る。

【七四】 杭州は、本、鎮海の巡屬、故に鏐、部將の禮を以て寶を迎ふ。

【七五】 葦泥。黏土なり。

【七六】 眉を攢むるを嘖と爲し、頰を皺むるを蹙と爲す。



瀆し、殆ど生意無く、相對して膝を抱き、終日悄然たり。行密も亦城の久しく下らざるを以て、引  
 き還らんと欲す。己巳夜、大に風ふき雨ふる。呂用之の部將張審威、麾下の士三百を帥る、晨に西壕  
 に伏し、守者の易代するを俟ち、潜に城に登り、關を啓きて其衆を納る。  
 守者、皆、鬪はずして潰ゆ。是より先、彦・師鐸、尼奉仙を信重し、戰陳  
 の日時・賞罰の輕重と雖も、皆、決を取る。是に至りて、復た奉仙に咨りて  
 曰はく、『何を以てか濟を取らん』と。奉仙曰はく、『走るを上策と爲す』  
 と。乃ち開化門より、出でて東塘に奔る。行密、諸軍を帥る、萬五千人を  
 合はせて城に入る。梁纘が節を高氏に盡さず、秦・畢の用を爲せるを以て、  
 戰門の外に斬る。韓問、之を聞き、井に赴きて死す。高駉の從孫愈を  
 以て副使を攝し、改めて駉及び其族を殲せしむ。城中の遺民纔に數百家、  
 饑羸して、復た人の狀に非ず。行密、西寨の米を輦して以て之を賑ふ。  
 行密自ら淮南留後と稱す。

秦宗權、其弟宗衡を遣はし、兵萬人を將ゐて淮を度り、楊行密と揚州  
 を争はしむ。孫儒を以て副と爲す。張佶・劉建鋒・馬殷・及び宗權の族弟彦  
 暉、皆從ふ。十一月辛未、廣陵城の西に抵り、行密の故寨に據る。行密の輜重の未だ城に入らざ

- 【五九】 引きて廬州に還らんと欲す。
- 【七〇】 戰を門に設く、故に之を戰門と謂ふ。
- 【七一】 梁纘・韓問は一體の人。纘既に誅せられ、問、罪を免れざるを知り、井に赴きて死す。
- 【七二】 楊行密の寨は廣陵城の西に在り。此れ軍に餉するの米なり。
- 【八〇】 胡三省曰はく、攻守の勢、地、必ず争ふ所有り。楊行密が廣陵を攻むるや、城西に寨す。蔡人が行密を攻むるや、又、其故寨に據る。蓋し形勝を争ふ者、他の圖を以てし難きなりと。

る者、蔡人の得る所と爲る。秦彦・畢師鐸、東塘に至る。張雄、納れず。將に江を度りて宜州に趣  
 かんとす。宗衡、之を召す。乃ち兵を引き還り、宗衡と合す。未だ幾くならずして、宗權、宗衡を  
 召して蔡に還り、朱全忠を拒がしむ。孫儒、宗權の勢久しき能はざるを知り、疾と稱して行かず。  
 宗衡屢、之を促す。儒怒る。甲戌、宗衡と酒を  
 飲み、坐中、之を手刃し、首を全忠に傳ふ。宗  
 衡の將、安仁義、行密に降る。仁義は本沙陀  
 の將なり。行密悉く騎兵を以て之に委ね、田  
 頽の上に列す。儒、兵を分ちて鄰州を掠む。未  
 だ幾くならずして、衆、數萬に至る。城下・食  
 乏しきを以て、彦・師鐸と與に高郵を襲ふ。  
 初め宣武都指揮使朱珍、排陳斬斫使李唐賓と、  
 勇略功名略ぼ相當る。全忠、戰ふ毎に、二人をして偕に往かしむ。捷たざるは無し。然れども二人素  
 より相下らず。珍、人をして其妻を大梁より迎へしめ、全忠に白さず。全忠怒り、其妻を追ひ還し、  
 守門者を殺し、親吏蔣玄暉をして珍を召さしめ、漢賓を以て代りて其衆を總べしむ。館驛巡官  
 馮翊の敬翔諫めて曰はく、『朱珍は未だ輕しく取り易からず。恐らくは其れ猜懼して變を生せん』

- 【八一】 秦彦、還りて舊治に趣かんと欲す。
- 【八二】 安仁義は、初め李國昌に塞上に事へ、過を以て河陽に奔り、因つて秦宗權の軍中に入るを得たり。
- 【八三】 胡三省曰はく、楊行密、合肥に起り、一時の諸將、田頽を冠と爲す。一旦、安仁義を得、頽の上に列し、卒に其力用を收む。史、其の人を知りて善く任するを言ふと。
- 【八四】 孫儒未だ即ち廣陵を攻めず、先づ鄰州を掠めて、以て其衆を益す。
- 【八五】 漢賓は當に唐賓に作るべし。
- 【八六】 唐の制、節度使の屬官に、行軍司馬・副使・判官・支使・掌書記・巡官・衙推各、十人、同節度副使十人、館驛巡官四人有り。



と。全忠悔い、人をして追うて之を止めしむ。珍果して自ら疑ふ。丙子夜、珍、酒を置き、諸將を召す。唐賓、其の異圖有らんことを疑ひ、關を斬りて大梁に奔る。珍も亦軍を棄て、單騎にて繼いで至る。全忠、兩つながら其才を惜み、皆、罪せず、遣りて濮州に還らしむ。因つて兵を引きて歸る。全忠、權數多く、將佐其の爲す所を測るもの莫し。惟だ敬翔のみ能く逆め之を知り、往往、其の及ばざる所を助く。全忠大に悦び、自ら、翔を得るの晩きを恨む。凡そ軍機・民政、悉く以て之に咨ふ。

辛巳、高郵鎮遏使張神劍、麾下二百人を帥る、逃れて揚州に歸る。丙戌、孫儒、高郵を屠る。戊子、高郵の殘兵七百人、圍を潰して至る。楊行密、其の變を爲さんことを慮り、分ちて諸將に隸し、一夕盡く之を阮にす。明日、神劍を其第に殺す。楊行密、孫儒が勝に乗じて海陵を取らんことを恐れ、壬寅、鎮遏使高霸に命じて、其兵民を帥る、悉く府城に歸らしめ、曰はく、『命に違ふ者有らば之を族せん』と。是に於て、數萬戸、資産を棄て、廬舎を焚き、老幼を挈へ、廣陵に遷る。戊戌、霸、弟唯、部將余纒山・前の常州の刺史丁從實と與に廣陵に至る。行密、郭を出でて之を迎へ、霸・唯と約して兄弟と爲り、其將卒を法雲寺に置く。己亥、秦宗權、鄭州を陷る。

【八七】 胡三省曰はく、全忠が唐祚を移せるは、敬翔の力なり。李振の徒は、何ぞ成敗の數に關せんやと。  
【八八】 胡三省曰はく、張神劍、呂畢の間に反覆す。而して楊行密の手に死す。衆を挾み數を用ふる者、時有りて窮する也と。  
【八九】 甘言して以て其心を安んず。  
【九〇】 宗權既に鄭州を棄つ。今復た之を攻め陷る。

朝廷、淮南久しく亂るるを以て、閏月、朱全忠を以て淮南節度使・東南面招討使を兼ねしむ。

陳敬瑄、顧彥朗が王建と相親しむを惡み、其の兵を合はせて己を圖らんことを恐れ、田令孜に謀る。令孜曰はく、『建は吾が子なり。』楊興元の容るる所と爲らず、故に賊を作すのみ。今折簡して之を召さば、麾下に致す可からん』と。乃ち使を遣はし、書を以て之を召す。建大に喜び、梓州に詣り、彥朗に見えて曰はく、『十軍阿父召さる。當に往きて之を省すべし。因つて、陳太師を見、一大州を求めん。若し之を得ば、私願足る』と。乃ち其家を梓州に留め、麾下の精兵二千を帥る、從子宗鑑・假子宗瑤・宗弼・宗侃・宗弁と俱に西す。宗瑤は燕の人姜郢、宗弼は許の人魏弘夫、宗侃は許の人田師侃、宗弁は鹿弁なり。建、鹿頭關に至る。西川參謀李父、敬瑄に謂つて曰はく、『王建は虎なり。奈何ぞ之を延きて室に入る。彼安んぞ肯て公の下と爲らんや』と。敬瑄悔い、亟かに人を遣はして之を止め、且つ守備を増修す。建怒り、關を破りて進み、漢州の刺史張頊を綿竹に敗り、遂に漢州を抜き、進みて學射山に軍す。又、西川の將句惟立を蠶此に敗り、又、德陽を抜き。敬瑄、使を遣はして之を護む。對へて曰はく、『十軍阿父、我を召して來らしむ。門に及びて之を』

【九一】 令孜、建を養うて子と爲すこと、前卷中和四年に見ゆ。  
【九二】 楊興元は楊守亮を謂ふ。事、前卷三年に見ゆ。  
【九三】 十軍阿父。令孜、先に神策十軍觀軍容使たり、建を待つこと父子に同じ、故に之を稱す。  
【九四】 帝の、成都より更に遷るや、陳敬瑄、檢校太師に進む、故に之を稱す。  
【九五】 顧彥朗、梓州に治す。  
【九六】 綿竹。漢の縣、唐には漢州に屬す、州の東九十三里に在り。今の四川省西川道綿竹縣。  
【九七】 成都縣に蠶此鎮あり。



拒み、重ねて顧公の疑ふ所と爲る。進退、歸する無し」と。田令孜、樓に登りて之を慰諭す。建、諸將と與に、清遠橋上に於て、髡髮羅拜して曰はく、「今既に歸する無し。且く阿父を辭して賊と作らん」と。顧彦朗、其弟彦暉を以て漢州の刺史と爲し、兵を發して建を助け、急に成都を攻む。三日、克たずして退く。還りて漢州に屯す。敬瑄、難を朝に告ぐ。詔して、中使を遣はして之を和解せしめ、又、李茂貞をして書を以て之を諭さしむ。皆従はず。

楊行密、高霸を遣はし天長に屯し以て孫儒を拒がしめんと欲す。袁襲曰はく、「霸は高氏の舊將にして、常に兩端を挟み、我勝てば則ち來り、勝たざれば則ち叛く。今之を天長に處くは、是れ自ら其歸路を絶つなり。如かじ之を殺さんには」と。己酉、行密、甲を伏せ、霸及び丁從實・余繞山を執へ、皆之を殺す。又、千騎を遣はし、其黨を法雲寺に掩殺す。死する者數千人。是日、大に雪ふる。寺外數坊の地皆赤し。高岷出で走る。明日、獲て之を殺す。(100) 呂用之が天長に在るや、楊行密を給きて曰はく、「用之、銀五萬銖有り、居る所に埋めたり。城に克つの日、願はくは麾下の一醉の資に備へん」と。庚戌、行密、士卒を閲し、用之を顧みて曰はく、

【九八】 胡三省曰はく、高霸の死は、猶ほ神劍の死のごときなりと。  
 【九九】 是年五月、用之、行密に天長に歸す。  
 【一〇〇】 中元。七月十五日。  
 【一〇一】 黃錄齋。普く天神地祇人鬼を召きて醮を設け、罪根を追儼し、仙界に升らんことを冀ふなり。  
 【一〇二】 入靜。道家の入靜は、一室に靜處し、左右を屏去し、神を澄まし慮を靜め、思無く營無く、以て天神に接せんことを冀ふなり。  
 【一〇三】 蔡賊。孫儒を謂ふ。

「僕射、此曹に銀を許せり。何ぞ言を食むや」と。因つて牽き下して械繫し、田頰に命じて之を鞠せしめて云ふ、「鄭紀・董瑾と謀り、中元の夜に因り、高駉を邀へて其第に至らしめ、(101) 黃錄齋を建て、其(102) 入靜に乗じ、之を縊殺し、「上升せり」と聲言し、因つて莫邪都をして諸軍を帥る、用之を推して節度使と爲さしむ」と。是日、用之を腰斬す。怨家、刳割して立ちどころに盡く。并せて其族黨を誅す。軍士、其中堂を發きて桐人を得たり。駉の姓名を曾に書し、桎梏して之に釘うてり。袁襲、行密に言つて曰はく、「廣陵は飢弊已に甚だし。(104) 蔡賊復た來らば、民必ず重ねて困しまん。之を避くるに如かじ」と。甲寅、行密、(105) 和州の將延陵宗を遣はし、其衆二千人を以て和州に歸らしむ。乙卯、又、指揮使蔡儔に命じ、兵千人・輜重數千兩を將ゐて、廬州に歸らしむ。

【一〇四】 孫儒が遣はして楊行密を助けしむる所の者、今遣り還す。  
 【一〇五】 周寶敗るる事、前卷本年に見ゆ。  
 【一〇六】 上元縣は京口に近し。故に浙西の潰卒多く之に歸す。  
 【一〇七】 臺城。隋の陳を平らぐるや、悉く建康の臺城を毀ち、平蕩耕墾す。蓋し臺城の埋廢すること久し。  
 【一〇八】 是年夏、張雄、趙暉を遣はして入りて上元に據らしむ。今、其の己を拒むを忿りて、其降者を阮にす。

趙暉、上元に據る。會(109) 周寶敗れ、(110) 浙西の潰卒多く之に歸し、衆、數萬に至る。暉遂に自ら驕り、大に南朝の臺城を治めて之に居り、服用奢僭なり。張雄、東塘に在り、暉、與に通問せず。雄、江に浜りて上る。暉、兵を以て其中流を塞ぐ。雄怒り、戊午、上元を攻めて之を抜く。暉、當塗に奔る。未だ至らざるに、其下の殺す所と爲る。餘衆降る。(111) 雄悉く之を阮にす。



朱全忠、内客將張延範を遣はし、〔二〇〕朝命を楊行密に致し、行密を以て淮南節度副使と爲す。又、宣武行軍司馬李璠を以て淮南留後と爲し、牙將郭言を遣はし、兵千人を將ゐて之を送らしむ。感化節度使時溥、自ら全忠に於て先進たり、官、都統たるに、願つて淮南を領するを得ず、而して全忠が之を得たるを以て、意甚だ恨望す。全忠、書を以て道を溥に假る。溥、許さず。璠、泗州に至る。溥、兵を以て之を襲ふ。郭言・力戦し、免るるを得て還る。〔二一〕徐汴始め怨を構ふ。

十二月癸巳、秦宗權が署する所の山南東道留後趙德諲、荆南を陥る。〔二二〕節度使張瓌、其將王建肇を留め、城を守らしめて去る。遺民纔に數百家。

饒州の刺史陳儒、〔二三〕衢州を陥る。上蔡の賊帥馮敬章、蕪州を陥る。乙未、周寶、杭州に卒す。

錢鏐、杜稜を以て常州制置使と爲し、阮結等に命じ、進みて潤州を攻めしむ。丙申、之に克つ。〔二四〕劉浩走る。薛朗を擒にして以て歸る。

〔二〇〕 閏月の朝命を致すなり。  
 〔二一〕 胡三省曰はく、此より以後、豈に特だ徐・汴、怨を構ふるのみならんや。朱全忠、朝命を得るを以て、遂に楊行密と、淮南を争ひ、再び兵を交へて、再び志を得ず、然る後心を息むるのみと。  
 〔二二〕 光啓元年、張瓌、荆南に據り、是に至りて敗る。  
 〔二三〕 饒州より東南のかた衢州に至るまで七百二十九里。  
 〔二四〕 光啓三年、劉浩、周寶を逐うて薛朗を奉ず、是に至りて敗る。又、是よりして後、楊行密・孫儒の兵、遂に常州を争ひ、二州の民、兵荒に死し、其の存する者、什に一二も無し。

〔一〕 文德元年、春正月甲寅、孫儒、秦彦・畢師鐸・鄭漢章を殺す。彦等が秦宗衡に歸するや、其衆猶ほ二千餘人あり。其後、稍稍、儒の奪ふ所と爲る。裨將唐宏、其の必ず禍に及ばんことを知り、并せて死せんことを恐れ、乃ち「彦等、潜に汴の軍を召す」と誣告す。儒、彦等を殺し、宏を以て馬軍使と爲す。

張守一、呂用之と、同じく楊行密に歸し、復た諸將の爲めに仙丹を合はせ、又、軍府の政を干さんと欲す。行密怒りて之を殺す。

蔡の將石璠、萬餘人を將ゐて、陳・亳に寇す。朱全忠、朱珍・葛從周を遣はし、數千騎を將ゐ、撃ちて之を擒にす。癸亥、全忠を以て蔡州四面行營都統と爲し、時溥に代らしむ。諸鎮の兵、皆、全忠の節度を受く。

張延範、廣陵に至る。楊行密厚く之を禮す。李璠が來りて留後と爲るを聞くに及び、怒りて、受けざるの色有り。延範、密に人をして全忠に白さしむ、「宜しく自ら大軍を以て鎮に赴くべし」と。全忠、之に従ひ、宋州に至る。延範、廣陵より逃れ來りて曰はく、「行密は未だ圖る可からざるなり」と。甲子、李璠至り、「徐の軍、道を遮る」と言ふ。全忠乃ち止む。

丙寅、錢鏐、薛朗を斬り、其心を剖きて以て、周寶を祭り、阮結を以て潤州制置使と爲す。二月、朱全忠・奏し、楊行密を以て淮南留後と爲す。



乙亥、上・不豫なり。壬午、鳳翔を發し、己丑、長安に至る。  
庚寅、天下に赦し、改元す。

韋昭度を以て中書令を兼ねしむ。

魏博節度使樂彥禎、驕泰不法にして、六州の民を發し、羅城を築か  
しむ。方八十里。人、其役に苦しむ。其子從訓、尤も凶險なり。既に王

鐸を殺し、魏人皆之を惡む。從訓、亡命五百餘人を聚め、親兵と爲し、之  
を子將と謂ふ。牙兵、之を疑ひ、籍籍として安んぜず。從訓懼れ、服を

易へて逃れ出で、近縣に止まる。彥禎因つて以て相州の刺史と爲す。從訓、  
人を遣はして魏に至らしめ、甲兵金帛を運び、路に交錯す。牙兵益々疑ふ。

彥禎懼れ、請うて位を避け龍興寺に居りて僧と爲る。衆、都將趙文珩を  
推して留後の事に知たらしむ。從訓、兵三萬を引きて城下に至る。文珩、

出で戦はず。衆復た之を殺し、牙將貴郷の羅弘信を推して留後の事に知た  
らしむ。是より先、人、言へる有り、「白頭翁、「弘信當に地主と爲るべし」と言ひしを見る」と。文

珩既に死し、衆、羣聚して呼びて曰はく、「誰か節度使と爲らんと欲する者ぞ」と。弘信出でて應じて  
曰はく、「白頭翁已に我に命せり」と。衆、環視して曰はく、「可なり」と。遂に之を立つ。弘信、兵

を引き、出でて從訓と戦ひ、之を敗る。從訓、餘衆を收めて、内黄を保つ。魏人、之を圍む。是よ  
り先、朱全忠將に蔡州を討たんとし、押牙雷艷を遣はし、銀萬兩を以て、糴を魏に請ふ。牙兵既に彥禎

を逐ひ、艷を館に殺す。從訓既に敗れ、乃ち救を全忠に求む。  
初め河陽節度使李罕之、張全義と、臂を刻して盟を爲し、相得て歡甚

だし。罕之は勇にして謀無く、性復た貪暴、意に全義を輕んじ、其の勤  
儉にして穡を力むるを聞き、笑うて曰はく、「此れ田舎の一夫なるのみ」

と。全義、之を聞けども、以て忤ふと爲さず。罕之屢々穀帛を求む。全義、  
皆、之を與ふ。而して罕之、徵求して厭く無く、河南、給する能はず。小

しく、欲する所の如くならざれば、輒ち河南の主吏を械し、河陽に至りて  
之を杖つ。河南の將佐皆憤怒す。全義曰はく、「李太尉の求むる所、奈何

ぞ與へざらん」と。力を竭して之に奉じ、狀、之を畏るる者の若し。罕之  
益々驕る。罕之の所部、耕稼せず、専ら剽掠を以て資と爲し、人を啗うて

糧と爲す。是に至りて、其衆を悉して絳州を攻む。絳州の刺史王友遇、之に降る。進みて晉州を攻む。  
護國節度使王重盈、密に全義に結びて以て之を圖る。全義、潛に屯兵を發し、夜、虛に乗じて河陽

を襲ひ、三城に入る。罕之、垣を踰えて歩走す。全義、悉く其家を俘にし、遂に河陽節度使を兼ね

唐僖宗惠聖恭定孝皇帝文德元年

六〇五

- 【五】 六州。魏・博・貝・相・澶・衛。
- 【六】 羅城。魏州の羅城なり。
- 【七】 事、前卷中和四年に見ゆ。
- 【八】 魏博の牙兵は田承嗣に始まる。主帥を廢置するは、率れ之に由る。今、樂從訓、復た親兵を置く。牙兵、其の圖られんことを疑ふ。故に安んぜず。
- 【九】 中和三年、樂彥禎、魏博を得、是に至りて敗る。

- 【一〇】 内黄は漢の縣、時に魏州に屬す、州の西南一百二十四里に在り。今の河南省河北道内黄縣。
- 【一一】 河南より東北のかた河陽に至るまで八十五里。
- 【一二】 張全義、東南に尹たり、十八縣に各、屯將を置き、以て屯兵を領せしむ。屯兵は即ち民兵なり。
- 【一三】 三城。河陽に南城・北城・中潭城有り。



領す。罕之、澤州に奔り、救を李克用に求む。

三月戊戌朔、日、之を食する有り、既く。

己亥、上、疾復た作る。壬寅、大漸なり。皇帝吉王保、長じて而して賢

なり。羣臣、望を屬す。十軍觀軍容使楊復恭、其弟壽王傑を立てんと請

ふ。是日、詔を下して、傑を立てて皇太弟と爲し、軍國の事を監せしむ。

右軍中尉劉季述、兵を遣はし、傑を六王宅に迎ふ。入りて少陽院に居

る。宰相以下就きて之に見ゆ。癸卯、上、靈符殿に崩す。遺制して、太

弟傑は名を敏と更め、韋昭度を以て冢宰を攝せしむ。昭宗、位に即く。體

貌明粹にして、英氣有り、文學を喜む。僖宗の威令振はず。朝廷日に卑

しきを以て、前烈を恢復するの志有り、大臣を尊禮し、賢豪を夢想す。

踐阼の始め、中外、忻忻焉たり。

朱全忠、糧を宋州に裹み、將に秦宗權を攻めんとす。會、樂從訓來りて

急を告ぐ。乃ち軍を移して滑州に屯す。都押牙李唐賓等を遣はし、步騎三

萬を將ゐて蔡州を攻めしめ、都指揮使朱珍等を遣はし、兵を分ちて樂從訓を救はしむ。白馬より河を

濟り、黎陽・臨河・李固の三鎮を下し、進みて内黃に至り、魏の軍萬餘人を敗り、其將周儒等十人を

獲たり。

李克用、其將康君立を以て南面招討使と爲し、李存孝・薛阿檀・史儼・安金俊・安休休五將・騎七千

を督し、李罕之を助けて河陽を攻めしむ。張全義、城に嬰りて自ら守る。城中、食盡き、救を朱全忠

に求め、妻子を以て質と爲す。

王建、彭城を攻む。陳敬瑄、之を救ふ。乃ち去る。建、大に掠め、西

川の十二州、皆、其患を被る。

夏四月庚午、上の母王氏を追尊して恭憲皇后と曰ふ。

壬午、孫儒、揚州を襲ひ、之に克つ。楊行密出で走る。儒自ら淮南節度

使と稱す。行密將に海陵に奔らんとす。袁襲、廬州に歸り、再び進取の計

を爲さんことを勸む。之に従ふ。

朱全忠、其將丁會・葛從周・牛存節を遣はし、兵數萬を將ゐて河陽を救

はしむ。李存孝、李罕之をして歩兵を以て城を攻めしめ、自ら騎兵を帥ゐ、温に逆へ戦ふ。河東の

軍敗る。安休休、罪を懼れて蔡州に奔る。汴人、兵を分ち、太行の路を斷たんと欲す。康君立等懼

れ、兵を引きて還る。全忠、丁會を表して河陽留後と爲し、復た張全義を以て河南の尹と爲す。會は

壽春の人、存節は博昌の人なり。全義、全忠が己を出せるを徳とし、是に由りて、心を盡して之に

【四】河陽より北のかた澤州に至るまで九十里。

【五】帝、兄弟八人、僖は早く薨じ、見王六人、六王宅に居る。

【六】僖宗崩するとき、年二十七。

【七】胡三省曰はく、人心、亂を厭ひ治を思ふ。僖宗の後を承け、昭宗の初政を見、其の以て爲す有るに足るを意へるなりと。

【八】澶州に臨河縣あり、州の西六十里に在り、今の直隸省大名道開縣の西六十里に在り。魏州魏縣(今の直隸省大名道大名縣)に李固鎮有り。

【九】西川は益・彭・蜀・漢・嘉・眉・邛・簡・資・雅・黎・茂の十二州を統ぶ。

【一〇】温縣は、孟州に屬す。孟州は河陽に治す。温は河陽の東七十里に在り。今の河南省河北道温縣。

【一一】太行の路は、河陽の北に在り、河東の兵の歸路なり。

【一二】朱全忠、此に至りて、又、洛孟を併有す。



附く。全忠、出で戦ふ毎に、全義、主として其糧仗を給し、乏しき無し。李罕之、澤州の刺史と爲り、河陽節度使を領す。罕之、其子順を留めて克用に事へしめ、身づから澤州に還り、専ら寇鈔を以て事と爲す。懷・孟・晉・絳より、數百里の間、州に刺史無く、縣に令長無く、田に麥禾無く、邑に煙火無き者、殆ど將に十年ならんとす。河中・絳州の間に、摩雲山有り、絶だ高し。民、其上に保聚す。寇盜、能く近づくもの莫し。罕之、攻めて之を抜く。時人、之を李摩雲と謂ふ。

樂從訓、軍を洹水に移す。羅弘信、其將程公信を遣はし、從訓を撃ちて之を斬り、父彥禎と、皆、首を軍門に梟す。癸巳、使を遣はし、厚幣を以て全忠の軍を犒ひ、好を修めんと請ふ。全忠乃ち軍を召して還らしむ。詔して、羅弘信を以て魏博留後を權知せしむ。

歸州の刺史郭禹、荆南を撃ち、王建肇を逐ふ。建肇、黔州に奔る。詔して、禹を以て荆南留後と爲す。荆南は兵荒の餘にして、止だ一十七家有り。

禹、精を勵まして治を爲し、彫殘を撫集し、商を通じ農を務め、晩年殆ど萬戸に及ぶ。時に藩鎮各、兵力を務めて相殘ひ、民を養ふを以て事と爲すもの莫し。獨り華州の刺史韓建、流散を招撫し、農桑を勸課す。

數年の間に、民富み軍贍る。時人、之を北韓・南郭と謂ふ。秦宗權の別將常厚、夔州に據る。禹、其將汝陽の許存と與に、攻めて之を奪ふ。之を久

【三】 王建肇、去年、荆南に據る。  
【四】 彫は凋に通ず。  
【五】 昭宗の天復三年、成消、淮南の將李神福に敗られて死す。謂はゆる晩年は、殆ど是時なり。  
【六】 黔州は武泰軍。  
【七】 禹が姓名を更むること、前卷光啓元年に見ゆ。  
【八】 荆南は時に成消の奪ふ所と爲る。

しくして、朝廷、禹を以て荆南節度使と爲し、建肇を武泰節度使と爲す。禹、奏して、姓名を復して成納と爲す。

李克用に兼侍中を加ふ。五月己亥、朱全忠に兼侍中を加ふ。

趙德諱、既に荆南を失ひ、且つ秦宗權が必ず敗れんことを度り、壬寅、(元) 山南東道を擧げて來り降り、且つ自ら朱全忠に託す。全忠、表し、

德諱を以て自ら副とせんと請ふ。制して、山南東道を以て忠義軍と爲し、德諱を以て節度使と爲し、蔡州四面行營副都統に充つ。

朱全忠既に洛孟を得、西顧の憂無し。乃ち大に兵を發して秦宗權を撃ち、大に宗權を蔡州の南に破り、北關門に克つ。宗權退きて中州を守る。全忠、諸將を分ちて二十八寨を爲り、以て之を環らす。

鳳翔節度使李茂貞に檢校侍中を加ふ。

(三) 陳敬瑄、方に王建と相攻め、貢賦・中絶す。建、成都尙ほ彊く、退きて掠むる所無きを以て、兵を罷めんと欲す。周庠・秦母諫、以爲へらく不可なりと。庠曰はく、『邛州は城塹完固にして、食、數年を支ふ。之に據りて以て根本と爲す可し』と。建曰はく、『吾、軍中に在ること久しく、兵を用ふ



る者を觀るに、天子の重きに倚らざれば、則ち衆心、離れ易し。若かじ、敬瑄の罪を疏し、朝廷に表請し、大臣に命じて帥と爲し、而して之を佐けんには。則ち功庶はくは成る可からん」と。乃ち庠をして表を草せしめ、敬瑄を討ちて以て罪を贖はんと請ひ、因つて邛州を求む。顧彦朗も亦表して、建の罪を赦し、敬瑄を它鎮に移し、以て兩川を靖んせんと請ふ。初め黄巢の亂に、上、壽王たり、僖宗が蜀に幸するに從ふ。時に事、倉猝に出で、諸王多く徒行す。山谷の中に至り、壽王、疲乏して、前む能はず、礮石の上に臥す。田令孜、後より至り、之に行かんことを趣す。王曰はく、「足痛む。幸に軍容、一馬を給せよ」と。令孜曰はく、「此れ深山なり。安んぞ馬を得ん」と。鞭を以て王を扶ちて、前ましむ。王、顧みて、言はず。心に之を衝む。位に即くに及び、人をして西川の軍を監せしむ。令孜、詔を奉せず。上方に藩鎮の跋扈を憤り、威を以て之を制せんと欲す。會彦朗、建の表を得、以へらく令孜が恃む所の者は敬瑄のみと。六月、韋昭度を以て中書令を兼ね、西川節度使に充て、兩川招撫制置等使を兼ねしめ、敬瑄を徵して龍武統軍と爲す。王建、新都に軍す。時に綿竹の土豪何義陽、兵を擁して自ら保ち、衆或は萬人、少き者は千人。建、王宗瑤を遣はして之に説かしむ。皆、衆を帥

【三二】 兩川。東川と西川とをいふ。王建、東川の巡内に於て兵を起し、以て西川を攻め、兵を連れて決せず、西川、皆、之が爲めに安んぜず。  
 【三三】 事、二百五十四卷僖宗廣明元年に見ゆ。  
 【三四】 扶は撃つなり。  
 【三五】 令孜、陳敬瑄に倚り、肯て西川を離れず。  
 【三六】 安仁。武德三年、臨邛依政を分ちて、安仁縣を置き、邛州に屬す。州の東北三十八里に在り。今の四川省建昌道大邑縣の東南三十里。

わて建に付き、其資糧を給す。建の軍復た振ふ。

佑國軍を河南府に置き、張全義を以て節度使と爲す。

秋七月、李罕之、河東の兵を引き、河陽に寇す。丁會擊ちて之を却く。

鳳州を升せて節度府と爲し、興利州を割きて之に隸し、鳳州防禦使滿存を以て節度使・同平章事と爲す。

權知魏博留後羅弘信を以て節度使と爲す。

八月戊辰、朱全忠、蔡州の南城を抜く。

楊行密、孫儒の逼るを畏れ、輕兵をもて洪州を襲はんと欲す。袁襲曰はく、「鍾傳、江西を定むること已に久しく、兵強く食足る。未だ圖り易

からざるなり。趙錙新に宣州を得、亂を怙み殘暴にして、衆心、附かず。公宜しく辭を卑くし幣を厚くし、和州の孫端・上元の張雄に説き、採石より江を濟りて其境を侵さしむべし。彼必ず來りて逆へ戦はん。公、銅官より、江を濟りて之に會せば、錙を破らんこと必せり」と。行密、之に從

ひ、蔡儔をして廬州を守らしめ、諸將を帥る。穆潭より濟る。孫端・張雄、趙錙の敗る所と爲る。錙の將蘇塘・漆朗、兵二萬を將ゐて、曷山に屯す。袁襲曰はく、「公、兵を引き、急に曷山に趨き、

【三七】 僖宗の中和二年、興鳳二州を以て感義軍を置き、楊晟を節度使と爲し、以て散關を守らしむ。未だ軍府を立つるに及ばず。晟既に敗走し、再び帥を除せず。今、始めて軍府を鳳州に立て、就きて滿存を除して節度使と爲す。  
 【三八】 中和二年、鍾傳、洪州に據る。  
 【三九】 去年、趙錙、宣州を得たり。  
 【四〇】 今の安徽省蕪湖道銅陵縣に銅官渚あり。  
 【四一】 九域志に、無爲軍、無爲縣に穆潭鎮有り。  
 【四二】 宣州當塗縣の西南に曷山有り。其東は則ち東梁山。



壁を堅くし自ら守れ。彼、戦を求むるも得ず、我を畏怯なりと謂はん。其の怠るに因りて、破る可きなり」と。行密、之に従ふ。塘等大に敗る。遂に宣州を圍む。鎧の兄乾之、池州より衆を帥りて宣州を救ふ。行密、其將陶雅をして乾之を九華に撃たしむ。之を破る。乾之、江西に奔る。雅を以て池州制置使と爲す。

九月、朱全忠、饋運繼がす。且つ秦宗權が殘破して憂ふるに足らざるを以て、兵を引き還る。丙申、朱珍を遣はし、兵五千を將りて、楚州の刺史劉瓚が官に之くを送らしむ。

錢鏐、其從弟鉢を遣はし、兵を將りて、徐約を蘇州に攻めしむ。

冬十月、(四) 徐兵、朱珍、劉瓚を邀へ、前むを聽さず。珍等、之を撃ち、沛・滕・二縣を取り、斬獲萬計。

孟方立、其將奚忠信を遣はし、兵三萬を將りて、遼州を襲はしむ。李克修、邀へ撃ち、大に之を破り、忠信を擒にし、晉陽に送る。

辛卯、惠聖恭定孝皇帝を靖陵に葬る。廟を僖宗と號す。

陳敬瑄・田令孜、韋昭度が將に至らんとするを聞き、兵を治め城を完くして以て之を拒がんとす。

十一月、時溥、自ら歩騎七萬を將りて吳康鎮に屯す。朱珍、與に戦ひ、大に之を破る。朱全忠、又、別將を遣はし、宿州の刺史張友を攻め、之を降す。

丙申、秦宗權の別將、許州を攻め、陷れ、忠武留後王蘊を執へ、復た許州を取る。十二月、蔡の將申叢、宗權を執へ、其足を折りて之を囚へ、全忠に降る。全忠、叢を表して蔡州留後と爲す。

初め威義節度使楊晟、既に興鳳を失ひ、走りて文・龍・成・茂・四州に據る。王建、西川を攻む。田令孜、晟は己の故の將なるを以て、威戎軍節度使を假し、彭州を守らしむ。王建、彭州を攻む。陳敬瑄、眉州の刺史山行章をして、兵五萬を將りて、新繁に壁し、以て之を救はしむ。

丁亥、韋昭度を以て行營招討使と爲し、山南西道節度使楊守亮を之に副とし、東川節度使顧彥朗を行軍司馬と爲し、邛・蜀・黎・雅を割きて永平軍を置き、王建を以て節度使と爲し、邛州に治せしめ、行營諸軍都指揮使に充つ。

戊子、陳敬瑄の官爵を削る。山南西道節度使楊守厚、夔州を陷る。

【四一】 永泰元年、宣州の秋浦・青陽・饒州の至徳を分ちて池州を置く。池州より東のかた宣州に至るまで三百二十五里。池州は今の安徽省蕪湖道貴池縣に治す。  
【四二】 九華山は池州青陽縣(今安徽省蕪湖道)の界に在り。  
【四三】 朱全忠、淮南を兼れ領し、楚州は其巡屬なるを以て、故に自ら刺史を除す。  
【四四】 徐兵。時溥の兵なり。  
【四五】 遼州。本、漢の上艾浩二縣の地、武德三年、遼州を置く。今の山西省冀寧道遼縣。  
【四六】 靖陵。京兆奉天縣(今の陝西省關中道乾縣)の東北十里に在り。

【四七】 去年、宗權、全忠の敗る所と爲り、許州を棄つ。王蘊は蓋し全忠の命する所なり。  
【四八】 事、前卷光啓二年に見ゆ。  
【四九】 楊晟は故の神策指揮使なり。  
【五〇】 新繁。漢の繁縣、蜀の後主、新の字を加ふ。唐には成都府に屬す。府の西北二十五里に在り。今の四川省西川道新繁縣。



國譯資治通鑑第十四終

資治通鑑卷第二百四十一

唐紀五十七

憲宗昭文章武大聖至神孝皇帝下

元和十四年二月李聽襲海州克東海朐山懷仁等縣李愬敗平盧兵於沂州拔丞縣李師道聞官軍侵逼發民治鄆州城塹修守備役及婦人民益懼且怨都知兵馬使劉悟正臣之孫也師道使之將兵萬餘人屯陽穀以拒官軍悟務爲寬惠使士卒人人自便軍中號曰劉父及田弘正度河悟軍無備戰又數敗或謂師道曰劉悟不修軍法專收衆心恐有他志宜早圖之師道召悟計事欲殺之或諫曰今官軍四合悟無逆狀用一人言殺之諸將誰肯爲用是自脫其爪牙也師道留悟旬日復遣之厚贈金帛以安其意悟知之還營陰爲之備師道以悟將兵在外署悟子從諫門下別奏從諫與師道諸奴日遊戲頗得其陰謀密疏以白父又有謂師道者曰劉悟終爲患不如早除之丙辰師道潛遣二使齎帖授行營兵馬副使張暹令斬悟首獻之勒暹權領行營時悟方據高丘張幕置酒去營二三里二使至營密以帖授暹暹素與悟善陽與使者謀曰悟自使府還頗爲備不可忽忽暹請先往白之云司空遣使存問將士兼有賜物請都頭速歸同受傳語如此則彼不疑乃可圖也使者然之暹懷帖走詣悟屏人示之悟潛遣人先執二使殺之時已向暮悟按轡徐行還營坐帳下嚴兵自衛召諸將厲色謂之曰悟與公等不願死亡以抗官軍誠無負於司空今司空信讒言來取悟首悟死諸公其次矣且天子所欲誅者獨司空一人今軍勢日蹙吾曹何爲隨之族滅欲



與諸公卷旗東甲。還入鄆州。奉行天子之命。豈徒免危亡。富貴可圖也。諸公以爲何如。兵馬使趙垂棘立於衆首。良久對曰。事果濟否。悟應聲罵曰。汝與司空合謀邪。立斬之。徧問其次。有遲疑未言者。悉斬之。并斬軍中素爲衆所惡者。凡三十餘人。於帳前。餘皆股栗曰。惟都頭命。願盡死。乃令士卒曰。入鄆。人賞錢百緡。惟不得近軍帑。其使宅及逆黨家財。任自掠取。有仇者報之。使士皆飽食執兵。夜半聽鼓三聲。絕。即行人。人銜枚。馬縛口。遇行人。執留之。人無知者。距城數里。天未明。悟駐軍。使聽城上柝聲。絕。使十人前行宣言。劉都頭奉帖追入城門者。請俟寫簡白使。十人拔刃擬之。皆竄匿。悟引大軍。繼至城中。諜譁動地。比至。子城已洞開。惟牙城拒守。尋縱火。斧其門而入。牙中兵不過數百。始猶有發弓矢者。俄知力不支。皆投於地。悟勒兵升聽事。使捕索師道。師道與二子。伏廁牀下。索得之。悟命置牙門外隙地。使人謂曰。悟奉密詔。送司空歸闕。然司空亦何顏復見天子。師道猶有幸生之意。其子弘方仰曰。事已至此。速死爲幸。尋皆斬之。自卯至午。悟乃命兩都虞候。巡坊市。禁掠者。即時皆定。大集兵民於毬場。親乘馬巡繞慰安之。斬贊師道逆謀者二十餘家。文武將吏。且懼且喜。悟見李公度執手獻款。出賈直言於獄。置之幕府。悟之自陽穀還兵趨鄆也。潛使人以其謀告田弘正。事成當舉烽相白。萬一城中有備。不能入。願公引兵爲助。功成之日。皆歸於公。悟何敢有之。且使弘正進據己營。弘正見烽。知得城。遣使往賀。悟函師道父子三首。遣使送弘正營。弘正大喜。露布以聞。淄青等十二州皆平。弘正初得師道首。疑其非真。召夏侯澄使識之。澄熟視其面。長號隕絕者久之。乃抱其首。舐其目中塵垢。復慟哭。弘正爲之改容。義而不責。○壬戌。田弘正捷奏至。乙丑。命戶部侍郎楊於陵爲淄青宣撫使。己巳。李師道首函至。自廣德以來。垂六十年。藩鎮跋扈。河南北三十餘州。自除官吏。不供貢賦。至是。盡遵朝廷約束。上命楊於陵分李師道地於陵。按圖籍。視土地遠邇。計士馬衆寡。校倉庫虛實。分爲三道。使之適均。以鄆

曹濮爲一道。淄青齊登萊爲一道。兗海沂密爲一道。上從之。劉悟以初討李師道。詔云。部將有能殺師道。以衆降者。師道官爵悉以與之。意謂盡得十二州之地。遂補署文武將佐。更易州縣長吏。謂其下曰。軍府之政。一切循舊。自今。但與諸公。抱子弄孫。夫復何憂。上欲移悟它鎮。恐悟不受代。復須用兵。密詔田弘正察之。弘正日遣使者詣悟。託言修好。實觀其所爲。悟多力好手。搏得鄆州三日。則教軍中壯士手搏。與魏博使者庭觀之。自搖肩攘臂。離坐以助其勢。弘正聞之。笑曰。是聞除改。登即行矣。何能爲哉。庚午。以悟爲義成節度使。悟聞制下。手足失墜。明日遂行。弘正將數道兵。已至城西二里。與悟相見於客亭。即受旌節。馳詣滑州。辟李公度。李存。郭晁。賈直言。以自隨。悟素與李文會善。既得鄆州。使召之。未至。聞將移鎮。晁存謀曰。文會佞人。敗亂淄青一道。滅李司空之族。萬人所共讎也。不乘此際。誅之。田相公至。務施寬大。將何以雪三齊之憤怨乎。乃詐爲悟帖。遣使。即文會所至。取其首以來。使者遇文會於豐齊驛。斬之。比還。悟及晁存已去。無所復命矣。文會二子。一亡去。一死於獄。家貲悉爲人所掠。田宅沒官。詔以淄青行營副使張暹爲戎州刺史。癸酉。加田弘正檢校司徒。同平章事。先是。李師道將敗數月。聞風動鳥飛。皆疑有變。禁鄆人親識宴聚。及道路偶語。犯者有刑。弘正既入鄆。悉除苛禁。縱人遊樂。寒食七晝夜。不禁行人。或諫曰。鄆人久爲寇敵。今雖平。人心未安。不可不備。弘正曰。今爲暴者既除。宜施以寬惠。若復爲嚴察。是以桀易桀也。庸何愈焉。先是。賊數遣人入關。截陵戰。焚倉場。流矢飛書。以震駭京師。沮撓官軍。有司督察甚嚴。潼關吏。至發人囊篋。以索之。然終不能絕。及田弘正入鄆。閱李師道簿書。有賞殺武元衡入王士元等。及賞潼關蒲津吏卒案。乃知羈者。皆吏卒受賂於賊。容其姦也。裴度纂述蔡鄆用兵以來。上之憂勤機略。因侍宴獻之。請內印出付史官。上曰。如此。似出朕志。非所欲也。弗許。○三月。戊子。以華州刺史馬總爲鄆曹濮等州節度使。己丑。以義成節度使薛平爲平盧節度。淄



青齊登萊等州觀察使。以淄青四面行營供軍使王遂為沂海兗密等州觀察使。○橫海節度使烏重胤奏。河朔藩鎮。所以能旅拒朝命六十餘年者。由諸州縣各置鎮將領事。收刺史縣令之權。自作威福。雖使刺史各得行其職。則雖有奸雄如安史。必不能以一州獨反也。臣所領德棣景三州。已舉牒各還刺史職事。應在州兵。竝令刺史領之。夏四月丙寅。詔諸道節度都團練都防禦經略等使。所統支郡兵馬。竝令刺史領之。自至德以來。節度使權重。所統諸州。各置鎮兵。以大將主之。暴橫為患。故重胤論之。其後河北諸鎮。惟橫海最為順命。由重胤處之得宜故也。○辛未。工部侍郎同平章事程異薨。○裴度在相位。知無不言。皇甫鏞之黨陰擠之。丙子。詔度以門下侍郎同平章事。充河東節度使。皇甫鏞專以培克取媚。人無敢言者。獨諫議大夫武儒衡上疏言之。鏞自訴於上。上曰。卿以儒衡上疏。將報怨邪。鏞乃不敢言。儒衡。元衡之從父弟也。○史館修撰李翱上言。以為定禍亂者武功也。與太平者文德也。今陛下既以武功定海內。若遂革弊事。復高祖太宗舊制。用忠正而不疑。屏邪佞而不邇。改稅法。不督錢。而納布帛。絕進獻。寬百姓租賦。厚邊兵。以制戎狄。侵盜數訪。問待制官。以通塞蔽此六者。政之根本。太平之所以興也。陛下既已能行其難。若何不為其易乎。以陛下天資上聖。如不惑近習。容悅之辭。任骨鯁正直之士。與之興大化。可不勞而成也。若不以此為事。臣恐大功之後。逸欲易生。進言者必曰。天下既平矣。陛下可以高枕自安逸。如是。則太平未可期矣。○秋七月丁丑朔。田弘正送殺武元衡賊王士元等十六人。詔仗內京兆府御史臺。徧鞠之。皆款服。京兆尹崔元略。以元衡物色詢之。則多異同。元略問其故。對曰。恒耶同謀。遣客刺元衡。而士元等後期。聞恒人事已成。遂竊以為己功。還報受賞耳。今自度為罪均。終不免死。故承之上。亦不欲復辨正。悉殺之。○戊寅。宣武節度使韓弘始入朝。上待之甚厚。弘獻馬三千。絹五千。雜繒三萬。金銀器千。而汴之庫。既有錢百餘萬。繒絹百餘萬匹。馬七千匹。

糴三百萬斛。○己丑。羣臣上尊號。曰元和聖文武法天應道皇帝。敕天下沂海兗密觀察使王遂。本錢穀吏。性狷急。無遠識。時軍府草創。人情未安。遂專以嚴酷為治。所用杖。絕大於常行者。每督將卒。輒曰。反虜。又盛夏役士卒。營府舍。督責峻急。將卒憤怨。辛卯。役卒王弁。與其徒四人。浴於沂水。密謀作亂。曰。今服役觸罪亦死。奮命立事亦死。死於立事。不猶愈乎。明日。常侍與監軍副使有宴。軍將皆在。告直兵多休息。吾屬乘此際。出其不意。取之。可以萬全。刀徑前射副使張敦實殺之。遂與監軍狼狽起走。弁執遂數之。以盛暑與役。用刑刻暴。立斬之。傳聲勿驚監軍。弁即自稱留後。升廳號令。與監軍抗禮。召集將吏參賀。衆莫敢不從。監軍具以狀聞。○甲午。韓弘又獻絹二十五萬匹。繩三萬匹。銀器二百七十。左右軍中尉各獻錢萬緡。自淮西用兵以來。度支鹽鐵。及四方爭進奉。謂之助軍。賊平又進奉。謂之賀禮。後又進奉。謂之助賞。上加尊號。又進奉。亦謂之賀禮。○丁酉。以河陽節度使令狐楚為中書侍郎。同平章事。楚與皇甫鏞同年進士。故鏞引以為相。○朝廷聞沂州軍亂。甲辰。以棣州刺史曹華為沂海兗密觀察使。○韓弘累表請留京師。八月己酉。以弘守司徒。兼中書令。癸丑。以吏部尚書張弘靖同平章事。充宣武節度使。弘靖。宰相子。少有令聞。立朝簡默。河東宣武闕帥。朝廷以其位望素重。使鎮之。弘靖承王鏐聚斂之餘。韓弘嚴猛之後。兩鎮喜其廉謹寬大。故上下安之。○己未。田弘正入朝。上待之尤厚。○戊辰。陳許節度使郝士美薨。以庫部員外郎李渤為弔祭使。渤上言。臣過渭南。聞長源鄉舊四百戶。今纔百餘戶。閩鄉縣舊三千戶。今纔千戶。其他州縣。大率相似。迹其所以然。皆由以逃戶稅。攤於比隣。致驅迫俱逃。此皆聚斂之臣。剝下媚上。惟思竭澤。不慮無魚。乞降詔書。絕攤逃之弊。盡逃戶之產。償稅不足者。乞免之。計不數年。人皆復於農矣。執政見而惡之。渤遂謝病歸東都。○癸酉。吐蕃寇慶州。營於方渠。○



朝廷議興兵討王弁。恐青鄆相扇，繼變。乃除弁開州刺史，遣中使賜以告身。中使給之曰：「開州計已有人迎候，道路留後，宜速發。」弁即日發沂州，導從尚百餘人，入徐州境。所在滅之。其衆亦稍逃散。遂加以桎械，乘驢入關。九月，戊寅，腰斬東市。先是，三分鄆兵，以隸三鎮。及王遂死，朝廷以爲師道餘黨，凶態未除，命曹華引棣州兵赴鎮，以討之。沂州將士迎候者，華皆以好言撫之。使先入城慰安，其餘衆皆不疑。華視事三日，大饗將士，伏甲士千人於幕下。乃集衆而諭之曰：「天子以鄆人有遷徙之勞，特加優給，宜令鄆人處右，沂人處左。既定，令沂人皆出，因闔門，謂鄆人曰：『王常侍以天子之命爲帥，於此將士何得輒害之？』語未畢，伏者出，圍而殺之。死者千二百人，無一得脫者。門屏間赤霧高丈餘，久之方散。」

臣光曰：春秋書楚子虔誘蔡侯般殺之于申，彼列國也。孔子猶深貶之，惡其誘討也。況爲天子而誘匹夫乎？王遂以聚斂之才，殿新造之邦，用苛虐致亂。王弁庸夫，乘釁竊發，苟沂帥得人，戮之易於犬豕耳。何必以天子詔書爲誘人之餌乎？且作亂者五人耳，乃使曹華設詐屠千餘人，不亦濫乎？然則自今士卒，孰不猜其將帥，將帥何以令其士卒？上下盼盼，如寇警聚處，得間則更相魚肉，惟先發者爲雄耳。禍亂何時而弭哉？惜夫！憲宗削平僭亂，幾致升平，其美業所以不終，由苟徇近功，不敦大信故也。

甲辰，以田弘正兼侍中，魏博節度使如故。弘正三表請留，上不許。弘正常恐一旦物故，魏人猶以故事繼襲，故兄弟子姪皆仕諸朝。上皆擢居顯列。朱紫盈庭，時人榮之。○乙巳，上問宰相玄宗之政，先理而後亂，何也？崔羣對曰：「玄宗用姚崇、宗瑛、盧懷慎、蘇頌、韓休、張九齡則理，用宇文融、李林甫、楊國忠則亂。故用人得失，所繫非輕。人皆以天寶十四年安祿山反爲亂之始，臣獨以爲開元二十四年罷張九齡相，專任李林甫，此理亂之所分也。願陛下以開元初爲法，以天寶末爲戒，乃社稷無疆之福。」皇甫鏞深恨之。○冬十月壬戌，容管奏安南賊楊

清陷都護府，殺都護李象古及妻子，官屬部曲千餘人。象古道古之兄也。以貪縱苛刻，失衆心。清世爲蠻酋，象古召爲牙將，清鬱鬱不得志。象古命清將兵三千討黃洞蠻，清因人心怨怒，引兵夜還，襲府城，陷之。初，蠻賊黃少卿自貞元以來，數反覆，桂管觀察使裴行立、容管經略使陽旻欲徵幸立功，爭請討之。上從之。嶺南節度使孔戣屢諫曰：「此禽獸耳，但可自計利害，不足與論是非。」上不聽。大發江湖兵，會容桂二管入討。士卒被瘴癘死者不可勝計。安南乘之，遂殺都護，行立、旻竟無功。二管彫弊，惟戣所部晏然。丙寅，以唐州刺史桂仲武爲安南都護，赦楊清以爲瓊州刺史。○是月，吐蕃節度論三摩等將十五萬衆圍鹽州。党項亦發兵助之。刺史李文悅竭力拒守。凡二十七日，吐蕃不能克。靈武牙將史奉敬言於朔方節度使杜叔良，請兵三千，齎三十日糧，深入吐蕃，以解鹽州之圍。叔良以二千五百人與之。奉敬行旬餘，無聲問。朔方人以爲俱沒矣。無何，奉敬自它道出，吐蕃背吐蕃大驚潰去。奉敬奮擊大破，不可勝計。奉敬與鳳翔將野詩良輔、涇原將郝玘皆以勇著名於邊。吐蕃憚之。○柳泌至台州，驅吏民采藥，歲餘無所得。而懼，舉家逃入山中。浙東觀察使捕送京師。皇甫鏞、李道古保護之。上復使待詔翰林，服其藥，日加躁渴，起居舍人裴潯上言以爲除天下之害者，受天下之利，同天下之樂者，饗天下之福。自黃帝至於文武，享國壽考，皆用此道也。自去歲以來，所在多薦方士，轉相汲引，其數浸繁。借令天下真有神仙，彼必深潛巖壑，惟畏人知。凡候伺權貴之門，以大言自銜，奇技驚衆者，皆不軌徇利之人。豈可信其說而餌其藥邪？夫藥以愈疾，非朝夕常餌之物。況金石酷烈有毒，又益以火氣，殆非人五藏之所能勝也。古者君飲藥，臣先嘗之，乞令獻藥者，先自餌一年，則真僞自可辨矣。上怒。十一月己亥，貶潯江陵令。○初，羣臣議上尊號，皇甫鏞欲增孝德字。中書侍郎同平章事崔羣曰：「言聖則孝在其中矣。鏞諱羣於上曰：羣於陛下，惜孝德二字。上怒，時鏞給邊軍賜與多，不時得，又所給多，陳敗不可服。」



用軍士怨怒。流言欲為亂。李光顏憂懼欲自殺。遣人訴於上。上不信。京師懼羣具以中外人情上聞。縛密言于上曰。邊賜皆如舊制。而人情忽如此者。由羣鼓扇。將以賣直歸怨於上也。上以為然。十二月乙卯。以羣為湖南觀察使。於是中外切齒於縛矣。○中書舍人武儒衡有氣節。好直言。上器之。顧待甚渥。人皆言且入相。令狐楚忌之。思有以沮之者。乃薦山南東道節度推官狄兼謩才行。癸亥。擢兼謩左拾遺內供奉兼謩。仁傑之族曾孫也。楚自草制辭。盛言天后竊位。姦臣擅權。賴仁傑保佑。中宗克復明辟。儒衡泣訴於上。且言臣曾祖平一在天。后朝辭榮終老。上由是薄楚之為人。

十五年春正月。沂海兗密觀察使曹華請徙理兗州。許之。○義成節度使劉悟入朝。○初左軍中尉吐突承瓘。謀立澧王惲為太子。上不許。及上寢疾。承瓘謀尙未息。太子聞而憂之。密遣人問計於司農卿郭釗。釗曰。殿下但盡孝謹以俟之。勿恤其它。釗太子之舅也。上服金丹多躁怒。左右宦官往往獲罪。有死者。人人自危。庚子。暴崩於中和殿。時人皆言內常侍陳弘志弑逆。其黨類諱之。不敢討賊。但云藥發。外人莫能明也。中尉梁守謙與諸宦官馬進潭。劉承偕。章元素。王守澄等。共立太子。殺吐突承瓘及澧王惲。賜左右神策軍士錢人五十緡。六軍威遠人三十緡。左右金吾人十五緡。閏月丙午。穆宗即位於太極殿東序。是日召翰林學士段文昌等及兵部郎中薛放。駕部員外郎丁公著。對於思政殿。放。戎之弟。公著。蘇州人。皆太子侍讀也。上未聽政。放。公著。常侍禁中。參預機密。上欲以為相。二人固辭。○丁未。輟西宮朝臨集羣臣於月華門外。貶皇甫縛為崖州司戶。市井皆相賀。○上議命相。令狐楚薦御史中丞蕭俛。辛亥。以俛及段文昌皆為中書侍郎。同平章事。楚俛與皇甫縛皆同年進士。上欲誅縛。俛及宦官救之。故得免。壬子。杖殺柳泌及僧大通。自餘方士皆流嶺表。貶左金吾將軍李道古循州司馬。○癸丑。以薛放為工部侍郎。丁公著為給事中。○乙卯。尊郭貴妃為皇太

后。○丁卯。上與羣臣皆釋服從吉。○二月丁丑。上御丹鳳門樓。赦天下。事畢。盛陳倡優雜戲於門內。而觀之。丁亥。上幸左神策軍。觀手搏雜戲。庚寅。監察御史楊虞卿上疏。以為陛下宜延對羣臣。周徧顧問。惠以氣色。使進忠若趨利。論政若訴冤。如此而不致升平者。未之有也。衡山人趙知微亦上疏。諫上遊畋無節。上雖不能用。亦不罪也。○壬辰。廢邕管。命容管經略使陽旻兼領之。○安南都護桂仲武至安南。楊清拒境不納。清用刑慘虐。其黨離心。仲武遣人說其酋豪。數月間降者相繼。得兵七千餘人。朝廷以仲武為逗遛。甲午。以桂管觀察使裴行立為安南都護。乙未。以太僕卿杜式方為桂管觀察使。丙申。貶仲武為安州刺史。○丹王逾薨。○吐蕃寇靈武。○憲宗之末。回鶻遣合達干來。求昏尤切。憲宗許之。三月癸卯朔。遣合達干歸國。○上見夏州觀察判官柳公權書跡。愛之。辛酉。以公權為右拾遺。翰林侍書學士。上問公權。卿書何能如是之善。對曰。用筆在心。心正則筆正。上默然改容。知其以筆諫也。公權。公綽之弟也。○辛未。安南將士開城納桂仲武。執楊清斬之。裴行立至海門而卒。復以仲武為安南都護。○吐蕃寇鹽州。○初。膳部員外郎元稹為江陵士曹。與監軍崔潭峻善。上在東宮。聞宮人誦稹歌詩而善之。及即位。潭峻歸朝。獻稹歌詩百餘篇。上問稹安在。對曰。今為散郎。夏五月庚戌。以稹為祠部郎中。知制誥。朝論鄙之。會同僚食瓜於閣下。有青蠅集其上。中書舍人武儒衡以扇揮之曰。適從何來。遽集於此。同僚皆失色。儒衡意氣自若。○庚申。葬神聖章武孝皇帝於景陵。廟號憲宗。○六月。以湖南觀察使崔羣為吏部侍郎。召對別殿。上曰。朕升儲副。知卿為羽翼。對曰。先帝之意。久屬聖明。臣何力之有。○太后居興慶宮。每朔望。上帥百官詣宮上壽。上性侈。所以奉養太后。尤為華靡。○秋七月乙巳。以鄆曹濮節度為天平軍。○門下侍郎同平章事令狐楚坐為山陵使。部吏盜官物。又不給工人傭直。收其錢十五萬緡。為羨餘獻之。怨訴盈路。丁卯。罷為宣歙池觀察使。○八月癸巳。發神策兵二千。浚魚



藻池。○戊戌。以御史中丞崔植爲中書侍郎。同平章事。○己亥。再貶令狐楚衡州刺史。○上甫過公除。卽事遊。敗聲色。賜與無節。九月。欲以重陽大宴。拾遺李珣帥其同僚。上疏曰。伏以元朔未改。園陵尙新。雖陛下就易月之期。俯從人欲。而禮經著三年之制。猶服心喪。遵同軌之會。始離京。告遠夷之使。未復命。退密弛禁。蓋爲齊人。合樂後庭。事將未可。上不聽。○戊午。加邠寧節度使李光顏。武寧節度使李愬。竝同平章事。○冬。十月。王承宗薨。其下祕不發喪。子知感。知信。皆在朝。諸將欲取帥於屬內諸州。參謀崔燧。以承宗祖母涼國夫人命。告諭諸將。及親兵。立承宗之弟觀察支使承元。承元時年二十。將士拜之。承元不受。泣且拜。諸將固請不已。承元曰。天子遣中使監軍。有事當與之議。及監軍至。亦勸之。承元曰。諸公未忘先德。不以承元年少。欲使之攝軍務。承元請盡節。以遵忠烈之志。諸公肯從之乎。衆許諾。承元乃視事於都將聽事。令左右不得謂己爲留後。委事於參佐。密表請朝廷除帥。庚辰。監軍奏。承宗疾亟。弟承元權知留後。并以承元表聞。○党項復引吐蕃寇涇州。連營五十里。○辛巳。遣起居舍人柏耆詣鎮州宣慰。○壬午。羣臣入閣。諫議大夫鄭覃。崔郾等五人。進言。陛下宴樂過多。敗遊無度。今胡寇壓境。忽有急奏。不知乘輿所在。又晨夕與倡優狎暱。賜與過厚。夫金帛皆百姓膏血。非有功不可與。雖內藏有餘。願陛下愛之。萬一四方有事。不復使有司重斂百姓。時久無閣中論事者。上始甚訝之。謂宰相曰。此輩何人。對曰。諫官。上乃使人慰勞之。曰。當依卿言。宰相皆賀。然實不能用也。覃。珣瑜之子也。○上嘗謂給事中丁公著曰。聞外閒人多宴樂。此乃時和人安。足用爲慰。公著對曰。此非佳事。恐漸勞聖慮。上曰。何故。對曰。自天寶以來。公卿大夫。競爲遊宴。沈酣晝夜。優雜子女。不愧左右。如此不已。則百職皆廢。陛下能無獨憂勞乎。願少加禁止。乃天下之福也。○癸未。涇州奏。吐蕃進營。距州三十里。告急求救。以右軍中尉梁守謙爲左右神策軍京西北行營都監。將兵四千人。并發八鎮全軍救之。賜將士

裝錢二萬緡。以鄆王府長史邵同爲太府少卿。兼御史中丞。充答吐蕃請和好使。初。祕書少監田泊入吐蕃。爲弔祭使。吐蕃請與唐盟於長武城下。泊恐吐蕃留之不得還。唯阿而已。既而吐蕃爲党項所引入寇。因以爲辭。曰。田泊許我將兵赴盟。於是貶泊郴州司戶。○成德軍始奏。王承宗薨。乙酉。徙田弘正爲成德節度使。以王承元爲義成節度使。劉悟爲昭義節度使。李愬爲魏博節度使。又以左金吾將軍田布爲河陽節度使。○渭州刺史郝玘數出兵襲吐蕃營。所殺甚衆。李光顏發邠寧兵救涇州。邠寧兵以神策受賞厚。皆慍曰。入給五十緡。而不識戰鬪者。彼何人邪。常額衣資不得。而前冒白刃者。此何人邪。洵洵不可止。光顏親爲開陳大義。以諭之。言與涕俱。然後軍士感悅而行。將至涇州。吐蕃懼而退。丙戌。罷神策行營。西川奏。吐蕃寇雅州。辛卯。鹽州奏。吐蕃營於烏白池。尋亦皆退。○十一月。癸卯。遣諫議大夫鄭覃詣鎮州宣慰。賜錢一百萬緡。以賞將士。王承元既請朝命。諸將及鄰道。爭以故事勸之。承元皆不聽。及移鎮義成。將士誼譁不受命。承元與柏耆召諸將。以詔旨諭之。諸將號哭。不從。承元出家財以散之。擇其有勞者擢之。謂曰。諸公以先代之故。不欲承元去。此意甚厚。然使承元違天子之詔。其罪大矣。昔李師道之未敗也。朝廷嘗赦其罪。師道欲行。諸將固留之。其後殺師道者。亦諸將也。諸將勿使承元爲師道。則幸矣。因涕泣不自勝。且拜之。十將李寂等十餘人。固留承元。承元斬以徇。軍中乃定。丁未。承元赴滑州。將吏或以鎮州器用財貨行。承元悉命留之。○上將幸華清宮。戊午。宰相率兩省供奉官詣延英門。三上表切諫。且言如此。臣輩當扈從。求面對。皆不聽。諫官伏門下。至暮乃退。己未。未明。上自複道出城。幸華清宮。獨公主駙馬中尉神策六軍使帥禁兵千餘人扈從。晡時還宮。○十二月。己巳。朔。鹽州奏。吐蕃千餘人圍烏白池。○庚辰。西川奏。南詔二萬人入界。請討吐蕃。○癸未。容管奏。破黃少卿萬餘衆。拔營柵三十六。時少卿久未平。國子祭酒韓愈上言。臣去年貶嶺外。熟知黃家賊事。其



賊無城郭可居。依山傍險。自稱洞主。尋常亦各營生。急則屯聚相保。比緣邕管經略使。多不得人。德既不能綏懷。威又不能臨制。侵欺虜縛。以致怨恨。遂攻劫州縣。侵暴平人。或復私讐。或貪小利。或聚或散。終亦不能為事。近者征討。本起裴行立。陽旻。此兩人者。本無遠慮。深謀意在邀功求賞。亦緣見賊未屯聚之時。將謂單弱。爭獻謀計。自用兵以來。已經二年。前後所奏殺獲。計不下二萬餘人。儻皆非虛。賊已尋盡。至今賊猶依舊。足明欺罔朝廷。邕容兩管。經此凋弊。殺傷疾疫。十室九空。如此不已。臣恐嶺南一道。未有寧息之時。自南討已來。賊徒亦甚傷損。察其情理。厭苦必深。賊所處荒僻。假如盡殺其人。盡得其地。在於國計。不為有益。若因改元大慶。赦其罪戾。遣使宣諭。必望風降伏。仍為選擇有威信者為經略使。苟處置得宜。自然永無侵叛之事。上不能用。

穆宗睿聖文惠孝皇帝上

長慶元年春正月辛丑。上祀圓丘。赦天下。改元。河北諸道。各令均定兩稅。○門下侍郎同平章事蕭俛。介潔疾惡。為相。重惜官職。少所引拔。西川節度使王播。大修貢奉。且以賂結宦官。求為相。段文昌復左右之。詔徵播詣京師。俛屢於延英力爭。言播纖邪。物論沸騰。不可以污台司。上不聽。俛遂辭位。己未。播至京師。壬戌。俛罷為右僕射。俛固辭僕射。二月癸酉。改吏部尚書。○盧龍節度使劉總既殺其父兄。心常自疑。數見父兄為祟。常於府舍。飯僧數百。使晝夜為佛事。每視事退。則處其中。或處他室。則驚悸不能寐。晚年恐懼尤甚。亦見河南北皆從化。己卯。奏乞棄官為僧。仍乞賜錢百萬緡。以賞將士。○上面諭西川節度使王播。令歸鎮。播累表乞留京師。會中書侍郎同平章事段文昌請退。壬申。以文昌同平章事。充西川節度使。以翰林學士杜元穎為戶部侍郎。同平章事。以播為刑部尚書。充鹽鐵轉運使。元穎淹之六

世孫也。○回鶻保義可汗卒。○三月癸丑。以劉總兼侍中。充天平節度使。以宣武節度使張弘靖為盧龍節度使。○乙卯。以權知京兆尹盧士攻為瀛莫觀察使。丁巳。詔劉總兄弟子姪。皆除官。大將僚佐。亦宜超擢。百姓給復一年。軍士賜錢一百萬緡。○戊午。立皇弟憬為郾王。悅為瓊王。惇為沔王。懌為婺王。愔為茂王。怡為光王。協為淄王。憺為衢王。恠為濱王。皇子湛為景王。涵為江王。湊為漳王。溶為安王。漣為潁王。○劉總奏懇乞為僧。且以其私第為佛寺。詔賜總名大覺。寺名報恩。遣中使以紫僧服及天平節鉞。侍中告身。并賜之。惟其所擇。詔未至。總已削髮為僧。將士欲遮留之。總殺其唱帥者十餘人。夜以印節授留後張玘。遁去。及明。軍中始知之。玘奏。總不知所在。癸亥。卒于定州之境。○翰林學士李德裕。吉甫之子也。以中書舍人李宗閔嘗對策。譏切其父。恨之。宗閔又與翰林學士元稹爭進。取有隙。右補闕楊汝士。與禮部侍郎錢徽掌貢舉。西川節度使段文昌。翰林學士李紳。各以書屬所善進士於徽。及勝出。文昌紳所屬皆不預。及第者。鄭朗。覃之弟。斐。譔。度之子。蘇巢。宗閔之壻。楊殷士。汝士之弟也。文昌言於上曰。今歲禮部殊不公。所取進士。皆子弟無藝。以關節得之。上以問諸學士。德裕積紳皆曰。誠如文昌言。上乃命中書舍人王起等覆試。夏四月丁丑。詔黜朗等十人。貶徽州刺史。宗閔劔州刺史。汝士開江令。或勸徽奏文昌紳屬書。上必悟。徽曰。苟無愧心。得喪一致。奈何。奏人私書。豈士君子所為邪。取而焚之。時人多之。紳敬玄之曾孫。起。播之弟也。自是。德裕宗閔各分朋黨。更相傾軋。垂四十年。○丙戌。冊回鶻嗣君為登囉羽錄沒密施句主。毗伽崇德可汗。○五月丙申朔。回鶻遣都督宰相等五百餘人來逆公主。○壬子。鹽鐵使王播奏。約權茶額。每百錢加稅五十。右拾遺李珣等上疏。以為權茶近起。貞元多事之際。今天下無虞。所宜寬橫斂之目。而更增之。百姓何時當得息肩。不從。○丙辰。建王恪薨。○癸亥。以太和長公主嫁回鶻公主。上之妹也。吐蕃聞唐與回鶻婚。六月辛未。寇青塞堡。鹽州刺



史李文悅擊却之。戊寅，回鶻奏以萬騎出北庭，萬騎出安西，拒吐蕃，以迎公主。○初，劉總奏分所屬爲三道，以幽涿營爲一道，請除張弘靖爲節度使，平蘄嬀檀爲一道，請除平盧節度使薛平爲節度使，瀛莫爲一道，請除權知京兆尹盧士玫爲觀察使。弘靖先在河東，以寬簡得衆，總與之鄰境，聞其風望，以燕人桀驁日久，故舉弘靖自代，以安輯之。平，嵩之子，知河朔風俗，而盡誠於國，故舉之。士玫則總妻族之親也。總又盡擇麾下伉健難制者，都知兵馬使朱克融等送之京師，乞加獎拔，使燕人有慕羨朝廷祿位之志。又獻征馬萬五千匹，然後削髮委去。克融，滔之孫也。是時，上方酣宴，不留意天下之務，崔植、杜元穎、無遠略，不知安危大體，苟欲崇重弘靖，惟割瀛莫二州，以士玫領之。自餘皆統於弘靖。朱克融等久羈旅京師，至假旬衣食，日詣中書求官，植、元穎不之省，及除弘靖幽州，勒克融輩歸本軍驅使。克融輩皆憤怨。先是，河北節度使皆親冒寒暑，與士卒均勞逸，及弘靖至，雍容驕貴，肩輿於萬衆之中，燕人訝之。弘靖莊默自尊，涉旬乃一出坐決事，賓客將吏罕得聞其言，情意不接，政事多委之幕僚，而所辟判官韋雍輩，多年少輕薄之士，嗜酒豪縱，出入傳呼甚盛，或夜歸，燭火滿街，皆燕人所不習也。詔以錢百萬緡賜將士，弘靖留其二十萬緡充軍府雜用，雍輩復裁刻軍士糧賜，繩之以法，數以反虜詬責吏卒，謂軍士曰：「今天下太平，汝曹能挽兩石弓，不若識一丁字，由是軍中人人怨怒。」

資治通鑑卷第二百四十一

資治通鑑卷第二百四十一

唐紀五十八

穆宗睿聖文惠孝皇帝中

長慶元年秋七月甲辰，韋雍出逢小將策馬衝其前導，雍命曳下，欲於街中杖之。河朔軍士不貫受杖，不服。雍以白弘靖，弘靖命軍虞候繫治之。是夕，士卒連營呼譟作亂，將校不能制，遂入府舍掠弘靖貨財婦女，因弘靖於薊門館殺幕僚韋雍。張宗元、崔仲卿、鄭垣、都虞候劉操、押牙張抱元、明日軍士稍稍自悔，悉詣館謝弘靖，請改心事之。凡三請，弘靖不應。軍士乃相謂曰：「相公無言，是不赦吾曹。」軍中豈可一日無帥，乃相與迎舊將朱泚，奉以爲留後。泚，克融之父也。時以疾廢臥家，自辭老病，請使克融爲之。衆從之。衆以判官張徹長者，不殺，徹罵曰：「汝何敢反，行且族滅衆共殺之。」○壬子，羣臣上尊號曰文武孝德皇帝，赦天下。○甲寅，幽州監軍奏軍亂，丁巳，貶張弘靖爲賓客分司，己未，再貶吉州刺史。庚申，以昭義節度使劉悟爲盧龍節度使，悟以朱克融方彊，奏請且授克融節鉞，徐圖之。乃復以悟爲昭義節度使。○辛酉，太和公主發長安。○初，田弘正受詔鎮成德，自以久與鎮人戰，有父兄之仇，乃以魏兵二千從赴鎮，因留以自衛。奏請度支供其糧賜，戶部侍郎判度支崔俊性剛褊，無遠慮，以爲魏鎮各自有兵，恐開事例不肯給。弘正四上表不報，不得已遣魏兵歸。俊，沔之孫也。弘正厚於骨肉，兄弟子姪在兩都者數十人，競爲侈靡，日費約二十萬。弘正輦魏鎮之貨以供之，相屬於道。河北將士頗不平，詔以錢百萬緡賜成德軍，度支輦運不時至，軍士益不悅。都知兵



馬使王庭湊。本回鶻阿不思之種也。性果悍陰狡。潛謀作亂。每挾其細故。以激怒之。尚以魏兵故。不敢發。乃魏兵去。壬戌夜。庭湊結牙兵。謀於府署。殺弘正。及僚佐元從將吏。并家屬三百餘人。庭湊自稱留後。逼監軍宋惟澄。奏求節鉞。八月己巳。惟澄以聞。朝廷震駭。崔俊於崔植。為再從兄。故時人莫敢言其罪。初。朝廷易置魏鎮帥臣。左金吾將軍楊元卿上言。以為非便。又詣宰相。深陳利害。及鎮州亂。上賜元卿白玉帶。辛未。以元卿為涇原節度使。瀛莫將士家屬多在幽州。壬申。莫州都虞候張良佐。潛引朱克融兵入城。刺史吳暉不知所在。癸酉。王庭湊遣人殺冀州刺史王進岌。分兵據其州。魏博節度使李愬聞田弘正遇害。素服令將士曰。魏人所以得通聖化。至今安寧富樂者。田公之力也。今鎮人不道。輒敢害之。是輕魏以為無人也。諸君受田公恩。宜如何報之。衆皆慟哭。深州刺史牛元翼。成德良將也。愬使以寶劍玉帶遺之。曰。昔吾先人以此劍立大勳。吾又以之平蔡州。今以授公。努力翦庭湊。元翼以劍帶徇于軍。報曰。願盡死。愬將出兵。會疾作不果。元翼。趙州人也。乙亥。起復前涇原節度使田布為魏博節度使。令乘驛之鎮。布固辭不獲。與妻子賓客訣曰。吾不還矣。悉屏去旌節導從而行。未至魏州三十里。被髮徒跣。號哭而入。居于聖室。月俸千緡。一無所取。賣舊產得錢十餘萬緡。皆以頒士卒。舊將老者。兄事之。丙子。瀛州軍亂。執觀察使盧士攻及監軍僚佐。送幽州。囚於客館。王庭湊遣其將王立攻深州。不克。丁丑。詔魏博橫海昭義河東義武諸軍各出兵。臨成德之境。若王庭湊執迷不復。宜即進討。成德大將王儉等五人謀殺王庭湊。事泄。并部兵三千人皆死。己卯。以深州刺史牛元翼為深冀節度使。丁亥。以殿中侍御史溫造為起居舍人。充鎮州四面諸軍宣慰使。歷澤潞河東魏博橫海深冀易定等道。諭以軍期。造大雅之五世孫也。己丑。以裴度為幽鎮兩道招撫使。癸巳。王庭湊引幽州兵圍深州。○九月乙巳。相州軍亂。殺刺史邢澣。○吐蕃遣其禮部尚書論訥羅來求盟。庚戌。以大理卿劉元鼎為吐

蕃會盟使。○壬子。朱克融焚掠易州涑水遂城滿城。○自定兩稅以來。錢日重物日輕。民所輸三倍。其初。詔百官議革其弊。戶部尚書楊於陵以為錢者所以權百貨。實遷有無。所宜流散。不應蓄聚。今稅百姓錢。藏之公府。又開元中。天下鑄錢七十餘爐。歲入百萬。今纔十餘爐。歲入十五萬。又積於商賈之室。及流入四夷。又大曆以前。淄青太原魏博。貿易雜用鉛鐵。嶺南雜用金銀丹砂象齒。今一用錢。如此。則錢焉得不重。物焉得不輕。今宜使天下輸稅課者。皆用穀帛。廣鑄錢而禁滯積。及出塞者。則錢日滋矣。朝廷從之。始令兩稅皆輸布絲纈。獨鹽酒課用錢。○冬十月丙寅。以鹽鐵轉運使刑部尚書王播為中書侍郎。同平章事。使職如故。播為相。專以承迎為事。未嘗言國家安危。○以裴度為鎮州四面行營都招討使。左領軍大將軍杜叔良。以善事權倖得進。時幽鎮兵勢方盛。諸道兵未敢進。上欲功速成。宦官薦叔良。以為深州諸道行營節度使。以牛元翼為成德節度使。○癸酉。命宰相及大臣凡十七人。與吐蕃論訥羅盟于城西。遣劉元鼎與訥羅入吐蕃。亦與其宰相以下盟。○乙亥。以沂州刺史王智興為武寧節度副使。先是。副使皆以文吏為之。上聞智興有勇略。欲用之於河北。故以是寵之。○丁丑。裴度自將兵出承天軍故關。以討王庭湊。○朱克融遣兵寇蔚州。○戊寅。王庭湊遣兵寇貝州。○己卯。易州刺史柳公濟敗幽州兵於白石嶺。殺千餘人。○庚辰。橫海軍節度使烏重胤奏。敗成德兵於饒陽。○辛巳。魏博節度使田布將全軍三萬人討王庭湊。屯於南宮之南。拔其二柵。○翰林學士元稹與知樞密魏弘簡深相結。求為宰相。由是有寵於上。每事咨訪焉。積無怨於裴度。但以度先達。重望。恐其復有功大用。妨己進取。故度所奏。盡軍事多與弘簡從。中沮壞之。度乃上表。極陳其朋比姦蠹之狀。以為逆豎構亂。震驚山東。姦臣作朋。撓敗國政。陛下欲掃蕩幽鎮。先宜肅清朝廷。何者。為患有大小。議事有先後。河朔逆賊。抵亂山東。禁闢姦臣。必亂天下。是則河朔患小。禁闢患大。小者臣與諸將必能翦滅。大者。



非陛下覺悟制斷。無以驅除。今文武百寮。中外萬品。有心者無不憤忿。有口者無不咨嗟。直以獎用方深。不敢抵觸。恐事未行。而禍已及。不為國計。且為身謀。臣自兵興以來。所陳章疏。事皆要切。所奉書詔。多有參差。蒙陛下委付之意。不輕遭。奸臣抑損之事。不少。臣素與佞倖。亦無讐嫌。正以臣前請乘傳詣闕。面陳軍事。姦臣最所畏懼。恐臣發其過。百計止臣。臣又請與諸軍齊進。隨便攻討。姦臣恐臣或有成功。曲加阻礙。逗遛日時。進退皆受羈牽。意見悉遭蔽塞。但欲令臣失所。使臣無成。則天下理亂。山東勝負。悉不顧矣。為臣事君。一至於此。若朝中姦臣盡去。則河朔逆賊。不討自平。若朝中姦臣尚存。則逆賊縱平無益。陛下儻未信臣言。乞出臣表。使百官集議。彼不受責。臣當伏辜。表三上。上雖不悅。以度大臣。不得已。癸未。以弘簡為弓箭庫使。積為工部侍郎。積雖解翰林。恩遇如故。○宿州刺史李直臣。坐贓當死。宦官受其賂。為之請。御史中丞牛僧孺固請誅之。上曰。直臣有才。可惜。僧孺對曰。彼不才者。無過溫衣飽食。以足妻子。安足慮。本設法令。所以擒制有才之人。安祿山。朱泚。皆才過於人。法不能制者也。上從之。○橫海節度使烏重胤。將全軍救深州。諸軍倚重胤。獨當幽鎮東南。重胤宿將。知賊未可破。按兵觀釁。上怒。以杜叔良為橫海節度使。徙重胤為山南西道節度使。○靈武節度使李進誠。奏敗吐蕃三千騎於大石山下。○十一月辛酉。淄青節度使薛平奏。突將馬廷峯。作亂伏誅。時幽鎮兵攻棗州。平遣大將李叔佐。將兵救之。刺史王稷。供饋稍薄。軍士怨怒。背潰。推廷峯為主。行且收兵。至七千餘人。徑逼青州。城中兵少不敵。平悉發府庫及家財。召募得精兵二千人。逆戰大破之。斬廷峯。其黨死者數千人。○橫海節度使杜叔良。將諸道兵。與鎮人戰。遇敵輒北。鎮人知其無勇。常先犯之。十二月庚午。監軍謝良通奏。叔良大敗於博野。失亡七千餘人。叔良脫身還營。喪其旌節。○丁丑。義武節度使陳楚奏。敗朱克融兵於望都及北平。斬獲萬餘人。○戊寅。以鳳翔節度使李光顏為忠武節度使。兼深州行營

節度使。代杜叔良。○自憲宗征伐四方。國用已虛。上即位。賞賜左右及宿衛諸軍。無節及幽鎮用兵。久無功。府藏空竭。勢不能支。執政乃議。王庭湊殺田弘正。而朱克融全張弘靖。罪有重輕。請赦克融。專討庭湊。上從之。乙酉。以朱克融為平盧節度使。○戊子。義武奏。破莫州清源等三柵。斬獲千餘人。

二年春正月。丁酉。幽州兵陷弓高。先是。弓高守備甚嚴。有中使夜至。守將不內。旦乃得入。中使大詬怒。賊諜知之。他日。僞遣人為中使。投夜至城下。守將遽內之。賊眾隨之。遂陷弓高。又圍下博。中書舍人白居易上言。以為自幽鎮逆命。朝廷徵諸道兵。計十七八萬。四面攻圍。已踰半年。王師無功。賊勢猶盛。弓高既陷。糧道不通。下博深州。飢窮日急。蓋由節將太衆。其心不齊。莫肯率先。遞相顧望。又朝廷賞罰。近日不行。未立功者。或已拜官。已敗衄者。不聞得罪。既無懲勸。以至遷延。若不改張。必無所望。請令李光顏。將諸道勁兵。約三四萬人。從東速進。開弓高糧路。解深邢重圍。與元翼合勢。令裴度。將太原全軍。兼招討舊職。四面壓境。觀釁而動。若乘虛得便。即令同力翦除。若戰勝賊窮。亦許受降納款。如此則夾攻。以分其力。招諭以動其心。必未及誅夷。自生變故。又請詔光顏。選諸道兵精銳者。留之。其餘不可用者。悉遣歸本道。自守土疆。蓋兵多而不精。豈唯虛費衣糧。兼恐撓敗軍陳故也。今既祇留東西二帥。請各置都監一人。諸道監軍。一時停罷。如此。則衆齊令一。必有成功。又朝廷本用田布。令報父讐。今領全師出界。供給度支。數月已來。都不進討。非田布固欲如此。抑有其由。聞魏博一軍。屢經優賞。兵驕將富。莫肯為用。況其軍一月之費。計實錢二十八萬緡。若更遷延。將何供給。此尤宜早令退軍者也。若兩道止共留兵六萬。所費無多。既易支持。自然豐足。今事宜日急。其間變故。遠不可知。苟兵數不抽。軍費不減。食既不足。衆何以安。不安之中。何事不有。況有司迫於供軍。百端斂率。不許。即用度交闕。盡許。則人心無懼。自古安危皆繫於此。伏乞聖慮。



察而念之。疏奏不省。己亥。度支饋滄州糧車六百乘。至下博。盡爲成德軍所掠。時諸軍匱乏。供軍院所運衣糧。往往不得至院。在塗爲諸軍邀奪。其懸軍深入者。皆凍餒無所得。初。田布從其父弘。正在魏。善視牙將史憲誠。屢稱薦至右職。及爲節度使。遂寄以腹心。以爲先鋒兵。馬使軍中精銳。悉以委之。憲誠之先。奚人也。世爲魏將。魏與幽鎮。本相表裏。及幽鎮叛。魏人固搖心。布以魏兵討鎮軍於南宮。上屢遣中使督戰。而將士驕惰。無鬪志。又屬大雪。度支饋運不繼。布發六州租賦以供軍。將士不悅。曰。故事。軍出境。皆給朝廷。今尙書刮六州肌肉。以奉軍。雖尙書瘠己肥國。六州之人何罪乎。憲誠陰蓄異志。因衆心不悅。離間鼓扇之。會有詔分魏博軍與李光顏使救深州。庚子。布軍大潰。多歸憲誠。布獨與中軍八千人還魏。壬寅。至魏州。癸卯。布復召諸將議出兵。諸將益偃蹇。曰。尙書能行河朔舊事。則死生以之。若使復戰。則不能也。布無如之何。歎曰。功不成矣。即日作遺表。具其狀。略曰。臣觀衆意。終負國恩。臣既無功。敢忘即死。伏願陛下速救。光顏元翼。不然者。忠臣義士。皆爲河朔屠害矣。奉表號哭。拜授幕僚李石。乃入啓父靈。抽刀而言曰。上以謝君父。下以示三軍。遂刺心而死。憲誠聞布已死。乃諭其衆。遵河北故事。衆悅。擁憲誠還魏。奉爲留後。戊申。魏州奏布自殺。己酉。以憲誠爲魏博節度使。憲誠雖喜得旄鉞。外奉朝廷。然內實與幽鎮連結。○庚戌。以德州刺史王日簡爲橫海節度使。日簡。本成德牙將也。壬子。貶杜叔良爲歸州刺史。王庭湊圍牛元翼於深州。官軍三面救之。皆以乏糧不能進。雖李光顏亦閉壁自守而已。軍士自采薪芻。日給不過陳米一勺。深州圍益急。朝廷不得已。二月甲子。以庭湊爲成德節度使。軍中將士官爵。皆復其舊。以兵部侍郎韓愈爲宣慰使。上之初即位也。兩河略定。蕭俛。段文昌。以爲天下已太平。漸宜消兵。請密詔天下軍鎮。有兵處。每歲百人之中。限八人逃死。上方荒宴。不以國事爲意。遂可其奏。軍士落籍者衆。皆聚山澤爲盜。及朱克融。王庭湊作亂。一呼而亡卒皆集。詔徵諸道

兵討之。諸道兵既少。皆臨時召募。烏合之衆。又諸節度既有監軍。其領偏軍者。亦置中使監陳。主將不得專號令。戰小勝。則飛驛奏捷。自以爲功。不勝。則迫脅主將。以罪歸之。悉擇軍中驍勇。以自衛。遣羸懦者就戰。故每戰多敗。又凡用兵舉動。皆自禁中。授以方略。朝令夕改。不知所從。不度可否。惟督令速戰。中使道路如織。驛馬不足。掠行人馬以繼之。人不敢由驛路行。故雖以諸道十五萬之衆。裴度元臣宿望。烏重胤。李光顏。皆當時名將。討幽鎮萬餘之衆。屯守踰年。竟無成功。財竭力盡。崔植。杜元穎。爲相。皆庸才。無遠略。史憲誠既逼殺田布。朝廷不能討。遂并朱克融。王庭湊。以節授之。由是再失河朔。迄于唐亡。不能復取。朱克融既得旌節。乃出張弘靖。及盧士政。丙寅。以牛元翼爲山南東道節度使。以左神策行營樂壽鎮兵馬使清河傅良弼爲沂州刺史。以瀛州博野鎮使李寰爲忻州刺史。良弼。寰。所戍在幽鎮之間。朱克融。王庭湊。互加誘脅。良弼。寰。不從。各以其衆堅壁。賊竟不能取。故賞之。○丙子。賜橫海節度使王日簡姓名。爲李全略。○辛巳。中書侍郎同平章事崔植。罷爲刑部尙書。以工部侍郎元稹。同平章事。○癸未。加李光顏。橫海節度使。滄景觀察使。其忠武深州行營節度如故。以橫海節度使李全略。爲德棣節度使。時朝廷以光顏懸軍深入。饋運難道。故割滄景以隸之。王庭湊雖受旌節。不解深州之圍。丙戌。以知制誥東陽馮宿。爲山南東道節度副使。權知留後。仍遣中使入深州。督牛元翼。赴鎮。裴度亦與幽鎮書。責以大義。朱克融。卽解圍去。王庭湊雖引兵少退。猶守之不去。元稹怨裴度。欲解其兵柄。故勸上雪庭湊而罷兵。丁亥。以度爲司空。東都留守。平章事如故。諫官爭上言。時未偃兵。度有將相全才。不宜置之散地。上乃命度入朝。然後赴東都。以靈武節度使李聽。爲河東節度使。初聽爲羽林將軍。有良馬。上爲太子。遣左右諷求之。聽以職總親軍。不敢獻。及河東缺帥。上曰。李聽不與朕馬。是必可任。遂用之。○昭義監軍劉承偕恃恩。陵轢節度使劉悟。數衆辱之。又縱其下亂法。陰與磁州刺史張



汝謀縛悟送闕下以汝代之。悟知之，諷其軍士作亂，殺汝，圍承僭，欲殺之。幕僚賈直言入責悟曰：公所爲如是，欲効李司空邪？此軍中安知無如公者？使李司空有知，得無笑公於地下乎？悟遂謝，直言救免承僭，囚之府舍。○初上在東宮，聞天下厭苦憲宗用兵，故卽位，務優假將卒，以求姑息。三月壬辰，詔神策六軍使及南牙常參武官，具由歷功績，牒送中書，量加獎擢。其諸道大將，久次及有功者，悉奏聞，與除官。應天下諸軍，各委本道，據守舊額，不得輒有減省。於是商賈胥吏，爭賂藩鎮，牒補列將而薦之，卽升朝籍，奏章委積。士大夫皆扼腕歎息。○武寧節度副使王智興，將軍中精兵三千，討幽鎮，節度使崔羣忌之，奏請卽用智興爲節度使，不則召詣闕，除以他官。事未報，智興亦自疑，會有詔赦王庭湊，諸道皆罷兵，智興引兵先期入境，羣懼，遣使迎勞，且使軍士釋甲而入。智興不從，乙巳，引兵直進，徐人開門待之。智興殺不同己者十餘人，乃入府牙，見羣及監軍，拜伏曰：軍衆之情，不可如何，爲羣及判官從吏，具人馬及治裝，皆素所辦也。遣兵衛從羣，至埭橋而返，遂掠鹽鐵院錢帛，及諸道進奉在汴中者，并商旅之物，皆三分取二。○丙午，加朱克融王庭湊檢校工部尚書，上聞其解深州之圍，故褒之。然庭湊之兵，實猶在深州城下，韓愈旣行，衆皆危之，詔愈至境，更觀事勢，勿遽入。愈曰：止君之仁，死臣之義，遂往至鎮。庭湊拔刃弦弓以逆之，及館，甲士羅於庭，庭湊言曰：所以紛紛者，乃此曹所爲，非庭湊心，愈厲聲曰：天子以尙書有將帥材，故賜之節鉞，不知尙書乃不能與健兒語邪？甲士前曰：先太師爲國擊走朱滔，血衣猶在此，軍何負朝廷，乃以爲賊乎？愈曰：汝曹尙能記先太師則善矣，夫逆順之爲禍，福豈遠邪？自祿山思明以來，至元濟師道，其子孫有今尙存仕宦者乎？田令公以魏博歸朝廷，子孫雖在孩提，皆爲美官，王承元以此軍歸朝廷，弱冠爲節度使，劉悟、李祐，今皆爲節度使，汝曹亦聞之乎？庭湊恐衆心動，麾之使出，謂愈曰：侍郎來欲使庭湊何爲？愈曰：神策六軍之將，如牛元翼者不少，但朝廷

顧大體，不可棄之耳。尙書何爲圍之不置？庭湊曰：卽當出之，因與愈宴，禮而歸之。未幾，牛元翼將十騎突圍出，深州大將臧平等舉城降，庭湊責其久堅守，殺平等將吏百八十餘人。○戊申，裴度至長安，見上，謝討賊無功，先是，上詔劉悟送劉承僭詣京師，悟託以軍情，不時奉詔，上問度，宜如何處置，度對曰：承僭在昭義，驕縱不法，臣盡知之，悟在行營，與臣書，具論其事，時有中使趙弘亮在軍中，持悟書去，云欲自奏之，不知嘗奏不，上曰：朕殊不知也，且悟大臣，何不自奏，對曰：悟武臣，不知事體，然今事狀籍籍如此，臣等面論，陛下猶不能決，況悟當日單辭，豈能動聖聽哉？上曰：前事勿論，直言此時如何處置，對曰：陛下必欲收天下心，止應下半紙詔書，具陳承僭縱之罪，令悟集將士斬之，則藩鎮之臣，孰不思爲陛下效死，非獨悟也，上俛首良久，曰：朕不惜承僭，然太后以爲養子，今茲囚繫，太后尙未知之，況殺之乎？卿更思其次，度乃與王播等奏，請流承僭於遠州，必得出，上從之。後月餘，悟乃釋承僭。○李光顏所將兵，聞當留滄景，皆大呼西走，光顏不能制，因驚懼成疾，己酉，上表固辭，橫海節，乞歸許州，許之。○壬子，以裴度爲淮南節度使，餘如故。○加劉悟檢校司徒，餘如故，自是悟浸驕，欲效河北三鎮，招聚不逞，章表多不遜。○裴度之討幽鎮也，回鶻請以兵從，朝議以爲不可，遣中使止之，回鶻遣其臣李義節，將三千人已至豐州北，却之不從，詔發緡帛七萬匹，以賜之。甲寅，始還。○王智興遣輕兵二千襲濠州，丙辰，刺史侯弘度棄城奔壽州。○言事者皆謂裴度不宜出外，上亦自重之。戊午，制留度輔政，以中書侍郎同平章事王播同平章事，代度鎮淮南，仍兼諸道鹽鐵轉運使。○李寰帥其衆三千出博野，王庭湊遣兵追之，寰與戰，殺三百餘人，庭湊兵乃還，餘衆二千，猶固守博野。○朝廷以新罷兵，力不能討徐州，己未，以王智興爲武寧節度使。○復以德棣節度使李全略爲橫海節度使。○夏四月辛酉朔，日有食之。○甲戌，以傅良弼、李寰爲神策都知兵馬使。○戶部侍郎判度支張平叔上言：官自糶鹽，可



以獲利一倍。又請令所由將鹽就村糶易。又乞令宰相領鹽鐵使。又請以糶鹽多少為刺史縣令殿最。又乞檢責所在實戶。據口團保。給一年鹽。使其四季輸價。又行此策。後富商大賈。或行財賄。邀截喧訴。其為首者。所在杖殺。連狀人皆杖脊。詔百官議其可否。兵部侍郎韓愈上言。以為城郭之外。少有見錢。糶鹽多用雜物貿易。鹽商則無物不取。或除貸徐還。用此取濟。兩得便利。今令人吏坐鋪自糶。非得見錢。必不敢受。如此。貧者無從得鹽。自然坐失常課。如何更有倍利。又若令人吏將鹽。家至而戶糶。必索百姓供應。騷擾極多。又刺史縣令。職在分憂。豈可惟以鹽利多少為之升黜。不復考其理行。又貧家食鹽至少。或有淡食動經旬月。若據戶給鹽。依時徵價。官吏畏罪。必用威刑。臣恐因此所在不安。此尤不可之大者也。中書舍人韋處厚。議以為宰相處論道之地。難以鹺務實非所宜。竇參。皇甫鏞。皆以錢穀為相。名利難兼。卒蹈禍敗。又欲以重法禁人喧訴。夫強人之所不能。事必不立。禁人之所必犯。法必不行矣。事遂寢。平叔又奏。徵遠年逋欠。江州刺史李渤上言。度支徵當州貞元二年逃戶所欠錢四千餘緡。當州今歲旱災。田損什九。陛下奈何於大旱中徵三十六年前逋負。詔悉免之。邕州人不樂屬容管。刺史李元宗。以吏人狀授御史。使奏之。容管經略使嚴公素聞之。遣吏按元宗。擅以羅陽縣歸蠻酋黃少度。五月壬寅。元宗將兵百人。并州印奔黃洞。○王庭湊之圍牛元翼也。和王傅于方。欲以奇策干進。言於元稹。請遣客王昭于友明。間說賊黨。使出元翼。仍賂兵吏部令史。偽出告身二十通。令以便宜給賜。稹皆然之。有李賞者。知其謀。乃告。稹度云。方為積結客刺度。度隱而不發。賞詣左神策。告其事。丁巳。詔左僕射韓皋等。鞠之。○戊午。幽州節度使朱克融。進馬萬匹。羊十萬口。而表云。先請其直。充犒賞。○三司按于方。刺裴度事。皆無驗。六月甲子。度及元稹。皆罷相。度為右僕射。稹為同州刺史。以兵部尚書李逢吉為門下侍郎。同平章事。○党項寇靈州。渭北掠官馬。○諫官上言。裴度無罪。不當免相。

元稹與于方為邪謀。責之太輕。上不得已。壬申。削稹長春宮使。○吐蕃寇靈武。○庚辰。鹽州奏。党項都督拔跋萬誠請降。○壬午。吐蕃寇鹽州。○戊子。復置邕管經略使。○初。張弘靖為宣武節度使。屢賞以悅軍士。府庫虛竭。李愿繼之。性奢侈。賞勞既薄。於弘靖時。又峻威刑。軍士不悅。愿以其妻弟寶瑗典宿直兵。瑗驕貪。軍中惡之。牙將李臣則等作亂。秋七月壬辰夜。即帳中斬瑗頭。因大呼。府中響應。愿與一子。踰城奔鄭州。亂兵殺其妻。推都押牙李弁為留後。○丙申。宋王結薨。○戊戌。宣武監軍奏。軍亂。庚子。李弁自奏。已權知留後。○乙巳。詔三省官與宰相議汴州事。皆以為宜如河北故事。授李弁節。李逢吉曰。河北之事。蓋非獲已。今若并汴州棄之。則是江淮以南。皆非國家有也。杜元穎張平叔爭之曰。奈何惜數尺之節。不愛一方之死乎。議未決。會宋亳穎三州。各上奏。請別命帥。上大。喜。以逢吉議為然。遣中使詣三州宣慰。逢吉因請。以將軍徵弁入朝。以義成節度使韓充鎮宣武。充弘之弟。素寬厚。得衆心。脫弁旅拒。則命徐許兩軍。攻其左右。而滑軍蹙其北。充必得入矣。上皆從之。丙午。貶李愿為隨州刺史。以韓充為宣武節度。兼義成節度使。徵李弁為右金吾將軍。弁不奉詔。宋州刺史高承簡。斬其使者。弁遣兵二千攻之。陷寧陵襄邑。宋州有三城。賊已陷其南城。承簡保北二城。與賊十餘戰。癸丑。忠武節度使李光顏。將兵二萬五千。討李弁。屯尉氏。竟海節度使曹華。聞弁作亂。不俟詔。即發兵討之。弁遣兵三千人攻宋州。適至城下。丙辰。華逆擊破之。丁巳。李光顏敗宣武兵於尉氏。斬獲二千餘人。○八月辛酉。大理卿劉元鼎。自吐蕃還。○甲子。韓充入汴境。軍于千塔。武寧節度使王智興。與高承簡共破宣武兵。斬首千餘級。餘衆遁去。壬申。韓充敗宣武兵於郭橋。斬首千餘級。進軍萬勝。初。李弁既為留後。以都知兵馬使李質為腹心。及弁除將軍。不奉詔。質屢諫不聽。會弁疽發於首。遣李臣則等將兵拒李光顏於尉氏。既而官軍四集。兵屢敗。弁疾甚。悉以軍事屬李質。臥於家。丙子。質與監軍姚文壽。擒弁殺之。詐



為齊牒追臣則等至皆斬之執齊四子送京師韓充未至質權知軍務時牙兵三千人日給酒食物力不能支質曰若韓公始至而罷之則人情大去矣不可留此弊以遺吾帥即命罷給而後迎充丁丑充入汴癸未以韓充專為宣武節度使以曹華為義成節度使高承簡為兗海沂密節度使加李光顏兼侍中以李質為右金吾將軍韓充既視事人心粗定乃密籍軍中為惡者千餘人一朝并父母妻子悉逐之曰敢少留境內者斬於是軍政大治○九月戊子朔浙西觀察使京兆寶易直奏大將王國清作亂伏誅初易直聞汴州亂而懼欲散金帛以賞軍士或曰賞之無名恐益生疑乃止而外已有知之者故國清作亂易直討擒之并殺其黨二百餘人○德州刺史王稷承父鏐餘貲家富厚橫海節度使李景略利其財丙申密教軍士殺稷屠其家納其女為妾以軍亂聞○朝廷之討李齊也遣司門郎中韋文恪宣慰魏博史憲誠表請授齊旌節又於黎陽築馬頭為度河之勢見文恪辭禮倨慢及聞齊死辭禮頓恭曰憲誠胡人譬如狗雖被捶擊終不離主耳○冬十一月庚午皇太后幸華清宮辛未上自復道幸華清宮遂敗于驪山即日還宮太后數日乃返○丙子集王緄薨○庚辰上與宦者擊毬於禁中有宦者墜馬上驚因得風疾不能履地自是人聞上起居宰相屢乞入見不報裴度三上疏請立太子且請入見十二月辛卯上見羣臣於紫宸殿御大繩牀悉去左右衛官獨宦者十餘人侍側人情稍安李逢吉進言景王已長請立為太子裴度請速下詔副天下望既而兩省官亦繼有請立太子者癸巳詔立景王湛為皇太子上疾浸瘳○是歲初行宣明曆

資治通鑑卷第二百四十一

資治通鑑卷第二百四十二

唐紀五十九

穆宗睿聖文惠孝皇帝下

長慶三年春正月癸未賜兩軍中尉以下錢二月辛卯賜統軍軍使等綿綵銀器各有差○戶部侍郎牛僧孺素為上所厚初韓弘之子右驍衛將軍公武為其父謀以財結中外及公武卒弘繼薨穉孫紹宗嗣主藏奴與吏訟於御史府上憐之盡取弘財簿自閱視凡中外主權多納弘貨獨朱句細字曰某年月日送戶部牛侍郎錢千萬不納上大喜以示左右曰果然吾不繆知人三月壬戌以僧孺為中書侍郎同平章事時僧孺與李德裕皆有入相之望德裕出為浙西觀察使八年不遷以為李逢吉排己引僧孺為相由是牛李之怨愈深○夏四月甲午安南奏陸州獠攻掠州縣○丙申賜宣徽院供奉官錢紫衣者百二十緡下至承旨各有差○初翼城人鄭注眇小目下視而巧譎傾詔暴揣人意以醫遊四方羈貧甚嘗以藥術干徐州牙將牙將悅之薦於節度使李愬愬餌其藥頗驗遂有寵署為牙推浸預軍政妄作威福軍府患之監軍王守澄以衆情白愬請去之愬曰注雖如是然奇才也將軍試與之語苟無可取去之未晚乃使注往謁守澄守澄初有難色不得已見之坐語未久守澄大喜延之中堂促膝笑語恨相見之晚明日謂愬曰鄭生誠如公言自是又有寵於守澄權勢益張愬署為巡官列於賓席注既用事恐牙將薦己者泄其本末密以他罪譖之於愬愬殺之及守澄入知樞密挈注以西為立居宅贍給之遂薦於上上亦厚遇之自有疾守澄專



制國事。勢傾中外。注日夜出入其家。與之謀議。語必通夕。關通路遺。人莫能窺其迹。始則有微賤巧宦之士。或因以求進。數年之後。達官車馬。滿其門矣。工部尚書鄭權。家多姬妾。祿薄不能贍。因注通於守澄。以求節鎮。己酉。以權為嶺南節度使。○五月。壬申。以尚書左丞柳公綽為山南東道節度使。公綽過鄧縣。有二吏。一犯賊。一舞文。衆謂公綽必殺犯賊者。公綽判曰。賊吏犯法。法在。姦吏亂法。法亡。竟誅舞文者。○丙子。以晉慈二州為保義軍。以觀察使李寰為節度使。○六月。己丑。以吏部侍郎韓愈為京兆尹。六軍不敢犯法。私相謂曰。是尚欲燒佛骨。何可犯也。○秋。七月。癸亥。嶺南奏。黃洞蠻寇邕州。破左江鎮。丙寅。邕州奏。黃洞蠻破欽州。千金鎮。刺史楊嶼奔石南砦。○南詔勸利卒。國人請立其弟豐祐。豐祐勇敢。善用其衆。始慕中國。不與父連名。○八月。癸巳。邕管奏。破黃洞蠻。○丙申。上自複道。幸興慶宮。至通化門樓。投絹二百匹。施山僧。上之濫賜皆此類。不可悉紀。○癸卯。以左僕射裴度為司空。山南西道節度使。不兼平章事。李逢吉惡度。右補闕張又新等附逢吉。競流謗毀傷度。竟出之。又新薦之子也。○九月。丙辰。加昭義節度使劉悟同平章事。○李逢吉為相。內結知樞密王守澄。勢傾朝野。惟翰林學士李紳。每承顧問。常排抑之。擬狀至內庭。紳多所臧否。逢吉患之。而上待遇方厚。不能遠也。會御史中丞缺。逢吉薦紳清直。宜居風憲之地。上以中丞亦次對官。不疑而可之。會紳與京兆尹御史大夫韓愈爭臺參。及他職事。文移往來。辭語不遜。逢吉奏。二人不協。冬。十月。丙戌。以愈為兵部侍郎。紳為江西觀察使。○己丑。以中書侍郎同平章事杜元穎同平章事。充西川節度使。○辛卯。安南奏。黃洞蠻為寇。○韓愈李紳入謝。上各令自敍其事。乃深寤。壬辰。復以愈為吏部侍郎。紳為戶部侍郎。○初。柳泌等既誅。方士稍復。因左右以進。上餌其金石之藥。有處士張臯者。上疏以為神慮濇則血氣和。嗜欲勝則疾疹作。藥以攻疾。無疾不可餌也。昔孫思邈有言。藥勢有所偏助。令人藏氣不平。借使有疾用藥。猶須重慎。庶人尚爾。況於天子。先帝信方士妄言。餌藥致疾。此陛下所詳知也。豈得復循其覆轍乎。今朝野之人。紛紜竊議。但畏忤旨。莫敢進言。臣生長蓬艾。麋鹿與遊。無所邀求。但粗知忠義。欲裨萬一耳。上甚善其言。使求之。不獲。○丁卯。嶺南奏。黃洞蠻寇欽州。殺將吏。○庚午。上疾復作。壬申。大漸。命太子監國。宦官欲請郭太后臨朝稱制。太后曰。昔武后稱制。幾危社稷。我家世守忠義。非武氏之比也。太子雖少。但得賢宰相輔之。卿輩勿預朝政。何患國家不安。自古豈有女子為天下主。而能致唐虞之理乎。取制書手裂之。太后兄太常卿釗。聞有是議。密上牋曰。若果徇其請。臣請先帥諸子。納官爵。歸田里。太后泣曰。祖考之慶。鍾於吾兄。是夕。上崩于寢殿。癸酉。以李逢吉攝冢宰。丙子。敬宗即位。于太極東序。初。穆宗之立。神策軍士。人賜錢五十千。宰相議以太厚難繼。乃下詔稱。宿衛之勤。誠宜厚賞。屬頻年旱歉。御府空虛。邊兵尙未給衣。霑郵期於均濟。神策軍士。人賜絹十四。錢十千。畿內諸鎮。又減五千。仍出內庫綾二百萬匹。付度支。充邊軍春衣。時人善之。○自戊寅至庚辰。上賜宦官服色。及錦綵金銀甚衆。或今日賜綠。明日賜緋。○初。穆宗既留李紳。李逢吉愈忌之。紳族子虞。頗以文學知名。自言不樂仕進。隱居華陽川。及從父耆為左拾遺。虞與耆書求薦。誤達於紳。紳以書誚之。且以語於衆人。虞深怨之。乃詣逢吉。悉以紳平日密論逢吉之語告之。逢吉益怒。使虞與補闕張又新。及從子前河陽掌書記仲言等。伺求紳短。揚之於士大夫間。且言紳潛察士大夫。有羣居議論者。輒指為朋黨。白之於上。由是士大夫多忌之。及敬宗即位。逢吉與其黨。快紳失勢。又恐上復用之。日夜謀議。思所以害紳者。楚州刺史蘇遇。謂逢吉之黨曰。主上初聽政。必開延英。有次對官。惟此可防。其黨以為然。亟白逢吉曰。事迫矣。若俟聽政。悔不可追。逢吉乃令王守澄言於上曰。陛下所以為儲貳。臣備知之。皆逢吉之力也。如杜元穎李紳輩。皆欲立深王。度支員外

可餌也。昔孫思邈有言。藥勢有所偏助。令人藏氣不平。借使有疾用藥。猶須重慎。庶人尚爾。況於天子。先帝信方士妄言。餌藥致疾。此陛下所詳知也。豈得復循其覆轍乎。今朝野之人。紛紜竊議。但畏忤旨。莫敢進言。臣生長蓬艾。麋鹿與遊。無所邀求。但粗知忠義。欲裨萬一耳。上甚善其言。使求之。不獲。○丁卯。嶺南奏。黃洞蠻寇欽州。殺將吏。○庚午。上疾復作。壬申。大漸。命太子監國。宦官欲請郭太后臨朝稱制。太后曰。昔武后稱制。幾危社稷。我家世守忠義。非武氏之比也。太子雖少。但得賢宰相輔之。卿輩勿預朝政。何患國家不安。自古豈有女子為天下主。而能致唐虞之理乎。取制書手裂之。太后兄太常卿釗。聞有是議。密上牋曰。若果徇其請。臣請先帥諸子。納官爵。歸田里。太后泣曰。祖考之慶。鍾於吾兄。是夕。上崩于寢殿。癸酉。以李逢吉攝冢宰。丙子。敬宗即位。于太極東序。初。穆宗之立。神策軍士。人賜錢五十千。宰相議以太厚難繼。乃下詔稱。宿衛之勤。誠宜厚賞。屬頻年旱歉。御府空虛。邊兵尙未給衣。霑郵期於均濟。神策軍士。人賜絹十四。錢十千。畿內諸鎮。又減五千。仍出內庫綾二百萬匹。付度支。充邊軍春衣。時人善之。○自戊寅至庚辰。上賜宦官服色。及錦綵金銀甚衆。或今日賜綠。明日賜緋。○初。穆宗既留李紳。李逢吉愈忌之。紳族子虞。頗以文學知名。自言不樂仕進。隱居華陽川。及從父耆為左拾遺。虞與耆書求薦。誤達於紳。紳以書誚之。且以語於衆人。虞深怨之。乃詣逢吉。悉以紳平日密論逢吉之語告之。逢吉益怒。使虞與補闕張又新。及從子前河陽掌書記仲言等。伺求紳短。揚之於士大夫間。且言紳潛察士大夫。有羣居議論者。輒指為朋黨。白之於上。由是士大夫多忌之。及敬宗即位。逢吉與其黨。快紳失勢。又恐上復用之。日夜謀議。思所以害紳者。楚州刺史蘇遇。謂逢吉之黨曰。主上初聽政。必開延英。有次對官。惟此可防。其黨以為然。亟白逢吉曰。事迫矣。若俟聽政。悔不可追。逢吉乃令王守澄言於上曰。陛下所以為儲貳。臣備知之。皆逢吉之力也。如杜元穎李紳輩。皆欲立深王。度支員外



郎李續之等。繼上章言之。上時年十六。疑未信。會逢吉亦有奏言。紳不利於上。請加貶謫。上猶再三覆問。然後從之。二月癸未。貶紳爲端州司馬。逢吉仍帥百官表賀。既退。百官復詣中書賀。逢吉方與張又新語。門者弗內。良久。又新揮汗而出。旅揖百官曰。端溪之事。又新不敢多讓。衆駭愕。辟易憚之。右拾遺內供奉吳思。獨不賀。逢吉怒。以思爲吐蕃告哀使。丙戌。貶翰林學士龐嚴爲信州刺史。蔣防爲汀州刺史。儼。壽州人。與防皆紳所引也。給事中于敖。素與嚴善。封還敕書。入爲之懼。曰。于給事爲龐蔣直寃。犯宰相怒。誠所難也。及奏下。乃言貶之太輕。逢吉由是獎之。張又新等猶忌紳。日上書言。貶紳太輕。上許爲殺之。朝臣莫敢言。獨翰林侍讀學士韋處厚上疏。指述紳爲逢吉之黨。所讒人情歎駭。紳蒙先朝獎用。借使有罪。猶宜容假。以成三年無改之孝。況無罪乎。於是上稍開寤。會閱禁中文書。有穆宗所封文書一篋。發之。得裴度杜元穎李紳疏。請立上爲太子。上乃嗟歎。悉焚人所上譖紳書。雖未卽召還。後有言者。不復聽矣。○己亥。尊郭太后爲太皇太后。○乙巳。尊上母王妃爲皇太后。太后。越州人也。○丁未。上幸中和殿繫毬。自是數遊宴。擊毬奏樂。賞賜宦官樂人。不可悉紀。○三月壬子。赦天下。諸道常貢之外。毋得進奉。○甲寅。上始對宰相於延英殿。○初。牛元翼在襄陽。數賂王庭湊。以請其家。庭湊不與。聞元翼薨。甲子。盡殺之。○上視朝每晏。戊辰。日絕高。尙未坐。百官班於紫宸門外。老病者幾至僵踣。諫議大夫李渤。白宰相曰。昨日疏論坐晚。今晨愈甚。請出閣待罪。於金吾仗。既坐班退。左拾遺劉栖楚。獨留進言曰。憲宗及先帝皆長君。四方猶多叛亂。陛下富於春秋。嗣位之初。當宵衣求理。而嗜寢樂色。日晏方起。梓宮在殯。鼓吹日喧。令聞未彰。惡聲遐布。臣恐福祚之不長。請碎首玉階。以謝諫職之曠。遂以額叩龍墀。見血不已。響聞閣外。李逢吉宣曰。劉栖楚休叩頭。俟進止。栖楚捧首而起。更論宦官事。上連揮令出。栖楚曰。不用臣言。請繼以死。牛僧孺宣曰。所奏知門外。俟進止。栖楚乃出。待罪於金吾仗。於

是宰相贊成其言。上命中使就仗。并李渤宣慰令歸。尋擢栖楚爲起居舍人。仍賜緋。栖楚辭疾不拜。歸東都。○庚午。賜內教坊錢萬緡。以備行幸。○夏四月甲午。淮南節度使王播罷鹽鐵轉運使。○乙未。以布衣姜洽爲補闕。試大理評事。陸洿布衣。李虞。劉堅。爲拾遺。時李逢吉用事。所親厚者。張又新。李仲言。李續之。李虞。劉栖楚。姜洽。及拾遺張權輿。程昔範。又有從而附麗之者。時人惡逢吉者。目之爲八關十六子。○卜者蘇玄明。與染坊供人張韶善。玄明謂韶曰。我爲子卜。當升殿。坐與我共食。今主上晝夜毬獵。多不在宮中。大事可圖也。韶以爲然。乃與玄明謀。結染工無賴者百餘人。丙申。匿兵於紫草車。載以入銀臺門。伺夜作亂。未達所詣。有疑其重載而詰之者。韶急。卽殺詰者。與其徒易服揮兵。大呼趣禁庭。上時在清思殿擊毬。諸宦者見之。驚駭。急入閉門。走上。盜尋斬關而入。先是。右神策中尉梁守謙。有寵於上。每兩軍角伎藝。上常佑右軍。至是。上狼狽。欲幸右軍。左右曰。右軍遠。恐遇盜。不若幸左軍。近上從之。左神策中尉河中馬存亮。聞上至。走出迎。捧上足。涕泣。自負上入軍中。遣大將康藝全。將騎卒入宮討賊。上憂。二太后隔絕。存亮復以五百騎迎。二太后至軍。張韶升清思殿。坐御榻。與蘇玄明同食。曰。果如子言。玄明驚曰。事止此邪。韶懼而走。會康藝全與右軍兵馬使尙國忠引兵至。合擊之。殺韶。玄明及其黨死者狼藉。逮夜始定。餘黨猶散。匿禁苑中。明日。悉擒獲之。時宮門皆閉。上宿於左軍。中外不知上所在。人情惶駭。丁酉。上還宮。宰相帥百官詣延英門賀。來者不過數十人。盜所歷諸門。監門宦者三十五人。法當死。己亥。韶竝杖之。仍不改職任。壬寅。厚賞兩軍立功將士。○五月乙卯。以吏部侍郎李程。戶部侍郎判度支竇易直。竝同平章事。上問相於李逢吉。逢吉列上當時大臣有資望者。程爲之首。故用之。上好治宮室。欲營別殿。制度甚廣。李程諫。請以所具木石回奉山陵。上卽從之。○六月己卯朔。以左神策大將軍康藝全爲鄜坊節度使。○上聞王庭湊屠牛元翼家。歎宰相非才。使凶賊縱暴。翰



林學士韋處厚。因上疏言。裴度勳高中夏。聲播外夷。若置之巖廊。委其參決。河北山東。必稟朝筭。管仲曰。人離而聽之則愚。合而聽之則聖。理亂之本。非有他術。順人則理。違人則亂。伏承陛下當食歎息。恨無蕭曹。今有裴度。尚不能留。此馮唐所以謂漢文得廉頗李牧。不能用也。夫御宰相。當委之信之親之禮之。於事不効。於國無勞。則置之散寮。黜之遠郡。如此。則在位者不敢不厲。將進者不敢苟求。臣與逢吉。素無私嫌。嘗為裴度無辜貶官。今之所陳。上答聖明。下達羣議耳。上見度奏狀。無平章事。以問處厚。處厚具言。李逢吉排沮之狀。上曰。何至是邪。李程亦勸。上加禮於度。丙申。加度同平章事。○張韶之亂。馬存亮功為多。存亮不自矜。委權求出。秋。七月。以存亮為淮南監軍使。○夏。綏節度使李祐。入為左金吾大將軍。壬申。進馬百五十匹。上却之。甲戌。侍御史溫造。於閣內奏彈祐。違敕進奉。請論如法。詔釋之。祐謂人曰。吾夜半入蔡州城。取吳元濟。未嘗心動。今日。膽落於溫御史矣。○八月。丁丑朔。安南奏。黃蠻入寇。○龍州刺史尉遲銳。上言。牛心山。素稱神異。有掘斷處。請加補塞。從之。役數萬人於絕險之地。東川為之疲弊。○九月。丁未。波斯李蘇沙。獻沉香亭子材。左拾遺李漢。上言。此何異瑤臺瓊室。上雖怒。亦優容之。漢道明之六世孫也。○冬。十月。戊戌。翰林學士韋處厚。諫上宴遊。曰。先帝以酒色。致疾損壽。臣是時不死。諫者。以陛下年已十五。故也。今皇子纔一歲。臣安敢畏死而不諫乎。上感其言。賜錦綵百匹。銀器四。○十一月。戊午。安南奏。黃蠻與環王合兵。攻陷陸州。殺刺史葛維。○庚申。葬睿聖文惠孝皇帝于光陵。廟號穆宗。○王播以錢十萬緡。賂王守澄。求復領利權。十二月。癸未。諫議大夫獨孤朗。張仲方。起居郎柳公權。起居舍人宋中錫。拾遺李景讓。薛廷老。請開延英。論其奸邪。上問。前廷爭者。不在中邪。即日。除劉栖楚。諫議大夫。景讓。愷之曾孫。廷老。河中也。○十二月。庚寅。加天平節度使烏重胤。同平章事。○乙未。徐泗觀察使王智興。以上生日。請於泗州置戒壇。度僧尼。以資福。許之。自元和以來。

敕禁此弊。智興欲聚貨。首請置之。於是四方輻湊。江淮尤甚。智興家費。由此累鉅萬。浙西觀察使李德裕。上言。若不鈐制。至降誕日。方停計兩浙福建。當失六十萬丁。奏至。即日罷之。○是歲。回鶻崇德可汗卒。弟曷薩特勒立。

敬宗睿武昭愍孝皇帝

寶曆元年。春。正月。辛亥。上祀南郊。還。御丹鳳樓。赦天下。改元。先是。鄂令崔發。聞外喧囂。問之。曰。五坊人毆百姓。發怒。命擒以入。曳之於庭。時已昏黑。良久詰之。乃中使也。上怒。收發繫。御史臺。是日。發與諸囚。立金雞下。忽有品官數十人。執梃亂捶發。破面折齒。絕氣。乃去。數刻而蘇。復有繼來求擊之者。臺吏以席蔽之。僅免。上命復繫發於臺獄。而釋諸囚。○中書侍郎同平章事牛僧孺。以上荒淫。嬖幸用事。又畏罪不敢言。但累表求出。乙卯。升鄂岳為武昌軍。以僧孺同平章事。充武昌節度使。中旨復以王播兼鹽鐵轉運使。諫官屢爭之。上皆不納。牛僧孺過襄陽。山南東道節度使柳公綽。服藥韃候於館舍。將佐諫曰。襄陽地高於夏口。此禮太過。公綽曰。奇章公甫離台席。方鎮重。宰相所以尊朝廷也。竟行之。○上遊幸無常。昵比羣小。視朝稀。晚。二日正服。以諷服御乖異。三曰罷獻。以諷徵求玩好。四曰納誨。以諷侮棄讜言。五曰辯邪。以諷信任羣小。六曰防微。以諷輕出遊幸。其納誨箴略曰。漢驚流涌。舉白浮鍾。魏叡侈汰。凌霄作宮。忠雖不忤。善亦不從。以規為瑱。是謂塞聰。防微箴曰。亂臣猖獗。非可遽數。玄服莫辯。觸瑟始仆。柏谷微行。豺豕塞路。視貌獻箴。斯可戒懼。上優詔答之。○上既復繫崔發於獄。給事中李渤。上言。縣令不應曳中人。中人不應毆御囚。其罪一也。然縣令所犯。在赦前。中人所犯。在赦後。中人橫暴。一至於此。若不早正刑書。臣恐四方藩鎮聞之。則慢易之心生。



矣。諫議大夫張仲方上言略曰：鴻恩將布於天下，而不行御前，需澤徧被於昆蟲，而獨遺崔發。自餘諫官論奏甚衆，上皆不聽。戊子，李逢吉等從容言於上曰：崔發輒曳中人，誠大不敬。然其母故相韋貫之之姊也。年垂八十，自發下獄，積憂成疾。陛下方以孝理天下，此所宜矜念。上乃愍然曰：比諫官但言發寃，未嘗言其不敬，亦不言有老母。如卿所言，朕何為不赦之。即命中使釋其罪，送歸家。仍慰勞其母。母對中使，杖發四十。○三月辛酉，遣司門郎中于人文冊回鶻，曷薩特勒為愛登里囉，汨沒密於合毗伽昭禮可汗。○夏四月癸巳，羣臣上尊號。曰文武大聖廣孝皇帝。赦天下。赦文但云左降官，已經量移者，宜與量移。不言未量移者，翰林學士韋處厚上言：逢吉恐李紳量移，故有此處置。如此，則應近年流貶官，因李紳一人，皆不得量移也。上即追赦文改之。紳由是得移江州長史。○秋七月甲辰，鹽鐵使王播進羨餘絹百萬匹，播領鹽鐵，誅求嚴急，正入不充，而羨餘相繼。○己未，詔王播造競渡船二十艘，運材於京師，造之。計用轉運半年之費。諫議大夫張仲方等力諫，乃減其半。○諫官言：京兆尹崔元略以諸父事內常侍崔潭峻，丁卯元略遷戶部侍郎。○昭義節度使劉悟之去鄆州也，以鄆兵二千自隨，為親兵。八月庚戌，悟暴疾薨，子將作監主簿從諫匿其喪，與大將劉武德及親兵謀以悟遺表求知留後。司馬賈直言入責從諫曰：爾父提十二州地歸朝廷，其功非細，祇以張汝之故，自謂不潔淋頭，竟至羞死，爾孺子何敢如此。父死不哭，何以為人。從諫恐悚不能對，乃發喪。○初，陳留人武昭罷石州刺史，為袁王府長史，鬱鬱怨執政，李逢吉與李程不相悅，水部郎中李仍叔程之族人，激怒之云：程欲與昭官為逢吉所沮，昭因酒酣對左金吾兵曹茅彙言欲刺逢吉，為人所告。九月庚辰，詔三司鞠之。前河陽掌書記李仲言謂彙曰：君言李程與昭謀則生，不然必死。彙曰：寃死甘心，誣人自全，彙不為也。獄成，冬十月甲子，武昭杖死。李仍叔貶道州司馬。李仲言流象州，茅彙流崖州。○上欲幸驪山溫湯，左僕射李

絳諫議大夫張仲方等屢諫不聽。拾遺張權輿伏紫宸殿下，叩頭諫曰：昔周幽王幸驪山，為犬戎所殺。秦始皇葬驪山，國亡。玄宗宮驪山，而祿山亂。先帝幸驪山，享年不長。上曰：驪山若此之凶邪，我宜一往以驗彼言。十一月庚寅，幸溫湯。即日還宮，謂左右曰：彼叩頭者之言安足信哉。○丙申，立皇子普為晉王。○朝廷得劉悟遺表，議者多言：上黨內鎮與河朔異，不可許。左僕射李絳上疏以為兵機尚速，威斷貴定，人情未一，乃可伐謀。劉悟死已數月，朝廷尚未處分，中外人意，共惜事機。今昭義兵衆，必不盡與從諫同謀，縱使其半叶同，尚有其半効順。從諫未嘗久典兵馬，威惠未加於人。又此道素貧，非時必無優賞。今朝廷但速除近澤，將充昭義節度使，令兼程赴鎮，從諫未及布置，新使已至潞州，所謂先人奪人之心也。新使既至，軍心自有所繫，從諫無位，何名主張。設使謀撓朝命，其將士必不肯從。今朝廷久無處分，彼軍不曉朝廷之意，欲効順則恐忽授從諫，欲同惡則恐別更除人。猶豫之間，若有姦人為之畫策，虛張賞設錢數，軍士覬望，尤難指揮。伏望速賜裁斷，仍先下明敕，宣示軍衆，獎其從來忠節，賜新使繒五十萬匹，使之賞設，續除劉從諫一刺史。從諫既粗有所得，必且擇利而行，萬無違拒。設不從命，臣亦以為不假攻討。何則：臣聞從諫已禁山東三州軍士，不許自畜兵力，足明羣心殊未得一帳下之事，亦在不疑。熟計利害，決無即授從諫之理。時李逢吉王守澄計議已定，竟不用絳等謀。十二月辛丑，以從諫為昭義留後。劉悟煩苛，從諫濟以寬厚，衆頗附之。○李絳好直言，李逢吉惡之。故事，僕射上日，宰相送之，百官立班，中丞列位於廷，尚書以下，每月當牙。元和中，伊慎為僕射，太常博士章謙上言：舊儀太重，削去之。御史中丞王播，特逢吉之勢，與絳相遇於塗，不之避。絳引故事上言：僕射國初為正宰相，禮數至重。儻人才忝位，自宜別授賢良。若朝命守官，豈得有虧法制。乞下百官詳定。議者多從絳議。上聽行舊儀。甲子，以絳有足疾，除太子少師分司。○言事者多稱裴度賢，不宜棄之藩鎮。上數



遣使至興元。勞問度。密示以還期。度因求入朝。逢吉之黨大懼。二年春正月壬辰。裴度自興元入朝。李逢吉之黨百計毀之。先是。民間謠云。緋衣小兒坦其腹。天上有口被驅逐。又長安城中有橫互六岡。如乾象。度宅偶居第五岡。張權輿上言。度名應圖讖。宅占岡原。不召而來。其旨可見。上雖年少。悉察其誣謗。待度益厚。度初至京師。朝士填門度留客飲。京兆尹劉栖楚附度耳語。侍御史崔咸舉觴罰度曰。丞相不應許所由官。咕囁耳語。度笑而飲之。栖楚不自安。趨出。二月丁未。以度為司空。同平章事。度在中書。左右忽白。失印。聞者失色。度飲酒自如。頃之。左右白。復於故處得印。度不應。或問其故。度曰。此必吏入盜之。以印書券耳。急之則投諸水火。緩之則復還故處。入服其識量。○上自即位以來。欲幸東都。宰相及朝臣諫者甚衆。上皆不聽。決意必行。已令度支員外郎盧貞。按視修東都宮闕。及道中行宮。裴度從容言於上曰。國家本設兩都。以備巡幸。自多難以來。茲事遂廢。今宮闕營壘。百司廡舍。率已荒弛。陛下儻欲行幸。宜命有司。歲月間。徐加完葺。然後可往。上曰。從來言事者。皆云不當往。如卿所言。不往亦可。會朱克融。王庭湊。皆請以兵匠助修東都。三月丁亥。敕以修東都煩擾罷之。召盧貞還。先是。朝廷遣中使。賜朱克融時服。克融以為疎惡。執留救使。又奏。當道今歲。將士春衣不足。乞度支給三十萬端匹。又奏。欲將兵馬及丁匠五千。助修宮闕。上患之。以問宰相。欲遣重臣宣慰。仍索救使。裴度對曰。克融無禮已甚。殆將斃矣。譬如猛獸。自於山林中咆哮跳踉。久當自困。必不敢輒離巢穴。願陛下勿遣宣慰。亦勿索救使。旬日之後。徐賜詔書云。聞中官至彼。稍失去就。俟還。朕自有處分。時服。有司製造不謹。朕甚欲知之。已令區處。其將士春衣。從來非朝廷徵發。皆本道自備。朕不愛數十萬匹物。但素無此例。不可獨與范陽。所稱助修宮闕。皆是虛語。若欲直挫其姦。宜云。丁匠宜速遣來。已令所在排比。供擬。彼得此詔。必蒼黃失圖。若且示含容。則云。修宮闕事。在有司。不假丁匠遣來。

如是而已。不足勞聖慮也。上悅從之。○立才人郭氏為貴妃。妃。晉王普之母也。○橫海節度使李全略薨。其子副大使同捷。擅領留後。重賂鄰道。以求承繼。○夏四月戊申。以昭義留後劉從諫為節度使。○五月。幽州軍亂。殺朱克融。及其子延齡。軍中立其少子延嗣。主軍務。○六月甲子。上御三殿。令左右軍教坊內園。為擊毬手搏雜戲。戲酣。有斷臂碎首者。夜漏數刻乃罷。○己卯。上幸興福寺。觀沙門文淑俗講。○癸未。衡王絢薨。○壬辰。宣索左藏見左銀十萬兩。金七千兩。悉貯內藏。以便賜與。○道士趙歸真。說上以神仙。僧惟真。齊賢。正簡。說上以禱祠求福。皆出入宮禁。上信用其言。山人杜景先。請徧歷江嶺。求訪異人。有潤州人周息元。自言壽數百歲。上遣中使迎之。八月乙巳。息元至京師。上館之。禁中山亭。朱延嗣既得幽州。虐用其人。都知兵馬使李載義。與弟牙內兵馬使載寧。共殺延嗣。并屠其家三百餘人。載義權知留後。九月。數延嗣之罪。以聞。載義承乾之後也。庚申。魏博節度使史憲誠。妄奏。李同捷為軍士所逐。走歸本道。請東身歸朝。尋奏。同捷復歸滄州。○壬申。以中書侍郎同平章事。李程。同平章事。充河東節度使。○冬十月己亥。以李載義為盧龍節度使。○十一月甲申。以門下侍郎。同平章事。李逢吉。同平章事。充山南東道節度使。○上遊戲無度。狎暱羣小。善擊毬。好手搏。禁軍及諸道。爭獻力士。又以錢萬緡。付內園。令召募力士。晝夜不離側。又好深夜自捕狐狸。性復編急。力士或恃恩不遜。輒配流籍沒。宦官小過。動遭捶撻。皆怨且懼。十二月辛丑。上夜獵。還宮。與宦官劉克明。田務澄。許文端。及擊毬軍將蘇佐明等。弒上於室內。劉克明等。矯稱上旨。命翰林學士路隋。草遺制。以絳王悟權。句當軍國事。壬寅。宣遺制。絳王見宰相百官於紫宸外廡。克明等欲易置內侍之執權者。於是樞密使王守澄。楊承和。中尉魏從簡。梁守謙。定議以衛兵迎江王涵入宮。發左右神策飛龍兵。進討賊黨。盡斬之。克明赴井。出而斬之。絳王為



亂兵所害。時事起蒼猝。守澄等以翰林學士韋處厚博通古今。一夕處置皆與之共議。守澄等欲號令中外。而疑所以為辭。處厚曰。正名討罪。於義何嫌。安可依違。有所諱避。又問。江王當如何踐阼。處厚曰。詰朝當以王教布告中外。以已平內難。然後羣臣三表勸進。以太皇太后令冊命。即皇帝位。當時皆從其言。時不暇復問。有司凡百儀法。皆出於處厚。無不叶宜。癸卯。以裴度攝冢宰。百官謁見。江王於紫宸外廡。王素服涕泣。甲辰。見諸軍使於少陽院。趙歸真等諸術士及敬宗時佞幸者。皆流嶺南。或邊地。乙巳。文宗即位。更名昂。戊申。尊母蕭氏為皇太后。王太后為寶曆太后。是時。郭太后居興慶宮。王太后居義安殿。蕭太后居大內。上性孝謹。事三宮如一。每得珍異之物。先薦郊廟。次奉三宮。然後進御。蕭太后。閩人也。○庚戌。以翰林學士韋處厚為中書侍郎。同平章事。○上自為諸王。深知兩朝之弊。及即位。勵精求治。去奢從儉。詔宮女非有職掌者。皆出之。出三千餘人。五坊鷹犬。準元和故事。量留校獵外。悉放之。有司供官禁年支物。竝準貞元故事。省教坊翰林總監。冗食千二百餘員。停諸司新加衣糧。御馬坊場。及近歲別貯錢穀。所占陂田。悉歸之有司。先宣索組繡彫鏤之物。悉罷之。敬宗之世。每月視朝。不過一二。上始復舊制。每奇日。未嘗不視朝。對宰相羣臣。延訪政事。久之。方罷。待制官。舊雖設之。未嘗召對。至是。屢蒙延問。其輟朝放朝。皆用偶日。中外翕然相賀。以為太平可冀。

文宗元聖昭獻孝皇帝上之上

太和元年。春。二月。乙巳。赦天下。改元。○李同捷擅據滄景。朝廷經歲不問。同捷冀易世之後。或加恩貸。三月。壬戌朔。遣掌書記崔從長奉表。與其弟同志。同異俱入見。請遵朝旨。○上雖虛懷聽納。而不能堅決。與宰相議事已定。尋復中變。夏。四月。丙辰。韋處厚於延英極論之。因

請遜位。上再三慰勞之。○忠武節度使王沛薨。庚申。以太僕卿高珣為忠武節度使。自大曆以來。節度使多出禁軍。其禁軍大將。資高者。皆以倍稱之息貸。錢於富室。以賂中尉。勳德萬。然後得之。未嘗由執政。至鎮。則重斂。以償所負。及沛薨。裴度韋處厚始奏。以珣代之。中外相賀曰。自今債帥鮮矣。○五月。丙子。以天平節度使烏重胤為橫海節度使。以前橫海節度副使李同捷為兗海節度使。朝廷猶慮河南北節度使。構扇同捷。使拒命。乃加魏博史憲誠同平章事。丁丑。加盧龍李載義。平盧康志睦。成德王庭湊。檢校官。○鹽鐵使王播。自淮南入朝。力圖大用。所獻銀器。以千計。綾絹。以十萬計。六月。癸巳。以播為左僕射。同平章事。○秋。七月。癸酉。葬睿武昭愍孝皇帝于莊陵。廟號敬宗。○李同捷託為將士所留。不受詔。乙酉。武寧節度使王智興奏。請將本軍三萬人。自備五月糧。以討同捷。許之。八月。庚子。削同捷官爵。命烏重胤。王智興。康志睦。史憲誠。李載義。與義成節度使李聽。義武節度使張璠。各帥本軍討之。同捷遣其子弟。以珍玩女妓。賂河北諸鎮。戊午。李載義執其姪。并所賂獻之。史憲誠與李全略為婚姻。及同捷叛。密以糧助之。裴度不知其所為。謂憲誠無貳心。憲誠遣親吏。至中書請事。韋處厚謂曰。晉公於上前。以百口保爾使主。處厚則不然。但仰俟所為。自有朝典耳。憲誠懼。不敢復與同捷通。王庭湊為同捷求節鉞。不獲。乃助之為亂。出兵境上。以撓魏師。又遣使厚賂沙陀酋長朱邪執宜。欲與之連兵。執宜拒不受。冬。十月。天平橫海節度使烏重胤。擊同捷。屢破之。十一月。丙寅。重胤薨。庚辰。以保義節度使李寰為橫海節度使。從王智興之請也。○十二月。庚戌。加王智興同平章事。

二年。春。三月。己卯。王智興攻棗州。焚其三門。○自元和之末。宦官益橫。建置天子。在其掌握。威權出入主之右。人莫敢言。上親策制舉人。賢良方正。昌平。劉蕡對策。極言其禍。其略曰。陛下宜先憂者。宮闈將變。社稷將危。天下將傾。海內將亂。又曰。陛下將杜篡弑之漸。則居正位。



而近正人遠刀鋸之賤親骨鯁之直輔相得以專其任庶職得以守其官奈何以褻近五六人總天下大政禍稔蕭牆姦生帷幄臣恐曹節侯覽復生於今日又曰忠賢無腹心之寄闈寺持廢立之權陷先君不得正其終致陛下不得正其始又曰威柄陵夷藩臣跋扈或有不達人臣之節首亂者以安君為名不究春秋之微稱兵者以逐惡為義則政刑不由乎天子征伐必自於諸侯又曰陛下何不塞陰邪之路屏褻狎之臣制侵陵迫脅之心復門戶掃除之役戒其所宜戒憂其所宜憂既不能治於前當治於後既不能正其始當正其終則可以虔奉典謨克承丕構矣昔秦之亡也失於彊暴漢之亡也失於微弱彊暴則賊臣畏死而害上微弱則姦臣竊權而震主伏見敬宗皇帝不虞亡秦之禍不翦其萌伏惟陛下深軫亡漢之憂以杜其漸則祖宗之鴻業可紹三五之遐軌可追矣又曰臣聞昔漢元帝即位之初更制七十餘事其心甚誠其稱甚美然而紀綱日紊國祚日衰姦宄日彊裂元日困者以其不能擇賢明而任之失其操柄也又曰陛下誠能揭國權以歸相持兵柄以歸將則心無不達行無不孚矣又曰法宜畫一官宜正名今分外官中官之員立南司北司之局或犯禁于南則亡命于北或正刑于外則破律於中法出多門人無所措實由兵農勢異而中外法殊也又曰今夏官不知兵籍止於奉朝請六軍不主兵事止於養勳階軍容合中官之政戎律附內臣之職首一戴武弁疾文吏如仇讐足一蹈軍門視農夫如草芥謀不足以翦除兇逆而詐足以抑揚威福勇不足以鎮衛社稷而暴足以侵軼里閭羈絏藩臣于陵宰輔隳裂王度汨亂朝經張武夫之威上以制君父假天子之命下以御英豪有藏姦觀釁之心無伏節死難之義豈先王經文緯武之旨邪又曰臣非不知言發而禍應計行而身戮蓋痛社稷之危哀生人之困豈忍姑息時忌竊陛下之一命之寵哉○閏月丙戌朔史憲誠奏遣其子副大使唐都知兵馬使元志紹將兵二萬五千趣德州討李同捷時憲誠欲助同捷唐泣諫且請發

兵討之憲誠不能違○甲午賢良方正裴休李邵李甘杜牧馬植崔瑗王式崔慎由等二十二人中第皆除官考官左散騎常侍馮宿等見劉蕡策皆歎服而畏宦官不敢取詔下物論囂然稱屈諫官御史欲論奏執政抑之李邵曰劉蕡下第我輩登科能無厚顏乃上疏以為蕡所對策漢魏以來無與為比今有司以蕡指切左右不敢以聞恐忠良道窮綱紀遂絕況臣所對不及蕡遠甚乞回臣所授以旌蕡直不報蕡由是不得仕於朝終於使府御史牧佑之孫植助之子式起之孫慎由融之玄孫也○夏六月晉王普薨辛酉諡悼懷太子○初蕭太后幼去鄉里有弟一人上即位命福建觀察使求訪莫知所在有茶綱役人蕭洪自言有姊流落商人趙纘引之見太后近親呂璋之妻亦不能辯與之俱見太后上以為得真舅甲子以為太子洗馬○峯州刺史王昇朝叛庚辰安南都護武陵韓約討斬之○王庭湊陰以兵及鹽糧助李同捷上欲討之秋七月甲辰詔中書集百官議其事宰相以下莫敢違衛尉卿殷侑獨以為庭湊雖附凶徒事未甚露宜且含容專討同捷己已下詔罪狀庭湊命鄰道各嚴兵守備聽其自新○九月丁亥王智興奏拔棗州○李寰自晉州引兵赴鎮不戢士卒所過殘暴至則擁兵不進但坐索供饋庚寅以寰為夏綏節度使○甲午詔削奪王庭湊官爵命諸軍四面進討○加王智興守司徒以前夏綏節度使傅良弼為橫海節度使○岳王緄薨庚戌容管奏安南軍亂逐都護韓約○冬十月洋王忻薨○魏博敗橫海兵於平原遂拔之○十一月癸未朔易定節度使柳公濟奏攻李同捷堅固寨拔之又破其兵於寒東時河南北諸軍討同捷久未成功每有小勝則虛張首虜以邀厚賞朝廷竭力奉之江淮為之耗弊○傅良弼至陝而薨乙酉以左金吾大將軍李祐為橫海節度使○甲辰禁中昭德寺火延及宮人所居燒死者數百人○十二月丁巳王智興奏兵馬使李君謀將兵濟河破魏棗○壬申中書侍郎同平章事韋處厚薨○李同捷軍勢日蹙王庭湊不能救乃遣人說魏



博。大將元志紹使殺史憲誠父子。取魏博。志紹遂作亂。引所部兵二萬人。還逼魏州。丁丑。命諫議大夫柏耆宣慰魏博。且發義成河陽兵。以討志紹。○戊寅。以翰林學士路隋為中書侍郎。同平章事。○辛巳。史憲誠奏。元志紹兵屯永濟。告急求援。詔義成節度使李聽帥滄州行營諸軍。以討志紹。

資治通鑑卷第二百四十三

資治通鑑一百四十四

唐紀六十

文宗元聖昭獻孝皇帝上之下

太和三年春正月。元志紹與成德合兵。掠貝州。○義成行營兵三千人。先屯齊州。使之禹城。中道潰叛。橫海節度使李祐討誅之。庚子。李聽史唐合兵。擊元志紹破之。志紹將其眾五千。奔鎮州。○李載義奏。攻滄州。長蘆拔之。○甲辰。昭義奏。元志紹餘眾萬五千人。詣本道降。寅之洛州。○二月。橫海節度使李祐帥諸道行營兵。擊李同捷破之。進攻德州。○武寧捉生兵馬使石雄。勇敢愛士卒。王智興殘虐。軍中欲逐智興而立雄。智興知之。因雄立功。奏請除刺史。丙辰。以雄為壁州刺史。○史憲誠聞滄景將平。而懼其子唐勸之入朝。丙寅。憲誠使唐奉表。請入朝。且請以所管聽命。○石雄既去武寧。王智興悉殺軍中與雄善者百餘人。夏四月。戊午。智興奏。雄搖動軍情。請誅之。上知雄無罪。免死。流白州。○戊辰。李載義奏。攻滄州。破其羅城。李祐拔德州。城中將卒三千餘人。奔鎮州。李同捷與祐書。請降。祐并奏其書。諫議大夫柏耆受詔。宣慰行營。好張大聲勢。以威制諸將。諸將已惡之矣。及李同捷請降於祐。祐遣大將萬洪代守滄州。耆疑同捷之詐。自將數百騎。馳入滄州。以事誅洪。取同捷及其家屬。詣京師。乙亥。至將陵。或言。王庭湊欲以奇兵篡同捷。乃斬同捷。傳首滄景。悉平。五月。庚寅。加李載義同平章事。諸道兵攻李同捷。三年。僅能下之。而柏耆徑入城。取為己功。諸將疾之。爭上表論列。辛卯。貶耆為循州司戶。李祐尋薨。○壬寅。攝魏博副使史唐奏。改名孝章。○六月。丙



辰詔鎮州四面行營各歸本道休息但務保境勿相往來惟庭湊効順為達章表餘皆勿受  
 ○辛酉以史憲誠為兼侍中河中節度使以李聽兼魏博節度使分相衛澶三州以史孝章  
 為節度使○初李祐聞柏者殺萬洪大驚疾遂劇上曰祐若死是者殺之也癸酉賜史憲誠旌  
 ○河東節度使李程奏得王庭湊書請納景州又奏元志紹自縊○上遣中使賜史憲誠旌  
 節癸酉至魏州時李聽自貝州還軍館陶遷延未進憲誠竭府庫以治行甲戌軍亂殺憲誠  
 奉牙內都知兵馬使靈武何進滔知留後季聽進至魏州進滔拒之不得入秋七月進滔出  
 兵擊李聽聽不為備大敗潰走晝夜兼行趣淺口失亡過半輜重器械盡棄之昭義兵救之  
 聽僅而得免歸于滑臺河北久用兵饋運不給朝廷厭苦之八月壬子以進滔為魏博節度  
 使復以相衛澶三州歸之○滄州承襲亂之餘骸骨蔽地城空野曠戶口存者什無三四癸  
 丑以衛尉卿殷侑為齊德滄景節度使侑至鎮與士卒同甘苦招撫百姓勸之耕桑流散者  
 稍稍復業先是本軍三萬人皆仰給度支侑至一年租稅自能贍其半二年請悉罷度支給  
 賜三年之後戶口滋殖倉粟充盈○王庭湊因隣道微露請服之意壬申赦庭湊及將士復  
 其官爵○徵浙西觀察使李德裕為兵部侍郎裴度薦以為相會吏部侍郎李宗閔有宦官  
 之助甲戌以宗閔同平章事○上性儉素九月辛巳命宗閔以下毋得衣紗縠綾羅聽朝之  
 暇惟以書史自娛聲樂遊暇未嘗留意駙馬韋處仁嘗著夾羅巾上謂曰朕慕卿門地清素  
 故有選尚如此巾服聽其他貴戚為之卿不須爾○壬辰以李德裕為義成節度使李宗閔  
 惡其逼己故出之○冬十月丙辰以李聽為太子少師○路隋言於上曰宰相任重不宜兼  
 金穀瑣碎之務如楊國忠元載皇甫鎛皆姦臣所為不足法也上以為然於是裴度辭度支  
 上許之○十一月甲午上祀圓丘赦天下四方毋得獻奇巧之物其織麗布帛皆禁之焚其  
 機杼○丙申西川節度使杜元穎奏南詔入寇元穎以舊相文雅自高不曉軍事專務蓄積

減削士卒衣糧西南成邊之卒衣食不足皆入蠻境鈔盜以自給蠻人反以衣食資之由是  
 蜀中虛實動靜蠻皆知之南詔自嗟願謀大舉入寇邊州屢以告元穎不之信嗟願兵至邊  
 城一無備禦蠻以蜀卒為鄉導襲陷犒戎二州甲辰元穎遣兵與戰於邛州南蜀兵大敗蠻  
 遂陷邛州○武寧節度使王智興入朝○詔發東川與元荆南兵以救西川十二月丁未朔  
 又發鄂岳襄鄧陳許等兵繼之○以王智興為忠武節度使○己酉以東川節度使郭釗為  
 西川節度使兼權東川節度事嗟願自邛州引兵徑抵成都庚戌陷其外郭杜元穎帥眾保  
 牙城以拒之欲遁者數四壬子貶元穎為邵州刺史○己未以右領軍大將軍董重質為神  
 策諸道西川行營節度使又發太原鳳翔兵赴西川南詔寇東川入梓州西郭釗兵寡弱不  
 能戰以書責嗟願嗟願復書曰杜元穎侵擾我故興兵報之耳與釗修好而退蠻留成都西  
 郭十日其始慰撫蜀人市肆安堵將行乃大掠子女百工數萬人及珍貨而去蜀人恐懼往  
 往赴江流尸塞江而下嗟願自為軍殿及大度水嗟願謂蜀人曰此南吾境也聽汝哭別鄉  
 國眾皆慟哭赴水死者以千計自是南詔工巧埒於蜀中嗟願遣使上表稱蠻比修職貢豈  
 敢犯邊正以杜元穎不恤軍士怨苦元穎競為鄉導祈我此行以誅虐帥誅之不遂無以慰  
 蜀士之心願陛下誅之丁卯再貶元穎循州司馬詔董重質及諸道兵皆引還郭釗至成都  
 與南詔立約不相侵擾詔遣中使以國信賜嗟願  
 四年春正月辛巳武昌節度使牛僧孺入朝○戊子立子永為魯王○李宗閔引薦牛僧孺  
 辛卯以僧孺為兵部尚書同平章事於是二人相與排擠李德裕之黨稍稍逐之○南詔之  
 寇成都也詔山南西道發兵救之與元兵少節度使李絳募兵千人赴之未至蠻退而還與  
 元兵有常額詔新募兵悉罷之二月乙卯絳悉召新軍諭以詔旨而遣之仍賜以廩麥皆快  
 快而退往辭監軍監軍楊叔元素惡絳不奉己以賜物薄激之眾怒大譟掠庫兵趨使牙絳



方與僚佐宴。不為備。走登北城。或勸繼而出。絳曰：「吾為元帥。豈可逃去。」麾推官趙存約令去。存約曰：「存約受明公知。何可苟免。」牙將王景延與賊力戰死。絳存約及觀察判官薛齊皆為亂兵所害。賊遂屠絳家。戊午。叔元奏絳收新軍募直。以致亂。庚申。以尚書右丞溫造為山南西道節度使。是時三省官上疏。共論李絳之冤。諫議大夫孔敏行具呈。叔元激怒亂兵。上始悟。○三月乙亥朔。以刑部尚書柳公綽為河東節度使。先是。回鶻入貢及互市。所過恐其為變。常嚴兵。迎送防衛之。公綽至鎮。回鶻遣梅錄李暢。以馬萬匹互市。公綽但遣牙將單騎迎。勞於境。至則大開牙門。受其禮謁。暢感泣。戒其下。在路不敢馳獵。無所侵擾。陜北沙陀素驍勇。為九姓六州胡所畏伏。公綽奏。以其會長朱邪執宜為陰山都督。代北行營招撫使。使居雲朔塞下。捍禦北邊。執宜與諸酋長入謁。公綽與之宴。執宜神彩嚴整。進退有禮。公綽謂僚佐曰：「執宜外嚴而內寬。言徐而理當。福祿人也。執宜母妻入見。公綽使夫人與之飲酒。饋遺之。執宜感恩為之盡力。塞下舊有廢府十一。執宜修之。使其部落三千人分守之。自是雜虜不敢犯塞。○溫造行至褒城。遇興元都將衛志忠征蠻歸。造密與之謀。誅乳者。以其兵八百人為牙隊。五百人為前軍。入府分守諸門。己卯。造視事。饗將士於牙門。造曰：「吾欲問新軍去留之意。宜悉使來前。既勞問。命坐行酒。志忠密以牙兵圍之。既合。唱殺。新軍八百餘人皆死。楊叔元起擁造靴。求生。造命囚之。其手殺絳者。斬之百段。餘皆斬首。投尸漢水。以百首祭李絳。三十首祭死事者。其事以聞。己丑。流楊叔元於康州。○癸卯。加淮南節度使段文昌同平章事。為荆南節度使。○奚寇幽州。夏四月丁未。盧龍節度使李載義擊破之。辛酉。擒其王茹羯以獻。○裴度以高年多疾。懇辭機政。六月丁未。以度為司徒。平章軍國重事。俟疾損三五日。一入中書。○上患宦官彊盛。憲宗敬宗弒逆之黨。猶有在左右者。中尉王守澄尤專橫。招權納賄。上不能制。嘗密與翰林學士宋申錫言之。申錫請漸除其偏。上以申錫沈厚忠謹。可

倚以事。擢為尚書右丞。七月癸未。以申錫同平章事。○初裴度征淮西。奏李宗閔為觀察判官。由是漸獲進用。至是。怨度薦李德裕。因其謝病。九月壬午。以度兼侍中。充山南東道節度使。○西川節度使郭釗。以疾求代。冬十月戊申。以義成節度使李德裕為西川節度使。蜀自南詔入寇。一方殘弊。郭釗多病未暇完補。德裕至鎮。作籌邊樓。圖蜀地形。南入南詔。西達吐蕃。日召老於軍旅。習邊事者。雖走卒蠻夷。無所不問。訪以山川城邑。道路險易。廣狹遠近。未踰月。皆若身嘗涉歷。上命德裕修塞清溪關。以斷南詔入寇之路。或無土。則以石壘之。德裕上言。通蠻細路至多。不可塞。惟重兵鎮守。可保無虞。但黎雅以來。得萬人。成都得二萬人。精加訓練。則蠻不敢動矣。邊兵又不宜多。須力可臨制。崔旰之殺郭英。又張勳之逐張延賞。皆鎮兵也。時北兵皆歸本道。惟河中陳許三千人。在成都。有詔。來年三月亦歸。蜀人懼。德裕奏乞鄭滑五百人。陳許千人。以鎮蜀。且言。蜀兵脆弱。新為蠻寇所困。皆破膽。不堪征戍。若北兵盡歸。則與杜元穎時無異。蜀不可保。恐議者云。蜀經蠻寇以來。已自增兵。曩者蠻寇已逼。元穎始募市人為兵。得三千餘人。徒有其數。實不可用。郭釗募北兵。僅得百餘人。臣復召募得二百餘人。此外皆元穎舊兵也。恐議者又聞一夫當關之說。以為清溪可塞。臣訪之蜀中老將。清溪之傍。大路有三。自餘小徑無數。皆東蠻臨時。為之開通。若言可塞。則是欺罔朝廷。要須大度水北。更築一城。迤邐接黎州。以大兵守之。方可。況聞南詔以所掠蜀人二千。及金帛。賂遺吐蕃。若使二虜知蜀虛實。連兵入寇。誠可深憂。其朝廷建言者。蓋由禍不在身。望人責一狀。留入堂案。他日敗事。不可令臣獨當國憲。朝廷皆從其請。德裕乃練士卒。葺堡鄣。積糧儲。以備邊。蜀人粗安。○是歲。勃海宣王仁秀卒。子新德早死。孫彝震立。改元咸和。五年春正月丁巳。賜滄齊德節度名義昌軍。○庚申。盧龍監軍奏。李載義與勅使宴於毬場後院。副兵馬使楊志誠。與其徒呼噪作亂。載義與子正元奔易州。志誠又殺莫州刺史張慶



初上召宰相謀之牛僧孺曰范陽自安史以來非國所有劉總薨獻其地朝廷費錢八十萬緡而無絲毫所獲今日志誠得之猶前日載義得之也因而撫之使捍北狄不必計其逆順上從之載義自易州赴京師上以載義有平滄景之功且事朝廷恭順二月壬辰以載義為太保同平章事如故以楊志誠為盧龍留後

臣光曰昔者聖人順天理察人情知齊民之莫能相治也故置師長以正之知羣臣之莫能相使也故建諸侯以制之知列國之莫能相服也故立天子以統之天子之於萬國能褒善而黜惡抑彊而扶弱撫服而懲違禁暴而誅亂然後發號施令而四海之內莫不率從也詩曰勉勉我王綱紀四方載義藩屏大臣有功於國無罪而志誠逐之此天子所宜治也若一無所問因其土田爵位授之則是將帥之廢置殺生皆出於士卒之手天子雖在上何為哉國家之有方鎮豈專利其財賦而已乎如僧孺之言姑息偷安之術耳豈宰相佐天子御天下之道哉

新羅王彥昇卒子景徽立○上與宋申錫謀誅宦官申錫引吏部侍郎王璠為京兆尹以密旨諭之璠泄其謀鄭注王守澄知之陰為之備上弟漳王湊賢有人望注令神策都虞候豆盧著誣告申錫謀立漳王戊戌守澄奏之上以為信然甚怒守澄欲即遣二百騎屠申錫家飛龍使馬存亮固爭曰如此則京城自亂矣宜召他相與議其事守澄乃止是日旬休遣中使悉召宰相至中書東門中使曰所召無宋公名申錫知獲罪望延英以笏扣頭而退宰相至延英上示以守澄所奏相顧愕眙上命守澄捕豆盧著所告十六宅宮市品官晏敬則及申錫親事王師文等於禁中鞠之師文亡命三月庚子申錫罷為右庶子自宰相大臣無敢顯言其冤者獨京兆尹崔瑄大理卿王正雅連上疏請出內獄付外廷覈實由是獄稍緩正雅謝之子也晏敬則等自誣服稱申錫遣王師文違意於王結異日之知獄成壬寅上悉召

師保以下及臺省府寺大臣面詢之午際左常侍崔玄亮給事中李固言諫議大夫王質補闕盧鈞舒元褒蔣係裴休韋溫等復請對於延英乞以獄事付外覆按上曰吾已與大臣議之矣屢遣之出不退玄亮叩頭流涕曰殺一匹夫猶不可不重慎況宰相乎上意稍解曰當更與宰相議之乃復召宰相入牛僧孺曰人臣不過宰相今申錫已為宰相假使如所謀復與何求申錫殆不至此鄭注恐覆案詐覺乃勸守澄請止行貶黜癸卯貶漳王湊為集縣公宋申錫為開州司馬存亮即日請致仕玄亮磁州人質通五世孫係父之子元褒江州人也晏敬則等坐死及流竄者數十人申錫竟卒於貶所○夏四月己丑以李載義為山南西道節度使楊志誠為幽州節度使○五月辛丑以太廟兩室破漏踰年不葺罰將作監度支判官宗正卿俸亟命申錫中使師徒輟禁中營繕之材以葺之右補闕韋溫諫以為國家置百官各有所司苟為墮曠宜黜其人更擇能者代之今曠官者止於罰俸而憂軫所切即委內臣是以宗廟為陛下所私而百官皆為虛設也上善其言即追止中使命有司葺之○丙辰西川節度使李德裕奏遣使詣南詔索所掠百姓得四千人而還○秋八月戊寅以陝虢觀察使崔郾為鄂岳觀察使鄂岳地囊山帶江處百越巴蜀荆漢之會土多羣盜剽行舟無老幼必盡殺乃已郾至訓卒治兵作蒙衝追討歲中悉誅之郾在陝以寬仁為治或經月不答一人及至鄂嚴峻刑罰或問其故郾曰陝土瘠民貧吾撫之不暇尚恐其驚鄂地險民雜夷俗慄狡為奸非用威刑不能致治政貴知變蓋謂此也○西川節度使李德裕奏蜀兵羸疾老弱者從來終身不簡臣命立五尺五寸之度簡去四千四百餘人復簡募少壯者千人以慰其心所募北兵已得千五百人與土兵參居轉相訓習日益精練又蜀工所作兵器徒務華飾不堪用臣今取工於別道以治之無不堅利九月吐蕃維州副使悉怛謀請降盡帥其衆奔成都德裕遣行維州刺史虞藏儉將兵入據其城庚申具奏其狀且言欲遣生羌三



千。燒十三橋。擣西戎腹心。可洗久恥。是韋臯沒身恨不能致者也。事下尚書省。集百官議。皆請如德裕策。牛僧孺曰。吐蕃之境。四面各萬里。失一維州。未能損其勢。比來修好。約罷戍兵。中國禦戎。守信為上。彼若來責。曰何事失信。養馬蔚茹川。上平涼阪。萬騎綴回中。怒氣直辭。不三日。至咸陽橋。此時西南數千里外。得百維州。何所用之。徒棄誠信。有害無利。此匹夫所不為。況天子乎。上以為然。詔德裕以其城歸吐蕃。執悉怛謀。及所與偕來者。悉歸之。吐蕃盡誅之於境上。極其慘酷。德裕由是怨僧孺益深。○冬十月。戊寅。李德裕奏。南詔寇嶺州。陷三縣。

六年春正月壬子。詔以水旱降繫囚羣臣上尊號曰太和文武至德皇帝。右補闕韋溫上疏。以為今水旱為災。恐非崇飾徽稱之時。上善之辭不受。○三月辛丑。以武寧節度使王智興兼侍中。充武寧節度使。以邠寧節度使李聽為武寧節度使。○回鶻昭禮可汗為其所殺。從子胡特勒立。○李聽之前鎮武寧也。有蒼頭為牙將。至是聽先遣親吏至徐州慰勞將士。蒼頭不欲聽復來。說軍士殺其親吏。鬻食之。聽懼。以疾固辭。辛酉。以前忠武節度使高瑀為武寧節度使。○夏五月甲辰。李德裕奏。修邛崃關。及移嶺州理臺登城。○秋七月。原王達薨。○冬十月甲子。立魯王永為太子。初上以晉王普敬宗長子。性謹愿。欲以為嗣。會薨。上痛惜之。故久不議建儲。至是始行之。○十一月乙卯。以荆南節度使段文昌為西川節度使。西川監軍王踐言入知樞密。數為上言。縛送悉怛謀。以快虜心。絕後來降者。非計也。上亦悔之。尤中書侍郎同平章事牛僧孺失策。附李德裕者。因言僧孺與德裕有隙。害其功。上益疎之。僧孺內不自安。會上御延英。謂宰相曰。天下何時當太平。卿等亦有意於此乎。僧孺對曰。太平無象。今四夷不至交侵。百姓不至流散。雖非至理。亦謂小康。陛下若別求太平。非臣等所及。退謂同列曰。主上責望如此。吾曹豈得久居此地乎。因累表請罷。十二月乙丑。以僧孺同平

章事。充淮南節度使。

臣光曰。君明臣忠。上令下從。俊良在位。佞邪黜遠。禮修樂舉。刑清政平。奸宄消伏。兵革偃戢。諸侯順附。四夷懷服。家給人足。此太平之象也。於斯之時。闈寺專權。脇君於內。弗能遠也。藩鎮阻兵。陵慢于外。弗能制也。士卒殺逐主帥。拒命自立。弗能詰也。軍旅歲興。賦斂日急。骨血縱橫於原野。杼軸空竭於里閭。而僧孺謂之太平。不亦誣乎。當文宗求治之時。僧孺任居承弼。進則儉安。取容以竊位。退則欺君。誣世以盜名。罪孰大焉。

珍王誠薨。○乙亥。昭義節度使劉從諫入朝。○丁未。以前西川節度使李德裕為兵部尚書。初李宗閔與德裕有隙。及德裕還自西川。上注意甚厚。朝夕且為相。宗閔百方沮之。不能。京兆尹杜棕。宗閔黨也。嘗詣宗閔。見其有憂色。曰。得非以大戎乎。宗閔曰。然。何以相救。棕曰。棕有一策。可平宿憾。恐公不能用。宗閔曰。何如。棕曰。德裕有文學。而不由科第。常用此為嫌。嫌若使之知。舉必喜矣。宗閔默然。有間曰。更思其次。棕曰。不則用為御史大夫。宗閔曰。此則可矣。棕再三與約。乃詣德裕。德裕迎揖曰。公何為訪此寂寥。棕曰。靖安相公令棕達意。即以大夫之命告之。德裕驚喜。泣下曰。此大門官。小子何足以當之。寄謝重沓。宗閔復與給事中楊虞卿謀之。事遂中止。虞卿。汝士之從弟也。七年春正月甲午。加昭義節度使劉從諫同平章事。遣歸鎮。初從諫以忠義自任。入朝。欲請他鎮。既至。見朝廷事柄不一。又士大夫多請託。心輕朝廷。故歸而益驕。○徐州承王智興之後。士卒驕悖。節度使高瑀不能制。上以為憂。甲寅。以嶺南節度使崔珙為武寧節度使。珙至鎮。寬猛適宜。徐人安之。珙瑄之弟也。○二月癸亥。加盧龍節度使檢校工部尚書楊志誠。檢校吏部尚書。進奏官徐迪。詣宰相言。軍中不識朝廷之制。唯知尚書改僕射為遷。不知工部改吏部為美。勅使往。恐不得出。辭氣甚慢。宰相不以為意。○丙戌。以兵部尚書李德裕同平



章事。德裕入謝。上與之論朋黨事。對曰。方今朝士三分之一為朋黨。時給事中楊虞卿與從兄中書舍人汝士弟戶部郎中漢公。中書舍人張元夫。給事中蕭澣等善。交結依附權要。上干執政。下撓有司。為士人求官及科第。無不如志。上聞而惡之。故與德裕言。首及之。德裕因得以排其所不悅者。初左散騎常侍張仲方嘗駁李吉甫諡。及德裕為相。仲方稱疾不出。三月壬辰。以仲方為賓客分司。○楊志誠怒不得僕射。留官告使魏寶義。并春衣使焦奉鸞。送奚契丹使尹士恭甲午。遣牙將王文穎來謝恩。并讓官。丙申。復以告身并批答賜之。文穎不受而去。○和王綺薨。○庚戌。以楊虞卿為常州刺史。張元夫為汝州刺史。他日上復言及朋黨。李宗閔曰。臣素知之。故虞卿輩。臣皆不與。美官。李德裕曰。給舍非美官。而何。宗閔失色。丁巳。以蕭澣為鄭州刺史。○夏。四月。丙戌。冊回鶻新可汗。為愛登里囉汨沒密施合句祿毗伽彰信可汗。○六月。己巳。以山南西道節度使李載義為河東節度使。先是。回鶻每入貢。所過暴掠州縣。不敢詰。但嚴兵防衛而已。載義至鎮。回鶻使者李暢入貢。載義謂之曰。可汗遣將軍入貢。以固舅甥之好。非遣將軍陵踐上國也。將軍不戢部曲。使為侵盜。載義亦得殺之。勿謂中國之法可忽也。於是悉罷防衛兵。但使二卒守其門。暢畏服不敢犯令。○壬申。以工部尚書鄭覃為御史大夫。初。李宗閔惡覃在禁中。數言事。奏罷其侍講。上從容謂宰相曰。殷侗經術。頗似鄭覃。宗閔對曰。覃侑經術。誠可尚。然論議不足聽。李德裕曰。覃侑議論。他人不欲聞。惟陛下欲聞之。後旬日。宣出除覃御史大夫。宗閔謂樞密使崔潭峻曰。事一切宣出。安用中書。潭峻曰。八年天子聽其自行事。亦可矣。宗閔愀然而止。○乙亥。以中書侍郎同平章事李宗閔。同平章事。充山南西道節度使。○秋。七月。壬寅。以右僕射王涯。同平章事。兼度支鹽鐵轉運使。○宣武節度使楊元卿有疾。朝廷議除代。李德裕請。徙劉從諫於宣武。因拔出上黨。不使與山東連結。上以為未可。癸丑。以左僕射李程為宣武節度使。○上患近世文士不

通經術。李德裕請。依楊綰議。進士試論議。不試詩賦。德裕又言。昔玄宗以臨淄王定內難。自是疑忌宗室。不令出閣。天下議皆以為幽閉骨肉。虧傷人倫。竊使天寶之末。建中之初。宗室散處方州。雖未能安定王室。尚各全其生。所以悉為安祿山朱泚所魚肉者。由聚於一宮。故也。陛下誠因冊太子。制書聽宗室年高屬疎者出閣。且除諸州上佐。使攜其男女。出外婚嫁。此則百年弊法。一旦因陛下去之。海內孰不欣悅。上曰。茲事。朕久知其不可。方今諸王。豈無賢才。無所施耳。八月。庚寅。冊命太子。因下制。諸王自今。以次出閣。授緊望州刺史上佐。十宅縣主。以時出適。進士。停試詩賦。諸王出閣。竟以議所除官。不決而罷。○壬寅。加幽州節度使楊志誠檢校右僕射。仍別遣使慰諭之。杜牧憤河朔三鎮之桀驁。而朝廷議者。專事姑息。乃作書。名曰罪言。大略以為國家自天寶盜起。河北百餘城。不得尺寸。人望之。若回鶻吐蕃。無敢窺者。齊梁蔡被其風流。因亦為寇。未嘗五年間不戰。焦然七十餘年矣。今上策。莫如先自治中策。莫如取魏。最下策。為浪戰。不計地勢。不審攻守。是也。又傷府兵廢壞。作原十六衛。以為國家始踵隋制。開十六衛。自今觀之。設官言無謂者。其十六衛乎。本原事迹。其實天下之大命也。貞觀中。內以十六衛。著養戎臣。外開折衝果毅府。五百七十四。以儲兵伍。有事。則戎臣提兵居外。無事。則放兵居內。其居內也。富貴恩澤。以奉其身。所部之兵。散舍諸府。上府不越千二百人。三時耕稼。一時治武。籍藏將府。伍散田畝。力解勢破。人人自愛。雖有蚩尤為帥。亦不可使為亂耳。及其居外也。緣部之兵。被檄乃來。斧鉞在前。爵賞在後。飄暴交猝。豈暇異略。雖有蚩尤為帥。亦無能為叛也。自貞觀至于開元。百三十年間。戎臣兵伍。未始逆篡。此大聖人所以能柄統輕重。制彰表裏。聖算神術也。至于開元末。愚儒奏章曰。天下文勝矣。請罷府兵。武夫奏章曰。天下力彊矣。請搏四夷。於是府兵內剷邊兵。外作戎臣兵伍。湍奔矢往。內無一人矣。尾大中乾。成燕偏重。而天下掀然。根萌燼燃。七聖旰食。求欲除之。且不



能也。由此觀之。戎臣兵伍。豈可一日使出落鈴鍵哉。然為國者不能無兵。居外則叛。居內則篡。使外不叛。內不篡。古今以還。法術最長。其置府立衛乎。近代以來。於其將也。弊復為甚。率皆市兒輩。多齎金玉。負倚幽陰。折券交貨。所能致也。絕不識父兄禮義之教。復無慷慨感槩之氣。百城千里。一朝得之。其疆傑復勃者。則撓削法制。不使縛己。斬族忠良。不使違己。力一勢便。罔不為寇。其陰泥巧狡者。亦能家算口斂。委於邪倖。由卿市公。去郡得都。四履所治。指為別館。或一夫不幸而壽。則憂割生人。略市天下。是以天下兵亂不息。齊人乾耗靡不由是矣。嗚呼。文皇帝十六衛之旨。其誰原而復之乎。又作戰論。以為河北視天下。猶珠璣也。天下視河北。猶四支也。河北氣俗渾厚。果於戰耕。加以土息健馬。便於馳敵。是以出則勝處。則饒不窺天下之產。自可封殖。亦猶大農之家。不待珠璣。然後以為富也。國家無河北。則精甲銳卒。利刀良弓。健馬無有也。是一支兵去矣。河東。盟津。滑臺。大梁。彭城。東平。盡宿厚兵。以塞虜衝。不可他使。是二支兵去矣。六鎮之師。厥數三億。低首仰給。橫拱不為。則沿淮已北。循河之南。東盡海。西叩洛。赤地盡取。才能應費。是三支財去矣。咸陽西北。戎夷大屯。盡剽吳越荆楚之饒。以啖戍兵。是四支財去矣。天下四支盡解。頭腹兀然。其能以是久為安乎。今者誠能治其五敗。則一戰可定。四支可生。夫天下無事之時。殿寄大臣。儉安奉私。戰士離落。兵甲鈍弊。是不蒐練之過。其敗一也。百人荷戈。仰食縣官。則挾千夫之名。大將小裨。操其餘贏。以虜壯為幸。以師老為娛。是執兵者常少。糜食者常多。此不責實料食之過。其敗二也。戰小勝。則張皇其功。奔走獻狀。以邀上賞。或一日再賜。或一月累封。凱還未歌。書品已崇。爵命極矣。田宮廣矣。金繒溢矣。子孫官矣。焉肯搜奇出死。勤於我矣。此厚賞之過。其敗三也。多喪兵士。顯鬪大都。則跳身而來。刺邦而去。回視刀鏑。氣色甚安。一歲未更。旋已立於壇墀之上矣。此輕罰之過。其敗四也。大將兵柄。不得專恩。臣勅使。迭來揮之。堂然將陳。殷然將鼓。一則曰。必為偃

月。一則曰。必為魚麗。二軍萬夫。環旋翔羊。惺駭之間。虜驕乘之。遂取吾之鼓旗。此不專任責成之過。其敗五也。今者誠欲調持干戈。洒掃垢汙。而乃踵前非。是不可為也。又作守論。以為今之議皆曰。夫倔彊之徒。吾以良將勁兵。為衝策。高位美爵。充飽其腸。安而不撓。外而不拘。亦猶豢擾虎狼。而不拂其心。則忿氣不萌。此大曆貞元所以守邦也。亦何必疾戰。焚煎吾民。然後以為快也。愚曰。大曆貞元之間。適以此為禍也。當是之時。有城數十。千百卒夫。則朝廷別待之。貸以法度。於是闔視大言。自樹一家。破制削法。角為尊奢。天子養威而不問。有司守恬而不呵。王侯通爵。越錄受之。覲聘不來。几杖扶之。逆息虜胤。皇子嬪之。裝緣采飾。無不備之。是以地益廣。兵益彊。僭擬益甚。侈心益倡。於是土田名器。分割殆盡。而賊夫貪心。未及畔岸。遂有淫名越號。或帝或王。盟詛自立。恬淡不畏。走兵四略。以飽其志者也。是以趙魏燕齊。卓起大唱。梁蔡吳蜀。躡而和之。其餘混濁軒囂。欲相效者。往往而是。運遭孝武。宵旰不忘。前英後傑。夕思朝議。故能大者誅鋤。小者惠來。不然。周秦之郊。幾為犯獵哉。大抵生人。油然多欲。欲而不得。則怒。怒則爭亂隨之。是以教答於家。刑罰於國。征伐於天下。此所以裁其欲。而塞其爭也。大曆貞元之間。盡反此道。提區區之有。而塞無涯之爭。是以首尾指支。幾不能相運掉也。今者不知非此。而反用以為經。愚見為盜者。非止於河北而已。嗚呼。大曆貞元守邦之術。永戒之哉。又注孫子。為之序。以為兵者刑也。刑者政事也。為夫子之徒。實仲由冉有之事也。不知自何代何人。分為二道。曰文武。離而俱行。因使縉紳之士。不敢言兵。或恥言之。苟有言者。世以為粗暴異人。人不比數。嗚呼。亡失根本。斯最為甚。禮曰。四郊多壘。此卿大夫之辱也。歷觀自古樹立其國。滅亡其國。未始不由兵也。主兵者。必聖賢材能。多聞博識之士。乃能有功。議於廊廟之上。兵形已成。然後付之於將。漢祖言。指蹤者人也。獲兔者犬也。此其是也。彼為相者曰。兵非吾事。吾不當知。君子曰。勿居其位。可也。○前邠寧行軍司馬鄭注。依倚



王守澄權勢熾灼。上深惡之。九月丙寅。侍御史李欵。閤內奏彈注。注內通勅使。外連朝士。兩地往來。卜射財賄。晝伏夜動。干竊化權。人不敢言。道路以目。請付法司。旬日之間。章數十上。守澄匿注於右軍。左軍中尉韋元素。樞密使楊承和。王踐言。皆惡注。左軍將李弘楚。說元素曰。守澄注奸猾無雙。卵驚不除。使成羽翼。必為國患。今因御史所劾。匿軍中。弘楚請以中尉意。詐為有疾。召使治之。來則中尉延與坐。弘楚侍側。伺中尉舉目。擒出杖殺之。中尉因見上。叩頭請罪。具言其奸。楊王必助中尉進言。況中尉有翼戴之功。豈以除奸而獲罪乎。元素以為然。召之。注至。螻屈鼠伏。佞辭泉涌。元素不覺。執手款曲。諦聽忘倦。弘楚謂伺再三。元素不顧。以金帛厚遺注。而遣之。弘楚怒曰。中尉失今日之斷。必不免他日之禍矣。因解軍職去。頃之。疽發背卒。王涯之為相。注有力焉。且畏王守澄。遂寢李欵之奏。守澄言注於上。而釋之。尋奏為侍御史。充右神策判官。朝野駭歎。○甲寅。以前忠武節度使王智興為河中節度使。○羣臣以上即位八年。未受尊號。冬十二月甲午。上尊號曰太和文武仁聖皇帝。會有五坊中使薛季稜。自同華還。言閭閻彫弊。上歎曰。關中小稔。百姓尚爾。況江淮比年大水。其人如何。吾無術以救之。敢崇虛名乎。因以通天帶賞季稜。羣臣凡四上表。竟不受。○庚子。上始得風疾。不能言。於是王守澄薦昭義行軍司馬鄭注善醫。上徵注至京師。飲其藥。頗有驗。遂有寵。

資治通鑑卷第二百四十四

資治通鑑卷第二百四十五

唐紀六十一

文宗元聖昭獻孝皇帝中

太和八年春正月。上疾小瘳。丁巳。御太和殿。見近臣。然神識耗減。不能復故。○二月壬午朔。日有食之。○夏六月丙戌。莒王紆薨。○上以久旱。詔求致雨之方。司門員外郎李中敏上表。以為仍歲大旱。非聖德不至。直以宋申錫之冤濫。鄭注之姦邪。今致雨之方。莫若斬注而雪申錫。表留中。中敏謝病歸東都。○鄭王經薨。○初李仲言流象州。遇赦還東都。會留守李逢吉。思復入相。仲言自言與鄭注善。逢吉使仲言厚賂之。注引仲言見王守澄。守澄薦於上云。仲言善易。上召見之。時仲言有母服。難入禁中。乃使衣民服。號王山人。仲言儀狀秀偉。倜儻尚氣。頗工文辭。有口辨。多權數。上見之大悅。以為奇士。待遇日隆。仲言既除服。秋八月辛卯。上欲以仲言為諫官。竇之翰林。李德裕曰。仲言彘所為計。陛下必盡知之。豈宜竇之近侍。上曰。然。豈不容其改過。對曰。臣聞。惟顏回能不貳過。彼聖賢之過。但思慮不至。或失中道耳。至於仲言之惡。著於心本。安能悛改邪。上曰。李逢吉薦之。朕不欲食言。對曰。逢吉身為宰相。乃薦姦邪以誤國。亦罪人也。上曰。然則別除一官。對曰。亦不可。上顧王涯。涯對曰。可。德裕揮手止之。上回顧適見。色殊不懌。而罷。始涯聞上欲用仲言。草諫疏。極憤激。既而見上意堅。且畏其黨盛。遂中變。尋以仲言為四門助教。給事中鄭肅。韓偓。封還敕書。德裕將出中書。謂涯曰。且喜給事中封敕。涯即召肅。偓。謂曰。李公適留語。令二閣老不用封敕。二人即行下。明日以



自德裕德裕驚曰德裕不欲封還當面問何必使人傳言且有司封駁豈復稟宰相意邪二人悵悵而去九月辛亥徵昭義節度副使鄭注至京師王守澄李仲言鄭注皆惡李德裕以山南西道節度使李宗閔與德裕不相悅引宗閔以敵之壬戌詔徵宗閔於興元○冬十月辛巳幽州軍亂逐節度使楊志誠及監軍李懷件推兵馬使吏元忠主留務○庚寅以李宗閔為中書侍郎同平章事甲午以中書侍郎同平章事李德裕同平章事充山南西道節度使是日以李仲言為翰林侍講學士給事中高銖鄭肅韓偓諫議大夫郭承嘏中書舍人權璩等爭之不能得承嘏晞之孫璩德興之子也○乙巳貢院奏進士復試詩賦從之○李德裕見上自陳請留京師丙午以德裕為兵部尚書○楊志誠過太原李載義自毆擊欲殺之幕僚諫救得免殺其妻子及從行將卒朝廷以載義有功不問載義母兄葬幽州志誠發取其財載義奏乞取志誠心以祭母不許○十一月成德節度使王庭湊薨軍中奉其子都知兵馬使元逵知留後元逵改父所為事朝廷禮甚謹○史元忠獻楊志誠所造衰衣及諸僭物丁卯流志誠於嶺南道殺之○李宗閔言李德裕制命已行不宜自便乙亥復以德裕為鎮海節度使不復兼平章事時德裕宗閔各有朋黨互相擠援上患之每歎曰去河北賊易去朝廷朋黨難

臣光曰夫君子小人之不相容猶冰炭之不可同器而處也故君子得位則斥小人小人得勢則排君子此自然之理也然君子進賢退不肖其處心也公其指事也實小人譽其所好毀其所惡其處心也私其指事也誣公且實者謂之正直私且誣者謂之朋黨在人主所以辨之耳是以明主在上度德而叙位量能而授官有功者賞有罪者刑姦不能惑佞不能移夫如是則朋黨何自而生哉彼昏主則不然明不能燭強不能斷邪正並進毀譽交至取捨不在於己威福潛移於人於是讒慝得志而朋黨之議興矣夫木腐而蠹

生醜醜而蟻集故朝廷有朋黨則人主當自咎而不當以咎羣臣也文宗苟患羣臣之朋黨何不察其所毀譽者為實為誣所進退者為賢為不肖其心為公為私其人為君子為小人苟實也賢也公也君子也匪徒用其言又當進之誣也不肖也私也小人也匪徒棄其言又當刑之如是雖驅之使為朋黨孰敢哉釋是不為乃怨羣臣之難治是猶不種不芸而怨田之蕪也朝中之黨且不能去況河北賊乎

丙子李仲言請改名訓○幽州奏莫州軍亂刺史張元汎不知所在○十二月己卯以昭義節度副使鄭注為太僕卿郭承嘏累上疏言其不可上不聽於是注詐上表固辭上遣中使再以身賜之不受○癸未以史元忠為盧龍留後○初宋申錫與御史中丞宇文鼎受密詔誅鄭注使京兆尹王璠掩捕之璠密以堂帖示王守澄注由是得免深德璠璠又與李訓善於是訓注共薦之自浙西觀察使徵為尚書左丞

九年春正月乙卯以王元逵為成德節度使○巢公湊薨追贈齊王○鄭注上言秦地有災宜興役以禳之辛卯發左右神策千五百人浚曲江及昆明池○三月冀王絳薨○丙辰以史元忠為盧龍節度使○初李德裕為浙西觀察使漳王傅母杜仲陽坐宋申錫事放歸金陵詔德裕存處之會德裕已離浙西牒留後李蟾使如詔旨至是左丞王璠戶部侍郎李漢奏德裕厚賂仲陽陰結漳王圖為不軌上怒甚召宰相及璠漢鄭注等面質之璠漢等極口誣之路隋曰德裕不至有此果如所言臣亦應得罪言者稍息夏四月以德裕為賓客分司○癸巳以鄭注守太僕卿兼御史大夫注始受之仍舉倉部員外郎李欵自代曰加臣之罪雖於理而無辜在欵之誠乃事君而盡節時人皆哂之○丙申以門下侍郎同平章事路隋充鎮海節度使趣之赴鎮不得面辭坐救李德裕故也○初京兆尹河南賈鍊性褊躁輕率與李德裕有隙而善於李宗閔鄭注上已賜百官宴於曲江故事尹於外門下馬揖御史鍊



恃其貴勢乘馬直入殿中侍御史楊儉蘇特與之爭鍊罵曰黃面兒敢爾坐罰俸鍊恥之求出詔以為浙西觀察使尚未行戊戌以鍊為中書侍郎同平章事○庚子制以彘日上初得疾王涯呼李德裕奔問起居德裕竟不至又在西蜀徵遺懸錢三十萬緡百姓愁困貶德裕袁州長史○初宋申錫獲罪宦官益橫上外雖包容內不能堪李訓鄭注既得幸揣知上意訓因進講數以微言動上上見其才辯意訓可與謀大事且以訓注皆因王守澄以進冀宦宦不之疑遂密以誠告之訓注遂以誅宦官為己任二人相挾朝夕計議所言於上無不從聲勢烜赫注多在禁中或時休沐賓客填門賂遺山積外人但知訓注倚宦官擅作威福不知其與上有密謀也上之立也右領軍將軍興寧仇士良有功王守澄抑之由是有隙訓注為上謀進擢士良以分守澄之權五月乙丑以士良為左神策中尉守澄不悅○戊辰以左丞王璠為戶部尚書判度支○京城訛言鄭注為上合金丹須小兒心肝民間驚懼上聞而惡之鄭注素惡京兆尹楊虞卿與李訓共搆之云此語出於虞卿家人上怒六月下虞卿御史獄注求為兩省官中書侍郎同平章事李宗閔不許注毀之於上會宗閔救楊虞卿上怒叱出之壬寅貶明州刺史○左神策中尉韋元素樞密使楊承和王踐言居中用事與王守澄爭權不叶李訓鄭注因之出承和於西川元素於淮南踐言於河東皆為監軍○秋七月甲辰朔貶楊虞卿虔州司馬○庚戌作紫雲樓於曲江○辛亥以御史大夫李固言為門下侍郎同平章事李訓鄭注為上畫太平之策以為當先除宦官次復河湟次清河北開陳方略如指諸掌上以為信然寵任日隆初李宗閔為吏部侍郎因駙馬都尉沈璘結女學士宋若憲知樞密楊承和得為相及貶明州鄭注發其事壬子再貶處州長史著作郎舒元與李訓善訓用事召為右司郎中兼侍御史知雜勸楊虞卿獄癸丑擢為御史中丞元與元褒之兄也貶吏部侍郎李漢為汾州刺史刑部侍郎蕭澣為遂州刺史皆坐李宗閔之黨

是時李訓鄭注連逐三相威震天下於是平生絲髮怨無不報者○李訓奏僧尼很多耗蠹公私丁巳詔所在試僧尼誦經不中格者皆勒歸俗禁置寺及私度人○時人皆言鄭注朝夕且為相侍御史李甘揚言於朝曰白麻出我必壞之於庭癸亥貶甘封州司馬然李訓亦忌注不欲使為相事竟寢○甲子以國子博士李訓為兵部郎中知制誥依前侍講學士○貶左金吾大將軍沈羲為邵州刺史八月丙子又貶李宗閔潮州司戶賜宋若憲死○丁丑以太僕卿鄭注為工部尚書充翰林侍講學士注好服鹿裘以隱淪自處上以師友待之注之初得幸上嘗問翰林學士戶部侍郎李珣曰卿知有鄭注乎亦嘗與之言乎對曰臣豈特知其姓名兼深知其為人其人姦邪陛下寵之恐無益聖德臣忝在近密安敢與此人交通戊寅貶珣江州刺史再貶沈羲柳州司戶○丙申詔以楊承和庇護宋申錫韋元素王踐言與李宗閔李德裕中外連結受其賂遺承和可驩州安置元素可象州安置踐言可恩州安置令所在錮送楊虞卿李漢蕭澣為朋黨之首貶虞卿虔州司戶漢汾州司馬澣遂州司馬尋遣使追賜承和元素踐言死時崔潭峻已卒亦剖棺鞭尸己亥以前廬州刺史羅立言為司農少卿立言賊吏以賂結鄭注而得之鄭注之入翰林也中書舍人高元裕草制言以醫藥奉君親注銜之奏元裕嘗出郊送李宗閔壬寅貶元裕閩州刺史元裕士廉之六世孫也時注與李訓所惡朝士皆指目為二李之黨貶逐無虛日班列殆空廷中恟恟上亦知之訓注恐為人所搖九月癸卯朔勸上下詔應與德裕宗閔親舊及門生故吏今日以前貶黜之外餘皆不問人情稍安○鹽鐵使王涯奏改江淮嶺南茶法增其稅○庚申以鳳翔節度使李聽為忠武節度使代杜悰憲宗之崩也人皆言宦官陳弘志所為時弘志為山南東道監軍李訓為上謀召之至青泥驛癸亥封杖殺之○鄭注求為鳳翔節度使門下侍郎同平章事李固言不可丁卯以固言為山南西道節度使注為鳳翔節度使李訓雖因注得進及



執位俱盛。心頗忌注。謀欲中外協戮。以誅宦官。故出於鳳翔。其實俟既誅宦官。并圖注也。注欲取名家才望之士。為參佐。請禮部員外郎韋溫為副使。溫不可。或曰。拒之必為患。溫曰。擇禍莫若輕。拒之止於遠貶。從之有不測之禍。卒辭之。○戊辰。以右神策中尉行右衛上將軍知內侍省事王守澄為左右神策觀軍容使。兼十二衛統軍。李訓鄭注為上謀。以虛名尊守澄。實奪之權也。○己巳。以御史中丞兼刑部侍郎舒元興為刑部侍郎。兵部郎中知制誥充翰林侍講學士李訓為禮部侍郎。並同平章事。仍命訓。三二日。一入翰林講易。元興為中丞。凡訓注所惡者。則為之彈擊。由是得為相。又上懲李宗閔李德裕多朋黨。以賈餗及元興皆孤寒新進。故擢為相。庶其無黨耳。訓起流人。期年致位宰相。天子傾意任之。訓或在中書。或在翰林。天下事皆決於訓。王涯輩承順其風。指惟恐不逮。自中尉樞密禁衛諸將。見訓皆震懼。迎拜叩首。壬申。以刑部郎中兼御史知雜事李孝本。權知御史中丞。孝本宗室之子。依訓注得進。○李聽自恃勛舊。不禮於鄭注。注代聽鎮鳳翔。先遣牙將丹駿。至軍中慰勞。誣奏聽在鎮貪虐。冬十月乙亥。以聽為太子太保分司。復以杜悰為忠武節度使。鄭注每自負經濟之略。上問以富人之術。注無以對。乃請榷茶。於是王涯兼榷茶使。涯知不可。而不敢違。入甚苦之。○鄭注欲收僧尼之譽。固請罷沙汰。從之。○李訓鄭注密言于上。請除王守澄。辛巳。遣中使李好古就第賜酖。殺之。贈揚州大都督。訓注本因守澄進。卒謀而殺之。人皆快守澄之受佞。而疾訓注之陰狡。於是元和之逆黨略盡矣。乙酉。鄭注赴鎮。○庚子。以東都留守司徒兼侍中裴度兼中書令。餘如故。李訓所獎拔。率皆狂險之士。然亦時取天下重望。以順人心。如裴度令狐楚鄭覃。皆累朝耆俊。久為當路所軋。置之散地。訓皆引居崇秩。由是士大夫亦有望其真能致太平者。不惟天子惑之也。然識者見其橫甚。知將敗矣。○十一月丙午。以大理卿郭行餘為邢寧節度使。癸丑。以河東節度使同平章事李載義兼侍中。丁巳。以戶部尚

書判度支王璠為河東節度使。戊午。以京兆尹李石為戶部侍郎。判度支。以京兆少尹羅立言。權知府事。石神符之五世孫也。己未。以太府卿韓約為左金吾衛大將軍。始鄭注與李訓謀至鎮。選壯士數百。皆持白楮。懷其斧。以為親兵。是月戊辰。王守澄葬于滻水。注奏請入護葬事。因以親兵自隨。仍奏。令內中尉以下。盡集滻水。送葬。注因闔門。令親兵斧之。使無遺類。約既定。訓與其黨謀。如此事成。則注專有其功。不若使行餘。璠以赴鎮為名。多募壯士。為部曲。并用金吾臺府吏卒。先期誅宦者。已而并注去之。行餘。璠立言。約及中丞李孝本。皆訓素所厚也。故列置要地。獨與是數人及舒元興謀之。它人皆莫之知也。壬戌。上御紫宸殿。百官班定。韓約不報平安。奏稱。左金吾聽事後石榴。夜有甘露。臣遞門奏訖。因蹈舞再拜。宰相亦帥百官稱賀。訓元興勸上親往觀之。以承天貺。上許之。百官退班於含元殿。日加辰。上乘軟輿。出紫宸門。升含元殿。先命宰相及兩省官詣左仗視之。良久而還。訓奏。臣與眾人驗之。殆非真甘露。未可遽宣布。恐天下稱賀。上曰。豈有是邪。顧左右。中尉仇士良。魚志弘。帥諸宦者。往視之。宦者既去。訓遽召郭行餘。王璠曰。來受敕旨。璠股栗不敢前。獨行餘拜殿下。時二人部曲數百。皆執兵。立丹鳳門外。訓已先使人召之。令入受敕。獨東兵入。邢寧兵竟不至。仇士良等至。左仗視甘露。韓約變色流汗。士良怪之。曰。將軍何為如是。俄風吹暮起。見執兵者甚眾。又聞兵仗聲。士良等驚駭走出。門者欲閉之。士良叱之。關不得上。士良等奔詣上。告變。訓見之。遽呼金吾衛士曰。來上殿衛乘輿者。人賞錢百緡。宦者曰。事急矣。請陛下還宮。即舉軟輿迎上。扶升輿。決殿後眾。疾趨北出。訓攀輿呼曰。臣奏事未竟。陛下不可入宮。金吾兵已登殿。羅立言帥京兆邏卒三百餘。自東來。李孝本帥御史臺從人二百餘。自西來。皆登殿。縱擊宦官。流血呼冤。死傷者十餘人。乘輿迤邐入宣政門。訓攀輿呼益急。上叱之。宦者都志榮。奮拳殿其胷。偃於地。乘輿既入。門隨闔。宦者皆呼萬歲。百官駭愕散出。訓知事不濟。脫從



吏綠衫衣之。走馬而出。揚言於道曰。我何罪而竄謫。人不之疑。王涯賈餗舒元興還中書。相謂曰。上且開延英。召吾屬議之。兩省官詣宰相。請其故。皆曰。不知何事。諸公各自便。士良等知上豫其謀。怨憤出不遜語。上慙懼。不復言。士良等命左右神策副使劉泰倫。魏仲卿等。各帥禁兵五百人。露刃出閣門討賊。王涯等將會食。吏白有兵自內出。逢人輒殺。涯等狼狽。步走兩省。及金吾吏卒千餘人。填門爭出。門尋闔。其不得出者六百餘人。皆死。士良等分兵閉宮門。索諸司捕賊黨。諸司吏卒及民。酷販在中者。皆死。死者又千餘人。橫尸流血。狼藉塗地。諸司印及圖籍帷幕器皿俱盡。又遣騎各千餘。出城追亡者。又遣兵大索城中。舒元興易服。單騎出安化門。禁兵追擒之。王涯徒步。至永昌里茶肆。禁兵擒入左軍。涯時年七十餘。被以桎梏。掠治不勝苦。自誣服。稱與李訓謀行大逆。尊立鄭注。王璠歸長興里私第。閉門以其兵自防。神策將至門呼曰。王涯等謀反。欲起尙書爲相。魚護軍令致意。璠喜出見之。將趨賀。再三。璠知見給。涕泣而行。至左軍。見王涯曰。二十兄自反。胡爲見引。涯曰。五弟昔爲京兆尹。不漏言於王守澄。豈有今日邪。璠俛首不言。又收羅立言於太平里。及涯等親屬奴婢。皆入兩軍繫之。戶部員外郎李元臯。訓之再從弟也。訓實與之無恩。亦執而殺之。故嶺南節度使胡証。家鉅富。禁兵利其財。託以搜賈餗。入其家。執其子澂。殺之。又入左常侍羅讓。詹事渾。錢翰。林學士黎埴等家。掠其貲財。掃地無遺。鐵城之子也。坊市惡少年。因之報私仇。殺人。剽掠百貨。互相攻劫。塵埃蔽天。癸亥。百官入朝。日出。始開建福門。惟聽以從者一人自隨。禁兵露刃夾道。至宣政門。尙未開。時無宰相。御史知班。百官無復班列。上御紫宸殿。問宰相何爲不來。仇士良曰。王涯等謀反。繫獄。因以涯手狀呈上。召左僕射令狐楚。右僕射鄭覃等。升殿示之。上悲憤不自勝。謂楚等曰。是涯手書乎。對曰。是也。誠如此。罪不容誅。因命楚覃留宿中書。參決機務。使楚覃制宣告中外。楚叙王涯賈餗反事。浮汎。仇士良等不悅。由是不得爲相。時坊市

剽掠者猶未止。命左右神策將楊鎮。靳遂良等。各將五百人。分屯通衢。擊鼓以警之。斬十餘人。然後定。賈餗變服。潛民間。經宿。自知無所逃。素服乘驢詣興安門。自言。我宰相賈餗也。爲奸人所污。可送我詣兩軍。門者執送西軍。李孝本改衣綠。猶服金帶。以帽障面。單騎奔鳳翔。至咸陽西。追擒之。甲子。以右僕射鄭覃同平章事。李訓素與終南僧宗密善。往投之。宗密欲剃其髮而匿之。其徒不可。訓出山。將奔鳳翔。爲盤崖鎮。遇使宋楚所擒。械送京師。至昆明池。訓恐至軍中。更受酷辱。謂送者曰。得我則富貴矣。聞禁兵所在。搜捕。汝必爲所奪。不若取我首送之。送者從之。斬其首以來。乙丑。以戶部侍郎判度支李石同平章事。仍判度支。前河東節度使李載義復舊任。左神策出兵三百人。以李訓首引王涯。王璠。羅立言。郭行餘。右神策出兵三百人。擁賈餗。舒元興。李孝本。獻于廟社。狗于兩市。命百官臨視。晉斬于獨柳之下。梟其首於興安門外。親屬無問。親疎皆死。孩穉無遺。妻女不死者。沒爲官婢。百姓觀者。怨王涯。權茶。或詬詈。或投瓦礫擊之。

臣光曰。論者皆謂涯餗有文學名聲。初不知訓注之謀。橫罹覆族之禍。臣獨以爲不然。夫顛危不扶。焉用彼相。涯餗安高位。飽重祿。訓注小人。窮姦究險。力取將相。涯餗與之比肩。不以爲恥。國家危殆。不以爲憂。偷合苟容。日復一日。自謂得保身之良策。莫我如也。若使人人如此。而無禍。則奸臣孰不願之哉。一旦禍生不虞。足折刑劓。蓋天誅之也。士良安能族之哉。

王涯有再從弟沐。家於江南。老且貧。聞涯爲相。跨驢詣之。欲求一簿尉。留長安二歲餘。始得一見。涯待之殊落莫。久之。沐因嬖奴。以道所欲。涯許以微官。自是旦夕造涯之門。以俟命。及涯家被收。沐適在其第。與涯俱晉斬。舒元興有族子守謙。愿而敏。元興愛之。從元興者十年。一旦忽以非罪怒之。日加譴責。奴婢輩亦薄之。守謙不自安。求歸江南。元興亦不留。守謙悲



歎而去。夕至昭應。聞元輿收族守謙獨免。是日以令狐楚為鹽鐵轉運使。左散騎常侍張仲方。權知京兆尹。時數日之間。殺生除拜。皆決於兩中尉。上不豫。知初王守澄惡宦者田全操。劉行深。周元稹。薛士幹。似先義逸。劉英。訓等。李訓。鄭注。因之遣分詣鹽州。靈武。涇原。夏州。振武。鳳翔。巡邊。命翰林學士顧師邕為詔書。賜六道使殺之。會訓敗。六道得詔。皆廢不行。丙寅。以師邕為矯詔。下御史獄。先是。鄭注將親兵五百。已發鳳翔。至扶風。扶風令韓遠知其謀。不供具。搆印及吏卒奔武功。注知訓已敗。復還鳳翔。仇士良等使人齎密敕授鳳翔監軍張仲清。令取注。仲清惶惑。不知所為。押牙李叔和說仲清曰。叔和為公。以好召注。屏其從兵。於坐取之。事立定矣。仲清從之。伏甲以待。注恃其兵衛。遂詣仲清。叔和稍引其從兵。享之於外。注獨與數人入。既啜茶。叔和抽刀斬注。因閉外門。悉誅其親兵。乃出密敕。宣示將士。遂滅注家。并殺副使錢可復。節度判官盧簡能。觀察判官蕭傑。掌書記盧弘茂等。及其枝黨死者千餘人。可復。徽之子。簡能。綸之子。傑。俛之弟也。朝廷未知注死。丁卯。詔削奪注官爵。令鄰道按兵觀變。以左神策大將軍陳君奕為鳳翔節度使。戊辰夜。張仲清遣李叔和等。以注首入獻。梟於興安門。人情稍安。京師諸軍。始各還營。詔將士討賊有功。及妮隊者。官爵賜賚。各有差。右神策軍獲韓約於崇義坊。已已。斬之。仇士良等。各進階遷。官有差。自是。天下事。皆決於北司。宰相行文書而已。宦官益盛。迫脅天子。下視宰相。陵暴朝士。如草芥。每延英議事。士良等動引訓注。折宰相。鄭覃。李石曰。訓注誠為亂首。但不知訓注始因何人得進。宦者稍屈。搢紳賴之。時中書惟有空垣破屋。百物皆闕。江西湖南。獻衣糧百二十。分充宰相。召募從人。辛未。李石上言。宰相若忠正無邪。神靈所祐。縱遇盜賊。亦不能傷。若內懷奸罔。雖兵衛甚設。鬼得而誅之。臣願竭赤心。以報國。止循故事。以金吾卒導從。足矣。其兩道所獻衣糧。竝乞停寢。從之。十二月。壬申朔。顧師邕流儋州。至南山賜死。○榷茶使令狐楚奏罷榷茶。從之。○度支

奏。籍鄭注家貲。得絹百餘萬匹。它物稱是。庚辰。上問宰相坊市安未。李石對曰。漸安。然此日寒冽特甚。蓋刑殺太過所致。鄭覃曰。罪人周親。前已皆死。其餘殆不足問。時宦官深怨李訓等。凡與之有瓜葛親或。甄蒙獎引者。誅貶不已。故二相言之。李訓。鄭注既誅。召六道巡邊使田全操。追忿訓注之謀。在道揚言。我入城。凡儒服者。無貴賤。當盡殺之。癸未。全操等乘驛疾驅。入金光門。京城訛言。有寇至。士民驚譟。縱橫走。塵埃四起。兩省諸司官聞之。皆奔散。有不。及束帶。轆而乘馬者。鄭覃。李石在中書。顧吏卒稍稍逃去。覃謂石曰。耳目頗異。宜且出避之。石曰。宰相位尊。望重。人心所屬。不可輕也。今事虛實。未可知。堅坐鎮之。庶幾可定。若宰相亦走。則中外亂矣。且果有禍亂。避亦不免。覃然之。石坐視文案。沛然自若。敕使相繼傳呼。閉皇城諸司門。左金吾大將軍陳君賞。帥其衆。立望仙門下。謂敕使曰。賊至閉門。未晚。請徐觀其變。不宜示弱。至晡後。乃定。是日。坊市惡少年。皆衣緋皂。持弓刀。北望見皇城門。閉即欲剽掠。非石與君賞鎮之。京城幾再亂矣。時兩省官應入直者。皆與其家人辭訣。○甲申。敕罷修曲江亭館。○丁亥。詔逆人親黨。自非前已就戮。及指名收捕者。餘一切不問。諸司官雖為所脅。從。涉於誣誤。皆赦之。它人無得相告言。及相恐。見亡匿者。勿復追捕。三日內。各聽自歸。本司。時禁軍暴橫。京兆尹張仲方。不敢詰。宰相以其不勝任。出為華州刺史。以司農卿薛元賞代之。元賞嘗詣李石第。聞石方坐聽事。與一人爭辯甚喧。元賞使覘之。云有神策軍將訴事。元賞趨入。責石曰。相公輔佐天子。紀綱四海。今近不能制一軍將。使無禮如此。何以鎮服四夷。即趨出。上馬。命左右擒軍將。俟於下馬橋。元賞至。則已解衣跽之矣。其黨訴于仇士良。遣宦者召之曰。中尉屈大尹。元賞曰。屬有公事。行當繼至。遂杖殺之。乃白服見士良。士良曰。癡書生何敢杖殺禁軍大將。元賞曰。中尉大臣也。宰相亦大臣也。宰相之人。若無禮於中尉。如之何。中尉之人。無禮於宰相。庸可恕乎。中尉與國同體。當為國惜法。元賞已囚服而來。惟中



尉死生之士良知軍將已死無可如何乃呼酒與元賞歡飲而罷初武元衡之死詔出內庫  
 弓矢陌刀給金吾仗使衛從宰相至建福門而退至是悉罷之  
 開成元年春正月辛丑朔上御宣政殿赦天下改元仇士良請以神策仗衛殿門諫議大夫  
 馮定言其不可乃止定宿之弟也○二月癸未上與宰相語患四方表奏華而不典李石對  
 曰古人因事爲文今人以文害事○昭義節度使劉從諫上表請王涯等罪名且言涯等儒  
 生荷國榮寵咸欲保身全族安肯構逆訓等實欲討除內臣兩中尉自爲救死之謀遂致相  
 殺誣以反逆誠恐非辜設若宰相實有異圖當委之有司正其刑典豈有內臣擅領甲兵恣  
 行剽劫延及士庶橫被殺傷流血千門僵尸萬計搜羅枝蔓中外恫疑臣欲身詣闕庭面陳  
 臧否恐并陷拏戮事亦無成謹當修飾封疆訓練士卒內爲陛下心腹外爲陛下藩垣如姦  
 臣難制誓以死清君側丙申加從諫檢校司徒○天德軍奏吐谷渾三千帳詣豐州降○三  
 月壬寅以袁州長史李德裕爲滁州刺史○左僕射令狐楚從容奏王涯等既伏辜其家夷  
 滅遺骸棄捐請官爲收瘞以順陽和之氣上慘然久之命京兆收葬涯等十一人於城西各  
 賜衣一襲仇士良潛使人發之棄骨於渭水○丁未皇城留守敦敏奏諸司儀仗有鋒刃者  
 請皆輸軍器使遇立仗別給儀刀從之○劉從諫復遣牙將焦楚長上表讓官稱臣之所陳  
 繫國大體可聽則涯等宜蒙湔洗不可聽則賞典不宜妄加安有死冤不申而生者荷祿因  
 暴揚仇士良等罪惡辛酉上召見楚長慰諭遣之時士良等恚橫朝臣日憂破家及從諫表  
 至士良等憚之由是鄭覃李石粗能秉政天子倚之亦差以自彊○夏四月己卯以潮州司  
 戶李宗閔爲衡州司馬凡李訓指爲李德裕宗閔黨者稍收復之○淄王協薨○甲午以山  
 南西道節度使李固言爲門下侍郎同平章事以左僕射令狐楚代之○戊戌上與宰相從  
 容論詩之工拙鄭覃曰詩之工者無若二百篇皆國人作之以刺美時政王者采之以觀風

俗耳不聞王者爲詩也後代辭人之詩華而不實無補於事陳後主隋煬帝皆工於詩不免  
 亡國陛下何取焉覃篤於經術上甚重之○己酉上御紫宸殿宰相因奏事拜謝外間因訛  
 言天子欲令宰相掌禁兵已拜恩矣由是中外復有猜阻人情恟恟士民不敢解衣寢者數  
 日乙丑李石奏請召仇士良等面釋其疑上爲召士良等出上及石等共論釋之使毋疑懼  
 然後事解○閏月乙酉以太子太保分司李聽爲河中節度使上嘗歎曰付之兵不疑置之  
 散地不怨惟聽爲可以然○乙未李固言薦崔球爲起居舍人鄭覃再三以爲不可上曰公  
 事勿相違覃曰若宰相盡同則事必有欺陛下者矣○李孝本二女配沒右軍上取之入宮  
 秋七月右拾遺魏謩上疏以爲陛下不遜聲色屢出宮女以配鰥夫竊聞數月以來教坊選  
 試以百數莊宅收市猶未已又召李孝本女入宮不避宗姓大興物論臣竊惜之昔漢光武  
 一顧列女屏風宋弘猶正色抗言光武即撤之陛下豈可不思宋弘之言欲居光武之下乎  
 上即出孝本女擢謩爲補闕曰朕選市女子以賜諸王耳憐孝本女髮亂孤露故收養宮中  
 謩於疑似之間皆能盡言可謂愛我不忝厥祖矣命中書優爲制辭以賞之謩徵之五世孫  
 也○鄜坊節度使蕭洪詐稱太后弟事覺八月甲辰流驩州於道賜死趙縝呂璋等皆流嶺  
 南初李訓知洪之詐洪懼辟訓兄仲京置幕府先是自神策軍出爲節度使者軍中皆資其  
 行裝至鎮三倍償之有自左軍出鎮鄜坊未償而死者軍中徵之於洪洪恃訓之勢不與又  
 徵於死者之子洪教其子遮宰相自言訓判絕之仇士良由是恨洪太后有異母弟在閩中  
 孱弱不能自達有閩人蕭本從之得其內外族諱因士良進達於上且發洪之詐洪由是得  
 罪上以本爲真太后弟戊申擢爲右贊善大夫九月丁丑李石爲上言宋申錫忠直爲讒人  
 所誣竄死遐荒未蒙昭雪上俛首久之既而流涕泫然曰茲事朕久知其誤奸人逼我以社  
 稷大計兄弟幾不能保況申錫僅全腰領耳非獨內臣外廷亦有助之者皆由朕之不明竊



使遇漢昭帝。必無此冤矣。鄭覃、李固言亦共言其冤。上深痛恨。有慙色。庚辰。詔悉復申錫官爵。以其子慎微為成固尉。○李石用金部員外郎韓益判度支。按益坐贓三千餘緡。繫獄。石曰。臣始以益頗曉錢穀。故用之。不知其貪。乃如是。上曰。宰相但知人則用。有過則懲。如此。則人易得。卿所用。不掩其惡。可謂至公。從前宰相用人。好曲蔽其過。不欲人彈劾。此大病也。冬十一月丁巳。貶益梧州司戶。○上自甘露之變。意忽忽不樂。兩軍毬鞠之會。什減六七。雖宴享。音伎雜。選盈庭。未嘗解顏。閒居或徘徊眺望。或獨語歎息。壬午。上於延英。謂宰相曰。朕每與卿等論天下事。則不免愁。對曰。為理者不可以速成。上曰。朕每讀書。恥為凡主。李石曰。方今內外之臣。其間小人。尚多疑阻。願陛下更以寬御之。彼有公清奉法。如劉弘逸、薛季稜者。陛下亦宜褒賞。以勸為善。甲申。上復謂宰相曰。我與卿等論天下事。有勢未得行者。退但飲醇酒。求醉耳。對曰。此皆臣等之罪也。○有司以左藏積弊日久。請行檢勘。且言。官典罪在赦前者。請宥之。上許之。既而果得緡帛。妄稱漬污者。赦之。給事中狄兼謩封還。敕書曰。官典犯贓。理不可赦。上諭之曰。有司請檢之初。朕既許之矣。與其失信。寧失罪人。卿能奉職。朕甚嘉之。○十二月庚戌。以華州刺史盧鈞為嶺南節度使。李石言於上曰。盧鈞除嶺南。朝士皆相賀。以為嶺南富饒之地。近歲皆厚賂北司而得之。今北司不撓朝權。陛下亦宜有以褒之。庶幾內外奉法。此致理之本也。上從之。鈞至鎮。以清惠著名。○己未。淑王縱薨。二年春二月己未。上謂宰相。薦人勿問親疎。朕聞寶易直為相。未嘗用親故。若親故果才。避嫌而棄之。是亦不為至公也。○均王緯薨。○三月有彗星出於張。長八丈餘。壬申。詔撤樂減膳。以一日之膳。分充十日。○夏四月甲辰。上對中書舍人翰林學士兼侍書柳公權於便殿。上舉衫袖示之曰。此衣已三澣矣。衆皆美上之儉德。公權獨無言。上問其故。對曰。陛下貴為天子。富有四海。當進賢退不肖。納諫諍。明賞罰。乃可以致雍熙。服澣濯之衣。乃未節耳。上曰。

朕知舍人不應復為諫議。以卿有諍臣風采。須屈卿為之。乙巳。以公權為諫議大夫。餘如故。○戊戌。以翰林學士工部侍郎陳夷行同平章事。○六月。河陽軍亂。節度使李泳奔懷州。軍士焚府署。殺泳二子。大掠數日方止。泳長安市人。寓籍禁軍。以賂得方鎮。所至恃所交結。貪殘不法。其下不堪命。故作亂。丁未。貶泳澧州長史。戊申。以左金吾將軍李執方為河陽節度使。○秋七月癸亥。振武奏。黨項三百餘帳。剽掠逃去。○給事中韋溫為太子侍讀。晨詣東宮。日中乃得見。溫諫曰。太子當鷄鳴而起。問安視膳。不宜專事晏安。太子不能用其言。溫乃辭侍讀。辛未。罷守本官。○振武突厥百五十帳叛。剽掠營田。戊寅。節度使劉沔擊破之。○八月庚戌。以昭儀王氏為德妃。昭容楊氏為賢妃。立敬宗之子休復為梁王。執中為襄王。言揚為杞王。成美為陳王。癸丑。立皇子宗儉為蔣王。○河陽軍士既逐李泳。日相扇欲為亂。九月。李執方索得首亂者七十餘人。悉斬之。餘黨分隸外鎮。然後定。○冬十月癸卯。國子監石經成。○福建奏。晉江百姓蕭弘。稱太后族人。詔御史臺按之。○戊申。以門下侍郎同平章事李固言同平章事。充西川節度使。○甲寅。御史臺奏。蕭弘詐妄。詔遞歸鄉里。不之罪。冀得其真。

資治通鑑卷第二百四十五

唐紀 文宗元聖昭獻孝皇帝中開成二年



# 資治通鑑卷第二百四十六

## 唐紀六十一

### 文宗元聖昭獻孝皇帝下

開成三年春正月甲子李石入朝中塗有盜射之微傷左右奔散石馬驚馳歸第又有盜邀擊於坊門斷其馬尾僅而得免上聞之大驚命神策六軍遣兵防衛敕中外捕盜甚急竟無所獲乙丑百官入朝者九人而已京城數日方安○丁卯追贈故齊王湊為懷懿太子○戊辰以鹽鐵轉運使戶部尚書楊嗣復戶部侍郎李珣並同平章事判使如故嗣復於陵之子也○中書侍郎同平章事李石承甘露之亂人情危懼宦官恣橫忘身殉國故紀綱粗立仇士良深惡之潛遣盜殺之不果石懼累表稱疾辭位上深知其故而無如之何丙子以石同平章事充荆南節度使○陳夷行性介直惡楊嗣復為人每議政事多相詆斥壬辰夷行以足疾辭位不許○上命起居舍人魏謩獻其祖文貞公笏鄭覃曰在人不在笏上曰亦甘棠之比也○楊嗣復欲援進李宗閔恐為鄭覃所沮乃先令宦官諷上上臨朝謂宰相曰宗閔積年在外宜與一官鄭覃曰陛下若憐宗閔之遠止可移近北數百里不宜再用之臣請先避位陳夷行曰宗閔曩以朋黨亂政陛下何愛此織人楊嗣復曰事貴得中不可但狗愛憎上曰可與一州覃曰與州太優止可洪州司馬耳因與嗣復互相詆訐以為黨上曰與一州無傷覃等退上謂起居郎周敬復舍人魏謩曰宰相諍爭如此可乎對曰誠為不可然覃等盡忠憤激不自覺耳丁酉以衡州司馬李宗閔為杭州刺史李固言與楊嗣復李

珣善故引居大政以排鄭覃陳夷行每議政之際是非鋒起上不能決也○三月群柯寇涪州清溪鎮鎮兵擊却之○初太和之末杜悰為鳳翔節度使有詔沙汰僧尼時有五色雲見於岐山近法門寺民間訛言佛骨降祥以僧尼不安之故監軍欲奏之悰曰雲物變色何常之有佛若果愛僧尼當見于京師未幾獲白兔監軍又欲奏之曰此西方之瑞也悰曰野獸未馴且宜畜之旬日而斃監軍不悅以為掩蔽聖德獨畫圖獻之及鄭注代悰鎮鳳翔奏紫雲見又獻白雉是歲八月有甘露降於紫宸殿前櫻桃之上上親采而嘗之百官稱賀其十一月遂有金吾甘露之變及悰為工部尚書判度支河中奏騶虞見百官稱賀上謂悰曰李訓鄭注皆因瑞以售其亂乃知瑞物非國之慶卿前在鳳翔不奏白兔真先覺也對曰昔河出圖伏羲以畫八卦洛出書大禹以敘九疇皆有益於人故足尚也至於禽獸草木之瑞豈在時無之劉聰桀逆黃龍三見石季龍暴虐得蒼麟十六白鹿七以駕芝蓋以是觀之瑞豈在德玄宗嘗為潞州別駕及即位潞州奏十九瑞玄宗曰朕在潞州惟知勤職業此等瑞物皆不知也願陛下專以百姓富安為國慶自餘不足取也上善之他日謂宰相曰時和年豐是為上瑞嘉禾靈芝誠何益於事宰相因言春秋記災異以儆人君而不書祥瑞用此故也夏五月乙亥詔諸道有瑞皆無得以聞亦勿申牒所司其臘饗太廟及饗太清宮元日受朝奏祥瑞皆停○初靈武節度使王晏平自盜賊七千餘緡上以其父智興有功免死長流康州晏平密請於魏鎮幽三節度使使上表雪己上不得已六月壬寅改永州司戶○八月己亥嘉王運薨○太子永之母王德妃無寵為楊賢妃所譖而死太子頗好遊宴昵近小人賢妃日夜毀之九月壬戌上開延英召宰相及兩省御史郎官疏太子過惡議廢之曰是宜為天子乎羣臣皆言太子年少容有改過國本至重豈可輕動御史中丞狄兼謩論之尤切至於涕泣給事中韋溫曰陛下惟一子不教陷之至是豈獨太子之過乎癸亥翰林學士六人神



策六軍軍使十六人。復上表論之。上意稍解。是夕。太子始得歸少陽院。如京使王少華等。及宦官宮人。坐流死者數十人。○義武節度使張璠。在鎮十五年。為幽鎮所憚。及有疾。請入朝。朝廷未及制置。疾甚。戒其子元益。舉族歸朝。毋得效河北故事。及薨。軍中欲立元益。觀察留後李士季不可。衆殺之。又殺大將十餘人。壬申。以易州刺史李仲遷為義武節度使。義武馬軍都虞候何清朝。自拔歸朝。癸酉。以為儀州刺史。○朝廷以義昌節度使李彥佐在鎮久。甲戌。以德州刺史劉約為節度副使。欲以代之。○開成以來。神策將吏。遷官多不聞奏。直牒中書。令覆奏施行。遷改殆無虛日。癸未。始詔神策將吏改官。皆先奏聞。狀至中書。然後檢勘施行。○冬。十月。易定監軍奏。軍中不納李中遷。請以張元益為留後。○太子永猶不悛。庚子。暴薨。諡曰莊恪。○乙巳。以左金吾大將軍郭昉為邠寧節度使。○宰相議發兵討易定。上曰。易定地狹人貧。軍資半仰度支。急之則靡。所不為。緩之則自生變。但謹備四境。以俟之。乃除張元益代州刺史。頃之。軍中果有異議。乃上表。以不便。李仲遷為辭。朝廷為之罷仲遷。十一月。詔。俟元益出定州。其義武將士始謀立元益者。皆赦不問。○以義昌節度使李彥佐為天平節度使。以劉約為義昌節度使。○丁卯。張元益出定州。○庚午。上問翰林學士柳公權以外議對曰。郭昉除邠寧。外間頗以為疑。上曰。昉。尚父之姪。太后叔父。在官無過。自金吾作小鎮。外間何尤焉。對曰。非謂昉不應為節度使也。聞陛下近取昉二女入宮。有之乎。上曰。然。入參。太皇太后耳。公權曰。外間不知。皆云昉納女後宮。故得方鎮。上。俛首良久曰。然則奈何。對曰。獨有自南內遣歸其家。則外議自息矣。是日。太皇太后遣中使送二女還家。○上好詩。嘗欲置詩學士。李珣曰。今之詩人。浮薄無益。于理乃止。○甲戌。以蔡州刺史韓威為義武節度使。○河東節度使司徒中書令裴度。以疾求歸。東都十二月辛丑。詔度入知政事。遣中使敦諭上道。○鄭覃累表辭位。丙午。詔三五日一入中書。○是歲。吐蕃彝泰贊普卒。弟達磨立。

彝泰多病。委政大臣。由是僅能自守。久不為邊患。達磨荒淫殘虐。國人不服。災異相繼。吐蕃益衰。

四年春。閏正月己亥。裴度至京師。以疾歸。第不能入見。上勞問賜養。使者旁午。三月丙戌。薨。諡曰文忠。上怪度無遺表。問其家得半藁。以備嗣未定為憂。言不及私。度身貌不踰中人。而威望遠達。四夷見唐使。輒問度老少。用捨。以身繫國家輕重。如郭子儀者二十餘年。○夏四月戊辰。上稱判度支杜棕之才。楊嗣復李珣因請除棕。戶部尚書陳夷行曰。恩旨當由上出。自古失其國。未始不由權在臣下也。珣曰。陛下嘗語臣云。人主當擇宰相。不當疑宰相。五月丁亥。上與宰相論政事。陳夷行復言。不宜使威福在下。李珣曰。夷行意疑宰相中有弄陛下威權者耳。臣屢求退。苟得王傅。臣之幸也。鄭覃曰。陛下開成元年二年。政事殊美。三年四年。漸不如前。楊嗣復曰。元年二年。鄭覃夷行用事。三年四年。臣與李珣同之。罪皆在臣。因叩頭曰。臣不敢更入中書。遂趨出。上遣使召還。勞之曰。鄭覃失言。卿何遽爾。覃起謝曰。臣愚拙。意亦不屬嗣復。而遽如是。乃嗣復不容臣耳。嗣復曰。覃言政事一年不如一年。非獨臣應得罪。亦上累聖德。退三上表辭位。上遣中使召出之。癸巳。始入朝。丙申。門下侍郎同平章事鄭覃罷為右僕射。陳夷行罷為吏部侍郎。覃性清儉。夷行亦耿介。故嗣復等深疾之。○上以鹽鐵推官檢校禮部員外郎姚勗。能鞠疑獄。命權知職。方員外郎右丞韋溫不聽。上奏稱。郎官朝廷清選。不宜以賞能吏。上乃以勗檢校禮部郎中。依前鹽鐵推官。六月丁丑。上以其事問宰相。楊嗣復對曰。溫志在澄清流品。若有更能者。皆不得清流。則天下之事。孰為陛下理之。恐似衰替之風。然上素重溫。終不奪其所守。○秋七月癸未。以張元益為左驍衛將軍。以其母侯莫陳氏為趙國太夫人。賜絹二百匹。易定之亂。侯莫陳氏說諭將士。且戒元益以順朝命。故賞之。○甲辰。以太常卿崔郾同中書門下平章事。郾之弟也。○八月辛亥。郾王憬



薨。○癸酉，昭義節度使劉從諫上言：蕭本詐稱太后弟，上下皆稱蕭弘，是真以本來自左軍，故弘為臺司所抑。今弘詣臣，求臣上聞，乞追弘赴闕，與本對推，以正真偽。詔三司鞠之。○冬十月乙卯，上就起居舍人魏謩取《注觀》之書，不可曰：《注觀》善惡，所以儆戒人君。陛下但力為善，不必觀史。上曰：朕曩嘗觀之。對曰：此曩日史官之罪也。若陛下自觀史，則史官必有所諱避，何以取信於後？上乃止。○楊妃請立皇弟安王溶為嗣，上謀於宰相李珣，非之。丙寅，立敬宗少子陳王成美為皇太子。丁卯，上幸會寧殿，作樂，有童子緣橦，一夫來往，走其下如狂。上怪之，左右曰：其父也。上泫然流涕曰：朕貴為天子，不能全一子，召教坊劉楚材等四人，宮人張十等十人，責之曰：搆害太子，皆爾曹也。今更立太子，復欲爾邪？執以付吏，已已，皆殺之。上因是感傷，舊疾遂增。○十一月，三司按蕭本、蕭弘，皆非真太后弟，本除名流愛州，弘流儋州。而太后真弟在閩中，終不能自達。○乙亥，上疾少間，坐思政殿，召當直學士周墀，賜之酒。因問曰：朕可方前代何主？對曰：陛下堯舜之主也。上曰：朕豈敢比堯舜？所以問卿者，何如周赧、漢獻耳。墀驚曰：彼亡國之主，豈可比聖德？上曰：赧獻受制于彊諸侯，今朕受制于家奴，以此言之，朕殆不如。因泣下霑襟，墀伏地流涕。自是不復視朝。○是歲，天下戶口四十九萬九千七百五十二。○回鶻相安允合，特勒柴革，謀作亂，彰信可汗殺之，相掘羅勿將兵在外，以馬三百賂沙陁朱邪赤心，借其兵，共攻可汗。可汗兵敗自殺，國人立監馱特勒為可汗。會歲疫，大雪，羊馬多死。回鶻遂衰，赤心執宜之子也。

五年春正月己卯，詔立穎王漙為皇太弟，應軍國事，權令句當。且言：太子成美年尚冲幼，未漸師資，可復封陳王。時上疾甚，命知樞密劉弘逸、薛季稜引楊嗣復、李珣至禁中，欲奉太子監國。中尉仇士良、漁弘志以太子之功不在己，乃言：太子幼且有疾，更議所立。李珣曰：太子位已定，豈得中變？士良、弘志遂矯詔立漙為太弟。是日，士良、弘志將兵詣十六宅，迎穎王。

至少陽院，百官謁見於思賢殿，漙沈毅有斷，喜愠不形於色，與安王溶皆素為上所厚，異於諸王。辛巳，上崩於太和殿，以楊嗣復攝冢宰。癸未，仇士良說太弟賜楊賢妃、安王溶、陳王成美死，敕大行以十四日殯，成服。諫議大夫裴夷直上言：期日太遠，不聽。時仇士良等追怨文宗，凡樂工及內侍得幸於文宗者，誅貶相繼。夷直復上言：陛下自藩維繼統，是宜儼然在疚，以哀慕為心，速行喪禮，早議大政，以慰天下。而未及數日，屢誅戮先帝近臣，驚率士之視聽，傷先帝之神靈，人情何瞻？國體至重，若使此輩無罪，固不可刑。若其有罪，彼已在天網之內，無所逃伏。旬日之外，行之何晚？不聽。辛卯，文宗始大斂。武宗即位，甲午，追尊上母韋妃為皇太后。○二月乙卯，赦天下。○丙寅，諡韋太后曰宣懿。○夏五月己卯，門下侍郎同平章事楊嗣復罷為吏部尚書，以刑部尚書崔珙同平章事，兼鹽鐵轉運使。○秋八月壬戌，葬元聖昭獻孝皇帝於章陵，廟號文宗。○庚午，門下侍郎同平章事李珣坐為山陵使，龍輻陷，罷為太常卿，貶京兆尹敬所為郴州司馬。○義武軍亂，逐節度使陳君賞，君賞募勇士數百人，復入軍城誅亂者。○初上之立，非宰相意，故楊嗣復、李珣相繼罷去。召淮南節度使李德裕入朝。九月甲戌朔，至京師。丁丑，以德裕為門下侍郎同平章事。庚辰，德裕入謝，言於上曰：致理之要在子辯羣臣之邪正，夫邪正二者，勢不相容。正人指邪人為邪，邪人亦指正人為邪。人主辯之甚難，臣以為正人如松柏，特立不倚，邪人如藤蘿，非附他物不能自起。故正人一心事君，而邪人競為朋黨。先帝深知朋黨之患，然所用卒皆朋黨之人，良由執心不定，故姦人得乘間而入也。夫宰相不能人人忠良，或為欺罔，主心始疑。於是旁詢小臣，以察執政，如德宗末年所聽任者，惟裴延齡輩，宰相署敕而已。此政事所以日亂也。陛下誠能慎擇賢才，以為宰相，有姦罔者，立黜去，常令政事皆出中書，推心委任，堅定不移，則天下何憂不理哉？又曰：先帝於大臣好為形迹，小過皆含容不言，日累月積，以至禍敗。茲事大誤，願陛下以為戒。臣



等有罪。陛下當面詰之。事苟無實。得以辯明。若其有實。辭理自窮。小過則容。其倭改。大罪則加之誅譴。如此。君臣之際。無疑間矣。上嘉納之。初。德裕在淮南。敕召監軍楊欽義。人皆言必知樞密。德裕待之無加禮。欽義心銜之。一旦獨延欽義置酒中堂。情禮極厚。陳珍玩數牀。罷酒。皆以贈之。欽義大喜。過望。行至汴州。敕復還淮南。欽義盡以所餉歸之。德裕曰。此何直。卒以與之。其後。欽義竟知樞密。德裕柄用。欽義頗有力焉。○初。伊吾之西。焉耆之北。有黠戛斯部落。即古之堅昆。唐初結骨也。後更號黠戛斯。乾元中。為回鶻所破。自是隔閡。不通中國。其君長曰阿熱。建牙青山。去回鶻牙。橐駝行四十日。其人悍勇。吐蕃回鶻常賂遺之。假以官號。回鶻既衰。阿熱始自稱可汗。回鶻遣相國將兵擊之。連兵二十餘年。數為黠戛斯所敗。置回鶻別將。汝運盡矣。我必取汝金帳。金帳者。回鶻可汗所居帳也。及掘羅勿殺彰信。立監馱。回鶻諸部逃散。其相馱職特勒龐等十五部。西奔葛邏祿。一支奔吐蕃。一支奔安西。可汗兄弟。嗚沒斯等。及其相赤心。僕固特勒那頡。各帥其衆。抵天德塞下。就雜虜貿易穀食。且求內附。冬十月丙辰。天德軍使溫德彝奏。回鶻潰兵。侵逼西城。互六十里。不見其後。邊人以回鶻猥至。恐懼不安。詔振武節度使劉沔。屯雲迦關以備之。○魏博節度使何進滔薨。軍中推其子都知兵馬使重順。知留後。○蕭太后徙居興慶宮。積慶殿。號積慶太后。○十一月癸酉朔。上幸雲陽校獵。○故事。新天子即位。兩省官同署名。上之即位也。諫議大夫裴夷直漏名。由是出為杭州刺史。○開府儀同三司左衛上將軍兼內謁者監仇士良。請以開府蔭其子為千牛。給事中李中敏判曰。開府階誠宜蔭子。謁者監何由有兒。士良慙恚。李德裕亦以中敏為楊嗣復之黨。惡之。出為婺州刺史。十二月庚申。以何重順知魏博留後事。○立皇子峻為杞王。

武宗至道昭肅孝皇帝

會昌元年春正月辛巳。上祀圓丘。赦天下。改元。○劉沔奏。回鶻已退。詔沔還鎮。○二月。回鶻十三部近牙帳者。立烏希特勒為烏介可汗。南保錯子山。○三月甲戌。以御史大夫陳夷行。為門下侍郎。同平章事。○初。知樞密劉弘逸。薛季稜。有寵於文宗。仇士良惡之。上之立。非二人及宰相意。故楊嗣復出為湖南觀察使。李珣出為桂管觀察使。士良屢譖弘逸等於上。勸上除之。乙未。賜弘逸季稜死。遣中使就潭桂州。誅嗣復及珣。戶部尚書杜悰。奔馬見李德裕。曰。天子年少。新即位。茲事不宜手滑。丙申。德裕與崔珙。崔郾。陳夷行。三上奏。又邀樞密使。至中書。使入奏。以為德宗疑劉晏動搖東宮而殺之。中外咸以為冤。兩河不臣者。由茲恐懼。得以為辭。德宗後悔。錄其子孫。文宗疑宋申錫。交通藩邸。竄謫至死。既而追悔。為之出涕。嗣復珣等若有罪惡。乞更加重貶。必不可容。亦當先行訊鞠。俟罪狀著白。誅之未晚。今不謀于臣等。遽遣使誅之。人情莫不震駭。願開延英。賜對。至晡時。開延英。召德裕等入。德裕等泣涕極言。陛下宜重慎。此舉母致後悔。上曰。朕不悔。三命之坐。德裕等曰。臣等願陛下免二人於死。勿使既死。而眾以為冤。今未奉聖旨。臣等不敢坐。久之。上乃曰。特為卿等釋之。德裕等躍下階。舞蹈。上召升坐。歎曰。朕嗣位之際。宰相何嘗比數。李珣。季稜。志在陳王。嗣復。弘逸。志在安王。陳王。猶是文宗遺意。安王。則專附楊妃。嗣復。仍與妃書云。姑何不效。則天臨朝。歸使安王得志。朕那復有今日。德裕等曰。茲事曖昧。虛實難知。上曰。楊妃嘗有疾。文宗聽其弟玄思。入侍月餘。以此得通指意。朕細詢內人。情狀皎然。非虛也。遂追還二使。更貶嗣復為潮州刺史。李珣為昭州刺史。裴夷直為驩州司戶。○夏六月乙巳。詔自今。臣下論人罪惡。竝應請付御史臺按問。毋得乞留中。以杜讒邪。○以魏博留後何重順為節度使。○上命道士趙歸真等。



於三殿建九天道場親授法籙右拾遺王哲上疏切諫坐貶河南府士曹○秋八月加仇士良觀軍容使○天德軍使田牟監軍韋仲平欲擊回鶻以求功奏稱回鶻叛將嗚沒斯等侵逼塞下吐谷渾沙陀党項皆世與為仇請自出兵驅逐上命朝臣議之議者皆以為嗚沒斯叛可汗而來不可受宜如牟等所請擊之便上以問宰相李德裕以為窮鳥入懷猶當活之況回鶻屢建大功今為鄰國所破部落離散窮無所歸遠依天子無秋毫無塞奈何乘其困而擊之宜遣使者鎮撫運糧食以賜之此漢宣帝所以服呼韓邪也陳夷行曰此所謂借寇兵資盜糧也不如擊之德裕曰彼吐谷渾等各部落見利則銳敏爭進不利則鳥驚魚散各走巢穴安肯守死為國家用今天德城兵纔千餘若戰不利城陷必矣不若以恩義撫而安之必不為患縱使侵暴邊境亦須徵諸道大兵討之豈可獨使天德擊之乎時詔以鴻臚卿張賈為巡邊使使察回鶻情偽未還上問德裕曰嗚沒斯等請降可保信乎對曰朝中之人臣不敢保況敢保數千里外戎狄之心乎然謂之叛將則恐不可若可汗在國嗚沒斯等帥衆而來則於體固不可受今聞其國敗亂無主將相逃散或奔吐蕃或奔葛邏祿惟此一支遠依大國觀其表辭危迫懇切豈可謂之叛將乎況嗚沒斯等自去年九月至天德今年二月始立烏介自無君臣之分願且詔河東振武嚴兵保境以備之俟其攻犯城鎮然後以武力驅除或於吐谷渾等部中少有抄掠聽自讎報亦未可助以官軍仍詔田牟仲平毋得邀功生事常令不失大信懷柔得宜彼雖戎狄必知感恩辛酉詔田牟約勒將士及雜虜毋得先犯回鶻九月戊辰朔詔河東振武嚴兵以備之牟布之弟也○癸巳盧龍軍亂殺節度使史元忠推陳行泰主留務○李德裕請遣使慰撫回鶻且運糧三萬斛以賜之上以為疑閏月己亥開延英召宰相議之陳夷行於候對之所屢言資盜糧不可德裕曰今徵兵未集天德孤危儻不以此糧噉飢虜且使安靜萬一天德陷沒各將誰歸夷行至上前遂不敢言

上乃許以穀二萬斛賑之○以前山南東道節度使同平章事牛僧孺為太子太師先是漢水溢壞襄州民居故李德裕以為僧孺罪而廢之○盧龍軍復亂殺陳行泰立牙將張絳初陳行泰逐史元忠遣監軍廉以軍中大將表來求節鉞李德裕曰河朔事勢臣所熟諳比來朝廷遣使賜詔常太速故軍情遂固若置之數月不問必自生變今請留監軍廉勿遣使以觀之既而軍中果殺行泰立張絳復求節鉞朝廷亦不問會雄武軍使張仲武起兵擊絳且遣軍吏吳仲舒奉表詣京師稱絳慘虐請以本軍討之冬十月仲舒至京師詔宰相問狀仲舒言行泰絳皆遊客故人心不附仲武幽州舊將性忠義通書習戎事人心嚮之羸者張絳初殺行泰召仲武欲以留務讓之牙中一二百人不可仲武行至昌平絳復却之今計仲武纔發雄武軍中已逐絳矣李德裕問雄武士卒幾何對曰軍士八百外有土團五百人德裕曰兵少何以立功對曰在得人心苟人心不從兵三萬何益德裕又問萬一不克如何對曰幽州糧食皆在媯州及北邊七鎮萬一未能入則據居庸關絕其糧道幽州自困矣德裕奏行泰絳皆使大將上表脅朝廷邀節鉞故不可與今仲武先自發兵為朝廷討亂與之則似有名乃以仲武知盧龍留後仲武尋克幽州○上校獵咸陽○十一月李德裕上言今回鶻破亡大和公主未知所在若不遣使訪問則戎狄必謂國家降主虜庭本非愛惜既負公主又傷虜情請遣通事舍人苗縝齋詔詣嗚沒斯令轉達公主兼可下嗚沒斯逆順之情從之○上頗好田獵及武戲五坊小兒得出入禁中賞賜甚厚嘗謁郭太后從容問為天子之道太后勸以納諫上退悉取諫疏閱之多諫遊獵自是上出畋稍稀五坊無復橫賜○癸亥以中書侍郎同平章事崔郾同平章事充西川節度使○初黠戛斯既破回鶻得大和公主自謂李陵之後與唐同姓遣達干十人奉公主歸之于唐回鶻烏介可汗引兵邀擊達干盡殺之質公主南度磧屯天德軍境上公主遣使上表言可汗已立求冊命烏介又使其相頡于



伽斯等上表借振武一城以居公主可汗十二月庚辰制遣右金吾大將軍王會等慰問回鶻仍賑米二萬斛又賜烏介可汗敕書諭以宜帥部衆漸復舊疆漂寓塞垣殊非良計又云欲借振武一城前代未有此比或欲別遷善地求大國聲援亦須於漠南駐止朕當許公主入覲親問事宜儻須應接必無所吝

二年春正月以張仲武爲盧龍節度使○朝廷以回鶻屯天德振武北境以兵部郎中李拭爲巡邊使察將帥能否拭郝之子也○二月淮南節度使李紳入朝丁丑以紳爲中書侍郎同平章事判度支○河東節度使苻澈修杷頭烽舊戍以備回鶻李德裕奏請增兵鎮守及修東中二受降城以壯天德形勢從之○右散騎常侍柳公權素與李德裕善崔琪奏爲集賢學士判院事德裕以恩非己出因事左遷公權爲太子詹事○回鶻復奏求糧及尋勘吐谷渾党項所掠又借振武城詔遣內使楊觀賜可汗書諭以城不可借餘當應接處置三月李拭巡邊還稱振武節度使劉沔有威略可任大事時河東節度使苻澈疾病庚申以沔代之以金吾上將軍李忠順爲振武節度使遣將作少監苗縝冊命烏介可汗使徐行駐于河東俟可汗位定然後進既而可汗屢侵擾邊境縝竟不行○回鶻嗚沒斯以赤心桀黠難知先告田牟云赤心謀犯塞乃誘赤心并僕固殺之那頡啜收赤心之衆七千帳東走河東奏回鶻兵至橫水殺掠兵民今退屯釋迦泊東李德裕上言釋迦泊西距可汗帳三百里未知此兵爲那頡所部爲可汗遣來宜宜指此兵云不受可汗指揮擅掠邊鄙密詔劉沔仲武先經略此兵如可以討逐事亦有名摧此一支可汗必自知懼○夏四月庚辰天德都防禦使田牟奏回鶻侵擾不已不俟朝旨已出兵三千拒之壬午李德裕奏田牟殊不知兵戎狄長於野戰短於攻城牟但應堅守以待諸道兵集今全軍出戰萬一失利城中空虛何以自固望亟遣中使止之如已交鋒卽詔雲朔天德以來羌渾各出兵奮擊回鶻凡所虜獲竝令自

取回鶻羈旅二年糧食乏絕人心易動宜詔田牟招誘降者給糧轉致太原不可留於天德嗚沒斯情僞雖未可知然要早加官賞縱使不誠亦足爲反間且欲獎其忠義爲討伐之名令遠近諸蕃知但責可汗犯順非欲盡滅回鶻石雄善戰無敵請以爲天德都團練副使佐田牟用兵上皆從其言初太和中河西党項擾邊文宗召石雄于白州隸振武軍爲裨將屢立戰功以王智興故未甚進擢至是德裕舉用之甲申嗚沒斯帥其國特勒宰相等二千二百餘人來降○上信任李德裕觀軍容使仇士良惡之會上將受尊號御丹鳳樓宣赦或告士良宰相與度支議草制減禁軍衣糧及馬芻粟士良揚言于衆曰如此至日軍士必于樓前誼譁德裕聞之乙酉乞開延英自訴上怒遂遣中使宣諭兩軍赦書初無此事且赦書皆出朕意非由宰相爾安得此言士良乃惶愧稱謝○丁亥羣臣上尊號曰仁聖文武至神大孝皇帝赦天下○五月戊申遣鴻臚卿張賈安撫嗚沒斯等以嗚沒斯爲左金吾大將軍懷化郡王其次酋長官賞有差賜其部衆米五千斛絹三千匹那頡啜帥其衆自振武大同東因室韋黑沙南趣雄武軍窺幽州盧龍節度使張仲武遣其弟仲至將兵三萬迎擊大破之斬首捕虜不可勝計悉收降其七千帳分配諸道那頡啜走烏介可汗獲而殺之時烏介衆雖衰減尙號十萬駐牙于大同軍北閭門山楊觀自回鶻還可汗表求糧食牛羊且請執送嗚沒斯等詔報以糧食聽自以馬價於振武糴三千石牛稼穡之資中國禁人屠宰羊中國所鮮出於北邊雜虜國家未嘗科調嗚沒斯自本國初破先投塞下不隨可汗已及二年慮彼猜嫌窮迫歸命前可汗正以猜虐無親致內離外叛今可汗失地遠客尤宜深矯前非若復骨肉相殘則可汗左右信臣誰敢自保朕務在兼愛已受其降於可汗不失恩慈於朝廷免虧信義豈不兩全事體深叶良圖○嗚沒斯入朝六月甲申以嗚沒斯所部爲歸義軍以嗚沒斯爲左金吾大將軍充軍使○門下侍郎同平章事陳夷行罷爲左僕射秋七月以尙



書右丞李讓夷爲中書侍郎同平章事。○嵐州人田滿川據州城作亂。劉沔討誅之。○嗚沒斯請置家太原。與諸弟竭力扞邊。詔劉沔存撫其家。烏介可汗復遣其相上表。借兵助復國。又借天德城。詔不許。初可汗往來天德振武之間。剽掠羌渾。又屯杷頭烽北。朝廷屢遣使諭之。使還漠南。可汗不奉詔。李德裕以爲那頡斫屯於山北。烏介恐其與奚契丹連謀。邀遮。故不敢遠離塞下。望敕張仲武諭奚契丹。與回鶻共滅那頡斫。使得北還。及那頡斫死。可汗猶不去。議者又以爲回鶻待馬價。詔盡以馬價給之。又不去。八月。可汗帥衆過杷頭烽南。突入大同川。驅掠河東雜虜牛馬數萬。轉鬪至雲州城門。刺史張獻節閉城自守。吐谷渾党項皆挈家入山避之。庚午。詔發陳許徐汝襄陽等兵屯太原。及振武天德。俟來春驅逐回鶻。丁丑。賜嗚沒斯與其弟阿歷支。習勿啜。烏羅思。皆姓李氏。名思忠。思貞。思義。思禮。國相愛邪勿。姓愛名弘順。仍以弘順爲歸義軍副使。上遣回鶻石戒直還其國。賜可汗書。諭以自彼國爲紇吃斯所破。來投邊境。撫納無所不至。今可汗尙此近塞。未議還蕃。或侵掠雲朔等州。或鈔擊羌渾諸部。遙揣深意。似恃姻好之情。每觀蹤由。實懷馳突之計。中外將相咸請誅翦。朕情深屈已。未忍幸災。可汗宜速擇良圖。無貽後悔。上又命李德裕代劉沔答回鶻相頡干迦斯書。以爲回鶻遠來依投。當效呼韓邪遣子入侍。身自入朝。及今太和公主入謁。太皇太后求哀乞憐。則我之救卹無所愧懷。而乃睥睨邊城。桀驁自若。邀求過望。如在本蕃。又深入邊境。侵暴不已。求援繼好。豈宜如是。來書又云。胡人易動難安。若令忿怒不可復制。回鶻爲紇吃斯所破。舉國將相遺骸棄於草莽。累代可汗墳墓隔在天涯。回鶻忿怒之心。不施於彼。而蔑棄仁義。逞志中華。天地神祇豈容如此。昔郅支不事大漢。竟自夷滅。往事之戒。得不在懷。戊子。李德裕等上言。若如前詔。河東等三道嚴兵守備。俟來春驅逐。乘回鶻人困馬羸之時。又官軍免盛寒之苦。則幽州兵宜令止屯本道。以俟詔命。若慮河冰既合。回鶻復有馳突。須早驅逐。則當及天時未寒。決策於數月之間。以河朔兵益河東兵。必令收功於兩月之內。今聞外議紛紜。互有異同。儻不一詢羣情。終爲浮辭所撓。望令公卿集議。詔從之。時議者多以爲宜俟來春。九月。以劉沔兼招撫回鶻使。如須驅逐。其諸道行營兵。權令指揮。以張仲武爲東面招撫回鶻使。其當道行營兵。及奚契丹室韋等。竝自指揮。以李思忠爲河西党項都將。回鶻西南面招討使。皆會軍于太原。令沔屯鴈門關。初奚契丹羈屬回鶻。各有監使。歲督其貢賦。且誦唐事。張仲武遣牙將石公緒統二部。盡殺回鶻監使等八百餘人。仲武破那頡斫。得室韋酋長妻子。室韋以金帛羊馬贖之。仲武不受。曰。但殺監使則歸之。癸卯。李德裕等奏。河東奏事官孫儔適至。云。回鶻移營近南四十里。劉沔以爲此必契丹不與之同。恐爲其掩襲。故也。據此事勢。正堪驅除。臣等問孫儔。若與幽州合勢。迫逐回鶻。更須益幾兵。儔言。不須多益兵。唯大同兵少。得易定千人助之足矣。上皆從之。詔河東幽州振武天德各出大兵。移營稍前。以迫回鶻。○上聞太子少傅白居易名欲相之。以問李德裕。德裕素惡居易。乃言。居易衰病。不任朝謁。其從父弟左司員外郎敏中。辭學不減居易。且有器識。甲辰。以敏中爲翰林學士。○李思忠請與契苾沙陀吐谷渾六千騎合勢。擊回鶻。乙巳。以銀州刺史何清朝。蔚州刺史契苾通。分將河東蕃兵。詣振武。受李思忠指揮。通何力之五世孫。○冬十月。丁卯。立皇子峴爲益王。岐爲兗王。○點戛斯遣將軍踏布合祖等。至天德軍。言先遣都呂施合等奉公主。歸之大唐。至今無聲問。不知得達。或爲姦人所隔。今出兵求索。上天入地。期於必得。又言。將徒就合羅川。居回鶻故國。兼已得安西北庭達勒等五部落。○十一月。辛卯朔。昭義節使使劉從諫上言。請出部兵五千討回鶻。詔不許。○上遣使賜大和公主冬衣。命李德裕爲書。賜公主。略曰。先朝割愛降婚。義寧家國。謂回鶻必能禦侮。安靜塞垣。今回鶻所爲。甚不循理。每馬首南向。始得不畏高祖太宗之威靈。欲侵擾邊疆。豈不思太皇太后之慈愛。爲其國母。足

逐則當及天時未寒。決策於數月之間。以河朔兵益河東兵。必令收功於兩月之內。今聞外議紛紜。互有異同。儻不一詢羣情。終爲浮辭所撓。望令公卿集議。詔從之。時議者多以爲宜俟來春。九月。以劉沔兼招撫回鶻使。如須驅逐。其諸道行營兵。權令指揮。以張仲武爲東面招撫回鶻使。其當道行營兵。及奚契丹室韋等。竝自指揮。以李思忠爲河西党項都將。回鶻西南面招討使。皆會軍于太原。令沔屯鴈門關。初奚契丹羈屬回鶻。各有監使。歲督其貢賦。且誦唐事。張仲武遣牙將石公緒統二部。盡殺回鶻監使等八百餘人。仲武破那頡斫。得室韋酋長妻子。室韋以金帛羊馬贖之。仲武不受。曰。但殺監使則歸之。癸卯。李德裕等奏。河東奏事官孫儔適至。云。回鶻移營近南四十里。劉沔以爲此必契丹不與之同。恐爲其掩襲。故也。據此事勢。正堪驅除。臣等問孫儔。若與幽州合勢。迫逐回鶻。更須益幾兵。儔言。不須多益兵。唯大同兵少。得易定千人助之足矣。上皆從之。詔河東幽州振武天德各出大兵。移營稍前。以迫回鶻。○上聞太子少傅白居易名欲相之。以問李德裕。德裕素惡居易。乃言。居易衰病。不任朝謁。其從父弟左司員外郎敏中。辭學不減居易。且有器識。甲辰。以敏中爲翰林學士。○李思忠請與契苾沙陀吐谷渾六千騎合勢。擊回鶻。乙巳。以銀州刺史何清朝。蔚州刺史契苾通。分將河東蕃兵。詣振武。受李思忠指揮。通何力之五世孫。○冬十月。丁卯。立皇子峴爲益王。岐爲兗王。○點戛斯遣將軍踏布合祖等。至天德軍。言先遣都呂施合等奉公主。歸之大唐。至今無聲問。不知得達。或爲姦人所隔。今出兵求索。上天入地。期於必得。又言。將徒就合羅川。居回鶻故國。兼已得安西北庭達勒等五部落。○十一月。辛卯朔。昭義節使使劉從諫上言。請出部兵五千討回鶻。詔不許。○上遣使賜大和公主冬衣。命李德裕爲書。賜公主。略曰。先朝割愛降婚。義寧家國。謂回鶻必能禦侮。安靜塞垣。今回鶻所爲。甚不循理。每馬首南向。始得不畏高祖太宗之威靈。欲侵擾邊疆。豈不思太皇太后之慈愛。爲其國母。足



得指揮。若回鶻不能稟命，則是棄絕姻好。今日已後，不得以姑爲詞。○上幸涇陽校獵，乙卯，諫議大夫高少逸、鄮朗於閣中諫曰：陛下比來遊獵稍頻，出城太遠，侵星夜歸，萬機曠廢，上改容謝之。少逸等出，上謂宰相曰：本置諫官，使之論事，朕欲時聞之。宰相皆賀，己未，以少逸爲給事中，朗爲左諫議大夫。○劉沔、張仲武固稱盛寒，未可進兵，請待歲首。李忠順獨請與李思忠俱進。十二月丙寅，李德裕奏請遣思忠進屯保大柵，從之。○丁卯，吐蕃遣其臣論普熱來告達磨贊普之喪，命將作少監李璟爲弔祭使。○劉沔奏移軍雲州。○李忠順奏擊回鶻破之。○丙戌，立皇子暉爲德王，嗟爲昌王。○初，吐蕃達磨贊普有佞幸之臣，以爲相，達磨卒，無子，佞相立其妃緜氏兄尙廷力子乞離胡爲贊普，纔三歲，佞相與妃共制國事。吐蕃老臣數十人，皆不得預政事，首相結都那見乞離胡不拜曰：贊普宗族甚多，而立緜氏子，國人誰服其令？鬼神誰饗其祀？國必亡矣。比年災異之多，乃爲此也。老夫無權，不得正其亂，以報先贊普之德，有死而已。拔刀斫面，慟哭而出。佞相殺之，滅其族。國人憤怒，又不遣使詣唐求冊立。洛門川討擊使論恐熱，性悍忍，多詐謀，乃屬其徒告之曰：賊捨國族，立緜氏，專害忠良，以脅衆臣，且無大唐冊命，何名贊普？吾當與汝屬舉義兵，入誅緜妃及用事者，以正國家。天道助順，功無不成。遂說三部落得萬騎，是歲與青海節度使同盟舉兵，自稱國相。至渭州，遇國相尙思羅屯薄寒山，恐熱擊之，思羅奔輜重，西奔松州。恐熱遂屠渭州，思羅發蘇毗吐谷渾羊同等兵，合八萬，保洮水，焚橋拒之。恐熱至，隔水語蘇毗等曰：賊臣亂國，天遣我來誅之。汝曹奈何助逆？我今已爲宰相，國內兵我皆得制之。汝不從，將滅汝部落。蘇毗等疑不戰，恐熱引驍騎涉水，蘇毗等皆降。思羅西走，追獲殺之，恐熱盡併其衆，合十餘萬，自渭川至松州，所過殘滅，尸相枕藉。

### 資治通鑑卷第一百四十七

#### 唐紀六十三

##### 武宗至道昭肅孝皇帝中

會昌三年春正月，回鶻烏介可汗帥衆侵逼振武。劉沔遣麟州刺史石雄都知兵馬使王逢帥沙陀朱邪赤心三部及契苾拓跋三千騎襲其牙帳，沔自以大軍繼之。雄至振武，登城望回鶻之衆寡，見氈車數十乘，從者皆衣朱碧，類華人，使諜問之曰：公主帳也。雄使諜告之曰：公主至此家也。當求歸路，今將出兵擊可汗，請公主潛與侍從相保，駐車勿動。雄乃鑿城爲十餘穴，引兵夜出，直攻可汗牙帳，至其帳下，虜乃覺之。可汗大驚，不知所爲，棄輜重走。雄追擊之，庚子，大破回鶻於殺胡山。可汗被瘡，與數百騎遁去。雄迎大和公主，以歸，斬首萬級，降其部落二萬餘人。丙午，劉沔捷奏至。○李思忠入朝，自以回鶻降將，懼邊將猜忌，乞并弟思貞等及愛弘順皆歸闕庭。○庚戌，以石雄爲豐州都防禦使。○烏介可汗走保黑車子族，其潰兵多詣幽州降。○二月庚申朔，日有食之。○詔停歸義軍，以其士卒分隸諸道爲騎兵，優給糧賜。○辛未，黠戛斯遣使者注吾合索獻名馬二，詔太僕卿趙蕃飲勞之。甲戌，上引對班在勃海使之上，欲令趙蕃就黠戛斯求安西北庭。李德裕等上言：安西去京師七千餘里，北庭五千餘里，借使得之，當復置都護，以唐兵萬人戍之，不知此兵於何處追發，饋運從何道得通。此乃用實費，以易虛名，非計也。上乃止。○中書侍郎同平章事崔瑛罷爲右僕射。○黠戛斯求冊命，李德裕奏宜與之結歡，令自將兵求殺使者罪人，及討黑車子。上恐加可汗之



名即不修。臣禮踵回鶻故事，求歲遺及賣馬，猶豫未決。德裕奏：「黠戛斯已自稱可汗，今欲藉其力，恐不可吝此名。回鶻有平安史之功，故歲賜絹二萬匹，且與之和市。黠戛斯未嘗有功於中國，豈敢遽求賂遺乎？若慮其不臣，當與之約，必如同鶻稱臣，乃行冊命。又當敕同姓以親之，使執子孫之禮，上從之。」○庚寅，大和公主至京師，改封安定大長公主。詔宰相、百官迎謁於章敬寺前，公主詣光順門去，盛服脫簪珥，謝回鶻負恩，和蕃無狀之罪。上遣中使慰諭，然後入宮。陽安等六公主不來，慰問安定公主，各罰俸物及封絹。○賜魏博節度使何重順名弘敬。○三月，以太僕卿趙蕃為安撫黠戛斯使。上命李德裕、草賜黠戛斯可汗書，諭以貞觀二十一年黠戛斯先君身自入朝，授左屯衛將軍，堅昆都督，迄於天寶，朝貢不絕。比為回鶻所隔，回鶻凌虐諸蕃，可汗能復讎雪怨，茂功壯節，近古無儔。今回鶻殘兵不滿千人，散投山谷，可汗既與為怨，須盡殲夷，儻留餘燼，必生後患。又聞可汗受氏之源，與我同族，國家承北平太守之後，可汗乃都尉苗裔，以此合族，尊卑可知。今欲冊命可汗，特加美號，緣未知可汗之意，且遣諭懷待趙蕃，回日別命使展禮，自回鶻至塞上，及黠戛斯入貢，每有詔敕，上多命德裕、草之。德裕請委翰林學士，上曰：「學士不能盡人意，須卿自為之。」○劉沔奏：「歸義軍回鶻三千餘人，及酋長四十三人，準詔分隸諸道。皆大呼連營，據葷沱河，不肯從命。已盡誅之，回鶻降幽州者，前後三萬餘人，皆散隸諸道。」○李德裕追論維州悉怛謀事，云：「維州據高山絕頂，三面臨江，在戎虜平川之衝，是漢地入兵之路。初河隴竝沒，唯此獨存。吐蕃潛以婦人嫁此州門者二十年，後兩男長成，竊開壘門，引兵夜入，遂為所陷。號曰無憂城，從此得併力於西邊，更無虞於南路。憑陵近甸，盱食累朝。貞元中，韋臯欲經略河湟，須此城為始。萬旅盡銳，急攻數年，雖擒論莽熱而還，城堅卒不可克。臣初到西蜀，外揚國威，中緝邊備，其維州熟臣信令，空壁來歸，臣始受其降，南蠻震懾，山西八國皆願內屬，其吐蕃合水樓雞等城，既失險阨，自須抽歸，可滅八處鎮兵，坐收千餘里舊地。且維州未降前一年，吐蕃猶圍魯州，豈願盟約？臣受降之初，指天為誓，面許奏聞，各加酬賞。當時不與臣者，望風疾，臣詔臣執送悉怛謀等，令彼自戮。臣寧忍以三百餘人命，棄信偷安，累表陳論，乞垂矜捨，答詔嚴切，竟令執還。體備三木，輿於竹舂，及將就路，冤叫嗚嗚，將吏對臣，無不隕涕。其部送者，更為蕃帥譏誚，云：『既已降彼，何用送來？復以此降人戮於漢境之上，恣行殘忍，用固攜離。至乃擲其嬰孩，承以槍槩，絕忠款之路，快兇虐之情。從古已來，未有此事。雖時更一紀，而運屬千年，乞追獎忠魂，各加褒贈，詔贈悉怛謀右衛將軍。』

臣光曰：論者多疑維州之取捨，不能決牛李之是非。臣以為昔荀吳圍鼓，鼓人或請以城叛，吳弗許，曰：「或以吾城叛，吾所甚惡也。人以城來，吾獨何好焉？吾不可以欲城而邇姦，使鼓人殺叛者而繕守備，是時唐新與吐蕃修好，而納其維州，以利言之，則維州小而信大，以害言之，則維州緩而關中急，然則為唐計者，宜何先乎？悉怛謀在唐計為向化，在吐蕃不免為叛臣，其受誅也。又何矜焉？且德裕所言者，利也。僧孺所言者，義也。匹夫徇利而忘義，猶恥之。況天子乎？譬如鄰人有牛，逸而入於家，或勸其兄歸之，或勸其弟攘之，勸歸者曰：「攘之不義也。」且致訟，勸攘者曰：「彼嘗攘吾羊矣，何義之拘？牛大畜也，鬻之可以富家，以是觀之，牛李之是非，端可見矣。」

夏四月辛未，李德裕乞退，就間局。上曰：「卿每辭位，使我旬日不得所，今大事皆未就，卿豈得求去？」○初，昭義節度使劉從諫累表言仇士良罪惡，士良亦言從諫窺伺朝廷，及上即位，從諫有馬高九尺，獻之，上不受。從諫以為士良所為，怒殺其馬，由是與朝廷相猜恨。遂招納亡命，繕完器械，鄰境皆潛為之備。從諫樵馬牧及商旅，歲入錢五萬緡，又賣鐵煮鹽，亦數萬緡。大商皆假以牙職，使通好諸道，因為販易，商人倚從諫勢，所至多陵轢將吏，諸道皆惡之。從



諫疾病。謂妻裴氏曰：吾以忠直事朝廷，而朝廷不明我志，諸道皆不我與，我死，他人主此軍，則吾家無炊火矣。乃與幕客張谷、陳揚庭謀，效河北諸鎮，以弟右驍衛將軍從素之子積爲牙內都知兵馬使，從子匡周爲中軍兵馬使，孔目官王協爲押牙，親軍兵馬使以奴李士貴爲使宅十將，兵馬使劉守義、劉守忠、董可武、崔玄度分將牙兵，谷、鄆州人，揚庭、洪州人也。從諫尋薨，積祕不發喪。王協爲積謀曰：正當如寶曆年樣爲之，不出百日，旌節自至。但嚴奉監軍，厚遺勅使，四境勿出兵，城中暗爲備而已。使押牙姜峯奏求國醫，上遣中使解朝政以醫問疾。積又逼監軍崔士康奏稱：從諫疾病，請命其子積爲留後。上遣供奉官薛士幹往諭，指云：恐從諫疾未平，宜且就東都療之。俟稍瘳，別官任使。仍遣積入朝，必厚加官爵。上以澤潞事謀於宰相，宰相多以爲回鶻餘燼未滅，邊鄙猶須警備，復討澤潞，國力不支。請以劉積權知軍事，諫官及羣臣上言者亦然。李德裕獨曰：澤潞事體與河朔三鎮不同，河朔習亂已久，人心難化，是故累朝以來，置之度外。澤潞近處心腹，一軍素稱忠義，嘗破走朱滔，擒盧從史，頃時多用儒臣爲帥。如李抱真成立此軍，德宗猶不許承襲，使李絳護喪歸東都，敬宗不恤國務，宰相又無遠略，劉悟之死，因循以授從諫，從諫跋扈難制，累上表迫脇朝廷，今垂死之際，復以兵權擅付豎子，朝廷若又因而授之，則四方諸鎮誰不思效其所爲？天子威令不復行矣。上曰：卿以何術制之，果可克否？對曰：積所恃者河朔三鎮，但得鎮魏不與之同，則積無能爲也。若遣重臣往諭，王元逵何弘敬以河朔自艱難以來，列聖許其傳襲，已成故事，與澤潞不同。今朝廷將加與澤潞，不欲更出禁軍至山東，其山東三州隸昭義者，委兩鎮攻之，兼令徧諭將士以賊平之日，厚加官賞，苟兩鎮聽命，不從旁沮撓官軍，則積必成擒矣。上喜曰：吾與德裕同之，保無後悔，遂決意討積。羣臣言者不復入矣。上命德裕草詔，賜成德節度使王元逵、魏博節度使何弘敬其略曰：澤潞一鎮，與卿事體不同，勿爲子孫之謀，欲存輔車之

勢，但能顯立功効，自然福及後昆。丁丑，上臨朝，稱其語要切曰：當如此直告之，是也。又賜張仲武詔，以回鶻餘燼未滅，塞上多虞，專委卿禦侮。元逵弘敬得詔，悚息聽命，解朝政至上黨。劉積見朝政曰：相公危困，不任拜詔。朝政欲突入兵馬使劉武德董可武，躡籬而立。朝政恐有他變，遽走出，積贈費直數千緡，復遣牙將梁叔文入謝。薛士幹入境，俱不問從諫之疾，直爲已知其死之意，都押牙郭誼等乃大出軍，至龍泉驛，迎候勅使，請用河朔事體。又見監軍言之，崔士康懦怯，不敢違，於是將吏扶積出見士衆，發喪，士幹竟不得入牙門。積亦不受勅命。誼，兗州人也。解朝政復命，上怒杖之，配恭陵。囚姜峯、梁叔文，辛巳，始爲從諫輟朝，贈太傅。詔劉積護喪歸東都，又召見劉從素，令以書諭積，積不從。丁亥，以忠武節度使王茂元爲河陽節度使，邠寧節度使王宰爲忠武節度使，茂元，栖曜之子，宰，智興之子也。黃州刺史杜牧上李德裕書，自言嘗問淮西將董重質以三州之衆，四歲不破之由，重質以爲由朝廷徵兵太雜，客軍數少，既不能自成一軍，事須帖付地主，勢羸力弱，心志不一，多致敗亡。故初戰二年，戰則必勝，是多殺客軍，及二年已後，客軍殫少，止與陳許河陽全軍相搏，縱使唐州兵不能因虛取城，蔡州事力亦不支矣。其時朝廷若使鄂州壽州唐州只保境，不用進戰，但用陳許鄭滑兩道全軍，帖以宣潤弩手，令其守隘，卽不出一歲，無蔡州矣。今者，上黨之叛，復與淮西不同，淮西爲寇，僅五十歲，其人味爲寇之腴，見爲寇之利，風俗益固，氣餒已成，自以爲天下之兵，莫與我敵，根深源闊，取之固難。夫上黨則不然，自安史南下，不甚附隸，建中之後，每奮忠義，是以邠公抱真能窘田悅，走朱滔，常以孤窮寒苦之軍，橫折河朔彊梁之衆，以此證驗，人心忠赤，習尙專一，可以盡見。劉悟卒，從諫求繼，與扶同者，只鄆州隨來中軍二千耳，值寶曆多故，因以授之，今纔二千餘歲，風俗未改，故老尙存，雖欲劫之，必不用命。今成德魏博雖盡節效順，亦不過圍一城，攻一堡，係繫穰老而已。若使河陽萬人爲壘，窺天井之口，高壁



深慙。勿與之戰。只以忠武武寧兩軍。帖以青州五千精甲。宣潤二千弩手。徑擣上黨。不過數月。必覆其巢穴矣。時德裕制置澤潞。亦頗采牧言。○上雖外尊寵仇士良。內實忌惡之。士良頗覺之。遂以老病求散秩。詔以左衛上將軍兼內侍監知省事。○李德裕言於上曰。議者皆云。劉悟有功。積未可誅。宜全恩禮。請下百官議。以盡人情。上曰。悟亦何功。當時迫於救死耳。非素心徇國也。藉使有功。父子為將相二十餘年。國家報之足矣。積何得復自立。朕以為凡有功當顯賞。有罪亦不可苟免也。德裕曰。陛下之言。誠得理國之要。○五月。李德裕言。太子賓客分司李宗閔。與劉從諫交通。不宜寘之東都。戊戌。以宗閔為胡州刺史。○河陽節度使王茂元。以步騎三千守萬善。河東節度使劉沔。以步騎二千守芒車關。步兵一千五百軍榆社。成德節度使王元逵。以步騎三千守臨洛。掠堯山。河中節度使陳夷行。以步騎一千守翼城。步兵五百益冀氏。辛丑。制削奪劉從諫及子積官爵。以元逵為澤潞北面招討使。何弘敬為南面招討使。與夷行。劉沔。茂元。合方攻討。先是。河朔諸鎮有自立者。朝廷必先有弔祭使。次冊贈使。宣慰使。繼往商度軍情。必不可與節。則別除一官。俟軍中不聽出。然後始用兵。故常及半歲。軍中得繕完為備。至是。宰相亦欲且遣使開諭。上即命下詔討之。王元逵受詔之日。出師屯趙州。○壬寅。以翰林學士承旨崔鉉為中書侍郎。同平章事。鉉。元略之子也。上夜召學士韋琮。以鉉名授之。令草制。宰相樞密皆不之知。時樞密使劉行深。楊欽義皆愿怒。不敢預事。老宦者尤之曰。此由劉楊懦怯。墮敗舊風故也。琮。乾度之子也。○以武寧節度使李彥佐為晉絳行營諸軍節度招討使。○劉沔自代州還太原。○築望仙觀於禁中。○六月。王茂元遣兵馬使馬繼等將步騎二千軍於天井關。南科斗店。劉稹遣衙內十將薛茂卿將親軍二千拒之。○黠戛斯可汗遣將軍溫作合入貢。上賜之書諭。以速平回鶻黑車子。乃遣使行冊命。○癸酉。仇士良以左衛上將軍內侍監致仕。其黨送歸私第。士良教以固權寵之術。

曰。天子不可令閒。常宜以奢靡娛其耳目。使日新月盛。無暇更及他事。然後吾輩可以得志。慎勿使之讀書。親近儒生。彼見前代興亡。心知憂懼。則吾輩疎斥矣。其黨拜謝而去。○丙子。詔王元逵。李彥佐。劉沔。王茂元。何弘敬。以七月中旬。五道齊進。劉稹求降。皆不得受。又詔劉沔。自將兵取仰車關路。以臨賊境。○吐蕃鄯州節度使尙婢婢。世為吐蕃相。婢婢好讀書。不樂仕進。國人敬之。年四十餘。彝泰贊普彊起之。使鎮鄯州。婢婢寬厚沈勇。有謀略。訓總士卒。多精勇。論恐熱雖名義兵。實謀篡國。忌婢婢恐襲其後。欲先滅之。是月。大舉兵擊婢婢。旌旗雜畜。千里不絕。至鎮西。大風震電。天火燒殺婢婢將十餘人。雜畜以百數。恐熱惡之。盤桓不進。婢婢謂其下曰。恐熱之來。視我如螻蟻。以為不足屠也。今遇天災。猶豫不進。吾不如迎伏以却之。使其志益驕。而不為備。然後可圖也。乃遣使以金帛牛酒犒師。且致書言。相公舉義兵。以匡國難。闔境之內。孰不向風。苟遣一介。賜之折簡。敢不承命。何必遠辱士衆。親臨下藩。婢婢資性愚僻。惟嗜讀書。先贊普授以藩維。誠為非據。夙夜慙惕。惟求退居。相公若賜以骸骨。聽歸田里。乃愜平生之素願也。恐熱得書喜。徧示諸將曰。婢婢惟把書卷。安知用兵。待吾得國當位。以宰相坐之於家。亦無所用也。乃復為書勸厚答之。引兵歸。婢婢聞之。撫髀笑曰。我國無主。則歸大唐。豈能事此犬鼠乎。○秋七月。以山南東道節度使盧鈞為昭義節度招撫使。朝廷以鈞在襄陽。寬厚有惠政。得衆心。故使領昭義。以招懷之。○上遣邢部侍郎兼御史中丞李回宣慰河北三鎮。令幽州乘秋早平回鶻。鎮魏早平澤潞。回太祖之八世孫也。甲辰。李德裕言於上曰。臣見歸日河朔用兵。諸道利於出境。仰給度支。或陰與賊通。借一縣一柵據之。自以為功。坐食轉輸。延引歲時。今請賜諸軍詔旨。令王元逵取邢州。何弘敬取洛州。王茂元取澤州。李彥佐。劉沔。取潞州。毋得取縣。上從之。晉絳行營節度使李彥佐。自發徐州。行甚緩。又請休兵於絳州。兼請益兵。李德裕言於上曰。彥佐逗遛願望。殊無討賊之意。所請皆



不可許。宜賜詔切責。令進軍翼城。上從之。德裕因請以天德防禦使石雄為彥佐之副。俟至軍中。令代之。乙巳。以雄為晉絳行營節度副使。仍詔彥佐進屯翼城。劉稹上表。自陳亡父從諫為李訓雪冤。言仇士良罪惡。由此為權倖所疾。謂臣父潛懷異志。臣所以不敢舉族歸朝。乞陛下稍垂寬察。活臣一方。何弘敬亦為之奏雪。皆不報。李回至河朔。何弘敬。王元逵。張仲武。皆具藥鞭郊迎。立於道左。不敢令人控馬。讓制使先行。自兵興以來。未之有也。回明辯有膽氣。三鎮無不奉詔。○王元逵奏。拔宣務柵。擊堯山。劉稹遣兵救堯山。元逵擊敗之。詔切責李彥佐。劉沔。王茂元。使速進兵逼賊境。且稱元逵之功。以激厲之。加元逵同平章事。八月。乙丑。昭義大將李丕來降。議者或謂賊故遣丕降。欲以疑誤官軍。李德裕言於上曰。自用兵半年。未有降者。今安問誠之與詐。且須厚賞。以勸將來。但不可置之要地耳。○上從容言。文宗好聽外議。諫官言事。多不著名。有如匿名書。李德裕曰。臣頃在中書。文宗猶不爾。此乃李訓鄭注教。文宗以術御下。遂成此風。人主但當推誠任人。有欺罔者。威以明刑。孰敢哉。上善之。○王元逵前鋒入邢州境。已踰月。何弘敬猶未出師。元逵屢有密表稱弘敬懷兩端。丁卯。李德裕上言。忠武累戰有功。軍聲頗振。王宰年力方壯。謀略可稱。請賜弘敬詔。以河陽河東皆闕山險。未能進軍。賊屢出兵。焚掠晉絳。今遣王宰將忠武全軍徑魏博。直抵磁州。以分賊勢。弘敬必懼。此攻心伐謀之術也。從之。詔宰悉選步騎精兵。自相魏。趣磁州。甲戌。薛茂卿破科斗寨。擒河陽大將馬繼等。焚掠小寨一十七。距懷州纔十餘里。茂卿以無劉稹之命。故不敢入。時議者鼎沸。以為劉悟有功。不可絕其嗣。又從諫養精兵十萬。糧支十年。如何可取。上亦疑之。以問李德裕。對曰。小小進退。兵家之常。願陛下勿聽外議。則成功必矣。上乃謂宰相曰。為我語朝士。有上疎沮議者。我必於賊境上斬之。議者乃止。何弘敬聞王宰將至。恐忠武兵入魏境。軍中有變。蒼黃出師。丙子。弘敬奏。已自將全軍度漳水。趣磁州。庚辰。李德裕上言。河

陽兵力寡弱。自科斗店之敗。賊勢愈熾。王茂元復有疾。人情危怯。欲退保懷州。臣竊見元和以來。諸賊常視官軍寡弱之處。併力攻之。一軍不支。然後更攻他處。今魏博未與賊戰。西軍闕險不進。故賊得併兵南下。若河陽退縮。不惟虧沮軍聲。兼恐震驚洛師。望詔王宰更不之磁州。亟以忠武軍應援河陽。不惟扞蔽東都。兼可臨制魏博。若令全軍供餉。難給。且令發先鋒五千人。赴河陽。亦足張聲勢。甲申。又奏。請勅王宰。以全軍繼進。仍急以器械。繪帛。助河陽窘乏。上皆從之。王茂元軍萬善。劉稹遣牙將張巨。劉公直等。會薛茂卿。共攻之。期以九月朔。圍萬善。乙酉。公直等潛師先過萬善南五里。焚雍店。巨引兵繼之。過萬善。覘知城中守備單弱。欲專有功。遂攻之。日昃。城且拔。乃使人告公直等。時義成軍適至。茂元困急。欲帥眾棄城走。都虞候孟章諫曰。賊眾自有前却。半在雍店。半在此。乃亂兵耳。今義成軍纔至。尚未食。聞僕射走。則自潰矣。願且強留。茂元乃止。會日暮。公直等不至。巨引兵退。始登山。微雨晦黑。自相驚曰。追兵近矣。皆走。人馬相踐。墜崖谷死者甚眾。○上以王茂元王宰兩節度使共處河陽。非宜。庚寅。李德裕等奏。茂元習吏事。而非將才。請以宰為河陽行營攻討使。○何弘敬奏。拔肥鄉。平恩。殺令鎮。河陽。病困。亦免他虞。九月。辛卯。以宰兼河陽行營攻討使。○何弘敬奏。拔肥鄉。平恩。殺傷甚眾。得劉稹勝帖。皆謂官軍為賊。云遇之。即須痛殺。癸巳。上謂宰相。何弘敬已克兩縣。可釋前疑。既有殺傷。雖欲持兩端。不可得已。乃加弘敬檢校左僕射。○丙午。河陽奏。王茂元薨。李德裕奏。王宰止可令以忠武節度使。將萬善營兵。不可使兼領河陽。恐其不愛。河陽州縣。恣為侵擾。又河陽節度先領懷州刺史。常以判官攝事。割河南五縣租賦。隸河陽。不若遂置孟州。其懷州別置刺史。俟昭義平。日。仍割澤州。隸河陽。節度。則太行之險。不在昭義。而河陽遂為重鎮。東都無復憂矣。上采其言。戊申。以河南尹敬昕為河陽節度。懷孟觀察使。王宰將行營以扞敵。昕供饋餉而已。○庚戌。以石雄代李彥佐為晉絳行營節度使。令自冀氏取潞



州仍分兵屯翼城以備侵軼。○是月吐蕃論恐熱屯大夏川，尙婢婢遣其將厖結心及莽羅薛呂將精兵五萬擊之。至河州南，莽羅薛呂伏兵四萬於險阻，厖結心伏萬人於柳林中，以千騎登山，飛矢繫書罵之。恐熱怒，將兵數萬追之，厖結心陽敗走，時為馬乏不進之狀。恐熱追之益急，不覺行數十里，伏兵發，斷其歸路，夾擊之。會大風飛沙，溪谷皆溢，恐熱大敗，伏尸五十里，溺死者不可勝數。恐熱單騎遁歸。○石雄代李彥佐之明日，即引兵踰烏嶺，破五寨，殺獲千計。時王宰軍萬善、劉沔軍石會皆願望未進，上得雄捷書，喜甚。冬十月庚申，臨朝謂宰相曰：「雄真良將，李德裕因言：『比年前潞州市有男子，磬折唱曰：『石雄七千人至矣。』』劉從諫以為妖言，斬之。破潞州者必雄也。詔賜雄帛為優賞，雄悉置軍門，自依士卒例，先取一匹，餘悉分將士。故士卒樂為之死。』○初，劉沔破回鶻，得大和公主，張仲武疾之，由是有隙。上使李回至幽州和解之，仲武意終不平。朝廷恐其以私憾敗事，辛未，徙沔為義成節度使，以前荆南節度使李石為河東節度使。○党項寇鹽州，以前武寧節度使李彥佐為朔方靈鹽節度使。十一月，邠寧奏：「党項入寇，李德裕奏：『党項愈熾，不可不為區處。』聞党項分隸諸鎮，剽掠於此，則亡逃歸彼，節度使各利其駝馬，不為擒送，以此無由禁戢。臣屢奏，不若使一鎮統之，陛下以為一鎮專領，黨項權太重。臣今請以皇子兼統諸道，擇中朝廉幹之臣為之副，居於夏州，理其辭訟，庶為得宜。乃以竟王岐為靈夏等六道元帥，兼安撫党項大使，又以御史中丞李回為安撫党項副使，史館撰修鄭亞為元帥判官，令齋詔往安撫党項，及六鎮百姓。○安南經略使武渾，役將士治城，將士作亂，燒城樓，劫府庫，渾奔廣州。監軍段士則撫安亂眾。○忠武軍素號精勇，王宰治軍嚴整，昭義人甚憚之。薛茂卿以科斗寨之功，意望超遷，或謂劉稹曰：「留後所求者節耳，茂卿太深入，多殺官軍，激怒朝廷，此節所以來益遲也。由是無賞。」茂卿慍懟，密與王宰通謀。十二月丁巳，宰引兵攻天井關，茂卿小戰，遂引兵走。宰遂克天井

關，守之。關東西寨，聞茂卿不守，皆退走。宰遂焚大小箕村，茂卿入澤州，密使諜召宰進攻澤州。當為內應，宰疑不敢進，失期不至。茂卿拊膺頓足而已。稹知之，誘茂卿至潞州，殺之，并其族。以兵馬使劉公直代茂卿，安全慶守烏嶺，李佐堯守彭黃嶺，郭僚守石會，康良佺守武鄉。僚，誼之姪也。戊辰，王宰進攻澤州，與劉公直戰，不利。公直乘勝復天井關，甲戌，宰進擊公直，大破之。遂圍陵川，克之。河東奏：「克石會關，洛州刺史李恬，石之從兄也。石至太原，劉稹遣軍將賈羣詣石，以恬書與石云：『稹願舉族歸命相公，奉從諫喪，歸葬東都。石因羣以其書聞。李德裕上言：『今官軍四合，捷書日至，賊勢窮蹙，故偽輸誠款，冀以緩師，稍得自完，復來侵軼。』望詔石答恬書云：『前書未敢聞奏，若郎君誠能悔過，舉族面縛，待罪境上，則石當親往受降，護送歸闕。若虛為誠款，先求解兵，次望洗雪，則石必不敢以百口保人。仍望詔諸道乘其上下離心，速進兵攻討，不過旬朔，必內自生變。』上從之。右拾遺崔碣上疏請受其降，上怒，貶碣鄧城令。○初，劉沔破回鶻，留兵三千戍橫水柵。河東行營都知兵馬使王逢奏：「乞益榆社兵，詔河東以兵二千赴之。時河東無兵，守倉庫者及工匠皆出從軍。李石召橫水戍卒千五百人，使都將楊弁將之詣逢。壬午，戍卒至太原，先是軍士出征，人給絹二匹，劉沔之去，竭府庫自隨。石初至，軍用乏，以己絹益之，人纔得一匹，時已歲盡，軍士求過正旦而行，監軍呂義忠累牒趣之。楊弁因衆心之怒，又知城中空虛，遂作亂。四年春正月乙酉朔，楊弁帥其衆剽掠城市，殺都頭梁季叶。李石奔汾州，弁據軍府，釋賈羣之囚，使其姪與之俱詣劉稹，約為兄弟。稹大喜。石會關守將楊珍聞太原亂，復以關降於稹。戊子，呂義忠遣使言狀，朝議喧然，或言兩地皆應罷兵。王宰又上言：「遊奕將得劉稹表，臣近遣入至澤潞，賊有意歸附，若許招納，乞降詔命。」李德裕上言：「宰擅受稹表，遣人入賊中，曾不聞奏，觀宰意似欲擅招撫之功。昔韓信破田榮，李靖擒頡利，皆因其請降，潛兵掩襲，止可令



王宰失信。豈得損朝廷威命。建立奇功。實在今日。必不可以太原小擾。失此事機。望即遣供奉官。至行營。督其進兵。掩其無備。必須劉稹與諸將。皆舉族面縛。方可受納。兼遣供奉官。至晉絳行營。密諭石雄。以王宰若納劉稹。則雄無功可紀。雄於垂成之際。須自取奇功。勿失此便。又為相府與宰書言。昔王承宗雖逆命。猶遣弟承恭奉表。詣張相祈哀。又遣其子知感。知信入朝。憲宗猶未之許。今劉稹不詣尚書面縛。又不遣血屬祈哀。置章表於衢路之間。遊奕將不即毀除。實恐非是。況稹與楊弁通姦。逆狀如此。而將帥大臣。容受其詐。是私惠歸於臣下。不赦在於朝廷。事體之間。交恐不可。自今更有章表。宜即所在焚之。惟面縛而來。始可容受。德裕又上言。太原人心。從來忠順。止是貧虛。賞犒不足。況千五百人。何能為事。必不可姑息寬從。且用兵未罷。深慮所在動心。頃張延賞為張拙所逐。逃奔漢州。還入成都。望詔李石義忠。還赴太原行營。召旁近之兵。討除亂者。上皆從之。是時李石已至晉州。詔復還太原。辛卯。詔王逢。悉留太原兵。守榆社。以易定千騎。宣武。兗海步兵三千。討楊弁。又詔王元逵。以步騎五千。自土門入。應接逢軍。忻州刺史李丕。奏楊弁遣人來為遊說。臣已斬之。兼斷其北出之路。發兵討之。辛丑。上與宰相議太原事。李德裕曰。今太原兵皆在外。為亂者止千餘人。諸州鎮必無應者。計不日誅翦。惟應速詔王逢。進軍至城下。必自有變。上曰。仲武見鎮魏討澤潞有功。必有慕羨之心。使之討太原。何如。德裕對曰。鎮州趣太原路最近。仲武去年討回鶻。與太原爭功。恐其不戢士卒。平人受害。乃止。上遣中使馬元實。至太原。曉諭亂兵。且覘其疆弱。楊弁與之酣飲三日。且賂之。戊申。元實自太原還。上遣詣宰相議之。元實於衆中大言。相公須早與之節。李德裕曰。何故。元實曰。自牙門至柳子列十五里。曳地光明。甲若之何。取之。德裕曰。李相正以太原無兵。故發橫水兵。赴榆社。庫中之甲。盡在行營。弁何能遽致如此之衆乎。元實曰。太原人勁悍。皆可為兵。弁召募所致耳。德裕曰。召募須有貨財。李相止以欠

軍士絹一匹。無從可得。故致此亂。弁何從得之。元實辭屈。德裕曰。縱其有十五里光明甲。必須殺此賊。因奏稱。楊弁微賊。決不可恕。如國力不及。寧捨劉稹。河東兵戍榆社者。聞朝廷令。客軍取太原。恐妻孥為所屠滅。乃擁監軍呂義忠。自取太原。壬子。克之。生擒楊弁。盡誅亂卒。○二月甲寅朔。日有食之。○乙卯。呂義忠奏。克太原。丙辰。李德裕言於上曰。王宰久應取澤州。今已遷延兩月。蓋宰與石雄素不相叶。今得澤州。距上黨猶二百里。而石雄所屯。距上黨纔百五十里。宰恐攻澤州。綴昭義大軍。而雄得乘虛入上黨。獨有其功耳。又宰生子晏實。其父智興。愛而子之。晏實今為磁州刺史。為劉稹所質。宰之顧望。不敢進。或為此也。上命德裕草詔賜宰。督其進兵。且曰。朕顧茲小寇。終不貸刑。亦知晏實是卿愛弟。將申大義。在抑私懷。丁巳。以李石為太子少傅分司。以河中節度使崔元式為河東節度使。石雄為河中節度使。元式。元略之弟也。○己未。石雄拔良馬等三寨一堡。○辛酉。太原獻楊弁及其黨五十四人。皆斬於狗脊嶺。○壬申。李德裕言於上曰。事固有激發而成功者。陛下命王宰。趣磁州。而何弘敬出師。遣客軍討太原。而成兵先取楊弁。今王宰久不進軍。請徙劉河鎮。河陽。仍令以義成精兵二千。直抵萬善。處宰肘腋之下。若宰識朝廷此意。必不敢淹留。若宰進軍。河以重兵。在南。聲勢亦壯。上曰。善。戊寅。以義成節度使劉沔為河陽節度使。○王逢擊昭義將康良佺。敗之。良佺棄石會關。退屯鼓腰嶺。○黠憂斯遣將軍諦德。伊斯難珠等入貢。言欲徙居回鶻牙帳。請發兵之期。集會之地。上賜詔諭。以今秋可汗擊回鶻黑車子之時。當令幽州太原振武天德四鎮。出兵要路。邀其亡逸。便申冊命。竝依回鶻故事。○朝廷以回鶻衰微。吐蕃內亂。議復河湟四鎮十八州。乃以給事中劉濛為巡邊使。使之先備器械糧糴。及詞吐蕃守兵衆寡。又令天德振武河東。訓卒礪兵。以俟今秋。黠憂斯擊回鶻。邀其潰敗之衆南來者。皆委濛與節度團練使詳議。以聞。濛。晏之孫也。○道士趙歸真為右街道門教授先生。○吐蕃論



恐熱之將岌藏豐贊。惡恐熱殘忍。降於尙婢婢。恐熱發兵擊婢婢於鄆州。婢婢分兵爲五道拒之。恐熱退保東谷。婢婢爲木柵圍之。絕其水原。恐熱將百餘騎突圍走。保薄寒山。餘衆皆降於婢婢。○夏四月。王宰進攻澤州。○上好神仙。道士趙歸真得幸。諫官屢以爲言。丙子。李德裕亦諫曰。歸真敬宗朝罪人。不宜親近。上曰。朕宮中無事時。與之談道滌煩耳。至於政事。朕必問卿等。與次對官。雖百歸真不能惑也。德裕曰。小人見勢利所在。則奔趣之。如夜蛾之投燭。聞旬日以來。歸真之門。車馬輻湊。願陛下深戒之。○戊寅。以左僕射王起同平章事。充山南西道節度使。起以文臣。未嘗執政。直除使相。前無此比。固辭。上曰。宰相無內外之異。朕有闕失。卿飛表以聞。○李德裕以州縣佐官太冗。奏令吏部郎中柳仲郢裁減。六月。仲郢奏減一千二百一十四員。仲郢公綽之子也。○宦官有發仇士良宿惡於其家。得兵仗數千。詔削其官爵。籍沒家貲。○秋七月辛卯。上與李德裕議。以王逢將兵屯翼城。上曰。聞逢用法太嚴。有諸對曰。臣亦嘗以此詰之。逢言。前有白刃。法不嚴。其誰肯進。上曰。言亦有理。卿更召而戒之。德裕因言。劉稹不可赦。上曰。固然。德裕曰。昔李懷光未平。京師蝗旱。米斗千錢。太倉米供天子及六宮。無數旬之儲。德宗集百官。遣中使馬欽緒詢之。左散騎常侍李泌取桐葉搏破。以授欽緒。獻之。德宗召問其故。對曰。陛下與懷光君臣之分如此。葉不可復合矣。由是德宗意定。既破懷光。遂用爲相。獨任數年。上曰。亦大是奇士。○上聞揚州倡女善爲酒令。勅淮南監軍。選十七人獻之。監軍請節度使杜悰同選。且欲更擇良家美女。教而獻之。悰曰。監軍自受勅。悰不敢預聞。監軍再三請之。不從。監軍怒。具表其狀。上覽表默然。左右請并勅節度使同選。上曰。勅蕃方選倡女入宮。豈聖天子所爲。杜悰不徇監軍意。得大臣體。真宰相才也。朕甚愧之。遂勅監軍勿復選。甲辰。以悰同平章事。兼度支鹽鐵轉運使。及悰中謝。上勞之曰。卿不從監軍之言。朕知卿有致君之心。今相卿。如得一魏徵矣。

資治通鑑卷第二百四十七

唐紀 武宗至道昭肅孝皇帝中會昌四年



# 資治通鑑卷第二百四十八

## 唐紀六十四

### 武宗至道昭肅孝皇帝下

會昌四年閏月壬戌以中書侍郎同平章事李紳同平章事充淮南節度使○李德裕奏鎮州奏事官高迪密陳意見二事其一以爲賊中好爲偷兵術潛抽諸處兵聚於一處官軍多就迫逐以致失利經一兩月又偷兵詣它處官軍須知此情自非來攻城柵慎勿與戰彼淹留不過三日須散歸舊屯如此數四空歸自然喪氣官軍密遣諜者訶其抽兵之處乘虛襲之無不捷矣其二鎮魏屯兵雖多終不能分賊勢何則下營不離故處每三兩月一深入燒掠而去賊但固守城柵城外百姓賊亦不惜宜令進營據其要害以漸逼之若止如今日賊中殊不以爲懼望詔諸將各使知之劉稹腹心將高文端降言賊中乏食令婦人授穗春之以給軍德裕訪文端破賊之策文端以爲官軍今直攻澤州恐多殺士卒城未易得澤州兵約萬五千人賊常分兵太平潛伏山谷伺官軍攻城疲弊則四集救之官軍必失利今請令陳許軍過乾河立寨自寨城連延築爲夾城環繞澤州日遣大軍布陳於外以扞救兵賊見圍城將合必出大戰待其敗北然後乘勢可取德裕奏請詔示王宰文端又言固鎮寨四崖懸絕勢不可攻然寨中無水皆飲澗水在寨東約一里許宜令王逢進兵逼之絕其水道不過三日賊必棄寨遁去官軍即可追躡前十五里至青龍寨亦四崖懸絕水在寨外可以前法取也其東十五里則沁州城德裕奏請詔示王逢文端又言都頭王釗將萬兵戍洛州劉

稹既族薛茂卿又誅邢洛救援兵馬使談朝義兄弟三人釗自是疑懼稹遣使召之釗不肯入士卒皆譁譟釗必不爲稹用但釗及士卒家屬皆在洛州又士卒恐已降爲官軍所殺招之必不肯來惟有諭意於釗使引兵入洛州取稹事成之日許除別道節度使仍厚有賜與庶幾肯從德裕奏請詔何弘敬潛遣人諭以此意劉稹年少懦弱押牙王協宅內兵馬使李士貴用事專聚貨財府庫充盈而將士有功無賞由是人心離怨劉從諫妻裴氏晁之支孫也憂稹將敗其弟問典兵在山東欲召之使掌軍政士貴恐問至奪己權且泄其姦狀乃曰山東之事仰成於五舅若召之是無三州也乃止王協薦王釗爲洛州都知兵馬使釗得衆心而多不遵使府約束同列高元武安玉言其有貳心稹召之釗辭以到洛州未立少功實所慙恨乞留數月然後詣府許之王協請稅商人每州遣軍將一人主之名爲稅商實籍編戶家貲至於什器無所遺皆估爲絹匹十分取其二率高其估民竭浮財及糗糧輸之不能充皆惴惴不安軍將劉溪尤貪殘劉從諫棄不用溪厚賂王協協以邢州富商最多命溪主之裴問所將兵號夜飛多富商子弟溪至悉拘其父兄軍士訴於問問爲之請溪不許以不遜語答之問怒密與麾下謀殺溪歸國并告刺史崔叡叡從之丙子叡問閉城斬城中大將四人請降於王元逵時高元武在黨山聞之亦降先是使府賜洛州軍士布人一端尋有帖以折冬賜會稅商軍將至洛州王釗因人不安謂軍士曰留後年少政非己出今倉庫充實足支十年豈可不少散之以慰勞苦之士使帖不可用也乃擅開倉庫給士卒人絹一匹穀十二石士卒大喜釗遂閉城請降於何弘敬安玉在磁州聞二州降亦降於弘敬堯山都知兵馬使魏元談等降於王元逵元逵以其久不下皆殺之八月辛卯鎮魏奏邢洛磁三州降宰相入賀李德裕曰昭義根本盡在山東三州降則上黨不日有變矣上曰郭誼必梟劉稹以自贖德裕曰誠如聖料上曰於今所宜先處者何事德裕請以盧弘止爲三州留後曰萬



一積魏請占三州。朝廷難於可否。上從之。詔山南東道兼昭義節度使盧鈞乘驛赴鎮。潞人聞三州降。大懼。郭誼、王協謀殺劉稹。以自贖。稹再從兄中軍使匡周兼押牙。誼患之。言於稹曰：十三郎在牙院。諸將皆莫敢言事。恐為十三郎所疑而獲罪。以此失山東。今誠得十三郎不入。則諸將始敢盡言。采於衆人。必獲長策。稹召匡周諭之。使稱疾不入。匡周怒曰：我在院中。故諸將不敢有異圖。我出院。家必滅矣。稹固請之。匡周不得已。彈指而出。誼令稹所親董可武說稹曰：山東之判。事由五舅。城中人人誰敢相保。留後今欲何如。稹曰：今城中尚有五萬人。且當閉門堅守耳。可武曰：非良策也。留後不若束身歸朝。如張元益不失作刺史。且以郭誼為留後。俟得節之日。徐奉太夫人及室家金帛歸之。東都亦善乎。稹曰：誼安肯如是。可武曰：可武已與之重誓。必不負也。乃引誼入。稹與之密約既定。乃白其母。母曰：歸朝誠為佳事。但恨已晚。吾有弟不能保。安能保。郭誼汝自圖之。稹乃素服出門。以母命署誼都知兵馬使。王協已戒諸將列於外廳。誼拜謝稹已。出見諸將。稹治裝於內廳。李士貴聞之。帥後院兵數千攻誼。誼叱之曰：何不自取賞物。乃欲與李士貴同死乎。軍士乃退。共殺士貴。誼置將吏部署軍士。一夕俱定。明日使董可武入謁稹曰：請議公事。稹曰：何不言之。可武曰：恐驚太夫人。乃引稹步出牙門。至北宅置酒作樂。酒酣。乃言今日之事。欲全太尉一家。須留後自圖去就。則朝廷必垂矜閱。稹曰：如所言。稹之心也。可武遂前執其手。崔玄度自後斬之。因收積宗族。匡周以下至襁褓中子皆殺之。又殺劉從諫父子所厚善者張谷、陳揚庭、李仲京、郭台、王羽、韓茂、章茂實、王渥、賈庠等。凡十二家。并其子姪甥壻無遺。仲京訓之兄台行餘之子羽涯之從孫茂章、茂實。約之子渥、璠之子庠、鍊之子也。甘露之亂。仲京等亡。歸從諫。從諫撫養之。凡軍中有小嫌者。誼日有所誅。流血成泥。乃函稹首。遣使奉表及書。降於王宰。首過澤州。劉公直舉營慟哭。亦降於宰。乙未。宰以狀聞。丙申。宰相入賀。李德裕奏：今不須復置邢洛。

磁留後。但遣盧弘止宣慰三州。及成德魏博兩道。上曰：郭誼宜如何處之。德裕曰：劉稹驕子耳。阻兵拒命。皆誼為之謀主。及勢孤力屈。又賣稹以求賞。此而不誅。何以懲惡。宜及諸軍在境。并誼等誅之。上曰：朕意亦以為然。乃詔石雄將七千人入潞州。以應謠言。杜悰以饋運不給。謂誼等可赦。上熟視不應。德裕曰：今春澤潞未平。太原復擾。自非聖斷堅定。二寇何由可平。外議以為若在先朝。赦之久矣。上曰：卿不知文宗心地。不與卿合。安能議乎。罷盧鈞山南東道。專為昭義節度使。戊戌。劉稹傳首至京師。詔義五州給復一年。軍行所過州縣免今年秋稅。昭義自劉從諫以來。橫增賦斂。悉從蠲免。所籍土團。竝縱遣歸農。諸道將士有功者。等級加賞。郭誼既殺劉稹。日望旌節。既久不聞問。乃曰：必移他鎮。於是閱鞍馬。治行裝。及聞石雄將至。懼失色。雄至。誼等參賀畢。敕使張仲清曰：郭都知告身。來日當至。諸高班告身在此。晚牙來受之。乃以河中兵環毬場。晚牙誼等至。唱名引入。凡諸將桀黠。拒官軍者。悉執送京師。加何弘敬同平章事。丁未。詔發劉從諫尸。暴於潞州市三日。石雄取其尸置毬場。斬劉之。戊申。加李德裕太尉。趙國公。德裕固辭。上曰：恨無官賞卿耳。卿若不應得。朕必不與卿。初李德裕以韓全義以來。將帥出征屢敗。其弊有三。一者。詔令下軍前者。日有三四。宰相多不預聞。二者。監軍各以意見指揮軍事。將帥不得專進退。三者。每軍各有宦者為監使。悉選軍中驍勇數百為牙隊。其在陣戰鬪者。皆怯弱之士。每戰。監使自有信旗。乘高立馬。以牙隊自衛。視軍勢小却。輒引旗先走。陳從而潰。德裕乃與樞密使楊欽義、劉行深議。約敕監軍。不得預軍政。每兵千人。聽監使取十人自衛。有功。隨例需賞。二樞密皆以為然。白上行之。自禦回鶻。至澤潞罷兵。皆守此制。自非中書進詔意。更無它詔。自中出者。號令既簡。將帥得以施其謀略。故所向有功。自用兵以來。河北三鎮。每遣使者至京師。李德裕常面諭之曰：河朔兵力雖彊。不能自立。須藉朝廷官爵威命。以安軍情。歸語汝使。與其使大將邀宣慰。敕使以求。



官爵何如自奮忠義立功立事結知明主使恩出朝廷不亦榮乎且以耳目所及者言之李載義在幽州爲國家盡忠平滄景及爲軍中所逐不失作節度使後鎮太原位至宰相楊志誠遣大將遮敕使馬求官及爲軍中所逐朝廷竟不赦其罪此二人禍福足以觀矣德裕復以其言白上上曰要當如此明告之由是三鎮不敢有異志○九月詔以澤州隸河陽節度○丁巳盧鈞入潞州鈞素寬厚愛人劉稹未平鈞已領昭義節度襄州士卒在行營者與潞人戰常對陳揚鈞之美及赴鎮入天井關昭義散卒歸之者鈞皆厚撫之人情大洽昭義遂安劉稹將郭誼王協劉公直安全慶李道德李佐堯劉武德董可武等至京師皆斬之

臣光曰董重質之在淮西郭誼之在昭義吳元濟劉稹如木偶人在伎兒之手耳彼二人始則勸人爲亂終則賣主規利其死固有余罪然憲宗用之於前武宗誅之於後臣愚以爲皆失之何則賞姦非義也殺降非信也失義與信何以爲國昔漢光武待王郎劉盆子止於不死知其非力竭則不降故也樊崇徐宣王元牛邯之徒豈非助亂之人乎而光武不殺蓋以既受其降則不可復誅故也若既赦而復逃亡叛亂則其死固無辭矣如誼等免死流之遠方沒齒不還可矣殺之非也

王羽賈庠等已爲誼所殺李德裕復下詔稱逆賊王涯賈餗等已就昭義誅其子孫宣告中外識者非之劉從諫妻裴氏亦賜死又令昭義降將李丕高文端王釗等疏昭義將士與劉稹同惡者悉誅之死者甚衆盧鈞疑其枉濫奏請寬之不從昭義屬城有嘗無禮於王元逵者元逵推求得二十餘人斬之餘衆懼復閉城自守戊辰李德裕等奏寇孽既平盡爲國家城鎮豈可令元逵窮兵攻討望遣中使賜城內將士赦招安之仍詔元逵引兵歸鎮并詔盧鈞自遣使安撫從之乙亥李德裕等請上尊號且言自古帝王成大功必告天地又宣懿太后祔廟陛下未嘗親謁上懼然曰郊廟之禮誠宜亟行至於徽稱非所敢當凡五上表乃許

之○李德裕奏據幽州奏事官言謂知回鶻上下離心可汗欲之安西其部落言親戚皆在唐不如歸唐又與室韋已相失計其不日來降或自相殘滅望遣識事中使賜仲武詔諭以鎮魏已平昭義惟回鶻未滅仲武猶帶北面招討使宜早思立功○李德裕怨太子太傅東都留守牛僧孺湖州刺史李宗閔言於上曰劉從諫據上黨十年太和中入朝僧孺宗閔執政不留之加宰相縱去以成今日之患竭天下力乃能取之皆二人之罪也德裕又使人於潞州求僧孺宗閔與從諫文通書疏無所得乃令孔目官鄭慶言從諫每得僧孺宗閔書疏皆自焚毀詔追慶下御史臺按問中丞李回知雜鄭亞以爲信然河南少尹呂述與德裕書言積破報至僧孺出聲歎恨德裕奏述書上大怒以僧孺爲太子少保分司宗閔爲漳州刺史戊子再貶僧孺汀州刺史宗閔漳州長史○上幸鄆校獵○十一月復貶牛僧孺循州長史李宗閔長流封州○十二月以忠武節度使王宰爲河東節度使河中節度使石雄爲河陽節度使○上幸雲陽校獵

五年春正月己酉朔羣臣上尊號曰仁聖文武章天成功神德明道大孝皇帝尊號始無道字中旨令加之庚戌上謁太廟辛亥祀昊天上帝赦天下○築望仙臺於南郊○庚申義安太后王氏崩○以祕書監盧弘宣爲義武節度使弘宣姓寬厚而難犯爲政簡易其下便之河北之法軍中偶語者斬弘宣至除其法詔賜粟三十萬斛在飛狐西計運致之費踰於粟價弘宣遣吏守之會春旱弘宣命軍民隨意自往取之粟皆入境約秋稔償之時成德魏博皆饑獨易定之境無害○淮南節度使李紳按江都令與湘盜用程糧錢強娶所部百姓顏悅女估其資裝爲贓罪當死湘武陵之兄子也李德裕素惡武陵議者多言其冤諫官請覆按詔遣監察御史崔元藻李稠覆之還言湘盜程糧錢有實顏悅本衢州人嘗爲青州牙推妻亦士族與前獄異德裕以爲無與奪二月貶元藻崔州司戶稠汀州司戶不復更推亦不



付法司詳斷。卽如紳奏處湘死。諫議大夫柳仲郢敬晦皆上疏爭之。不納。稠晉江人。晦所之弟也。○李德裕以柳仲郢爲京兆尹。素與牛僧孺善。謝德裕曰。不意太尉恩獎及此。仰報厚德。敢不如奇章公門館。德裕不以爲嫌。○夏四月壬寅。以陝虢觀察使李拭爲冊詰。曼斯可汗使。○五月壬戌。葬恭僖皇后于光陵柏城之外。○門下侍郎同平章事杜棕罷。爲右僕射。中書侍郎同平章事崔鉉罷。爲戶部尚書。乙丑。以戶部侍郎李回爲中書侍郎。同平章事。判戶部如故。○祠部奏。括天下寺四千六百。蘭若四萬。僧尼二十六萬五百。○黠戛斯可汗爲宗英雄武誠明可汗。○秋七月丙午朔。日有食之。○上惡僧尼耗蠹天下。欲去之。道士趙歸眞等復勸之。乃先毀山野招提蘭若。敕上。都東都兩街各留二寺。每寺留僧三十人。天下節度觀察使治所及同華商汝州各留一寺。分爲三等。上等留僧二十人。中等留十人。下等五人。餘僧及尼并大秦穆護祇僧皆勒歸俗。寺非應留者立期令所在毀撤。仍遣御史分道督之。財貨田產竝沒官。寺材以葺公廡驛舍。銅像鐘磬以鑄錢。○以山南東道節度使鄭肅檢校右僕射。同平章事。○詔發昭義騎兵五百。步兵千五百。成振武節度使盧鈞出至裴村。餞之。潞卒素驕。憚於遠戍。乘醉回旗入城。閉門大譟。鈞奔潞城以避之。監軍王惟直自出曉諭。亂兵擊之傷旬日而卒。李德裕奏。請詔河東節度使王宰以步騎一千守石會關。三千自儀州路據武安。以斷邢洛之路。又令河陽節度使石雄引兵守澤州。河中節度使韋恭甫發步騎千人戍晉州。如此賊必無能爲。皆從之。○八月李德裕等奏。東都九廟神主二十六。今貯於太微宮小屋。請以廢寺材復修太廟。○壬午。詔陳釋教之弊。宣告中外。凡天下所毀寺四千六百餘區。歸俗僧尼二十六萬五百人。大秦穆護祇僧二千餘人。毀招提蘭若四萬餘區。收良田數千萬頃。奴婢十五萬人。所留僧皆隸主客。不隸祠部。百官奉表稱賀。尋又詔。東都止留僧二十人。諸道留二十人者減其半。留十人者減三人。留五人者更不留。五臺僧多亡。

奔幽州。李德裕召進奏官謂曰。汝趣白本使。五臺僧爲將必不如幽州將。爲卒必不如幽州卒。何爲虛取容納之名。染於人口。獨不見近日劉從諫招聚無算。閑人竟有何益。張仲武乃封二刀。付居庸關。曰。有游僧入境。則斬之。主客郎中韋博以爲事不宜太過。李德裕惡之。出爲靈武節度副使。○昭義亂。兵奉都將李文矩爲帥。文矩不從。亂兵亦不散。害文矩。稍以禍福諭之。亂兵漸聽命。乃遣人謝盧鈞於潞城。鈞還入上黨。復遣之。成振武行一驛。乃潛選兵追之。明日及於太平驛。盡殺之。具以狀聞。且請罷河東河陽兵在境上者。從之。○九月。詔修東都太廟。○李德裕請置備邊庫。令戶部歲入錢帛十二萬緡。匹度支鹽鐵歲入錢帛十三萬緡。匹明年減其三分之一。凡諸道所進助軍財貨皆入焉。以度支郎中判之。○王才人寵冠後庭。上欲立以爲后。李德裕以才人寒族。且無子。恐不厭天下之望。乃止。○上餌方士金丹。性加躁急。喜怒不常。冬十月。上問李德裕以外事對曰。陛下威斷不測。外人頗驚懼。羣者寇逆暴橫。固宜以威制之。今天下既平。願陛下以寬理之。但使得罪者無怨。爲善者不驚。則爲寬矣。○以衡山道士劉玄靜爲銀青光祿大夫。崇玄館學士。賜號廣成先生。爲之治崇玄館。置吏鑄印。玄靜固辭。乞還山。許之。○李德裕秉政日久。好徇愛憎。人多怨之。自杜棕崔鉉罷相。宦官左右言其太專。上亦不悅。給事中韋弘質上疏言。宰相權重。不應更領三司錢穀。德裕奏稱。制置職業。人主之柄。弘質受人教導。所謂賤人圖柄。臣非所宜言。十二月。弘質坐貶官。由是衆怒愈甚。○上自秋冬以來。覺有疾。而道士以爲換骨。上祕其事。外人但怪上希復遊獵。宰相奏事者亦不敢久留。詔罷來年正旦朝會。○吐蕃論恐熱復糾合諸部。擊尙婢婢。婢遣厖結藏將兵五千拒之。恐熱大敗。與數十騎遁去。婢婢傳檄河湟。數恐熱殘虐之罪。曰。汝輩本唐人。吐蕃無主。則相與歸唐。母爲恐熱所獵。如狐兔也。於是諸部從恐熱者稍稍引去。○是歲。天下戶四百九十五萬五千一百五十一。○朝廷雖爲黨項置使。黨項侵盜不



已攻陷邠寧鹽州界城堡。屯叱利寨。宰相請遣使宣慰。上決意討之。六年春二月庚辰。以夏州節度使米暨爲東北道招討党項使。○上疾久未平。以爲漢火德。改洛爲雒。唐土德。不可。以王氣勝。君名三月。下詔改名炎。上自正月乙卯。不視朝。宰相請見。不許。中外憂懼。初。憲宗納李錡妾鄭氏。生光王怡。怡幼時。宮中皆以爲不慧。大和以後。益自韜匿。羣居遊處。未嘗發言。文宗幸十六宅。宴集好誘其言。以爲戲笑。上性豪邁。尤所不禮。及上疾篤。旬日不能言。諸宦官密於禁中定策。辛酉。下詔稱。皇子冲幼。須選賢德。光王怡可立。爲皇太叔。更名忱。應軍國政事。令權句當。太叔見百官。哀戚滿容。裁決庶務。咸當於理。人始知有隱德焉。甲子。上崩。以李德裕攝冢宰。丁卯。宣宗卽位。宣宗素惡李德裕之專。卽位之日。德裕奉冊既罷。謂左右曰。適近我者非太尉邪。每顧我。使我毛髮洒淅。夏四月辛未朔。上始聽政。○尊母鄭氏爲皇太后。○壬申。以門下侍郎同平章政事李德裕同平章事。充荆南節度使。德裕秉權日久。位重有功。衆不謂其遽罷。聞之。莫不驚駭。甲戌。貶工部尚書判鹽鐵轉運使薛元賞爲忠州刺史。弟京兆少尹權知府事元龜爲崖州司戶。皆德裕之黨也。○杖殺道士趙歸真等數人。流羅浮山人軒轅集于嶺南。○五月乙巳。赦天下。○上京兩街先聽留兩寺外。更各增置八寺。僧尼依前隸功德使。不隸主客所度僧尼。仍令祠部給牒。○以翰林學士兵部侍郎白敏中同平章事。○辛酉。立皇子溫爲鄆王。溆爲雅王。滋爲夔王。沂爲慶王。○六月。禮儀使奏。請復代宗神主於太廟。以敬宗文宗武宗同爲一代。於廟東增置兩室。爲九代十一室。從之。○秋七月壬寅。淮南節度使李紳薨。○回鶻烏介可汗之衆稍稍降散。及凍餒死。所餘不及三千人。國相逸隱殺烏介於金山。立其弟特勒遏捻爲可汗。○八月壬申。葬至道昭肅孝皇帝於端陵。廟號武宗。初。武宗疾困。顧王才人曰。我死汝當如何。對曰。願從陛下於九泉。武宗以巾授之。武宗崩。才人卽縊。上聞而矜之。贈貴妃。葬於端陵柏城之內。○以循州司

馬牛僧孺爲衡州長史。封州流人李宗閔爲郴州司馬。恩州司馬崔瑛爲安州長史。潮州刺史楊嗣復爲江州刺史。昭州刺史李珣爲郴州刺史。僧孺等五相皆武宗所貶逐。至是同日北遷。宗閔未離封州而卒。○九月。以荆南節度使李德裕爲東都留守。解平章事。以中書侍郎同平章事鄭肅同平章事。充邢南節度使。○以兵部侍郎判度支盧商爲中書侍郎。同平章事。商。翰之族孫也。○冊黠戛斯可汗使者。以國喪未行。或以爲僻遠小國。不足與之抗衡。回鶻未平。不應遽有建置。詔百官集議。事遂寢。○蠻寇安南。經略使裴元裕帥鄰道兵討之。○以右常侍李景讓爲浙西觀察使。初。景讓母鄭氏性嚴明。早寡。家貧。居於東都。諸子皆幼。母自教之。宅後古牆。因雨墮陷。得錢盈船。奴婢喜。走告母。母往焚香祝之曰。吾聞無勞而獲。身之災也。天必以先君餘慶矜其貧而賜之。則願諸孤他日學問有成。乃其志也。此不敢取。遽命掩而築之。三子景讓。景溫。景莊皆舉進士。及第。景讓官遠。髮已斑白。小有過。不免捶楚。景讓在浙西。有左都押牙。汪景讓意。景讓杖之而斃。軍中憤怒。將爲變。母聞之。景讓方視事。母出坐聽事。立景讓於庭。而責之曰。天子付汝以方面。國家刑法。豈得以爲汝喜怒之資。妄殺無罪之人乎。萬一一致一方不寧。豈惟上負朝廷。使垂年之母。銜羞入地。何以見汝之先人乎。命左右。褫其衣。坐之。將撻其背。將佐皆爲之請。拜且泣。久乃釋之。軍中由是遂安。景莊老於場屋。每被黜。母輒撻景讓。然景讓終不肯屬。主司曰。朝廷取士。自有公道。豈敢求人求關節乎。久之。宰相謂主司曰。李景莊今歲不可不收。可憐彼翁每歲受撻。由是始及第。○冬十月。禮院奏。禘祭祝文。於稽敬文武四室。但稱嗣皇帝。臣某昭告。從之。○甲申。上受三洞法錄於衡山道士劉玄靜。○十二月戊辰朔。日有食之。



宣宗元聖至明成武獻文睿智章仁神

聰懿道大孝皇帝上

大中元年春正月甲寅上祀圓丘赦天下改元○二月加盧龍節度使張仲武同平章事賞其破回鶻也○癸未上以旱故減膳徹樂出宮女縱鷹隼止營繕命書侍郎同平章事盧商與御史中丞封敖疎理京城繫囚大理卿馬植奏稱盧商等務行寬宥凡抵極法一切免死彼官典犯賊及故殺人平日大赦所不免今因疎理而原之使貪吏無所懲畏死者銜冤無告恐非所以消旱災致和氣也昔周饑克殷而年豐衛旱討邢而雨降是則誅罪戮姦式合天意雪冤決滯乃副聖心也乞再加裁定詔兩省五品以上議之○初李德裕執政引白敏中為翰林學士及武宗崩德裕失勢敏中乘上下之怒竭力排之使其黨李咸訟德裕罪德裕由是自東都留守為太子少保分司○左諫議大夫張鷟等上言陛下以早理繫囚慮有冤滯今所原死罪無冤可雪恐凶險僥倖之徒常思水旱為災宜如馬植所奏詔從之皆論如法以植為刑部侍郎充鹽鐵轉運使植素以文學政事有名於時李德裕不之重及白敏中秉政凡德裕所薄者皆不次用之以盧商為武昌節度使以刑部尚書判度支崔元式為門下侍郎翰林學士戶部侍郎韋琮為中書侍郎竝同平章事○閏月敕應會昌五年所廢寺有僧能營葺者聽自居之有司毋得禁止是時君相務反會昌之政故僧尼之弊皆復其舊○己酉積慶太后蕭氏崩○五月幽州節度使張仲武大破諸奚○吐蕃論恐熱乘武宗之喪誘黨項及回鶻餘衆寇河西詔河東節度使王宰將代北諸軍擊之宰以沙陀邪朱赤心為前鋒自麟州濟河與恐熱戰於鹽州破走之○六月以鴻臚卿李業為冊點夏斯英武誠明可汗使○上謂白敏中曰朕昔從憲宗之喪道遇風雨百官六宮四散避去惟山陵使

長而多髯攀靈駕不去誰也對曰令狐楚上曰有子乎對曰長子緒今為隨州刺史上曰堪為相乎對曰緒少病風痺次子綯前湖州刺史有才器上即擢為考功郎中知制誥綯入謝上問以元和故事綯條對甚悉上悅遂有大用之意○秋八月丙申以門下侍郎同平章事李回同平章事充西川節度使○葬貞獻皇后於光陵之側○上敦睦兄弟作雍和殿於十六宅數臨幸置酒作樂擊毬盡歡諸王有疾常親至臥內存問憂形於色○突厥掠漕米及行商振武節度使史憲忠擊破之○九月丁卯以金吾大將軍鄭光為平盧節度使光潤州人太后之弟也○乙酉前永寧尉吳汝納訟其弟湘罪不至死李紳與李德裕相表裏欺罔武宗枉殺臣弟乞召江州司戶崔元藻等對辨丁亥敕御史臺鞠實以聞冬十二月庚戌御史臺奏據崔元藻所列吳湘冤狀如吳汝納之言戊午貶太子少保分司李德裕為潮州司馬○吏部奏會昌四年所減州縣官內復增三百八十三員○二年春正月甲子羣臣上尊號曰聖敬文思和武光孝皇帝赦天下○初李德裕執政有薦丁柔立清直可任諫官者德裕不能用上即位柔立為右補闕德裕貶潮州柔立上疏訟其冤丙寅坐阿附貶南陽尉○西川節度使李回桂管觀察使鄭亞坐前不能直吳湘冤乙酉回左遷湖南觀察使亞貶循州刺史李紳追奪三任告身中書舍人崔暉坐草李德裕制不盡言其罪己丑貶端州刺史○回鶻遏捻可汗仰給於奚王石舍朗及張仲武大破奚衆回鶻無所得食日益耗散至是所存貴人以下不滿五百人依於室韋使者入賀正過幽州張仲武使歸取遏捻等遏捻聞之夜與妻葛祿子特勒毒斯等九騎西走餘衆追之不及相與大哭室韋分回鶻餘衆為七七姓共分之居三日黠戛斯遣其相阿播帥諸胡兵號七萬來取回鶻大破室韋悉收回鶻餘衆歸磧北猶有數帳潛竄山林鈔盜諸胡其別部彪勒先在安西亦自稱可汗居甘州總磧西諸城種落微弱時入獻見○二月庚子以知制誥令狐綯為



翰林學士。上嘗以太宗所撰金鏡授綯。使讀之。至亂未嘗不任。不肖。至治未嘗不任。忠賢。上止之曰。凡求致太平。當以此言爲首。又書貞觀政要於屏風。每正色拱手而讀之。上欲知百官名數。令狐綯曰。六品已下。官卑數多。皆吏部注擬。五品以上。則政府制授。各有籍。命曰具員。上命宰相。作具員御覽五卷。上之。常寘於案上。○立皇子澤爲濮王。上欲作五王院於大明宮。以處皇子之幼者。召術士柴嶽明。使相其地。嶽明對曰。臣庶之家。遷徙不常。故有自陽宅。入陰宅。陰宅入陽宅。刑克禍福。師有其說。今陛下深拱法宮。萬神擁衛。陰陽書本不言帝王家。上善其言。賜束帛遣之。○夏五月己未朔。日有食之。○門下侍郎同平章事崔元式罷。爲戶部尚書。以兵部侍郎判度支部周墀。刑部侍郎鹽鐵轉運使馬植。并同平章事。初墀爲義成節度使。辟韋澳爲判官。及爲相。謂澳曰。力小任重。何以相助。澳曰。願相公無權。墀愕然。不知所謂。澳曰。官賞刑罰。與天下共。其可。勿以己之愛憎喜怒移之。天下自理。何權之有。墀深然之。澳貫之。子也。○己卯。太皇太后郭氏崩於興慶宮。六月。禮院檢討官王皞。以鄭太后故。不欲以郭后祔憲宗。有司請葬景陵外園。皞奏。宜合葬景陵。神主配憲宗室。奏入。上大怒。白敏中召皞詰之。皞曰。太皇太后。汾陽王之孫。憲宗在東宮。爲正妃。逮事順宗。爲婦。憲宗厭代之夕。事出曖昧。太皇太后母天下。歷五朝。豈得以曖昧之事。遽廢正嫡之禮乎。敏中怒甚。皞辭氣愈厲。諸相會食。周墀立於敏中之門。以俟之。敏中使謝曰。方爲一書生所苦。公弟先行。墀入。至敏中廳。問其事。見皞爭辨方急。墀舉手加額。歎曰。孤直。明日。皞坐貶官。○秋九月甲子。再貶潮州司馬李德裕爲崖州司戶。湖南觀察使李回爲賀州刺史。○前鳳翔節度使石雄。詣政府。自陳黑山烏嶺之功。求一鎮以終老。執政以雄李德裕所薦。曰。韓日

之功。朝廷以蒲孟岐三鎮酬之。足矣。除左神武統軍。雄快快而薨。○十一月庚午。萬壽公主適起居郎鄭顥。顥。綱之孫。登進士第。爲校書郎。右拾遺。內供奉。以文雅著稱。公主上之愛女。故選顥尚之。有司循舊制。請用銀裝車。上曰。吾欲以儉約化天下。當自親者始。令依外命婦。以銅裝車。詔公主執婦禮。皆如臣庶之法。戒以母得輕。夫族母得預時事。又申以手詔曰。苟違吾戒。心有不安。樂之禍。顥弟顥。嘗得危疾。上遣使視之。還問公主何在。曰。在慈恩寺觀戲場。上怒。歎曰。我怪士大夫家不欲與我家爲昏。良有以也。亟命召公主入宮。立之階下。不之視。公主懼。涕泣謝罪。上責之曰。豈有小郎病。不往省視。乃觀戲乎。遣歸鄭氏。由是終上之世。貴戚皆兢兢守禮法。如山東衣冠之族。○壬午。葬懿安皇后於景陵之側。○以中書侍郎同平章事韋琮爲太子賓客分司。○十二月。鳳翔節度使崔珙奏。破吐蕃。克清水。清水先隸秦州。詔以本州未復。權隸鳳翔。○上見憲宗朝公卿子孫。多擢用之。刑部員外郎杜勝次對。上問其家世。對曰。臣父黃裳。首請憲宗監國。卽除給事中。翰林學士裴諗。度之子也。上幸翰林。面除承旨。○吐蕃論恐熱遣其將莽羅急藏。將兵二萬。略地西鄙。尙婢婢遣其將拓拔懷光。擊之於南谷。大破之。急藏降。三年春正月。上與宰相論元和循吏。孰爲第一。周墀曰。臣嘗守土江西。聞觀察使韋丹功德。被於八州。沒四十年。老稚歌思。如丹尙存。乙亥。詔史館修撰杜牧。撰丹遺愛碑。以紀之。仍擢其子河陽觀察判官宙爲御史。○二月。吐蕃論恐熱軍於河州。尙婢婢軍於河源軍。碑碑諸將欲擊恐熱。婢婢曰。不可。我軍驟勝而輕敵。彼窮困而致死。戰必不利。諸將不從。碑碑知其必敗。據河橋以待之。諸將果敗。婢婢收餘衆。焚橋歸鄯州。○吐蕃秦原安樂三州。及石門等七關來降。以太僕卿陸耽爲宣諭使。詔涇原靈武鳳翔邠寧振武。皆出兵應接。○河東節度使王宰入朝。以貨結權倖。求以使相領宣武。刑部尙書同平章事周墀上疏論之。宰遂還鎮。



駙馬都尉韋讓。求爲京兆尹。堉言。京兆尹非才望不可爲。讓議竟寢。堉又諫。上開邊。由是忤旨。夏四月。以堉爲東川節度使。以御史大夫崔鉉爲中書侍郎。同平章事。兵部侍郎判戶部魏扶。同平章事。○癸巳。盧龍奏。節度使張仲武薨。軍中立其子節度押牙直方。○翰林學士鄭顥言於上曰。周堉以直言入相。亦以直言罷相。上深感悟。甲午。堉入謝。加校校右僕射。○戊戌。以張直方爲盧龍留後。○五月。徐州軍亂。逐節度使李廓。廓程之子也。在鎮不治。右補闕鄭魯。上言其狀。且曰。臣恐新麥未登。徐師必亂。速命良帥救此一方。上未之省。徐州果亂。上思魯言。擢爲起居舍人。以義成節度使盧弘止爲武寧節度使。武寧士卒素驕。有銀刀都尤甚。屢逐主帥。弘止至鎮。都虞候胡慶方復謀作亂。弘止誅之。撫循其餘。訓以忠義。軍府由是獲安。○六月。戊申。以張直方爲盧龍節度使。○涇原節度使康季榮。取原州。及石門。驛藏木峽。制勝。六磬。石峽。六關。秋七月。丁巳。靈武節度使朱叔明。取長樂州。甲子。邠寧節度使張君緒。取蕭關。甲戌。鳳翔節度使李玘。取秦州。詔邠寧節度。權移軍於寧州。以應接河西。○八月。乙酉。改長樂州爲威州。河隴老幼千餘人詣闕。己丑。上御延喜門樓。見之。歡呼舞躍。解胡服。襲冠帶。觀者皆呼萬歲。詔募百姓墾闢三州七關土田。五年不租稅。自今京城罪人。應配流者。皆配十處。四道將吏。能於鎮戍之地。營田者。官給牛及種糧。溫池鹽利。可贍邊陲。委度支制置。其三州七關鎮戍之卒。皆倍給衣糧。仍二年一代。道路建置堡柵。有商旅往來。販易及戍卒子弟。通傳家信。關鎮毋得留難。其山南劍南邊境。有沒蕃州縣。亦令量力收復。○冬。十月。改備邊庫爲延資庫。○西川節度使杜棕奏。取維州。○閏十一月。丁酉。宰相以克復河湟。請上尊號。上曰。憲宗常有志復河湟。以中原方用兵。未遂而崩。今乃克成先志耳。其議加順憲二廟尊諡。以昭功烈。○盧龍節度使張直方。暴忍遊獵。軍中將作亂。直方知之。託言出獵。遂舉族逃歸京師。軍中推牙將周琳爲留後。直方至京師。拜金吾大將軍。○甲戌。追上

順宗諡曰至德弘道大聖大安孝皇帝。憲宗諡曰昭文章武大聖至神孝皇帝。仍改題神主。○己未。崖州司戶李德裕卒。○山南西道節度使鄭涯奏。取扶州。

資治通鑑卷第二百四十八

唐紀 宣宗元聖至明成武獻文睿智章仁神聰懿道大孝皇帝上大中三年



# 資治通鑑卷第二百四十九

## 唐紀六十五

宣宗元聖至明成武獻文睿智章仁

神聰懿道大孝皇帝下

大中四年春正月庚辰朔赦天下。○二月以秦州隸鳳翔。○夏四月庚戌以中書侍郎同平章事馬植爲天平節度使。上之立也左軍中尉馬元贇有力焉。由是恩遇冠諸宦者。植與之敘宗姓。上賜元贇寶帶。元贇以遺植。植服之以朝。上見而識之。植變色不敢隱。明日罷相。收植親吏董侔。下御史臺鞠之。盡得植與元贇交通之狀。再貶常州刺史。○六月戊申兵部侍郎同平章事魏扶薨。以戶部尚書判度支崔龜從同平章事。○秋八月以白敏中判延資庫。○盧龍節度使周緜薨。軍中表請以押牙兼馬步都知兵馬使張允伸爲留後。九月丁酉從之。○党項爲邊患。發諸道兵討之。連年無功。成饋不已。右補闕孔溫裕上疏切諫。上怒。貶柳州司馬。溫裕。戮之兄子也。○吐蕃論恐熱遣僧莽羅蘭真將兵於雞項關南造橋以擊尙婢婢軍於白土嶺。婢婢遣其將尙鐸羅楊藏將兵據臨蕃軍以拒之。不利。復遣磨離罷子燭盧鞏力將兵據斄牛峽以拒之。鞏力請按兵拒險。勿與戰。以奇兵絕其糧道。使進不得戰。退不得還。不過旬月。其衆必潰。罷子不從。鞏力曰。吾寧爲不用之人。不爲敗軍之將。稱疾歸鄯州。罷子逆戰敗死。婢婢糧乏。留拓跋懷光守鄯州。帥部落三千餘人。就水草於甘州。西恐熱聞。

婢婢棄鄯州。自將輕騎五千追之。至瓜州。聞懷光守鄯州。遂大掠河西鄯廓等八州。殺其丁壯。剽別其羸老及婦人。以粟貫嬰兒爲戲。焚其室廬。五千里間。赤地殆盡。○冬十月辛未。以翰林學士承旨兵部侍郎令狐綯同平章事。○十一月壬寅。以翰林學士劉瑑爲京西招討党項行營宣慰使。○以盧龍留後張允伸爲節度使。○十二月。以鳳翔節度使李業。河東節度使李拭。並兼招討党項使。○吏部侍郎孔溫業。白執政。求外官。白敏中謂同列曰。我輩須自檢點。孔吏部不肯居朝廷矣。溫業。戮之弟子也。五年春正月壬戌。天德軍奏。攝沙州刺史張義潮遣使來降。義潮。沙州人也。時吐蕃大亂。義潮陰結豪傑。謀自拔歸唐。一旦帥衆被甲。諫於州門。唐人皆應之。吐蕃守將驚走。義潮遂攝州事。奉表來降。以義潮爲沙州防禦使。○以兵部侍郎裴休爲鹽鐵轉運使。休。肅之子也。自大和以來。歲運江淮米。不過四十萬斛。吏卒侵盜沈沒。舟達渭倉者。什不三四。大墮劉晏之法。休窮究其弊。立漕法十條。歲運米至渭倉者。百二十萬斛。○上頗知党項之反。由邊帥利其羊馬。數欺奪之。或妄誅殺。党項不勝憤怨。故反。乃以右諫議大夫李福爲夏綏節度使。自是繼選儒臣。以代邊帥之貪暴者。行日。復面加戒勵。党項由是遂安。福。石之弟也。○上以南山平夏。党項久未平。頗厭用兵。崔鉉建議。宜遣大臣鎮撫。三月。以白敏中爲司空。同平章事。充招討党項行營都統。制置等使。南北兩路供軍使。兼邠寧節度使。敏中請用裴度故事。擇廷臣爲將佐。許之。夏四月。以左諫議大夫孫景商爲左庶子。充邠寧行軍司馬。知制誥蔣伸爲右庶子。充節度副使。伸。係之弟也。初。上令白敏中爲萬壽公主選佳婿。敏中薦鄭顥。時顥已昏盧氏。行至鄭州。堂帖追還。顥甚銜之。由是數毀敏中於上。敏中將赴鎮。言於上曰。鄭顥不樂尙主。怨臣入骨髓。臣在政府。無如臣何。今臣出外。顥必中傷。臣死無日矣。上曰。朕知之久矣。卿何言之晚邪。命左右於禁中取小檉函。以授敏中曰。此皆鄭郎譖卿之書也。朕若信



之。豈任卿以至今日。敏中歸。置檉函于佛前。焚香事之。敏中軍於寧州。壬子。定遠城使史元破党項九千餘帳於三交谷。敏中奏。党項平。辛未。詔平夏党項已就安帖。南山党項。聞出山者。迫於饑寒。猶行鈔掠。平夏不容。窮無所歸。宜委李福存諭。於銀夏境內。授以閑田。如能革心向化。則撫如赤子。從前爲惡。一切不問。或有抑屈。聽於本鎮。投牒自訴。若再犯疆場。或復入山林。不受教令。則誅討無赦。將吏有功者。甄獎。死傷者。優恤。靈夏邠鄜四道百姓。給復三年。鄰道量免租稅。歸由邊將貪鄙。致其怨叛。自今當更擇廉良。撫之。若復致侵叛。當先罪邊將。後討寇虜。吐蕃論恐熱殘虐。所部多叛。拓跋懷光使人說誘之。其衆或散居部落。或降於懷光。恐熱勢孤。乃揚言於衆曰。吾今入朝於唐。借兵五十萬。來誅不服者。然後以渭州爲國城。請唐冊我爲贊普。誰敢不從。五月。恐熱入朝。上遣左丞李景讓就禮賓院問所欲。恐熱氣色驕倨。言語荒誕。求爲河渭節度使。上不許。召對三殿。如常日。胡客勞賜遣還。恐熱怏怏而去。復歸落門川。聚其舊衆。欲爲邊患。會久雨乏食。衆稍散。纔有三百餘人。奔於廓州。六月。立皇子潤爲鄂王。○進士孫樵上言。百姓男耕女織。不自溫飽。而羣僧安坐華屋。美衣精饌。率以十戶不能養一僧。武宗憤其然。髮十七萬僧。是天下一百七十萬戶。始得蘇息也。陛下卽位以來。修復廢寺。天下斧斤之聲。至今不絕。度僧幾復其舊矣。陛下縱不能如武宗除積弊。奈何興之於已廢乎。日者。陛下欲修國東門。諫官上言。遽爲罷役。今所復之寺。豈若東門之急乎。所役之功。豈若東門之勞乎。願早降明詔。僧未復者。勿復。寺未修者。勿修。庶幾百姓猶得以息肩也。秋七月。中書門下奏。陛下崇奉釋氏。羣下莫不奔走。恐財力有所不逮。因之生事。擾人。望委所在長吏。量加撙節。所度僧。亦委選擇。有行業者。若容凶麤之人。則更非敬道也。鄉村佛舍。請罷兵日修。從之。○八月。白敏中奏。南山党項亦請降。時用兵歲久。國用頗乏。詔并赦南山党項。使之安業。○冬十月乙卯。中書門下奏。今邊事已息。而州府諸寺。尙

未畢功。望且令成之。其大縣遠於州府者。聽置一寺。其鄉村毋得更置佛舍。從之。○戊辰。以戶部侍郎魏謩同平章事。仍判戶部。時上春秋已高。未立太子。羣臣莫敢言。謩入謝。因言。今海內無事。惟未建儲副。使正人輔導。臣竊以爲憂。且泣。時人重之。○蓬果羣盜。依阻雞山。寇掠三川。以果州刺史王贇弘充三川行營都知兵馬使。以討之。○制。以党項既平。罷白敏中都統。但以司空平章事充邠寧節度使。○張義潮發兵。略定其旁瓜伊西甘肅蘭鄯河岷廓十州。遣其兄義澤奉十一州圖籍入見。於是河湟之地。盡入於唐。十一月。置歸義軍於沙州。以義潮爲節度使。十一州觀察使。又以義潮判官曹義金爲歸義軍長史。○以中書侍郎同平章事崔龜從同平章事。充宣武節度使。○右羽林統軍張直方。坐出獵累日。不還宿衛。貶左驍衛將軍。

六年春二月。王贇弘討雞山賊。平之。是時。山南西道節度使封敖奏。巴南妖賊。言辭悖慢。上怒甚。崔鉉曰。此皆陛下赤子。迫於飢寒。盜弄陛下兵於谿谷間。不足辱大軍。但遣一使者。可平矣。乃遣京兆少尹劉潼詣果州。招諭之。潼上言。請不發兵攻討。且曰。今以日月之明。燭愚迷之衆。使之稽顙歸命。其勢甚易。所慮者。武臣恥不戰之功。議者責欲速之效耳。潼至山中。盜彎弓待之。潼屏左右。直前曰。我面受詔。赦汝罪。使汝復爲平人。聞汝木弓射二百步。今我去汝十步。汝真欲反者。可射我。賊皆投弓。列拜請降。潼歸館。而王贇弘與中使似先義逸。引兵已至山下。竟擊滅之。○三月。勅。先賜右衛大將軍鄭光鄠縣及雲陽莊。並免稅役。中書門下奏。以爲稅役之法。天下皆同。陛下屢發德音。欲使中外畫一。今獨免鄭光似稍乖前意。事雖至細。繫體則多。勅曰。朕以鄭光元舅之尊貴。欲優異。令免征稅。初不細思。況親戚之間。人所難議。卿等苟非愛我。豈進嘉言。庶事能盡如斯。天下何憂不理。有始有卒。當共守之。並依所奏。○夏四月甲辰。以邠寧節度使白敏中爲西川節度使。○湖南奏。團練副使馮少端。討



衡州賊帥鄧裴平之。○党項復擾邊。上欲擇可爲邠寧帥者。而難其人。從容與翰林學士中書舍人須昌畢誠論邊事。誠援古據今。具陳方略。上悅。曰。吾方擇帥。不意頗牧近在禁廷。鄉其爲朕行乎。誠欣然奉命。上欲重其資履。六月壬申。先以誠爲刑部侍郎。癸酉。乃除邠寧節度使。○雍王泚薨。追諡靖懷太子。○河東節度使李業。縱吏民侵掠雜虜。又妄殺降者。由是北邊擾動。閏月庚子。以太子少師盧鈞爲河東節度使。業內有所恃。人莫敢言。魏謩獨請貶黜。上不許。但徙義成節度使。盧鈞奏。度支郎中韋宙爲副使。宙徧詣塞下。悉召酋長。諭以禍福。禁唐民毋得入虜境。侵掠犯者必死。雜虜由是遂安。掌書記李璋杖一牙職。明日。牙將百餘人。訴於鈞。鈞杖其爲首者。謫戍外鎮。餘皆罰之。曰。邊鎮百餘人。無故橫訴。不可不抑。璋絳之子也。○八月甲子。以禮部尙書裴休同平章事。○獠寇昌資二州。○冬十月。邠寧節度使畢誠奏。招諭党項皆降。○驍衛將軍張直方。坐以小過屢殺奴婢。貶恩州司戶。○十一月。立憲宗子惛爲棣王。○十二月。中書門下奏。度僧不精。則戒法墮壞。造寺無節。則損費過多。請自今諸州。準元敕許置寺外。有勝地靈迹。許修復。繁會之縣。許置一院。嚴禁私度僧尼。若官度僧尼有闕。則擇人補之。仍申祠部給牒。其欲遠遊尋師者。須有本州公驗從之。

七年春正月戊申。上祀圓丘。赦天下。○夏四月丙寅。敕自今法司處罪。用常行杖。杖脊一折。法杖十杖。醫一折。答五。使吏用法有常準。○冬十二月。左補闕趙璘。請罷來年元會。止御宣政。上以問宰相。對曰。元會大禮。不可罷。況天下無事。上曰。近華州奏有賊。光火劫下邳。關中少雪。皆朕之憂。何謂無事。雖宜政亦不可御也。○上事鄭太后甚謹。不居別宮。朝夕奉養。舅鄭光。歷平盧河中節度使。上與之論爲政。光應對鄙淺。上不悅。留爲右羽林統軍使。奉朝請。太后數言其貧。上輒厚賜金帛。終不復任以民官。○度支奏。自河湟平。每歲天下所納錢九百二十五萬餘緡。內五百五十萬餘緡租稅。八十二萬餘緡權酷。二百七十八萬餘緡鹽利。

八年春正月丙戌朔。日有食之。罷元會。○上自卽位以來。治法憲宗之黨。宦官外戚。乃至東宮官屬。誅竄甚衆。慮人情不安。丙申。詔長慶之初。亂臣賊子。頃搜擿餘黨。流竄已盡。其餘族從疎遠者。一切不問。○二月中書門下奏。拾遺補闕缺員。請更增補。上曰。諫官要在舉職。不必人多。如張道符。牛叢。趙璘輩數人。使朕日聞所不聞。足矣。叢。僧孺之子也。久之。叢自司勳員外郎。出爲陸州刺史。入謝。上賜之紫。叢既謝。前言曰。臣所服緋。刺史所借也。上遽曰。且賜緋。上重惜服章。有司常具緋紫衣數襲。從行。以備賞賜。或半歲不用其一。故當時以緋紫爲榮。上重翰林學士。至于遷官。必校歲月。以爲不可以官爵私近臣也。○秋九月丙戌。以右散騎常侍高少逸爲陝虢觀察使。有敕使過硤石。怒餅黑。鞭驛吏。見血。少逸封其餅。以進。敕使還。上責之曰。深山中。如此。豈易得。適配恭陵。○立皇子洽爲懷王。洎爲昭王。汝爲康王。○上獵于苑北。遇樵夫。問其縣。曰。涇陽人也。令爲誰。曰。李行言。爲政何如。曰。性執。有強盜數人。軍家索之。竟不與。盡殺之。上歸。帖其名于寢殿之柱。冬十月。行言除海州刺史。入謝。上賜之金紫。問曰。卿知所以衣紫乎。對曰。不知。上命取殿柱之帖示之。○上以甘露之變。惟李訓鄭注當死。自餘王涯賈餗等無罪。詔皆雪其冤。上召翰林學士韋澳。託以論詩。屏左右。與之語曰。近日外間。謂內侍權勢何如。對曰。陛下威斷。非前朝之比。上閉目搖首曰。全未。全未。尙畏之在。卿謂策將安出。對曰。若與外廷議之。恐有太和之變。不若就其中。擇有才識者。與之謀。上曰。此乃末策。自衣黃衣綠衣。至衣緋。皆感恩。纔衣紫。則相與爲一矣。上又嘗與令狐綯謀。盡誅宦官。綯恐濫及無辜。密奏曰。但有罪勿捨。有闕勿補。自然漸耗。至于盡矣。宦者竊見其奏。由是益與朝士相惡。南北司如水火矣。

九年春正月甲申。成德軍奏。節度使王元逵薨。軍中立其子節度副使紹鼎。癸卯。以紹鼎爲成德留後。○二月。以醴泉令李君奭爲懷州刺史。初。上校獵渭上。有父老以十數。聚于佛祠。



上問之。對曰：醴泉百姓也。縣令李君夷有異政，考滿當罷，詣府乞留，故此祈佛，冀諸所願耳。及懷州刺史闕，上手筆除君夷，宰相莫之測。君夷入謝，上以此將厲衆，始知之。○三月，詔邠寧節度使畢誠還邠州，先是，以河湟初附，黨項未平，移邠寧軍于寧州，至是，南山平夏皆安，威鹽武三州軍食足，故令還理所。○夏，閏四月，詔以州縣差役不均，自今每縣據人貧富，及役輕重，作差科簿，送刺史檢署訖，鑱於令廳，每有役事，委令據簿定差。○五月，丙寅，以王紹鼎爲成德節度使。○上聰察彊記，宮中廝役給灑掃者，皆能識其姓名，才姓所任，呼召使令，無差誤者。天下奏獄吏卒姓名，一覽皆記之。度支奏漬汚帛，誤書漬爲清，樞密承旨孫隱中謂上不之見，輒足成之。及中書覆入，上怒，推按擅改章奏者，罰謫之。上密令翰林學士韋澳纂次諸州境土風物，及諸利害，爲一書，自寫而上之。雖子弟不知也。號曰處分語，它日鄧州刺史薛弘宗入謝，出謂澳曰：上處分本州事，驚人，澳詢之，皆處分語中事也。澳在翰林，上或遣中使宣旨，草詔事有不可者，澳輒曰：茲事須降御札，方敢施行。淹留至旦，上疏論之。上多從之。○秋，七月，浙東軍亂，逐觀察使李訥，訥之弟子也。性卞急，遇將士不以禮，故亂作。○淮南饑，民多流亡，節度使杜棕荒于遊宴，政事不治。上聞之，甲午，以門下侍郎同平章事崔鉉同平章事，充淮南節度使。丁酉，以棕爲太子太傅分司。○九月，乙亥，貶李訥爲朗州刺史，監軍王崇景杖四十，配恭陵。仍詔自今戎臣失律，并坐監軍，以禮部侍郎沈詢爲浙東觀察使，詢，傅師之子也。○冬，十一月，以吏部侍郎柳仲郢爲兵部侍郎，充鹽鐵轉運使，有閭閻醫工劉集，因緣交通禁中，上敕鹽鐵補場官，仲郢上言：醫工術精，宜補醫官，若委務銅鹽，何以課其殿最。且場官賤品，非特救所宜親，臣未敢奉詔。上遽批劉集宜賜絹百匹，遣之。它日見仲郢勞之曰：卿論劉集事甚佳，上嘗苦不能食，召醫工梁新診脈，治之，數日良已。新因自陳求官，上不許，但敕鹽鐵使月給錢三十緡而已。○右威衛大將軍康季榮前爲涇原節度使，

擅用官錢二百萬緡，事覺，季榮請以家財償之。上以季榮有開河湟功，許之。給事中封還敕書，諫官亦上言。十二月，庚辰，貶季榮夔州長史。○江西觀察使鄭祗德以其子顥尚主通顯，固求散地。甲午，以祗德爲賓客分司。十年，春，正月，丁巳，以御史大夫鄭朗爲工部尚書，同平章事。○上命裴休極言時事，休請早建太子。上曰：若建太子，則朕遂爲閑人，休不敢復言。二月，丙戌，休以疾辭位，不許。○三月，辛亥，詔以回鶻有功於國，世爲昏姻，稱臣奉貢，北邊無警，會昌中，虜廷喪亂，可汗奔亡，屬姦臣當軸，遽加殄滅，近有降者，云已厯歷，今爲可汗，尙寓安西，俟其歸復牙帳，當加冊命。○上以京兆久不理，夏，五月，丁卯，以翰林學士工部侍郎韋澳爲京兆尹。澳爲人正直，既視事，豪貴斂手。鄭光莊吏恣橫，積年租稅不入，澳執而械之，上於延英問澳，澳具奏其狀。上曰：卿何以處之。澳曰：欲寘于法。上曰：鄭光甚愛之，何如。對曰：陛下自內庭，用臣爲京兆，欲以清畿甸之積弊，若鄭光莊吏積年爲蠹，得寬重辟，是陛下之法，獨行于貧戶，臣未敢奉詔。上曰：誠加此，但鄭光殆我不置，卿與痛杖，貸其死，可乎。對曰：臣不敢不奉詔，願聽臣且繫之，俟徵足，乃釋之。上曰：灼然可，朕爲鄭光，故撓卿法，殊以爲愧。澳歸府，即杖之，督租數百斛足，乃以吏歸光。○六月，戊寅，以中書侍郎同平章事裴休同平章事，充宣武節度使。○司農卿韋廩欲求夏州節度使，有術士知之，詣廩門曰：吾善醮星辰，求官無不如意。廩信之，夜設醮具于庭。術士曰：請公自書官階一通，既得之，仰天大呼曰：韋廩有異志，令我祭天。廩舉家拜泣曰：願山人賜百口之命，家之貨財珍玩，盡與之，邈者怪術士服鮮衣，執以爲盜。術士急，乃曰：韋廩令我祭天，我欲告之，彼以家財求我耳。事上聞，秋，九月，上召廩面詰之，具知其寃，謂宰相曰：韋廩城南甲族，爲姦人所誣，勿使獄吏辱之，立以術士付京兆杖死。貶廩永州司馬。○戶部侍郎判戶部駙馬都尉鄭顥營求作相甚功，其父祗德與書曰：聞汝已判戶部，是吾必死之年，又



聞欲求宰相。是吾必死之日也。顯懼。累表辭劇務。冬十月乙酉。以顯爲祕書監。○上遣使詣安西鎮。撫回鶻使者。至靈武。會回鶻可汗遣使入貢。十一月辛亥。冊拜爲愷祿登里羅日沒密施合俱錄毗伽懷建可汗。以衛尉少卿王端章充使。○吏部尚書李景讓上言。穆宗乃陛下兄。敬宗。文宗。武宗。乃兄之子。陛下拜兄尙可。拜姪可乎。是使陛下不得親事七廟也。宜遷四主出太廟。還代宗以下入廟。詔百官議其事。不決而止。時人以是薄景讓。○敕於靈感會善二寺。置戒壇。僧尼應填闕者。委長老僧選擇。給公憑。赴兩壇受戒。兩京各選大德十人。主其事。有不堪者。罷之。堪者。給牒。遣歸本州。不見戒壇公牒。毋得私容。仍先選舊僧尼。舊僧尼無堪者。乃選外人。○壬辰。以戶部侍郎判戶部崔慎由爲工部尚書。同平章事。上每命相。左右無知者。前此一日。令樞密宣旨於學士院。以兵部侍郎判度支蕭鄴同平章事。樞密使王歸長。馬公儒。覆奏。鄴所判度支。應罷否。上以爲歸長等佑之。卽手書慎由名及新命。付學士院。仍云。落判戶部事。鄴之八世孫也。○內園使李敬寔。遇鄴朗。不避馬。朗奏之。上責敬寔。對曰。供奉官例不避。上曰。汝衝敕命。橫絕可也。豈得私出而不避宰相乎。命剝色配南牙。十一年春正月丙午。以御史中丞兼尙書右丞夏侯孜爲戶部侍郎。判戶部事。先是判戶部有缺。京兆尹韋澳奏事。上欲以澳補之。辭曰。臣比年心力衰耗。難以處繁劇。屢就陛下乞小鎮。聖恩未許。上不悅。及歸。其甥柳玘尤之。澳曰。主上不與宰相輔。僉議私欲用我。人必謂我以他岐得之。何以自明。且爾知時事。浸不佳乎。由吾曹貪名位所致耳。丙辰。以澳爲河陽節度使。玘。仲郢之子也。○上欲幸華清宮。諫官論之甚功。上爲之止。上樂聞規諫。凡諫官論事。門下封駁。苟合于理。多屈意從之。得大臣章疏。必焚香盥手而讀之。○二月辛巳。以門下侍郎同平章事魏謩。同平章事。充西川節度使。謩爲相。議事於上前。它相或委曲規諷。謩獨正言無所避。上每歎曰。謩有祖風。我心重之。然竟以剛直爲令狐綯所忌而出之。○嶺南溪洞

蠻。屢爲侵盜。夏四月壬申。以右千牛大將軍宋涯爲安南管宣慰使。五月乙巳。以涯爲安南經略使。容州軍亂。逐經略使王球。六月癸巳。以涯爲容管經略使。○甲午。立皇子灌爲衛王。灌爲廣王。○秋七月庚子。以兵部侍郎判度支蕭鄴同平章事。仍判度支。○教坊祝漢貞。滑稽敏給。上或指物。使之口占。幕詠有如宿構。由是寵冠諸優。一日在上前。抵掌談諧。頗及外事。上正色謂曰。我畜養爾曹。止供戲笑耳。豈得輒預朝政邪。自是疎之。會其子坐賊杖死。流漢貞于天德軍。樂工羅程善琵琶。自武宗朝。已得幸。上素曉音律。尤有寵。程恃恩暴橫。以匪眦殺人。繫京兆獄。諸樂工欲爲之請。因上幸後苑奏樂。乃設虛坐。置琵琶。而羅拜于庭。且泣。上問其故。對曰。羅程負陛下萬死。然臣等惜天下絕藝。不復得奉宴遊矣。上曰。汝曹所惜者。羅程藝。朕所惜者。高祖太宗法。竟杖殺之。○八月。成德節度使王紹鼎薨。紹鼎沈洸無度。好登樓彈射人。以爲樂。衆欲逐之。會病薨。軍中立其弟節度副使紹懿。戊寅。以紹懿爲成德留後。○九月辛酉。以太子太師盧鈞同平章事。充山南西道節度使。○冬十月己巳。以秦成防禦使李承勛爲涇原節度使。承勛。光弼之孫也。先是吐蕃會長尙延心。以河渭二州部落來降。拜武衛將軍。承勛利其羊馬之富。誘之入鳳林關。居秦州之西。承勛與諸將謀。執延心。誣云。謀叛。盡掠其財。徙其衆于荒遠。延心知之。因承勛軍宴。坐中謂承勛曰。河渭二州。土曠人稀。因以飢疫。唐人多內徙。三川吐蕃皆遠遁於疊宕之西。二千里間。寂無人煙。延心欲入見天子。請盡帥部衆分徙內地。爲唐百姓。使西邊永無揚塵之警。其功亦不愧于張義潮矣。承勛欲自有其功。猶豫未許。延心復曰。延心既入朝。部落內徙。但惜秦州無所復恃耳。承勛與諸將相顧默然。明日。諸將言于承勛曰。明公首開營田。置使府。擁萬兵。仰給度支。將士無戰守之勞。有耕市之利。若從延心之謀。則西陲無事。朝廷必罷使府。省戍兵。還以秦州隸鳳翔。吾屬無所復望矣。承勛以爲然。卽奏延心爲河渭都遊奕使。使統其衆居之。○中書侍郎



同平章事鄭朗以疾辭位。壬申，以朗為太子太師。○上晚節頗好神仙，遣中使迎道士軒轅集于羅浮山。○王端章冊立回鶻可汗，道為黑車子所塞，不至而還。辛卯，貶端章賀州司馬。○十一月，壬寅，以成德軍留後王紹懿為節度使。○十二月，蕭鄴罷判度支。十二年，春正月，以康王傅分司王式為安南都護，經略使。式有才略，至交趾，樹芳木為柵，可支數十年，深塹其外，泄城中水，塹外植竹，寇不能冒。選教士卒甚銳，頃之，南蠻大至，去交趾半日程，式意思安閑，遣譯諭之，中其要害，蠻一夕引去。遣人謝曰：我自執叛獠耳，非為寇也。安南都校羅行恭久專府政，麾下精兵二千，都護中軍纔羸兵數百，式至，杖其背黜於邊徼。○初，戶部侍郎判度支劉瑑為翰林學士，上器重之，時為河東節度使，手詔徵入朝，瑑奏發河東，外人始知之。戊午，以瑑同平章事。瑑仁軌之五世孫也，瑑與崔慎由議政于上前，慎由曰：惟當甄別品流，上酬萬一。瑑曰：昔王夷甫祖尚浮華，妄分流品，致中原丘墟，今盛明之朝，當循名責實，使百官各稱其職，而遞以品流為先。臣未知致理之日，慎由無以對。○軒轅集至長安，上召入禁中，問曰：長生可學乎？對曰：王者屏欲而崇德，則自然受大遐福，何處更求長生？留數月，堅求還山，乃遣之。○二月，甲子朔，罷公卿朝拜光陵，及忌日行香，悉移宮人於諸陵。○戊辰，以中書侍郎同平章事崔慎由為東川節度使，上欲御樓肆赦，令狐綯曰：御樓所費甚廣，事須有名，且赦不可數，上不悅曰：遣朕於何得名？慎由曰：陛下未建儲宮，四海屬望，若舉此禮，雖郊祀亦可，況於御樓？時上餌方士藥，已覺躁渴，而外人未知，疑忌方深，聞之，俛首不復言。旬日，慎由罷相。○勃海王彝震卒，癸未，立其弟虔晃為勃海王。○夏四月，以右街使駙馬都尉劉異為邠寧節度使，異尚安平公主上妹也。○庚子，嶺南都將王令寰作亂，囚節度使楊發，發蘇州人也。○戊申，以兵部侍郎鹽鐵轉運使夏侯孜同平章事。○五月，丙寅，工部尚書同平章事劉瑑薨，瑑病篤，猶手疏論事，上甚惜之。○以右金吾大將軍李燧為

嶺南節度使，已命中使賜之節，給事中蕭倣封還制書，上方奏樂，不暇別召中使，使優人追之，節及燧門而返，倣之從父弟也。辛巳，以涇原節度使李承勛為嶺南節度使，發鄰道兵討亂者平之。是日，湖南軍亂，都將石載順等逐觀察使韓宗，殺都押牙王桂直，宗待將士不以禮，故及于難。○六月，丙申，江西軍亂，都將毛鶴逐觀察使鄭憲。○初，安南都護李涿為政貪暴，強市蠻中馬牛一頭，止與鹽一斗，又殺蠻酋杜存誠，羣蠻怨怒，導南詔侵盜邊境，峯州有林西原，舊有防冬兵六千，其旁七縮洞蠻，其酋長曰李由獨，常助中國戍守，輸租賦，知峯州者言于涿，請罷戍兵，專委由獨防遏，於是獨勢孤，不能自立。南詔拓東節度使以書誘之，以甥妻其子，補拓東押牙，由獨遂帥其眾，臣于南詔，自是安南始有蠻患。是月，蠻寇安南。○秋七月，丙寅，宣州都將康全泰作亂，逐觀察使鄭薰，薰奔揚州。丁卯，右補闕內供奉張潛上疏，以為藩府代移之際，皆奏倉庫蓄積之數，以羨餘多為課績，朝廷亦因而甄獎，竊惟藩府財賦所出有常，苟非賦斂過差，及停廢將士，減削衣糧，則羨餘何從而致？比來南方諸鎮，數有不寧，皆此故也。一朝有變，所蓄之財，悉遭剽掠，又發兵致討，費用百倍，然則朝廷竟有何利？乞自今藩府長吏，不增賦斂，不減糧賜，獨節遊宴，省浮費，能致羨餘者，然後賞之。上嘉納之。○容管奏，都虞候來正謀叛，經略使宋涯捕斬之。初，忠武軍精兵皆以黃冒首，號黃頭軍，李承勛以百人定嶺南，宋涯使麾下效其服裝，亦定容州，安南有惡民，屢為亂，聞之，驚曰：黃頭軍度海求襲我矣，相與夜圍交趾城，鼓譟，願送都護北歸，我須此城，禦黃頭軍，王式方食，或勸出避之，式曰：吾足一動，則城潰矣。徐食畢，擐甲，率左右登城，建大將旗，坐而責之，亂者反走。明日，悉捕誅之。有杜守澄者，自齊梁以來，擁衆據溪洞，不可制，式離間其親黨，守澄走死。安南飢亂相繼，六年無上供，軍中無犒賞，式始修貢賦，饗將士，占城、真臘皆復通使。○淮南節度使崔鉉奏，已出兵討宣州賊。八月，甲午，以鉉兼宣歙觀察使。己亥，以宋州刺史溫



璋為宣州團練使。璋造之子也。○河南北淮南大水。徐泗水深五丈。漂沒數萬家。○冬十月。建州刺史于延陵入辭。上曰。建州去京師幾何。對曰。八千里。上曰。卿到彼為政。善惡朕皆知之。勿謂其遠。此階前則萬里也。卿知之乎。延陵悸懾失緒。上撫而遣之。到官。竟以不職。貶復州司馬。令狐綯擬李遠杭州刺史。上曰。吾聞遠詩云。長日惟消一局碁。安能理人。綯曰。詩人託此為高興耳。未必實然。上曰。且令往試觀之。上詔刺史。毋得外徙。必令至京師。面察其能否。然後除之。令狐綯嘗徙其故人為鄰州刺史。便道之官。上見其謝上表。以問綯。對曰。以其道近。省送迎耳。上曰。朕以刺史多非其人。為百姓害。故欲一一見之。訪問其所施設。知其優劣。以行黜陟。而詔命既行。直廢格不用。宰相可畏有權。時方寒。綯汗透重裘。上臨朝。接對羣臣。如賓客。雖左右近習。未嘗見其有惰容。每宰相奏事。旁無一人立者。威嚴不可仰視。奏事畢。忽怡然曰。可以閑語矣。因問閭閻細事。或談宮中遊宴。無所不至。一刻許。復整容曰。卿輩善為之。朕常恐。卿輩負朕。後日不復得相見。乃起入宮。令狐綯謂人曰。吾十年秉政。最承恩遇。然每延英奏事。未嘗不汗霑衣也。○初。山南東道節度使徐商。以封疆險闊。素多盜賊。選精兵數百人。別置營訓練。號捕盜將。及湖南。遂帥。詔商討之。商遣捕盜將二百人討平之。○崔鉉奏。克宣州。斬康全泰。及其黨四百餘人。○上以光祿卿韋宙。父丹有惠政于江西。以宙為江西觀察使。發鄰道兵。以討毛鶴。○崔鉉以宣州已平。辭宣歙觀察使。十一月。戊寅。以溫璋為宣歙觀察使。○兵部侍郎判戶部蔣伸。從容言于上曰。近日官頗易得人。思徵幸。上驚曰。如此則亂矣。對曰。亂則未亂。但徵幸者多。亂亦非難。上稱歎再三。伸三起。上三留之。曰。異日不復得獨對卿矣。伸不諭。十二月。甲寅。以伸同平章事。○韋宙奏。克洪州。斬毛鶴。及其黨五百餘人。宙過襄州。徐商遣都將韓季友。帥捕盜將從行。宙至江州。季友請夜帥其眾。自陸道間行。比明至洪州。州人不知。即日討平之。宙奏留捕盜將二百人于江西。以季友為都虞

候。十三年春正月。戊午朔。赦天下。○三月。割河東雲蔚朔三州。隸大同軍。○夏四月。辛卯。以校書郎于琮為左拾遺。內供奉。初。上欲以琮尚永福公主。既而中寢。宰相請其故。上曰。朕近與此女子會食。對朕輒折匕筯。性情如是。豈可為士大夫妻。乃更命琮尚廣德公主。二公主皆上女。琮。赦之子也。○武寧節度使康季榮。不郵士卒。士卒譟而逐之。上以左金吾大將軍田牟。嘗鎮徐州。有能名。復以為武寧節度使。一方遂安。貶季榮於嶺南。○六月。癸巳。封憲宗子。惕為彭王。○初。上長子鄆王溫。無寵。居十六宅。餘子皆居禁中。夔王滋。第三子也。上愛之。欲以為嗣。為其非次。故久不建東宮。上餌醫官李玄伯。道士虞紫芝。山人王樂藥。疽發于背。八月。疽甚。宰相及朝士。皆不得見。上密以夔王屬樞密使王歸長。馬公儒。宣徽南院使王居方。使立之。三人及右軍中尉王茂玄。皆上平日所厚也。獨左軍中尉王宗實。素不同心。三人相與謀。出宗實為淮南監軍。宗實已受敕于宣化門外。將自銀臺門出。左軍副使元實。謂宗實曰。聖人不豫。月中。中尉止隔門起居。今日除改。未可辨也。何不見聖人而出。宗實感寤。復入。諸門已踵故事。增人守捉矣。元實翼導宗實。直至寢殿。上已崩。東首環泣矣。宗實叱歸長等。責以矯詔。皆捧足乞命。乃遣宣徽北院使齊元簡。迎鄆王壬辰。下詔立鄆王為皇太子。權句當軍國政事。仍更名漣。收歸長公儒。居方。皆殺之。癸巳。宣遺制。以令狐綯攝冢宰。宣宗性明察。沈斷。用法無私。從諫如流。重惜官賞。恭謹節儉。惠愛民物。故大中之政。訖于唐亡。人思詠之。謂之小太宗。丙申。懿宗即位。癸卯。尊皇太后為太皇太后。以王宗實為驃騎上將軍。李玄伯。虞紫芝。王樂。皆伏誅。○九月。追尊上母晁昭容為元昭皇太后。○加魏博節度使何弘敬兼中書令。幽州節度使張允伸。同平章事。○冬十月。辛卯。赦天下。○十一月。戊午。以門下侍郎同平章事蕭鄴。同平章事。充荆南節度使。○十二月。甲申。以翰林學士承旨兵部侍



郎杜審權同平章事。審權元穎之弟子也。○浙東賊帥裘甫攻陷象山。官軍屢敗。明州城門盡閉。進逼剡縣。有衆百人。浙東騷動。觀察使鄭祗德遣討擊副使劉勣。副將范居植。將兵三百。合台州軍。共討之。○司空門下侍郎同平章事令狐綯。執政歲久。忌勝己者。中外側目。其子瀆。頗招權受賄。宣宗既崩。言事者競攻其短。丁酉。以綯同平章事。充河中節度使。以前荆南節度使同平章事白敏中。守司徒。兼門下侍郎。同平章事。○初。韋臯在西川。開青溪道。以通羣蠻。使由蜀入貢。又選羣蠻子弟。聚之成都。教以書數。欲以慰悅羈縻之。業成則去。復以它子弟繼之。如是五十年。羣蠻子弟。學于成都者。殆以千數。軍府頗厭于稟給。又蠻使入貢。利于賜與。所從僉人浸多。杜棕爲西川節度使。奏請節減其數。詔從之。南詔豐祐怒其賀冬使者。留表付葛州而還。又索習學子弟。移牒不遜。自是入貢不時。頗擾邊境。會宣宗崩。遣中使告哀。時南詔豐祐適卒。子會龍立。怒曰。我國亦有喪。朝廷不弔祭。又詔書乃賜。故王遂置冊禮。會龍乃自稱皇帝。國號大禮。改元建極。遣兵陷播州。

資治通鑑卷第二百四十九

資治通鑑卷第二百五十

唐紀六十六

懿宗昭聖恭惠孝皇帝上

咸通元年春正月乙卯。浙東軍與裘甫戰於桐栢觀前。范居植死。劉勣僅以身免。乙丑。甫帥其徒千餘人。陷剡縣。開府庫。募壯士。衆至數千人。越州大恐。時二浙久安。人不習戰。甲兵朽鈍。見卒不滿三百。鄭祗德更募新卒。以益之。軍吏受賂。率皆得孱弱者。祗德遣子將沈君縱。副將張公署。望海鎮將李珪。將新卒五百。擊裘甫。二月辛卯。與甫戰於剡西。賊設伏於三溪之南。而陳於三溪之北。壅溪上流。使可涉。既戰。陽敗走。官軍追之。半涉。決壅。水大至。官軍大敗。三將皆死。官軍幾盡。於是山海諸盜。及它道無賴亡命之徒。四面雲集。衆至三萬。分爲三十二隊。其小帥有謀略者。推劉唯。勇力推劉慶。劉從簡。羣盜皆遙通書幣。求屬麾下。甫自稱天下都知兵馬使。改元曰羅平。鑄印曰天平。大聚資糧。購良工。治器械。聲震中原。○丙申。葬聖武獻文孝皇帝于貞陵。廟號宣宗。○丙午。白敏中入朝。墜。傷腰。肩輿以歸。○鄭祗德累表告急。且求救於鄰道。浙西遣牙將凌茂貞。將四百人。宣歙遣牙將白琮。將三百人。赴之。祗德始令屯郭門。及東小江。尋復召還府中。以自衛。祗德饋之。比度支常饋多十三倍。而宣潤將士。猶以爲不足。宣潤將士請。土軍爲導。以與賊戰。諸將或稱病。或陽墜馬。其肯行者。必先邀職級。竟不果遣。賊遊騎至平水。東小江城。中士民儲舟裹糧。夜坐待旦。各謀逃潰。朝廷知祗德懦怯。議選武將代之。夏侯孜曰。浙東山海幽阻。可以計取。難以力攻。西班中無可語者。



前安南都護王式雖儒家子。在安南威服華夷。名聞遠近。可任也。諸相皆以爲然。遂以式爲觀察使。徵祗德爲賓客。三月辛亥朔。式入對。上問以討賊方略。對曰。但得兵賊必可破。有宦官侍側曰。發兵所費甚大。式曰。臣爲國家惜費。則不然。兵多賊速。破其費省矣。若兵少不能勝賊。延引歲月。賊勢益張。則江淮羣盜將蜂起。應之國家用度。盡仰江淮。若阻絕不通。則上自九廟。下及十軍。皆無以供給。其費豈可勝計哉。上顧宦官曰。當與之兵。乃詔發忠武義成淮南等諸道兵授之。裴甫分兵掠衢婺州。婺州押牙房郢散將樓曾。衢州十將方景深。將兵拒險。賊不得入。又分兵掠明州。明州之民相與謀曰。賊若入城。妻子皆爲菹醢。沉貨財能保之乎。乃自相帥出財募勇士。治器械。樹棚。浚溝。斷橋。爲固守之備。賊又遣兵掠台州。破唐興。己巳。甫自將萬餘人。掠上虞。焚之。癸酉。入餘姚。殺丞尉。東破慈溪。入奉化。抵寧海。殺其令。而據之。分兵圍象山。所過俘其少壯。餘老弱者。蹂踐殺之。及王式除書下。浙東人心稍安。裴甫方與其徒飲酒。聞之不樂。劉晔歎曰。有如此之衆。而策畫未定。良可惜也。今朝廷遣王中丞將兵來。聞其人智勇無敵。不四十日必至。兵馬使宜急引兵取越州。憑城郭。據府庫。遣兵五千守西陵。循浙江築壘以拒之。大集舟艦。得間則長驅進取浙西。過大江。掠揚州貨財。以自實。還修石頭城而守之。宣歙江西必有響應者。遣劉從簡以萬人循海而南。襲取福建。如此。則國家貢賦之地。盡入於我矣。但恐子孫不能守耳。終吾身保無憂也。甫曰。醉矣。明日議之。唯以甫不用其言。怒。陽醉而出。有進士王輅在賊中。賊客之。輅說甫曰。如劉副使之謀。乃孫權所爲也。彼乘天下大亂。故能據有江東。今中國無事。此功未易成也。不如擁衆據險自守。陸耕海漁。急則逃入海島。此萬全策也。甫畏式。猶豫未決。夏四月。式行至柿口。義成軍不整。式欲斬其將。久乃釋之。自是軍所過若無人。至西陵。裴甫遣使請降。式曰。是必無降心。直欲窺吾所爲。且欲使吾驕怠耳。乃謂使者曰。甫面縛以來。當免而死。乙未。式入越州。既交政。爲

鄭祗德置酒曰。式主軍政。不可以飲。監軍但與衆賓盡醉。迨夜繼以燭。曰。式在此。賊安能妨。入樂飲。丙申。錢祗德于遠郊復樂飲而歸。於是始修軍令。告饋餉不足者息矣。稱疾臥家者起矣。先求遷職者默矣。賊別帥洪師簡許會能。帥所部降。式曰。汝降是也。當立効以自異。使帥其徒爲前鋒。與賊戰有功。乃奏以官。先是賊謀入越州。軍吏匿而飲食之。文武將吏往往潛與賊通。求城破之日免死。及至妻子。或詐引賊將來降。實窺虛實。城中密謀屏語。賊皆知之。式陰察知。悉捕索斬之。刑將吏尤橫猾者。嚴門禁。無驗者不得出入。警夜周密。賊始不知我所爲矣。式命諸縣開倉廩以賑貧乏。或曰。賊未滅。軍食方急。不可散也。式曰。非汝所知。官軍少騎卒。式曰。吐蕃回鶻。比配江淮者。其人習險阻。便鞍馬。可用也。舉籍府中得驍健者百餘人。虜久羈旅。所部遇之無狀。困餒甚。式既犒飲。又調其父母妻子。皆泣拜謹呼。願效死。悉以爲騎卒。使騎將石宗本將之。凡在管內者。皆視此籍之。又奏得龍陂監馬二百匹。於是騎兵足矣。或請爲烽燧。以調賊遠近。衆寡。式笑自不應。選懦卒。使乘健馬。少與之兵。以爲候騎。衆怪之。不敢問。於是閱諸營見卒。及土團子弟。得四千人。使導軍。分路討賊。府下無守兵。更籍土團千人以補之。乃命宣歙將白琮。浙西將凌茂貞。帥本軍北來。將韓宗政等。帥土團。合千人。石宗本帥騎兵。爲前鋒。自上虞趨奉化。解象山之圍。號東路軍。又以義成將白宗建。忠將游君楚。淮南將萬璘。帥本軍。與台州唐興軍合。號南路軍。令之曰。毋爭險易。毋焚廬舍。毋殺平民。以增首級。平民脅從者。募降之。得賊金帛。官無所問。俘獲者。皆越人也。釋之。癸卯。南路軍拔賊沃洲寨。甲辰。拔新昌寨。破賊將毛應天。進拔唐興。○白敏中三表辭位。上不許。右補闕王譔上疏以爲。陛下致理之初。乃宰相盡心之日。不可暫闕。敏中自正月臥疾。今四月矣。陛下雖與他相坐語。未嘗三刻。天下之事。陛下嘗暇與之講論乎。願聽敏中罷去。延訪碩德。以資聰明。己酉。貶譔爲陽翟令。譔珪之六世孫也。五月庚戌朔。給事中鄭公輿封還貶譔敕。



書上令宰相議之。宰相以為譜侵敏中，竟貶之。○辛亥，浙東東路軍破賊將孫馬騎於寧海。戊午，南路軍大破賊將劉唯毛，應天於唐興南谷，斬應天。先是，王式以兵少，奏更發忠武義成軍，及請昭義軍，詔從之。三道兵至越州，式命忠武將張茵將三百人，屯唐興，斷賊南出之道。義成將高羅銳將三百人，益以台州土軍，徑趨寧海，攻賊巢穴。昭義將跌跌，將四百人，益東路軍，斷賊入明州之道。庚申，南路軍大破賊於海遊鎮，賊入甬溪洞。戊辰，官軍屯於洞口，賊出洞戰，又破之，已巳，高羅銳襲賊別帥劉平天，寨破之。自是，諸軍與賊十九戰，賊連敗。劉唯謂裴甫曰：「曩從吾謀入越州，寧有此困邪？」王輅等進士數人，在賊中，皆衣綠，唯悉斬之。曰：「亂我謀者，此青蟲也。」高羅銳克寧海，收其逃散之民，得七千餘人。王式曰：「賊窘且飢，必逃入海。入海，則歲月間未可擒也。」命羅銳軍海口，以拒之。又命望海鎮將雲思益、浙西將王克容將水軍巡海，滋思益等遇賊將劉從簡於寧海東，賊不虞水軍遽至，皆棄船走山谷，得其船十七，盡焚之。式曰：「賊無所逃矣。」惟黃罕嶺可入剡，恨無兵以守之。雖然，亦成擒矣。裴甫既失寧海，乃帥其徒屯南陳館下，衆尚萬餘人。辛未，東路軍破賊將孫馬騎於上嚶村。賊將王阜懼請降。○壬申，右拾遺內供奉薛調上言，以為兵興以來，賦斂無度，所在羣盜，半是逃戶，固須翦滅，亦可閔傷。望敕州縣，稅外毋得科率，仍救長吏嚴加糾察，從之。○袁王紳薨。○戊寅，浙東東路軍大破裴甫於南陳館，斬首數千級。賊委棄繒帛盈路，以緩追者。跌跌幾令士卒敢顧者，斬。毋敢犯者，賊果自黃罕嶺遁去。六月甲申，復入剡，諸軍失甫，不知所在。義成將張茵在唐興獲俘，將苦之。俘曰：「賊入剡矣，苟捨我，我請為軍導，從之。」茵後甫一日，至剡壁，其東南府中，聞甫入剡，復大恐。王式曰：「賊來就擒耳。」命趣東南兩路軍會於剡。辛卯，圍之。賊城守甚堅，攻之不能拔。諸將議絕溪水以渴之。賊知之，乃出戰三日，凡八十三戰，賊雖敗，官軍亦疲。賊請降，諸將以白式，式曰：「賊欲少休耳，益謹備之。」功垂成矣。賊果復出，又三戰。庚子夜，

裴甫、劉唯、劉慶從，百餘人出降。遙與諸將語，離城數十步，官軍疾趨，斷其後，遂擒之。壬寅，甫等至越州，式腰斬唯、慶等二十餘人。械甫送京師，剡城猶未下。諸將已擒甫，不復設備。劉復簡帥壯士五百，突圍走。諸將追至大蘭山，從簡據險自守。秋七月丁巳，諸將共攻克之。台州刺史李師望募賊相捕斬之，以自贖。所降數百人，得從簡首，獻之。諸將還越，式大置酒，諸將乃請曰：「某等生長軍中，久更行陳，今年得從公破賊，然私有所不諭者，敢問。公之始至，軍食方急，而遽散以賑貧乏，何也？」式曰：「此易知耳。賊聚穀以誘飢人，吾給之食，則彼不為盜矣。且諸縣無守兵，賊至則倉穀適足資之耳。又問：不置烽燧，何也？」式曰：「烽燧所以趣救兵也。兵盡行，城中無兵以繼之，徒驚士民，使自潰亂耳。又問：使懦卒為候騎，而少給兵，何也？」式曰：「彼勇卒操利兵，遇敵且量力而鬪，鬪死則賊至不知矣。皆拜曰：「非所及也。」○封憲宗子恆為信王。○八月，裴甫至京師，斬于東市。加王式檢校右散騎常侍，諸將官賞各有差。先是，上每以越盜為憂。夏侯孜曰：「王式才有餘，不日告捷矣。」孜與式書曰：「公專以執裴甫為事，軍須細大，此期悉力。故式所奏求，無不從。由是，能成其功。」○衛王灌薨。○九月，白敏中五上表辭位。辛亥，以敏中為司徒中書令。○右拾遺句容劉鄴上言：「李德裕父子為相，有聲迹功効，竄逐以來，血屬將盡，生涯已空。宜賜哀閔，贈以一官。」冬十月丁亥，敕復李德裕太子少保、衛國公，贈左僕射。○己亥，以門下侍郎同平章事夏侯孜同平章事。充西川節度使，以戶部尚書判度支畢誠為禮部尚書。同平章事。○安南都護李鄴復取播州。○十一月丁丑，上祀圓丘，赦。改元。○十二月戊申，安南土蠻引南詔兵，合三萬餘人，乘虛攻交趾，陷之。都護李鄴與監軍奔武州。

二年春正月，詔發邕管及鄰道兵救安南，擊南蠻。○二月，以中書令白敏中兼中書令，充鳳翔節度使，以左僕射判度支杜悰兼門下侍郎同平章事。一日，兩樞密使詣中書，宣徽使楊



公慶繼至。獨揖。受宣。三相起避之。西軒。公慶出。斜封文書。以授。發之。乃宣宗大漸時。請  
耶王監國。奏也。且曰。當時宰相無名者。當以反法處之。悖反復讀。良久曰。聖主登極。萬方欣  
戴。今日此文書。非臣下所宜窺。復封以授公慶曰。主上欲罪宰相。當於延英。面示聖旨。明行  
誅譴。公慶去。悖復與兩樞密坐。謂曰。內外之臣。事猶一體。宰相樞密。共參國政。今主上新踐  
阼。未熟萬機。資內外裨補。固當以仁愛為先。刑殺為後。豈得遽贊成殺宰相事。若主上習以  
性成。則中尉樞密。權重禁闈。豈得不自憂乎。悖受恩六朝。所望致君堯舜。不欲朝廷以愛憎  
行法。兩樞密相顧默然。徐曰。當具以公言白至尊。非公重德。無人及此。慙悚而退。三相復來  
見。悖微請宣意。悖無言。三相惶怖。乞存家族。悖曰。勿為它慮。既而寂然。無復宣命。及延英開。  
上色甚悅。是時。士大夫深疾宦官。事有小相涉。則眾共棄之。建州進士葉京。嘗預宣武軍宴。  
識監軍之面。既而及第。在長安。與同年出遊。遇之於塗。馬上相揖。因之。謗議誼然。遂沈廢終  
身。其不相悅如此。○福王綰薨。○夏。六月。癸丑。以鹽州防禦使王寬為安南經略使。時李鄴  
自武州。收集土軍。攻羣蠻。復取安南。朝廷責其失守。貶儋州司戶。鄴初至安南。殺蠻酋杜守  
澄。其宗黨遂誘道羣蠻。陷交趾。朝廷以杜氏疆盛。務在姑息。冀收其力。用乃贈守澄父存誠。  
金吾將軍。再舉鄴殺守澄之罪。長流崖州。○秋。七月。南詔攻邕州。陷之。先是。廣桂容三道。共  
發兵三千人。戍邕州。三年一代。經略使段文楚。請以三道衣糧。自募土軍。以代之。朝廷許之。  
所募纔得五百許人。文楚入為金吾將軍。經略使李蒙。利其闕額衣糧。以自入。悉罷遣三道  
戍卒。止以所募兵守左右江。比舊什減七八。故蠻人乘虛入寇。時蒙已卒。經略使李弘源。至  
鎮。纔十日。無兵以禦之。城陷。弘源與監軍脫身奔巒州。二十餘日。蠻去。乃還。弘源坐貶建州  
司戶。文楚時為殿中監。復以為邕管經略使。至鎮。城邑居人。什不存一。文楚秀實之孫也。○  
杜悖上言。南詔向化七十年。蜀中寢兵無事。羣蠻率服。今西川兵食單寡。未可輕與之絕。且

應遣使弔祭。曉諭清平官等。以新王名犯廟諱。故未行冊命。待其更名謝恩。然後遣使冊命。  
庶全大體。上從之。命左司郎中孟穆為弔祭使。未發。會南詔寇雋州。攻邛崃關。穆遂不行。○  
冬。十月。以御史大夫鄭涯為山南東道節度使。十一月。加同平章事。  
三年。春。正月。庚午朔。羣臣上尊號曰睿文明聖孝德皇帝。赦天下。○以中書侍郎同平章事  
蔣仲同平章事。充河中節度使。○二月。隸王惲薨。○南詔復寇安南。經略使王寬數來告急。  
朝廷以前湖南觀察使蔡襲代之。仍發許滑徐汴荆襄潭鄂等道兵。各三萬人。授襲以禦之。  
兵勢既盛。蠻遂引去。邕管經略使段文楚。坐變更舊制。左遷威衛將軍分司。○左庶子蔡京。  
性貪虐多詐。時相以為有吏才。奏遣制置嶺南事。三月。京還奏事。稱旨。復以京權知太僕卿。  
充荆襄以南宣慰安撫使。○夏。四月。己亥朔。敕於兩街四寺。各置戒壇度人。三七日。上奉佛。  
太過。怠於政事。嘗於咸泰殿築壇。為內寺尼受戒。兩街僧尼皆入預。又於禁中設講席。自唱  
經手錄。梵夾。又數幸諸寺。施與無度。吏部侍郎蕭徹上疏。以為玄祖之道。慈儉為先。素王之  
風。仁義為首。垂範百代。必不可加。佛者棄位出家。割愛中之至難。取滅後之殊勝。非帝王所  
宜慕也。願陛下時開延英。接對四輔。力求人瘼。虔奉宗祧。思繆賞與濫刑。其殃必至。知勝殘而  
去殺。得福甚多。罷去講筵。躬勤政事。上雖嘉獎。竟不能從。○嶺南舊分五管。廣桂邕容安南。  
皆隸嶺南節度使。蔡京奏。請分嶺南為兩道。節度從之。五月。敕以廣州為東道。邕州為西道。  
又割桂管龔象二州。容管藤巖二州。隸邕管。尋以嶺南節度使韋宙為東道節度使。以蔡京  
為西道節度使。蔡襲將諸道兵在安南。蔡京忌之。恐其立功。奏稱南蠻遠遁。邊徼無虞。武夫  
邀功。妄占戍兵。虛費餽運。蓋以荒陬路遠。難於覆驗。故得肆其姦詐。請罷戍兵。各還本道。朝  
廷從之。襲累奏羣蠻伺隙日久。不可無備。乞留戍兵五千人。不聽。襲以蠻寇必至。交趾兵食  
皆闕。謀力兩窮。作十必死狀。申中書。時相信京之言。終不之省。○秋。七月。徐州軍亂。逐節度



使溫璋。初王智興既得徐州。募勇悍之士二千人。號銀刀。彫旗。門槍。挾馬等七軍。常以三百餘人自衛。露刃坐於兩廡夾幕之下。每月一更。其後節度使多儒臣。其兵浸驕。小不如意。一夫大呼。其衆皆和之。節度使輒自後門逃去。前節度使田牟至。與之雜坐飲酒。把臂拊背。或爲之執板唱歌。犒賜之費。日以萬計。風雨寒暑。復加勞來。猶時喧譁。邀求不已。牟夢璋代之。驕兵素聞璋性嚴。憚之。璋開懷慰撫。而驕兵終懷猜忌。賜酒食皆不歷口。一旦竟聚謀而逐之。朝廷知璋無辜。乙亥。以璋爲邠寧節度使。以浙東觀察使王式爲武寧節度使。○以前西川節度使同平章事夏侯孜爲左僕射。同平章事。○忠武義成兩軍從王式討裘甫者。猶在浙東。詔式帥以赴徐州。驕兵聞之甚懼。八月。式至大彭館。始出迎謁。式視事三日。饗兩鎮將士。遣還鎮。擐甲執兵。命圍騎兵。盡殺之。銀刀都將邵澤等數千人皆死。甲子。敕以徐州先隸淄青道。季洸自歸。始置徐海使額。及張建封以威名寵任。特帖濠泗二州。當時本以控扼淄青。南道更於宿州。置宿泗都團練觀察使。留將士二千人守徐州。餘皆分隸兗宿。且以王式爲武寧節度使。兼徐泗濠宿制置使。委式與監軍楊玄質。分配將士。赴諸道紇。然後將忠武義成兩道兵。至汴滑。各遣歸本道。身詣京師。其銀刀等軍。逃匿將士。聽一月內自首。一切勿問。○嶺南西道節度使蔡京。爲政苛慘。設炮烙之刑。閩境怨之。遂爲邕州軍士所逐。奔藤州。詐爲敕書。及攻討使印。募鄉丁及旁側土軍。以攻邕州。衆既烏合。動輒潰敗。往依桂州。桂州人怨其分裂。不納。京無所自容。敕貶崖州司戶。不肯之官。還至零陵。敕賜自盡。以桂管觀察使鄭愚爲嶺南西道節度使。○冬十月丙申朔。立皇子侑爲魏王。侑爲涼王。侑爲蜀王。○十一月。立順宗子緝爲蕲王。憲宗子愷爲榮王。○南詔帥羣蠻五萬寇安南。都護蔡襲告急。敕發荆南湖南兩道兵二千。桂管義征子弟二千。詣邕州。受鄭愚節度。○嶺南東道節度使韋宙奏。

蠻寇必向邕州。若不先保護。遽欲遠征。恐蠻於後乘虛。扼絕餉道。乃敕蔡襲屯海門。鄭愚分兵備禦。十二月。襲又求益兵。敕山南東道發弩手千人赴之。時南詔已圍交趾。襲嬰城固守。救兵不得至。○翼王縉薨。○是歲。嗚末始入貢。嗚末者。吐蕃之奴號也。吐蕃每發兵。其富室多以奴從。往往一家至十數人。由是吐蕃之衆多。及論恐熱作亂。奴多無主。遂相糾合爲部落。散在甘肅瓜沙河渭岷廓疊宕之間。吐蕃微弱者。反依附之。○四年春正月庚午。上祀圓丘。赦天下。○是日。南詔陷交趾。蔡襲左右皆盡。徒步力戰。身集十矢。欲趣監軍船。船已離岸。遂溺海死。幕僚樊綽携其印。浮度江。荆南江西鄂岳襄州將士。四百餘人。走至城東水際。荆南虞候元惟德等謂衆曰。吾輩無船。入水則死。不若還向城與蠻鬪。人以一身易二蠻。亦爲有利。遂還向城。入東羅門。蠻不爲備。惟德等縱兵殺蠻二千餘人。逮夜。蠻將楊思緒。始自子城出求之。惟德等皆死。南詔兩陷交趾。所殺虜日十五萬人。留兵二萬。使思緒據交趾城。谿洞夷獠。無遠近皆降之。詔諸道兵赴安南者。悉召還。分保嶺南西道。○上遊宴無節。左拾遺劉蛻上疏曰。今西涼築城。應接未決。於與奪。南蠻侵軼。干戈悉在於道塗。旬月以來。不爲無事。陛下不形憂閔。以示遠近。則何以責其死力。望節娛遊。以待遠人。又安未晚。弗聽。○二月甲午朔。上歷拜十六陵。○置天雄軍於秦州。以成河渭三州隸焉。以前左金吾將軍王晏實爲天雄觀察使。○三月。歸義節度使張義潮奏。自將蕃漢兵七千。克復涼州。○南蠻寇左右江。浸逼邕州。鄭愚懼。自言儒臣無將略。請任武臣。朝廷召義武節度使康承訓詣闕。欲使之代愚。仍詔選軍校數人。士卒數百人。自隨。○中書侍郎同平章事畢誠。以同列多徇私不法。稱疾辭位。夏四月。罷爲兵部尚書。○庚戌。羣盜入徐州。殺官吏。刺史曹慶討平之。○康承訓至京師。以爲嶺南西道節度使。發荆襄洪鄂四道兵萬人。與之俱。○五月戊辰。以翰林學士承旨兵部侍郎楊收同平章事。收發之弟也。與左軍中尉楊玄价。



敘同宗相結。故得爲相。○乙亥。廢容管。隸嶺南西道。復以襲象二州隸桂管。○戊子。以門下侍郎同平章事杜審權同平章事。充鎮海節度使。○六月。廢安南都護府。置行交州於海門鎮。以右監門將軍宋戎爲行交州刺史。以康承訓兼領安南及諸軍行營。○閏月。以門下侍郎同平章事杜悰同平章事。充鳳翔節度使。以兵部侍郎判度支河南曹確同平章事。○秋七月。辛卯朔。日有食之。○復置安南都護府於行交州。以宋戎爲經略使。發山東兵萬人鎮之。時諸道兵援安南者屯聚嶺南。江西湖南。江西湖南餽運者皆泝湘江。入落渠。灘水勞費艱澁。諸軍乏食。潤州人陳礪石上言。請造千斛大舟。自福建運米泛海。不一月至廣州。從之。軍食以足。然有司以和雇爲名。奪商人舟。委其貨於岸側。舟入海。或遇風濤沒溺。有司囚繫綱吏舟人。使償其米。人頗苦之。○八月。嶺南東道節度使韋宙奏。蠻必向邕州。請分兵屯容藤州。○夔王滋薨。○敕以閤門使吳德應等爲館驛使。臺諫上言。故事御史巡驛。不應忽以內人代之。上諭以敕命已行。不可復改。左拾遺劉蛻上言。昔楚子縣陳。得申叔一言。而復封之。太宗發卒。修乾元殿。聞張玄素諫。即日罷之。自古明君所尙者。從諫如流。豈有已行而不改。且敕自陛下出之。自陛下改之。何爲不可。弗聽。○黠戛斯遣其臣合伊難支。表求經籍。及每年遣使。走馬請曆。又欲討回鶻。使安西以來。悉歸唐。不許。○冬十月甲戌。以長安尉集賢校理令狐滈爲左拾遺。乙亥。左拾遺劉蛻上言。滈專家無子弟之法。布衣行公相之權。起居郎張雲言。滈父綯執政之時。人號白衣宰相。滈亦上表引避。乃改詹事府司直。○辛巳。廢宿泗觀察使。復以徐州爲觀察府。以濠泗隸焉。○十二月。南詔寇西川。○昭義節度使沈詢奴歸秦。與詢侍婢通。詢欲殺之。未果。乙酉。歸秦結牙將作亂。攻府第。殺詢。○淮南節度使令狐綯五年春正月。以京兆尹李贛爲昭義節度使。取歸秦心肝。以祭沈詢。○淮南節度使令狐綯

爲其子滈訟冤。貶張雲興元少尹。劉蛻華陰令。敕曰。雖嘉蹇諤之忠。難逃疎易之責。○丙午。西川奏。南詔寇嵩州。刺史喻士珍破之。獲千餘人。詔發右神策兵五千。及諸道兵戍之。忠武大將顏慶復。請築新安。遏戎二城。從之。○以容管經略使張茵兼句當交州事。益海門鎮兵。滿二萬五千人。令茵進取安南。○二月己巳。以刑部尙書鹽鐵轉運使李福同平章事。充西川節度使。○甲申。前西川節度使蕭鄴。左遷山南西道觀察使。○三月丁酉。彗星出於婁。長三尺。己亥。司天監奏。按星經。是名含譽瑞星也。上大喜。請宣示中外。編諸史策。從之。○康承訓至邕州。蠻寇益熾。詔發許滑青汴充鄆宣潤八道兵。以授之。承訓不設斥候。南詔帥羣蠻近六萬寇邕州。將入境。承訓乃遣六道兵。凡萬人拒之。以獠爲導。給之。敵至不設備。五道兵八千人皆沒。惟天平軍後一日至。得免。承訓聞之。惶怖不知所爲。節度副使李行素。帥衆治壕柵。甫畢。蠻軍已合圍。留四日。治攻具。將就。諸將請夜分道斫蠻營。承訓不許。有天平小校再三力爭。乃許之。小校將勇士三百。夜縋而出。散燒蠻營。斬首五百餘級。蠻大驚。問。曰。解圍去。承訓乃遣諸軍數千追之。所殺虜不滿三百級。皆溪獠脅從者。承訓騰奏告捷云。大破蠻賊。中外皆賀。○夏四月。以兵部侍郎判戶部蕭寔同平章事。寔復之孫也。○加康承訓檢校右僕射。賞破蠻之功也。自餘奏功受賞者。皆承訓子弟親昵。燒營將校。不遷一級。由是軍中怨怒。聲流道路。○五月。敕徐州土風雄勁。甲士精彊。比因罷節。頗多逃匿。宜令徐泗團練使。選募軍士三千人。赴邕州防戍。待嶺外事寧。卽與代歸。○秋七月。西川奏。兩林鬼主。邀南詔蠻。敗之。殺獲甚衆。保塞城使杜守連不從。南詔帥衆詣黎州降。○嶺南東道節度使韋宙。具知康承訓所爲。以書白宰相。承訓亦自疑懼。累表辭疾。乃以承訓爲右武衛大將軍。分司。以容管經略使張茵爲嶺南西道節度使。復以容管四州別爲經略使。時南詔知邕州空竭。不復入寇。茵久之不敢進軍。取安南。夏侯孜薦驍衛將軍高駢代之。乃以駢爲安南都護。本



管經略招討使茵所將兵悉以授之。駢崇文之孫也。世在禁軍。駢頗讀書。好談今古。兩軍宦官多譽之。累遷右神策都虞候。党項叛。將禁兵萬人。成長武。屢有功。遷秦州防禦使。復有功。故委以安南。○冬十一月。以門下侍郎同平章事夏侯孜同平章事。充河東節度使。○壬寅。以翰林學士承旨兵部侍郎路巖同平章事。時年三十六。

六年春正月丁巳。始以懿安皇后配饗憲宗廟。時王皞復為禮院檢討官。更申前議。朝廷竟從之。○諸道進私白者。閩中為多。故宦官多閩人。福建觀察使杜宣猷。每寒食。遣吏分祭其先。宣官德之。庚申。以宣猷為宣歙觀察使。時人謂之敕使墓戶。○三月。中書侍郎同平章事蕭瑄薨。○夏四月。以前東川節度使高瓌為兵部侍郎。同平章事。瓌。元裕之子也。○楊收建議。以蠻寇積年未平。兩河兵戍嶺南。冒瘴霧。物故者什六七。請於江西積粟募彊弩三萬人。以應接嶺南。道近便。仍建節以重其權。從之。五月辛丑。置鎮南軍於洪州。○雋州刺史喻士珍貪獫。掠兩林蠻。以易金。南詔復寇雋州。兩林蠻開門納之。南詔盡殺戍卒。士珍降之。○壬寅。以桂管觀察使嚴譔為鎮南節度使。譔。震之從孫也。○六月。高瓌薨。○以御史大夫徐商為兵部侍郎。同平章事。○秋七月。立皇子侃為郢王。儼為普王。○高駢治兵於海門。未進。監軍李維周惡駢。欲去之。屢趣駢使進軍。駢以五千人先濟。約維周發兵應援。駢既行。維周擁餘眾。不發一卒以繼之。九月。駢至南定。峯州蠻眾近五萬。方稊田。駢掩擊大破之。收其所穫。以食軍。○冬十二月壬子。太皇太后鄭氏崩。

七年春二月。歸義節度使張義潮奏。北庭回鶻固俊克西州。北庭輪臺清鎮等城。論恐熱寓居鄜州。糾合旁側諸部。欲為邊患。皆不從。所向盡為仇敵。無所容。仇人以告。拓拔懷光於鄜州。懷光引兵擊破之。○三月戊寅。以河東節度使劉潼為西川節度使。初。南詔圍雋州。東蠻浪稽部竭力助之。遂屠其城。卑籠部怨南詔殺其父兄。導忠武戍兵襲浪稽滅之。南詔由是

怨唐。南詔遣清平官董成等詣成都。節度使李福。盛儀衛以見之。故事。南詔使見節度使。拜伏於庭。成等曰。驃信已應天順人。我見節度使當抗禮。傳言往返。自旦至日中。不決。將士皆憤怒。福乃命。梓而殿之。因械擊於獄。劉潼至。鎮。釋之。奏遣還國。詔召成等至京師。見於別殿。厚賜勞而遣之。○成德節度使王紹懿。在鎮十年。為政寬簡。軍民便之。疾病。召兄紹鼎之子。都知兵馬使景崇而告之曰。吾兄以汝之幼。以軍政授我。汝今長矣。我復以軍政歸汝。努力為之。上忠朝廷。下和鄰藩。勿墜吾兄之業。汝之功也。言竟而薨。○閏月。吐蕃寇邠寧。節度使薛弘宗拒却之。○夏四月。貶前西川節度使李福為蘄王傅。○五月。葬孝明皇后於景陵之側。主祔別廟。○六月。魏博節度使何弘敬薨。軍中立其子左司馬全皞為留後。○以王景崇為成德留後。○南詔酋龍。遣善闡節度使揚緝思。助安南節度使段會遷守交趾。以范呢些為安南都統。趙諾眉為扶邪都統。監陳敕使韋仲宰。將七千人至峯州。高駢得以益其軍。進擊南詔。屢破之。捷奏至海門。李維周皆匿之。數月無聲問。上怪之。以問維周。維周奏。駢駐軍峯州。玩寇不進。上怒。以右武衛將軍王晏權代駢。鎮安南。召駢詣闕。欲重貶之。晏權智與之從。子也。是月。駢大破南詔蠻於交趾。殺獲甚眾。遂圍交趾城。○秋七月。以何全皞為魏博留後。○冬十月甲申。以門下侍郎同平章事楊收為宣歙觀察使。收性侈靡。門吏僮奴多倚為姦利。揚玄价兄弟受方鎮之賂。屢有請託。收不能盡從。玄价怒。以為叛己。故出之。○拓跋懷光以五百騎入鄜州。生擒論恐熱。先刖其足。數而斬之。傳首京師。其部眾東奔秦州。尙延心邀擊破之。悉奏遷於嶺南。吐蕃自是衰絕。乞離胡君臣不知所終。○高駢圍交趾十餘日。蠻困蹙甚。城且下。會得王晏權牒。已與李維周將大軍發海門。駢即以軍事授韋仲宰。與麾下百餘人北歸。先是。仲宰遣小使王惠贊。駢遣小校會衰。入告交趾之捷。至海中。望見旌旗東來。問遊船。云新經略使與監軍也。二人謀曰。維周必奪表留我。乃匿於島間。維周過。即馳詣



京師上得奏大喜。即加駢檢校工部尚書。復鎮安南。駢至海門而還。王晏權闇懦。動稟李維周之命。維周凶貪。諸將不為之用。遂解重圍。蠻遁去者大半。駢至。復督勵將士攻城。遂克之。殺段會遷。及土蠻為南詔鄉導者朱道古。斬首三萬餘級。南詔遁去。駢又破土蠻附南詔者二洞。誅其酋長。土蠻帥眾歸附者萬七千人。○十一月。壬子。赦天下。詔安南邕州西川諸軍各保疆域。勿復進攻。南詔委劉潼曉諭。如能更修舊好。一切不問。○置靜海軍於安南。以高駢為節度使。自李涿侵擾安南為安南患。殆將十年。至是始平。駢築安南城。周三千步。造屋四十餘萬間。○十二月。黠戛斯遣將軍乙支連幾入貢。奏遣鞍馬迎冊立使。及請亥年曆日。○以成德留後王景崇為節度使。○上好音樂宴遊。殿前供奉樂工常近五百人。每月宴設。不減十餘。水陸皆備。聽樂觀優。不知厭倦。賜與動及千緡。曲江昆明。灞滻南宮北苑。昭應咸陽。所欲遊幸。即行。不待供置。有司常具音樂飲食幄帟。諸王立馬。以備陪從。每行幸。內外諸司扈從者十餘萬人。所費不可勝紀。

八年春正月。以魏博留後何全皞為節度使。○二月。歸義節度使張義潮入朝。以為右神武統軍。命其族子惟深守歸義。○自安南至邕廣海路多潛石覆舟。靜海節度使高駢募工鑿之。漕運無滯。○西川近邊六姓蠻常持兩端。無寇則稱效順。有寇必為前鋒。卑籠部獨盡心於唐。與羣蠻為讎。朝廷賜姓李。除為刺史。節度使劉潼遣將兵助之。討六姓蠻。焚其部落。斬首五千餘級。○樂工李可及善為新聲。三月上。以可及為左威衛將軍。曹確諫曰。太宗定文武官六百餘員。謂房玄齡曰。朕以待天下賢士。工商雜流。不可處也。大和中。文宗欲以樂工尉遲璋為王府率。拾遺竇洵直諫。即改光州長史。乞以兩朝故事。別除可及官。不從。○夏四月。上不豫。羣臣希進見。五月。丙辰。疎理天下繫囚。非巨蠹不可赦者。皆遞降一等。○秋七月。壬寅。斬王緝薨。○懷州民訴旱。刺史劉仁規揭榜禁之。民怒。相與作亂。逐仁規。仁規逃匿。

村舍民入州宅。掠其家貲。登樓擊鼓。久之乃定。○甲子。以兵部侍郎充諸道鹽鐵轉運等使駢馬都尉于琮同平章事。○宣歙觀察使楊收過華嶽廟。施衣物。使巫祈禱。縣令誣以為收罪。右拾遺韋保衡復言。收前為相。除嚴譟江西節度使。受錢百萬。又置造船務。人訟其侵隱。八月。庚寅。貶收端州司馬。○九月上。疾瘳。○冬十二月。信王恊薨。○加嶺南東道節度使韋宙同平章事。

資治通鑑卷第二百五十

唐紀 懿宗昭聖恭惠孝皇帝上咸通八年



# 資治通鑑卷第二百五十一

## 唐紀六十七

### 懿宗昭聖恭惠孝皇帝中

咸通九年夏六月鳳翔少尹李師望上言。雋州控扼南詔。為其要衝。成都道遠。難以節制。請建定邊軍。屯重兵於雋州。以邛州為理所。朝廷以為信然。以師望為雋州刺史。充定邊軍節度。眉蜀邛雅嘉黎等州觀察。統押諸蠻。并統領諸道行營制置等使。師望利於專制方面。故建此策。其實邛距成都。纔百六十里。雋距邛千里。其欺罔如此。○初南詔陷安南。敕徐泗募兵二千赴援。分八百人別戍桂州。初約三年一代。徐泗觀察使崔彥曾。慎由之從子也。性嚴刻。朝廷以徐兵驕。命鎮之。都押牙尹戡。教練使杜璋。兵馬使徐行儉。用事。軍中怨之。戍桂州者已六年。屢求代還。戡言於彥曾。以軍帑空虛。發兵所費頗多。請更留戍卒一年。彥曾從之。戍卒聞之。怒。都虞候許佶。軍校趙可立。姚周。張行實。皆故徐州羣盜。州縣不能討。招出之。補牙職。會桂管觀察使李叢。移湖南。新使未至。秋七月。佶等作亂。殺都將王仲甫。推糧料判官龐勛為主。劫庫兵北還。所過剽掠。州縣莫能禦。朝廷聞之。八月。遣高品張敬思。赦其罪。部送歸徐州。戍卒乃止。剽掠。○以前靜海節度使高駢。為右金吾大將軍。駢請以從孫潯代鎮。交趾從之。○九月。戍。以山南東道節度使盧耽。為西川節度使。以有定邊軍之故。不領統押諸蠻。安撫等使。○龐勛等至湖南。監軍以計誘之。使悉輸其甲兵。山南東道節度使崔鉉。嚴兵守要害。徐卒不敢入境。泛舟沿江東下。許佶等相與謀曰。吾輩罪大於銀刀。朝廷所以赦之者。

慮緣道攻劫。或潰散為患耳。若至徐州。必菹醢矣。乃各以私財造甲兵旗幟。過浙西。入淮南。淮南節度使令狐綯。遣使慰勞。給芻米。都押牙李湘。言於綯曰。徐卒擅歸。勢必為亂。雖無敕令。誅討藩鎮。大臣當臨事制宜。高郵岸峻而水深狹。請將奇兵。伏於其側。焚荻舟。以塞其前。以勁兵蹙其後。可盡擒也。不然。縱之使得度淮。至徐州。與怨憤之衆合。為患必大。綯素懦怯。且以無敕書。乃曰。彼在淮南。不為暴。聽其自過。餘非吾事也。助招集銀刀等。都竄匿及諸亡命。匿於舟中。衆至千人。丁巳。至泗州。刺史杜愔。饗之於毬場。優人致辭。徐卒以為玩己。擒優人。欲斬之。坐者驚散。愔素為之備。徐卒不散。為亂而止。愔弟也。先是。朝廷屢敕崔彥曾。慰撫戍卒。擅歸者勿使憂疑。彥曾遣使以救意諭之。道路相望。助亦申狀相繼。辭禮甚恭。戊午。行及徐城。助與許佶等。乃言於衆曰。吾輩擅歸。思見妻子耳。今聞已有密敕。下本軍。至則支分滅族矣。丈夫與其自投網羅。為天下笑。曷若相與戮力同心。赴蹈湯火。豈徒脫禍。兼富貴可求。況城中將士。皆吾輩父兄弟。吾輩一唱於外。彼必響應於內矣。然後遵王侍中故事。五十萬賞錢。可翹足待也。衆皆呼躍稱善。將士趙武等十二人。獨憂懼。欲逃去。悉斬之。遣使致其首於彥曾。且為申狀。稱助等遠戍六年。實懷鄉里。而武等因衆心不安。輒萌奸計。將士誠知詿誤。敢避誅夷。今既蒙恩。全宥。輒共誅首惡。以補愆尤。冬十月。甲子。使者至彭城。彥曾執而訊之。具得其情。乃囚之。丁卯。助復於遞中申狀。稱將士自負罪戾。各懷憂疑。今已及符離。尚未釋甲。蓋以軍將尹戡。杜璋。徐行儉等。狡詐多疑。必生釁隙。乞且停此三人職任。以安衆心。仍乞戍還將士。別置二營。共為一將。時戍卒拒彭城。止四驛。闔城懼。彥曾召諸將謀之。皆泣曰。比以銀刀兇悍。使一軍皆蒙惡名。殲夷流竄。不無枉濫。今冤痛之聲未已。而桂州戍卒復爾猖狂。若縱使入城。必為逆亂。如此。則闔境塗地矣。不若乘其遠來疲弊。發兵擊之。我逸彼勞。往無不捷。彥曾猶豫未決。團練判官溫廷皓。復言於彥曾曰。安危之兆。已在目前。



得失之機。決於今日。今擊之有三難。而捨之有五害。詔釋其罪而擅誅之。一難也。帥其父兄。討其子弟。二難也。枝黨鈞連。刑戮必多。三難也。然當道戍卒。擅歸不誅。則諸道戍邊者。皆效之。無以制禦。一害也。將者一軍之首。而輒敢害之。則凡爲將者。何以號令士卒。二害也。所過剽掠。自爲甲兵。招納亡命。此而不討。何以懲惡。三害也。軍中將士。皆其親屬。銀刀餘黨。潛匿山澤。一旦內外俱發。何以支梧。四害也。逼脇軍府。誅所忌三將。又欲自爲一營。從之則銀刀之患復起。違之則託此爲作亂之端。五害也。惟明公去其三難。絕其五害。早定大計。以副衆望。時城中有兵四千三百。彥曾乃命都虞候元密等。將兵三千人。討助。數助之罪。以令士衆。且曰。非惟塗炭平人。實亦汚染將士。儻國家發兵誅討。則玉石俱焚矣。又曰。凡彼親屬。無用。憂疑罪止一身。必無連坐。仍命宿州出兵符離泗州。出兵於虹。以邀之。且奏其狀。彥曾戒元密。無傷救使。戊辰。元密發彭城。軍容甚盛。諸將至任山北數里。頓兵不進。共思所以奪救使之計。欲俟賊入館。乃縱兵擊之。遣人變服負薪以誑賊。日暮。賊至任山。館中空無人。又無供給。疑之。見負薪者。執而榜之。果得其情。乃爲偶人。列於山下。而潛遁。比夜。官軍始覺之。恐賊潛伏山谷。及問道來襲。復引兵。退宿於城南。明且。乃進追之。時賊已至符離。宿州戍卒五百人。出戰於淮水上。望風奔潰。賊遂抵宿州。時宿州闕刺史。觀察副使焦璐。攝州事。城中無復餘兵。庚午。賊攻陷之。璐走免。賊悉聚城中貨財。令百姓來取之。一日之中。四遠雲集。然後選募爲兵。有不願者。立斬之。自旦至暮。得數千人。於是勒兵乘城。龐助自稱兵馬留後。再宿。官軍始至。賊守備已嚴。不可復攻。先是。焦璐聞符離敗。決泚水以斷北路。賊至。水尚淺。可涉。比官軍至。已深矣。壬申。元密引兵渡水。將圍城。會大風。賊以火箭射城外茅屋。延及官軍營。士卒進則冒矢石。退則限水火。賊急擊之。死者近三百人。元密等以爲賊必固守。但爲攻取之計。賊夜使婦人持更。掠城中大船三百艘。備載資糧。順流而下。欲入江湖爲盜。以千緡贈張

敬思。遣騎送至泚之東境。縱使西歸。明且。官軍知賊已去。狼狽追之。士卒皆未食。比追及。已飢乏。賊棹舟隄下。而陳於隄外。伏千人於舟中。官軍將至。陳者皆走入陂中。密以爲畏己。縱兵追之。賊自舟中出。夾攻之。自午及申。官軍大敗。密引兵走陷於荷涓。賊追及之。密等諸將及監陳救使皆死。士卒死者殆千人。其餘皆降於賊。無一人還徐者。賊問降卒。以彭城人情計謀。知其無備。始有攻彭城之志。乙亥。龐助引兵北度淮水。踰山趣彭城。其夕。崔彥會始知元密敗。移牒鄰道求救。明日塞門。選城中丁壯爲守備。內外震恐。無復固志。或勸彥會奔兗州。彥會怒曰。吾爲元帥。城陷而死。職也。立斬言者。丁丑。賊至城下。衆六七千人。鼓譟動地。民居在城外者。賊皆慰撫。無所侵擾。由是人爭歸之。不移時。克羅城。彥會退保子城。民助賊攻之。推草車塞門而焚之。城陷。賊囚彥會於大彭館。執尹戡杜璋。徐行儉。列而剽之。盡滅其族。助坐聽事。盛陳兵衛。文武將吏伏謁。莫敢仰視。即日。城中願附從者萬餘人。戊寅。助召溫庭皓。使草表。求節鉞。庭皓曰。此事甚大。非頃刻可成。請還家。徐草之。助許之。明日。助使趣之。庭皓來見。助曰。昨日所以不卽拒者。欲一見妻子耳。今已與妻子別。謹來就死。助熟視笑曰。書生敢爾。不畏死邪。龐助能取徐州。何患無人草表。遂釋之。有周重者。每以才略自負。助迎爲上客。重爲助草表稱。臣之一軍。乃漢室興王之地。頃因節度使刻削軍府。刑賞失中。遂致迫逐。陛下奪其節制。翦滅一軍。或死或流。冤橫無數。今聞本道復欲誅夷。將士不勝痛憤。推臣權兵馬留後。彈壓十萬之師。撫有四州之地。臣聞見利乘時。帝王之資也。臣見利不失。遇時不疑。伏乞聖慈。復賜旌節。不然。揮戈曳戟。詣闕非遲。庚辰。遣押牙張瑄。奉表詣京師。助以許信爲都虞候。趙可立爲都遊奕使。黨與各補牙職。分將諸軍。又遣舊將劉行及。將千五百人屯濠州。李圓將二千人屯泗州。梁丕將千人屯宿州。自餘要害縣鎮。悉繕完戍守。徐人謂旌節之至。不過旬月。願効力獻策者。遠近輻湊。乃至光蔡淮浙兗鄆沂密群盜。皆倍道歸之。闔溢



郭郭旬日間米斗直錢二百。勛詐爲崔彥曾請剪滅徐州表。其略曰。一軍暴卒。盡可剪除。五縣愚民。各宜配隸。又作詔書。依其所請。傳布境內。徐人信之。皆歸。怨朝廷曰。微桂州將士回戈。吾徒悉爲魚肉矣。劉行及引兵至渦口。道路附從者增倍。濠州兵纔數百。刺史盧望回。素不設備。不知所爲。乃開門。具牛酒迎之。行及入城。囚望回。自行刺史事。泗州刺史杜慆聞勛作亂。完守備以待之。且求救於江淮。李圓遣精卒百人。先入泗州。封府庫。慆遣人迎勞。誘之入城。悉誅之。明日圓至。卽引兵圍城。城上矢石雨下。賊死者數百。乃斂兵屯城西。勛以泗州當江淮之衝。益發兵助圓攻之。衆至萬餘。終不能克。○初朝廷聞龐勛自任山還趣宿州。遣高品康道偉齎敕書撫慰之。十一月道偉至彭城。勛出郊迎。自任山至子城三十里。大陳甲兵。號令金鼓。響震山谷。城中丁壯悉驅使乘城。宴道偉於毬場。使人詐爲羣盜降者數千人。諸寨告捷者數十輩。復作求節鉞表。附道偉以聞。○初辛雲京之孫謙寓居廣陵。喜任俠。年五十。不仕。與杜慆有舊。聞龐勛作亂。詣泗州勸慆挈家避之。慆曰。安平享其祿位。危難棄其城池。吾不爲也。且人各有家。誰不愛之。我獨求生。何以安衆。誓與將士共死。此城耳。謙曰。公能如是。僕與公同死。乃還廣陵。與其家訣。壬辰復如泗州。時民避亂。扶老攜幼。塞塗而來。見謙皆止之曰。人皆南走。子獨北行。取死何爲。謙不應。至泗州。賊已至城下。謙急棹小舟。得入。慆卽署團練判官。城中危懼。都押牙李雅有勇略。爲慆設守備。帥衆鼓譟。四出擊賊。賊退屯徐城。衆心稍安。龐勛募人爲兵。人利於剽掠。爭赴之。至父遣其子。妻勉其夫。皆斷鉏首而銳之。執以應募。鄰道聞勛據徐州。各遣兵據要害。而官軍尙少。賊衆日滋。官軍數不利。賊遂破魚臺。近十縣。宋州東有磨山。民逃匿其上。勛遣其將張玄稔圍之。會旱。山泉竭。數萬口皆渴死。或說勛曰。留後止欲求節鉞。當恭順盡禮。以事天子。外戢士卒。內撫百姓。庶幾可得。勛雖不能用。然國忌猶行香。饗士卒。必先西向拜謝。癸卯。勛聞敕使入境。以爲必賜旌節。衆皆賀。

明日敕使至。但責崔彥曾及監軍張道謹。貶其官。勛大失望。遂囚敕使。不聽歸。詔以右金吾大將軍康承訓爲義成節度使。徐州行營都招討使神武大將軍王晏權爲徐州北面行營招討使。羽林將軍戴可師爲徐州南面行營招討使。大發諸道兵。以隸三帥。承訓奏乞沙陀三部落使朱邪赤心及吐谷渾達韃契苾酋長各帥其衆。以自隨。詔許之。龐勛以李圓攻泗州久不克。遣其將吳迴代之。丙午復進攻泗州。晝夜不息。時敕使郭厚本將淮南兵千五百人救泗州。至洪澤。畏賊彊不敢進。辛謙請往求救。杜慆許之。丁未夜乘小舟潛度淮。至洪澤。說厚本。厚本不聽。比明復還。己酉賊攻城益急。欲焚水門。城中幾不能禦。謙請復往求救。慆曰。前往徒還。今往何益。謙曰。此行得兵則生返。不得則死之。慆與之泣別。謙復乘小舟。負戶突圍出。見厚本。爲陳利害。厚本將從之。淮南都將袁公弁曰。賊勢如此。自保恐不足。何暇救人。謙拔劍瞋目。謂公弁曰。賊百道攻城。陷在朝夕。公受詔救援。而逗留不進。豈惟上負國恩。若泗州不守。則淮南遂爲寇場。公詎能獨存邪。我當殺公而後止耳。起欲擊之。厚本起抱止之。公弁僅免。謙乃回望泗州。慆哭終日。士卒皆爲之流涕。厚本乃許分五百人與之。仍問將士。將士皆願行。謙舉身叩頭。以謝將士。遂帥之抵淮南岸。望賊方攻城。有軍吏言曰。賊勢已似入城。還去則便。謙逐之。攬得其髻。舉劍擊之。士卒共救之曰。予五百人判官。不可殺也。謙曰。臨陳妄言惑衆。衆必不可捨。衆請不能得。乃共奪之。謙素多力。衆不能奪。謙曰。將士但登舟。我則捨此人。衆競登舟。乃捨之。士卒有回顧者。則斫之。驅至淮北。勒兵擊賊。慆於城上布兵。與之相應。賊遂敗走。鼓譟逐之。至晡而還。龐勛遣其將劉佶將精兵數千助吳迴攻泗州。劉行及自濠州遣其將王弘立引兵會之。戊午鎮海節度使杜審權遣都頭翟行約將四千人救泗州。己未行約引兵至泗州。賊逆擊於淮南。圍之。城中兵少不能救。行約及士卒盡死。先是令狐綯遣李湘將兵數千救泗州。與郭厚本袁公弁合兵屯都梁城。與泗州隔淮相望。賊



既破翟行約。乘勝圍之。十二月甲子。李湘等引兵出戰。大敗。賊遂陷都梁城。執湘及郭厚本。送徐州。據淮口。漕驛路絕。康承訓軍於新興。賊將姚周屯柳子。出兵拒之。時諸道兵集者纔萬人。承訓以衆寡不敵。退屯宋州。龐勛以爲官軍不足畏。乃分遣其將丁從實等。各將數千人。南寇舒廬。北侵沂海。破沭陽。下蔡。烏江。巢縣。攻陷滁州。殺刺史高錫望。又寇和州。刺史崔雍遣人以牛酒犒之。引賊登樓共飲。命軍士皆釋甲。指所愛二人爲子弟。乞全之。其餘惟賊所處。賊遂大掠城中。殺士卒八百餘人。泗州援兵既絕。糧且盡。人食薄粥。閏月己亥。辛讜言於杜慆。請出求救於淮浙。夜帥敢死士十人。執長柯斧。乘小舟潛往。斫賊水寨而出。明日。賊乃覺之。以五舟遮其前。以五千人夾岸追之。賊舟重行遲。讜舟輕行疾。方鬪三十餘里。乃得免。癸卯。至揚州。見令狐綯。甲辰。至潤州。見杜審權。時泗州久無聲問。或傳已陷。讜既至。審權乃遣押牙趙翼。將甲士二千人。與淮南共輸米五千斛。鹽五百斛。以救泗州。戴可師將兵三萬。渡淮轉戰而前。賊盡棄淮南之守。可師欲先奪淮口。後救泗州。壬申。圍都梁城。城中賊少。拜於城上曰。方與都頭議出降。可師爲之退五里。賊夜遁。明且。惟空城。可師恃勝不設備。是日大霧。賊將王弘立。引兵數萬。疾徑奄至。縱擊官軍。官軍不及成列。遂大敗。將士觸兵。及溺。淮死得免者纔數百人。亡器械資糧車馬以萬計。賊傳可師及監軍將校首於彭城。龐勛自謂無敵於天下。作露布。散示諸寨及鄉村。於是淮南士民震恐。往往避地江左。令狐綯畏其侵軼。遣使詣勛說諭。許爲奏請節鉞。勛乃息兵俟命。由是淮南稍得收散卒。修守備。時汴路既絕。江淮往來者皆出壽州。賊既破戴可師。乘勝圍壽州。掠諸道貢獻。及商人貨。其路復絕。助益自驕。日事遊宴。周重諫曰。自古驕滿奢逸。得而復失。成而復敗。多矣。況未得未成而爲之者乎。諸道兵大集於宋州。徐州始懼。應募者益少。而諸寨求益兵者相繼。助乃使其黨散入鄉村。驅人爲兵。又見兵已及數萬人。資糧匱竭。乃斂富室及商旅財。什取其七八。坐匿財

夷宗者數百家。又與助同舉兵於桂州者。尤驕暴。奪人資財。掠人婦女。助不能制。由是境內之民皆厭苦之。不聊生矣。王晏權兵數退。朝廷命秦寧節度使曹翔代晏權爲徐州北面招討使。前天雄節度使何全皞。遣其將薛尤。將兵萬三千人。討龐勛。翔軍於滕沛。尤軍於豐蕭。○是歲。江淮旱蝗。

十年春正月。康承訓將諸道軍七萬餘人。屯柳子之西。自新興至鹿塘三十里。壁壘相屬。徐兵分戍四境。城中不及數千人。龐勛始懼。民多穴地匿其中。助遣人搜掘爲兵。日不過得三二十人。助將孟敬文守豐縣。狡悍而兵多。謀貳于助。自爲符讖。助聞之。會魏博攻豐。助遣腹心將將三千。助敬文守豐。敬文與之約。共擊魏博軍。且譽其勇。使爲前鋒。新軍既與魏博戰。敬文引兵退走。新軍盡沒。助乃遣使給之曰。王弘立已克淮南。留後欲自往鎮之。悉召諸將。欲選一人可守徐州者。敬文喜。卽馳詣彭城。未至城數里。助伏兵擒之。辛酉。殺之。○丁卯。同昌公主。適右拾遺韋保衡。以保衡爲起居郎。駙馬都尉。公主郭淑妃之女。上特愛之。傾宮中珍玩。以爲資送。賜第於廣化里。窓戶皆飾以雜寶。井欄藥臼。槽匱。亦以金銀爲之。編金縷以爲篋。篋。賜錢五百萬緡。他物稱是。○徐賊寇海州。時諸道兵戍海州者已數千人。斷賊所過橋柱。而弗殊。仍伏兵要害。以待之。賊過橋崩。蒼黃散亂。伏兵發。盡殪之。其攻壽州者。復爲南道軍所破。斬獲數千人。辛讜以浙西之軍。至楚州。敕使張存誠。以舟助之。徐賊水陸布兵。鎖斷淮流。浙西軍憚其彊。不敢進。讜曰。我請爲前鋒。勝則繼之。敗則汝走。猶不可。讜乃募選軍中敢死士數十人。牒補職名。先以米舟三艘。鹽舟一艘。乘風逆流直進。賊夾攻之。矢著舟板。如急雨。及鎖。讜帥衆死戰。斧斷其鎖。乃得過。城上人喧呼動地。杜慆及將佐皆泣迎之。乙酉。城上望見舟師。張帆自東來。識其旗。浙西軍也。去城十餘里。賊列火船拒之。帆止不進。慆令讜帥死士出迎之。乘戰艦衝賊陳。而過。見張存誠帥米舟九艘。曰。將士在道前却。存誠屢



欲自殺。僅得至此。今又不進。讜揚言。賊不多。甚易與耳。帥衆揚旗鼓譟而前。賊見其勢猛銳。避之。遂得入城。○二月。端州司馬楊收。長流驩州。尋賜死。其僚屬黨友。坐長流嶺表者十餘人。初尚書右丞裴坦子。娶收女。資送甚盛。器用飾以犀玉。坦見之。怒曰。破我家矣。立命壞之。已而收竟以賄敗。○康承訓使朱邪赤心將沙陀三千騎。爲前鋒。陷陳却敵。十鎮之兵。伏其驍勇。承訓嘗引麾下千人。渡渙水。賊伏兵圍之。赤心帥五百騎。奮槌衝圍。拔出承訓。賊勢披靡。因合擊敗之。承訓數與賊戰。賊軍屢敗。王弘立自矜淮口之捷。請獨將所部三萬人。破承訓。龐助許之。己亥。弘立引兵度淮水。夜襲鹿塘寨。黎明圍之。弘立與諸將臨望。自謂功在漏刻。沙陀左右突圍出入如飛。賊紛擾移避。沙陀縱騎蹂之。寨中諸軍。爭出奮擊。賊大敗。官軍蹙之於淮水。溺死者不可勝紀。自鹿塘至襄城。伏尸五十里。斬首二萬餘級。弘立單騎走免。所驅掠平民。皆散走山谷。不復還營。委棄資糧器械山積。時有敕。諸軍破賊。得農民皆釋之。自是賊每與官軍遇。其驅掠之民。先自潰。龐助許信。以弘立驕惰致敗。欲斬之。周重爲之說。助曰。弘立再勝未賞。一敗而誅之。棄功錄過。爲敵報讐。諸將咸懼矣。不若赦之。責其後効。助乃釋之。弘立收散卒纔數百人。請取泗州以補過。助益其兵而遣之。○三月辛未。以起居郎韋保衡爲左諫議大夫。充翰林學士。○徙郢王侃爲威王。○康承訓既破王弘立。進逼柳子。與姚周。一月之間。數十戰。丁亥。周引兵渡水。官軍急擊之。周退走。官軍逐之。遂圍柳子。會大風。四面縱火。賊棄寨走。沙陀以精騎邀之。屠殺殆盡。自柳子至芳城。死者相枕。斬其將劉豐。周將麾下數十人。奔宿州。宿州守將梁丕。素與之有隙。開城聽入。執而斬之。龐助聞之大懼。與許信議。自將出戰。周重泣言於助曰。柳子地要兵精。姚周勇敢有謀。今一旦覆沒。危如累卵。不若遂建大號。悉兵四出。決死力戰。又勸殺崔彥曾。以絕人望。術士曹君長亦言。徐州山川不容兩帥。今觀察使尙在。故留後未興。賊黨皆以爲然。夏四月壬辰。助殺彥曾。及監軍張道

謹。宣慰使仇大夫。僚佐焦璠。溫庭皓。并其親屬賓客僕妾。皆死。斷淮南監軍郭厚本。都押衙李湘手足。以示康承訓軍。助乃集衆揚言曰。助始望國恩。庶全臣節。今日之事。前志已乖。自此助與諸君真反者也。當掃境內之兵。戮力同心。轉敗爲功耳。衆皆稱善。於是命城中男子悉集毬場。仍分遣諸將。比屋大索。敢匿一男子者。族其家。選丁壯得三萬人。更造旗幟。給以精兵。許信等共推助爲天冊將軍。大會明王。助辭王爵。先是。辛讜復自泗州。引驍勇四百人。迎糧於揚潤。賊夾岸攻之。轉戰百里。乃得出。至廣陵。止于公館。不敢歸家。舟載鹽米二萬石。錢萬三千緡。乙未。還至斗山。賊將王弘芝。帥衆萬餘。拒之於盱眙。密布戰艦。百五十艘。以塞淮流。又縱火船逆之。讜命以長叉托過。自卯戰及未。衆寡不敵。官軍不利。賊縛木於戰艦。旁出四五尺爲戰棚。讜命勇士乘小舟入其下。矢刃所不能及。以槍揭火牛焚之。戰艦既然。賊皆潰走。官軍乃得過入城。○龐助以父舉直爲大司馬。與許信等留守徐州。或曰。將軍方耀兵威。不可以父子之親。失上下之節。乃令舉直趨拜於庭。助據案而受之。時魏博屢圍豐縣。龐助欲先擊之。丙申。引兵發徐州。○戊戌。以前淮南節度使同平章事令狐綯爲太保。分司。○龐助夜至豐縣。潛入城。魏博軍皆不之知。魏博分爲五寨。其近城者屯數千人。助縱兵圍之。諸寨救之。助伏兵要路。殺官軍二千人。餘皆返走。賊攻寨不克。至夜。解圍去。官軍畏其衆。且聞助自來。諸寨皆宵潰。曹翔方圍滕縣。聞魏博敗。引兵退保兗州。賊悉毀其城柵。運其資糧。傳檄徐州。盛自誇大。謂官軍爲國賊云。○馬舉將精兵三萬救泗州。乙巳。分軍三道度淮。至中流。大譟。聲聞數里。賊大驚。不測衆寡。斂兵屯城西寨。舉就圍之。縱火焚柵。賊衆大敗。斬首數千級。王弘立死。吳迴退保徐城。泗州之圍始解。泗州被圍凡七月。守城者不得寐。面目皆生瘡。○龐助留豐縣數日。欲引兵西擊康承訓。或曰。天時向暑。蠶麥方急。不若且休兵聚食。然後圖之。或曰。將軍出師數日。摧七萬之衆。西軍震恐。乘此聲勢。彼破走必矣。時不可失。龐



舉直以書勸助乘勝進軍。助意遂決。丁未。發豐縣。庚戌。至蕭約。襄城留武小睢諸寨。兵合五六萬人。以二十九日遲明攻柳子。淮南敗卒在賊中者。逃詣康承訓。告以其期。承訓得先爲之備。秣馬整衆。設伏以待之。丙辰。襄城等兵先至柳子。遇伏敗走。龐助既自失期。遽引兵自三十里外赴之。比至。諸寨已敗。助所將皆市井白徒。觀官軍勢盛。皆不戰而潰。承訓命諸將急追之。以騎兵邀其前。步卒蹙其後。賊狼狽不知所之。自相蹈藉。僵尸數十里。死者數萬人。助解甲。服布襦而遁。收散卒。纔及三千人。歸彭城。使其將張實分諸寨。兵屯第城驛。助初起。下邳土豪鄭鑑聚衆三千。自備資糧器械以應之。助以爲將。謂之義軍。五月。沂州遣軍圍下邳。助命鑑救之。鑑帥所部來降。○六月。陝民作亂。逐觀察使崔蕘。蕘以器韻自矜。不親政事。民訴旱。蕘指庭樹曰。此尙有葉。何旱之有。杖之。民怒。故逐之。蕘逃於民舍。渴求飲。民以溺飲之。坐貶昭州司馬。○以中書侍郎同平章事徐商同平章事。充荆南節度使。癸卯。以翰林學士承旨戶部侍郎劉瞻同平章事。瞻桂州人也。○馬舉自泗州引兵攻濠州。拔招義鍾離。定遠。劉行及設寨於城外。以拒守。舉先遣輕騎挑戰。賊見其衆少。爭出寨西擊之。舉引大軍數萬。自它道擊其東南。遂焚其寨。賊入固守。舉壘其三面而圍之。北面臨淮。賊猶得與徐州通。龐助遣吳迴助行及守濠州。屯兵北津。以相應。舉遣別將度淮擊之。斬獲數千。平其寨。○曹翔之退屯兗州也。留滄州卒四千人。戍魯橋。卒擅還。翔曰。以龐助作亂。故討之。今滄卒不從。約束是自亂也。勒兵迎之。圍於兗州城外。擇違命者二千人。悉誅之。朝廷聞魏博軍敗。以將軍宋威爲徐州西北面招討使。將兵三萬。屯於豐蕭之間。翔復引兵會之。秋。七月。康承訓克臨渙。殺獲萬人。遂拔襄城。留武小睢等寨。曹翔拔滕縣。進擊豐沛。賊諸寨戍兵。多相帥逃匿。保據山林。賊抄掠者過之。輒爲所殺。而五八村尤甚。有陳全裕者。爲之帥。凡叛助者皆歸之。衆至數千人。戰守之具皆備。環地數十里。賊莫敢近。康承訓遣人招之。遂舉衆來降。賊黨益

離。蕘縣土豪李袞殺賊守將。舉城降於承訓。沛縣守將李直詣彭城計事。裨將朱攻舉城降。于曹翔。直自彭城還。攻逆擊走之。翔發兵戍沛。攻邳州人也。助遣其將孫章許信各將數千人。攻陳全裕。朱攻皆不克而還。康承訓乘勝長驅。拔第城。進抵宿州之西。築城而守之。龐助憂懣。不知所爲。但禱神飯僧而已。○初。龐助怒梁丕專殺姚周。黜之。使徐州舊將張玄稔代之。治州事。以其黨張儒張實等將城中兵數萬。拒官軍。儒等列寨數重於城外。環水自固。康承訓圍之。張實夜遣人潛出。以書白助曰。今國兵盡在城下。西方必虛。將軍宜引兵出其不意。掠宋亳之郊。彼必解圍而西。將軍設伏要害。迎擊其前。實等出城中兵。蹙其後。破之必矣。時曹翔使朱攻擊豐破之。乘勝攻徐城下邳。皆拔之。斬獲萬計。助方憂懼欲走。得實書。卽從其策。使龐舉直許信守徐州。引兵而西。八月。壬子。康承訓焚外寨。張儒等入保羅城。官軍攻之。死者數千人。不能克。承訓患之。遣辯士於城下招諭之。張玄稔嘗戍邊有功。雖脅從於賊。心嘗憂憤。時將所部兵守子城。夜召所親數十人。謀歸國。因稍令布諭。協同者衆。乃遣腹心張臯夜出。以狀白承訓。約期殺賊將。舉城降。至日。請立青旌爲應。使衆心無疑。承訓大喜。從之。九月。丁巳。張儒等飲酒於柳溪亭。玄稔使部將董厚等勒兵於亭西。玄稔先躍馬而前。大呼曰。龐助已梟首於僕射塞中。此輩何得尙存。士卒競進。遂斬張儒等數十人。城中大擾。玄稔諭以歸國之計。及暮而定。戊午。開門出降。玄稔見承訓。肉袒膝行。涕泣謝罪。承訓慰勞。卽宣敕拜御史中丞。賜遺甚厚。玄稔復進言。今舉城歸國。四遠未知。請詐爲城陷。引衆趨符離。及徐州。賊黨不疑。可盡擒也。承訓許之。宿州舊兵三萬。承訓益以數百騎。皆賞勞而遣之。玄稔復入城。暮發平安火。如常日。己未。向晨。玄稔積薪數千束。縱火焚之。如城陷軍潰之狀。直趨符離。符離雖納之。既入。斬其守將。號令城中。皆聽命。收其兵。復得萬人。北趨徐州。龐舉直許信聞之。嬰城拒守。辛酉。玄稔至彭城。引兵圍之。按兵未攻。先諭城上人曰。朝廷唯誅逆黨。不



傷良人。汝曹奈何爲賊城守。若尙狐疑。須臾之間。同爲魚肉矣。於是守城者稍稍棄甲投兵而下。崔彥曾故吏路審中。開門納官軍。龐舉直許佶帥其黨保子城。日昃。賊黨自北門出。玄稔遣兵追之。斬舉直佶首。餘黨多赴水死。悉捕戍桂州者親族。斬之。死者數千人。徐州遂平。龐勛將兵二萬。自石山西出。所過焚掠無遺。庚申。承訓始知。引步騎八萬西擊之。使朱邪赤心將數千騎爲前鋒。助襲宋州。陷其南城。刺史鄭處冲守其北城。賊知有備。捨去。度汴南掠亳州。沙陀追及之。勛引兵循渙水而東。將歸彭城。爲沙陀所逼。不暇飲食。至蕪。將濟水。李袞發橋勒兵拒之。賊惶惑不知所之。至縣西。官軍大集。縱擊殺賊近萬人。餘皆溺死。降者纔及千人。勛亦死。而人莫之識。數日乃獲其尸。賊宿遷等諸寨。皆殺其守將而降。宋威亦取蕭縣。吳迴獨守濠州不下。○冬。十月。以張玄稔爲右驍衛大將軍。御史大夫。○馬舉攻濠州。自夏及冬。不克。城中糧盡。殺人而食之。官軍深塹重圍以守之。辛丑夜。吳迴突圍走。舉勒兵追之。殺獲殆盡。迴死於招義。以康承訓爲河東節度使。同平章事。以杜慆爲義成節度使。上嘉朱邪赤心之功。置大同軍於雲州。以赤心爲節度使。召見留爲左金吾上將軍。賜姓名李國昌。賞賚甚厚。以辛謙爲亳州刺史。謙在泗州。犯圍出迎。兵糧往返凡十二。及除亳州。上表言。臣之功非杜慆不能成也。賜和州刺史崔雍自盡。家屬流康州。兄弟五人皆遠貶。○上荒宴不親庶政。委任路巖。巖奢靡。頗通賂遺。左右用事。至德令陳蟠叟。因上書。召對。言。請破邊成一家。可贍軍二年。上問。咸爲誰。對曰。路巖親吏。上怒。流蟠叟於愛州。自是無敢言者。○初。南詔遣使者楊會慶來謝。釋董成之囚。定邊節度使李師望欲激怒南詔以求功。遂殺會慶。西川大將恨師望分裂巡屬。陰遣人致意南詔。使入寇。師望貪殘。聚私貨以百萬計。戍卒怨怒。欲生食之。師望以計免。朝廷徵還。以太府少卿竇滂代之。滂貪殘。又甚於師望。故蠻寇未至而定邊固已困矣。是月。南詔驃信會龍。傾國入寇。引數萬衆。擊董春烏部。破之。十一月。蠻進寇

嵩州。定邊都頭安再榮守清溪關。蠻攻之。再榮退屯大渡河北。與之隔水相射。九日八夜。蠻密分開道。逾雪坡。奄至沐源川。滂遣充海將黃卓帥五百人拒之。舉軍覆沒。十二月。丁酉。蠻衣充海之衣。詐爲敗卒。至江岸呼船。已濟。衆乃覺之。遂陷犍爲。縱兵焚掠。陵榮二州之境。後數日。蠻軍大集於陵雲寺。與嘉州對岸。刺史楊恣與定邊監軍張允瓊。勒兵拒之。蠻潛遣奇兵自東津濟。夾擊官軍。殺忠武都將顏慶師。餘衆皆潰。恣允瓊脫身走。壬子。陷嘉州。慶師慶復之弟也。竇滂自將兵拒蠻於大渡河。驃信詐遣清平官數人詣滂。結和。滂與語未畢。蠻乘船棧爭渡。忠武徐宿兩軍結陳抗之。滂懼。自經於帳中。徐州將苗全緒解之曰。都統何至於此。全緒與安再榮及忠武將勒兵出戰。滂遂單騎宵遁。三將謀曰。今衆寡不敵。明旦復戰。吾屬盡矣。不若乘夜攻之。使之驚亂。然後解去。於是夜入蠻軍。弓弩亂發。蠻大驚。三將乃全軍引去。蠻進陷黎雅。民竄匿山谷。敗軍所在焚掠。滂奔導江。邛州軍資儲待皆散於亂兵之手。蠻至。城已空。通行無礙矣。詔左神武將軍顏慶復將兵赴援。

資治通鑑卷第二百五十一

唐紀 懿宗昭聖恭惠孝皇帝中咸通十年



# 資治通鑑卷第二百五十二

## 唐紀六十八

### 懿宗昭聖恭惠孝皇帝下

咸通十一年春正月甲寅朔羣臣上尊號曰睿文英武明德至仁大聖廣孝皇帝敕天下○西川之民聞蠻寇將至爭走入成都時成都但有子城亦無壕人所占地各不過一席許雨則戴箕盎以自庇又乏水取摩訶池泥汁澄而飲之將士不習武備節度使盧耽召彭州刺史吳行魯使攝參謀與前瀘州刺史楊慶復共修守備選將校分職事立戰棚具礮槓造器備嚴警邏先是西川將士多虛職名亦無稟給至是揭榜募驍勇之士補以實職厚給糧賜應募者雲集慶復乃諭之曰汝曹皆軍中子弟年少材勇平居無由自進今蠻寇憑陵乃汝曹取富貴之秋也可不勉乎皆歡呼踊躍於是列兵械于庭使之各試所能兩角勝察其勇怯而進退之得選兵三千人號曰突將行魯彭州人也戊午蠻至眉州耽遣同節度副使王偃等齎書見其用事之臣杜元忠與之約和蠻報曰我輩行止只繫雅懷○路巖韋保衡上言康承訓討龐勛時逗撓不進又不能盡其餘黨又貪虜獲不時上功辛酉貶蜀王傅分司尋再貶恩州司馬○南詔進軍新津定邊之北境也盧耽遣同節度副使譚奉祀致書于杜元忠問其所以來之意蠻留之不還耽遣使告急于朝且請遣使與和以紓一時之患朝廷命知四方館事太僕卿支詳為宣諭通和使蠻以耽待之恭亦為之盤桓而成都守備由是粗完甲子蠻長驅而北陷雙流庚午耽遣節度副使柳縈往見之杜元忠授縈書一通曰

此通和之後驃信與軍府相見之儀也其儀以王者自處語極驕慢又遣人負綵幕至城南云欲張陳蜀王廳以居驃信癸酉廢定邊軍復以七州歸西川是日蠻軍抵成都城下前一日盧耽遣先鋒遊奕使王晝至漢州調援軍且趣之時興元六千人鳳翔四千人已至漢州會資滂以忠武義成徐宿四千人自導江奔漢州就援軍以自存丁丑王晝以興元資簡兵三千餘人軍於毗橋遇蠻前鋒與戰不利退保漢州時成都日望援軍之至而資滂自以失地欲西川相繼陷沒以分其責每援軍自北至輒說之曰蠻衆多於官軍數十倍官軍遠來疲弊未易遽前諸將信之皆狐疑不進成都十將李自孝陰與蠻通欲焚城東倉為內應城中執而殺之後數日蠻果攻城久之城中無應而止二月癸未朔蠻合梯衝四面攻成都城上以鉤縲挽之使近投火沃油焚之攻者皆死盧耽以楊慶復攝左都押牙李驥各帥突將出戰殺傷蠻二千餘人會暮焚其攻具三千餘物而還蜀人素怯其突將新為慶復所獎拔且利於厚賞勇氣自倍其不得出者皆憤鬱求奮後數日賊取民籬重沓濕而屈之以為蓬置人其下舉以抵城而斫之矢石不能入火不能然慶復鎔鐵汁以灌之攻者又死乙酉支詳遣使與蠻約和丁亥蠻斂兵請和戊子遣使迎支詳時顏慶復以援軍將至詳謂蠻使曰受詔詣定邊約和今雲南乃圍成都則與曩日詔旨異矣且朝廷所以和者冀其不犯成都也今矢石晝夜相交何謂和乎蠻見和使不至庚寅復進攻城辛卯城中出兵擊之乃退初韋臯招南詔以破吐蕃既而蠻訴以無甲弩臯使匠教之數歲蠻中甲弩皆精利又東蠻直那時勿鄧夢衝三部助臯破吐蕃有功其後邊吏遇之無狀東蠻怨唐深自附於南詔每從南詔入寇為之盡力得唐人皆虐殺之朝廷貶資滂為康州司戶以顏慶復為東川節度使凡援蜀諸軍皆受慶復節制癸巳慶復至新都蠻分兵往拒之甲午與慶復遇慶復大破蠻軍殺二千餘人蜀民數千人爭操芟刀白楫以助官軍呼聲震野乙未蠻步騎數萬復至會



右武衛上將軍宋威以忠武二千人至。卽與諸軍會戰。蠻軍大敗。死者五千餘人。退保星宿山。威進軍沱江驛。距成都三十里。蠻遣其臣楊定保詣支詳請和。詳曰。宜先解圍退軍。定保還。蠻圍城如故。城中不知援軍之至。但見其數來請和。知援軍必勝矣。戊戌。蠻復請和。使者十返。城中亦依違答之。蠻以援軍在近。攻城尤急。驃信以下親立矢石之間。庚子。官軍至城下。與蠻戰。奪其升遷橋。是夕。蠻自燒攻具遁去。比明。官軍乃覺之。初。朝廷使顏慶復救成都。命宋威屯綿漢。爲後繼。威乘勝先至城下。破蠻軍。功居多。慶復疾之。威飯士。欲追蠻軍。城中戰士亦欲與北軍合勢俱進。慶復牒威奪其軍。勒歸漢州。蠻至雙流。阻新穿水。造橋未成。狼狽失度。三日橋成。乃得過。斷橋而去。甲兵服物遺棄於路。蜀人甚恨之。黎州刺史嚴師本收散卒數千。保邛州。蠻圍之二日。不克。亦捨去。顏慶復始教蜀人築壘門城。穿塹引水滿之。植鹿角。分營鋪。蠻知有備。自是不復犯成都矣。先是。西川牙將有職無官。及拒却南詔。四人以功授監察御史。堂帖。人輸堂例錢三百緡。貧者苦之。○三月。左僕射同平章事曹確。同平章事。充鎮海節度使。○夏。四月。丙午。以翰林學士承旨兵部侍郎韋保衡。同平章事。○徐賊餘黨猶相聚閭里。爲羣盜。散居兗鄆青齊之間。詔徐州觀察使夏侯暉。招諭之。○五月。丁丑。以邛州刺史吳行魯爲西川留後。○光州民逐刺史李弱翁。弱翁奔新息。左補闕楊堪等上言。刺史不道。百姓負冤。當訴於朝廷。寘諸典刑。豈得羣黨相聚。擅自斥逐。亂上下之分。此風殆不可長。宜加嚴誅。以懲來者。○上令百官議處置徐州之宜。六月。丙午。太子少傅李膠等。狀以爲徐州雖屢構禍亂。未必比屋頑凶。蓋由統御失人。是致姦回乘釁。今使名雖降。兵額尚存。以爲支郡。則糧餉不給。分隸別藩。則人心未服。或舊惡相濟。更成披猖。惟泗州向因攻守。結釁已深。宜有更張。庶爲兩便。詔從之。徐州依舊爲觀察使。統徐濠宿三州。泗州爲團練使。割隸淮南。○加幽州節度使張允伸兼侍中。○秋。八月。乙未。同昌公主薨。上痛悼不已。殺翰林醫官韓宗劼等二十餘人。悉收捕其親族三百餘人。繫京兆獄。中書侍郎同平章事劉瞻。召諫官使言之。諫官莫敢言者。乃自上言。以爲修短之期。人之定分。昨公主有疾。深軫聖慈。宗劼等診療之時。惟求疾愈。備施方術。非不盡心。而禍福難移。竟成差跌。原其情狀。亦可哀矜。而械繫老幼三百餘人。物議沸騰。道路嗟歎。奈何以達理知命之君。涉肆暴不明之謗。蓋由安不慮危。忿不思難之故也。伏願少回聖慮。寬釋繫者。上覽疏不悅。瞻又與京兆尹溫璋。力諫於上前。上大怒。叱出之。○魏博節度使何全皞。年少驕暴好殺。又減將士衣糧。將士作亂。全皞單騎走。追殺之。推大將韓君雄爲留後。成德節度使王景崇爲之請旌節。九月。庚戌。以君雄爲魏博留後。○丙辰。以劉瞻同平章事。充荆南節度使。貶溫璋振州司馬。璋歎曰。生不逢時。死何足惜。是夕。仰藥卒。勅曰。苟無蠹害。何至於斯。惡實貫盈。死有餘責。宜令三日內。且於城外權瘞。俟經恩宥。方許歸葬。使中外快心。姦邪知懼。已巳。貶右諫議大夫高湘。比部郎中知制誥楊知至。禮部郎中魏瓘等。於嶺南。皆坐與劉瞻親善。爲韋保衡所逐也。知至。汝士之子。嘗扶之子也。保衡又與路巖共奏。劉瞻云。與醫官通謀。誤投毒藥。丙子。貶瞻康州刺史。翰林學士承旨鄭畋。草瞻罷相制辭曰。安數畝之居。仍非己有。却四方之賂。惟畏人知。巖謂畋曰。侍郎乃表薦劉相也。坐貶梧州刺史。御史中丞孫理。坐爲瞻所引用。亦貶汀州刺史。路巖素與劉瞻論議。多不叶。瞻既貶康州。巖猶不快。閱十道圖。以驩州去長安萬里。再貶驩州司戶。○冬。十月。癸卯。以西川留後吳行魯爲節度使。○十一月。辛亥。以兵部尚書鹽鐵轉運使王鐸爲禮部尚書。同平章事。鐸起之兄子也。○丁卯。復以徐州爲感化軍節度使。○十二月。加成德節度使王景崇同平章事。以左金吾上將軍李國昌爲振武節度使。○十二年。春。正月。辛酉。葬文懿公主。韋氏之人。爭取庭祭之灰。汰其金銀。凡服玩。每物皆百二十輿。以錦繡珠玉爲儀衛明器。輝煥三十餘里。賜酒百斛。餅餠四十。橐駝以飼休夫。上與郭

唐紀 懿宗昭聖恭惠孝皇帝下咸通十二年



淑妃思公主不已。樂工李可及作歎百年曲。其聲悽惋。舞者數百人。發內庫雜寶。為其首飾。以繩八百匹。為地衣。舞罷。珠璣覆地。○以魏博留後韓君雄為節度使。○門下侍郎同平章事路巖與韋保衡素相表裏。勢傾天下。既而爭權。浸有隙。保衡遂短巖於上。夏四月。癸卯。以巖同平章事。充西川節度使。巖出城。路人以瓦礫擲之。權京兆尹薛能。巖所擢也。巖謂能曰。臨行。煩以瓦礫相餞。能徐舉笏對曰。曩來宰相出。府司無例。發人防衛。巖甚慙。能汾州人也。○五月。上幸安國寺。賜僧重謙。僧澈。沈檀講座。二各高二丈。設萬人齋。○秋七月。以兵部尚書盧耽同平章事。充山南東道節度使。○冬十月。以兵部侍郎鹽鐵轉運使劉鄴為禮部尚書。同平章事。

十三年春正月。幽州節度使張允伸得風疾。請委軍政。就醫。許之。以其子簡會知留後。疾甚。遣使上表。納旌節。丙申。薨。允伸鎮幽州二十三年。勤儉恭謹。邊鄙無警。上下安之。○二月。丁巳。以兵部侍郎同平章事于琮為山南東道節度使。以刑部侍郎判戶部奉天趙隱為戶部侍郎。同平章事。○平州刺史張公素。素有威望。為幽人所服。張允伸薨。公素帥州兵來奔。喪。張簡會懼。二月。奔京師。以為諸衛將軍。○夏四月。立皇子保為吉王。傑為壽王。倚為陸王。○以張公素為平盧留後。○五月。國子司業韋殷裕詣閣門。告郭淑妃弟內作坊使敬述陰事。上大怒。杖殺殷裕。籍沒其家。乙亥。閣門使田獻銘。奪紫改橋陵使。以其受殷裕狀故也。殷裕妻父太府少卿崔元應。妻從兄中書舍人崔沆。季父君卿皆貶嶺南官。給事中杜裔休。坐與殷裕善。亦貶端州司戶。沆。鉉之子也。裔休。惛之子也。○丙子。貶山南東道節度使于琮為普王傅分司。韋保衡譖之也。辛巳。貶尚書左丞李當。吏部侍郎王胤。左散騎常侍李都。翰林學士承旨兵部侍郎張揚。前中書舍人封彥卿。左諫議大夫楊塾。癸未。貶工部尚書嚴祁。給事中李貺。給事中張鐸。左金吾大將軍李敬仲。起居舍人蕭邁。李瀆。鄭彥特。李藻。皆處之湖嶺。

之南。坐與琮厚善故也。琮。漢之子。邁。實之子也。甲申。貶前平盧節度使于瑁為涼王府長史分司。前湖南觀察使于瓌為袁州刺史。瓌。瑁皆琮之兄也。尋再貶琮韶州刺史。琮妻廣德公主。多驕主。上之妹也。與琮偕之韶州。行則肩輿。門相對。坐則執琮之帶。琮由是獲全。時諸公主多驕縱。惟廣德動遵法度。事于氏宗親。尊卑無不如禮。內外稱之。○六月。以盧龍留後張公素為節度使。○韋保衡欲以其黨裴條為郎官。憚左丞李璋方嚴。恐其不放上。先遣人達意。璋曰。朝廷遷除。不應見問。○秋七月。乙未。以璋為宣歙觀察使。○八月。歸義節度使張義潮薨。沙州長史曹義金代領軍府制。以義金為歸義節度使。是後中原多故。朝命不及。回鶻陷甘州。自餘諸州。隸歸義者。多為羌胡所據。○冬十二月。追上宣宗諡。曰元聖。至明成武獻文睿智章仁神聰懿道大孝皇帝。○振武節度使李國昌恃功恣橫。專殺長吏。朝廷不能平。徙國昌為大同軍防禦使。國昌稱疾不起。

十四年春三月。癸巳。上遣勅使詣法門寺迎佛骨。羣臣諫者甚衆。至有言憲宗迎佛骨。尋晏駕者。上曰。朕生得見之。死亦無恨。廣造浮圖寶帳。香輦幡花幢蓋。以迎之。皆飾以金玉錦繡珠翠。自京城至寺三百里間。道路車馬。晝夜不絕。夏四月。壬寅。佛骨至京師。導以禁軍兵仗。公私音樂。沸天燭地。綿亙數十里。儀衛之盛。過於郊祀。元和之時。不及遠矣。富室夾道為綵樓。及無遮會。競為侈靡。上御安福門。降樓膜拜。流涕霑臆。賜僧及京城耆老。嘗見元和事者。金帛。迎佛骨。入禁中三日。出置安國崇化寺。宰相已下。競施金帛。不可勝紀。因下德音。降中外繫囚。○五月。丁亥。以西川節度使路巖兼中書令。○南詔寇西川。又寇黔南。黔中經略使秦匡謀。兵少不敵。棄城奔荆南。荆南節度使杜悰。因而奏之。六月。乙未。勅斬匡謀。籍沒其家。貲親族。應緣坐者。令有司搜捕。以聞。匡謀。鳳翔人也。○以中書侍郎同平章事王鐸。同平章事。充宣武節度使。時韋保衡挾恩弄權。以劉瞻于琮。先在相位。不禮於己。譖而逐之。王鐸保



衡及第時主文也。蕭邁同年進士也。二人素薄保衡之為人。保衡皆攢斥之。○秋七月。戊寅。上疾大漸。左軍中尉劉行深。右軍中尉韓文約。立少子普王儼。○庚辰。制立儼為皇太子。權句當軍國政事。辛巳。上崩于咸寧殿。遺詔以韋保衡攝冢宰。僖宗即位。八月丁未。追尊母王貴妃為皇太后。劉行深。韓文約。皆封國公。○關東。河南。大水。○九月。有司上先太后諡曰惠安。○司徒門下侍郎同平章事韋保衡怨家。告其陰事。貶保衡賀州刺史。樂工李可及。流嶺南。可及有寵於懿宗。嘗為子娶婦。懿宗賜之酒。二銀壺。啓之。無酒而中實。右軍中尉西門季玄。屢以為言。懿宗不聽。可及嘗大受賜物。載以官車。季玄謂曰。汝它日破家。此物復應以官車載還。非為受賜。徒煩牛足耳。及流嶺南。籍沒其家。果如季玄言。○以西川節度使路巖兼侍中。加成德節度使王景崇中書令。魏博節度使韓君雄。盧龍節度使張公素。天平節度使高駢。竝同平章事。君雄仍賜名允中。○冬十月乙未。以左僕射蕭倣為門下侍郎。同平章事。○韋保衡再貶崖州澄邁令。尋賜自盡。又貶其弟翰林學士兵部侍郎保父為賓州司戶。所親翰林學士戶部侍郎劉承雍為涪州司馬。承雍。禹錫之子也。○癸卯。赦天下。○西川節度使路巖喜聲色遊宴。委軍府政事於親吏邊威。郭籌。皆先行後申。上下畏之。嘗大閱。二人議事。默書紙。相示而焚之。軍中以為有異圖。驚懼不安。朝廷聞之。十一月戊辰。徙巖荆南節度使。威籌潛知其故。遂亡命。○以右僕射蕭鄴同平章事。充河東節度使。○十二月己亥。詔送佛骨還法門寺。○再貶路巖為新州刺史。

僖宗惠聖恭定孝皇帝上之上

乾符元年春正月丁亥。翰林學士盧攜上言。以為陛下初臨大寶。宜深念黎元。國家之有百姓。如草木之有根柢。若秋冬培溉。則春夏滋榮。臣竊見關東去年旱災。自虢至海。麥纔半收。

秋稼幾無。冬菜至少。貧者磴蓬實為麵。蓄槐葉為齋。或更衰羸。亦難收拾。常年不稔。則散之鄰境。今所在皆饑。無所依投。坐守鄉閭。待盡溝壑。其蠲免餘稅。實無可徵。而州縣以有上供。及三司錢。督趣甚急。動加捶撻。雖撤屋伐木。雇妻鬻子。止可供所由酒食之費。未得至於府庫也。或租稅之外。更有他徭。朝廷儻不撫存。百姓實無生計。乞勅州縣。應所欠殘稅。竝一切停徵。以俟蠶麥。仍發所在義倉。亟加賑給。至深春之後。有菜葉木牙。繼以桑椹。漸有可食。在今數月之間。尤為窘急。行之不可稽緩。勅從其言。而有司竟不能行。徒為空文而已。○路巖行至江陵。勅削官爵。長流儋州。巖美姿儀。囚於江陵獄。再宿。須髮皆白。尋賜自盡。籍沒其家。巖之為相也。密奏三品以上賜死。皆令使者。剔取結喉三寸。以進。驗其必死。至是。自羅其禍。所死之處。乃楊收賜死之榻也。邊威。郭籌。捕得。皆伏誅。初巖佐崔鉉於淮南。為文使。鉉知其必貴。曰。路十終須作彼一官。既而入為監察御史。不出長安城十年。至宰相。其自監察入翰林也。鉉猶在淮南。聞之。曰。路十今已入翰林。如何得老。皆如鉉言。○以太子少傅于琮同平章事。充山南東道節度使。○二月甲午。葬昭聖恭惠孝皇帝於簡陵。廟號懿宗。○以中書侍郎同平章事趙隱同平章事。充鎮海節度使。以華州刺史裴坦為中書侍郎。同平章事。○以虢州刺史劉瞻為刑部尚書。瞻之貶也。人無賢愚。莫不痛惜。及其還也。長安兩市人。率錢雇百戲。迎之。瞻聞之。改期。由它道而入。○夏五月乙未。裴坦薨。以劉瞻為中書侍郎。同平章事。初瞻南遷。劉鄴附於韋路。共短之。及瞻還為相。鄴內懼。秋八月丁巳朔。鄴延瞻。置酒於鹽鐵院。瞻歸而遇疾。辛未薨。時人皆以為鄴鳩之也。○以兵部侍郎判度支崔彥昭為中書侍郎。同平章事。彥昭羣之從子也。兵部侍郎王凝。正雅之從孫也。其母彥昭之從母。凝。彥昭同舉進士。凝先及第。嘗衣見彥昭。且戲之曰。君不若舉明經。彥昭怒。遂為深仇。及彥昭為相。其母謂侍婢曰。為我多作鞮履。王侍郎母子。必將竄逐。吾當與妹偕行。彥昭拜且泣。謝曰。必不



敢。凝由是獲免。○冬十月，以門下侍郎同平章事劉鄩同平章事，充淮南節度使，以吏部侍郎鄭畋爲兵部侍郎，翰林學士承旨戶部侍郎盧攜守本官，並同平章事。○十一月庚寅，日南至，羣臣上尊號曰聖神聰睿仁哲孝皇帝，改元。○魏博節度使韓允中薨，軍中立其子節度副使簡爲留後。○南詔寇西川，作浮梁濟大度河，防河都知兵馬使黎州刺史黃景復俟其半濟擊之，蠻敗走，斷其浮梁，蠻以中軍多張旗幟，當其前而分兵潛出上下流，各二十里，夜作浮梁詰朝俱濟，襲破諸城柵，夾攻景復，力戰三日，景復陽敗走，蠻盡銳追之，景復設三伏以待之，蠻過三分之二乃發伏擊之，蠻兵大敗，殺二千餘人，追至大度河南而還，復修完城柵而守之，蠻歸至之羅谷，遇國中發兵繼至，新舊相合，鉦鼓聲聞數十里，復寇大度河，與唐夾水而軍，詐云求和，又自上下流潛濟，與景復戰連日，西川援軍不至，而蠻衆日益，景復不能支，軍遂潰。○十二月，党項回鶻寇天德軍。○感化軍奏羣盜寇掠州縣不能禁，勅兗鄆等道出兵討之。○南詔乘勝陷黎州，入邛崃關，攻雅州，大度河潰，兵奔入邛州，成都驚擾，民爭入城，或北奔它州，城中大爲守備，而塹壘比尋時嚴固，驃信使其坦綽，遣節度使牛叢書云：非敢爲寇也，欲入見天子，面訴數十年爲讒人離間冤抑之事，儻蒙聖恩矜恤，當還與尙書，永敦鄰好。今假道貴府，欲借蜀王廳留止數日，卽東上，叢素懦怯，欲許之，楊慶復以爲不可，斬其使者，留二人，授以書遣還，書辭極數其罪，詈辱之，蠻兵及新津而還，叢恐蠻至，豫焚城外民居，蕩盡蜀人尤之，詔發河東山南西道東川兵援之，仍命天平節度使高駢詣西川制置蠻事。○以韓簡爲魏博留後。○商州刺史王樞以軍州空窘，減折糶錢，民相帥以白梃毆之，又毆殺官吏二人，朝廷更除刺史李誥到官，收捕民李叔汶等三十餘人，斬之。○初，回鶻屢求冊命，詔遣冊立使郝宗莒詣其國，會回鶻爲吐谷渾嗚末所破，逃遁不知所之，詔宗莒以玉冊國信授靈鹽節度使唐弘夫，掌之，還京師。○上年少政，在臣下，南牙北司，互相矛盾。

盾自懿宗以來，奢侈日甚，用兵不息，賦斂愈急，關東連年水旱，州縣不以實聞，上下相蒙，百姓流殍，無所控訴，相聚爲盜，所在蠶起，州縣兵少，加以承平日久，人不習戰，每與盜遇，官軍多敗。是歲，濮州人王仙芝始聚衆數千，起於長垣。二年春正月丙戌，以高駢爲西川節度使。○辛卯，上祀圓丘，赦天下。○高駢至劍州，先遣使走馬開成都門，或曰：蠻寇逼近成都，相公尙遠，萬一豨突，奈何？駢曰：吾在交趾，破蠻二十萬衆，蠻聞我來，逃竄不暇，何敢輒犯成都？今春氣向暖，數十萬人蘊積城中，生死共處，污穢鬱蒸，將成瘟疫，不可緩也。使者至成都，開城縱民出，各復常業，乘城者皆下城解甲，民大悅。蠻方攻雅州，聞之，遣使請和，引兵去。駢又奏：南蠻小醜，易以枝梧，今西川新舊兵已多，所發長武鄜坊河東兵，徒有勞費，竝乞勒還，勅止河東兵而已。○上之爲普王也，小馬坊使田令孜有寵，及卽位，使知樞密，遂擢爲中尉，上時年十四，專事遊戲，政事一委令孜，呼爲阿父，令孜頗讀書，多巧數，招權納賄，除官及賜緋紫，皆不關白於上，每見常自備果食兩盤，與上相對飲，啗從容良久而退，上與內園小兒狎昵，賞賜樂工伎兒，所費動以萬計，府藏空竭，令孜說上籍兩市商旅寶貨悉輸內庫，有陳訴者，付京兆杖殺之，宰相以下，鉗口莫敢言。○高駢至成都，明日發步騎五千追南詔，至大度河，殺獲甚衆，擒其酋長數十人，至成都斬之，修復邛崃關，大度河諸城柵，又築城于戎州馬湖鎮，號平夷軍，又築城于沐源川，皆蠻入蜀之要路也，各置兵數千戍之，自是蠻不復入寇。駢召黃景復，責以大度河失守，腰斬之，駢又奏請自將本管，及天平昭義義成等軍，共六萬人，擊南詔，詔不許。先是，南詔督爽屢牒中書，辭語怨望，中書不答，盧攜奏稱：如此則蠻益驕，謂唐無以答，宜數其十代受恩以責之。然自中書發牒，則嫌於體敵，請賜高駢及嶺南節度使辛儼詔，使錄詔白牒與之，從之。○三月，以魏博留後韓簡爲節度使。○去歲感化軍發兵詣靈武防秋，會南詔寇西川，勅往救援，蠻退，遣還，至



鳳翔不肯詣靈武。欲擅歸徐州。內養王裕本都將劉逢。搜擒唱帥者胡雄等八人。斬之。衆然後定。○初南詔圍成都。楊慶復以右職優給。募突將以禦之。成都由是獲全。及高駢至。悉令納牒。又託以蜀中屢遭蠻寇。人未復業。停其稟給。突將皆忿怨。駢好妖術。每發兵追蠻。皆夜張旗立隊。對將士焚紙畫人馬。散小豆曰。蜀兵懼怯。今遣玄女神兵前行。軍中壯士皆恥之。又索闔境官有出於胥吏者。皆停之。令民間皆用足陌錢。陌不足者。皆執之。劾以行賂取與皆死。刑罰嚴酷。由是蜀人皆不悅。夏四月。突將作亂。大譟突入府廷。駢走匿於廁間。突將索之不獲。天平都將張傑。帥所部數百人。被甲入府。擊突將。突將撤牙前儀注兵仗。無者奮挺揮拳。乘怒氣力鬪。天平軍不能敵。走歸營。突將追之。營門閉。不得入。監軍使人招諭。許以復職名稟給。久之。乃肯還營。天平軍復開門出。爲追逐之勢。至城北。時方修毬場。役者數百人。天平軍悉取其首還。詣府云。已誅亂者。駢出見之。厚以金帛賞之。明日。勝謝突將。悉還其職名衣糧。自是日。令諸道士從己來者。更直府中。嚴兵自衛。○加成德節度使王景崇兼侍中。○浙西狼山鎮。遏使王郢等六十九人。有戰功。節度使趙隱賞以職名。而不給衣糧。郢等論訴不獲。遂劫庫兵作亂。行收黨衆近萬人。攻陷蘇常。乘舟往來。泛江入海。轉掠二浙。南及福建。大爲人患。○五月。以太傅分司令狐絢同平章事。充鳳翔節度使。○司空同平章事蕭做薨。○六月。以御史大夫李蔚爲中書侍郎。同平章事。○辛未。高駢陰籍突將之名。使人夜掩捕之。圍其家。挑牆壞戶而入。老幼孕病。悉驅去殺之。嬰兒或撲於階。或擊於柱。流血成渠。號哭震天。死者數千人。夜以車載尸。投之於江。有一婦人。臨刑戟手。大罵曰。高駢。汝無故奪有功將士職名衣糧。激成衆怒。幸而得免。不省己自咎。乃更以詐殺無辜。近萬人。天地鬼神。豈容汝如此。我必訴汝於上帝。使汝它日。舉家屠滅。如我今日。冤抑汗辱。如我今日。驚憂惴恐。如我今日。言畢拜天。怫然就戮。久之。突將有自成。役歸者。駢復欲盡族之。有元從親吏王殷。諫

曰。相公奉道。宜好生惡殺。此屬在外。初不同謀。若復誅之。則自危者多矣。駢乃止。○王仙芝及其黨尙君長。攻陷濮州曹州。衆至數萬。天平節度使薛崇。出兵擊之。爲仙芝所敗。冤旬人黃巢。亦聚衆數千人。應仙芝。巢少與仙芝。皆以販私鹽爲事。巢善騎射。喜任俠。粗涉書傳。屢舉進士不第。遂爲盜。與仙芝攻剽州縣。橫行山東。民之困於重斂者。爭歸之。數月之間。衆至數萬。○盧龍節度使張公素。性暴戾。不爲軍士所附。大將李茂勳。本回鶻阿布思之族。回鶻敗。降於張仲武。仲武使戍邊。屢有功。賜姓名。納降軍使陳貢言者。幽之宿將。爲軍士所信服。茂勳潛殺貢言。聲云。貢言舉兵向薊。公素出戰而敗。奔京師。茂勳入城。衆乃知非貢言也。不得已推而立之。朝廷因以爲留後。○秋七月。蝗自東而西。蔽日。所過赤地。京兆尹楊知至奏。蝗入京畿。不食稼。皆抱荆棘而死。宰相皆賀。○八月。李茂勳爲盧龍節度使。○九月。右補闕董禹。諫上遊畋乘驢擊毬。上賜金帛以褒之。邠寧節度使李侃奏。爲假父華清宮使道雅。求贈官。禹上疏論之。語頗侵宦官。樞密使楊復恭等。列訴於上。冬十月。禹坐貶郴州司馬。復恭爲欽義之養孫也。○昭義軍亂。大將劉廣逐節度使高湜。自爲留後。以左金吾大將軍曹翔爲昭義節度使。○回鶻還至羅川。十一月。遣使者同羅榆祿入貢。賜拯接絹萬匹。○羣盜侵淫。剽掠十餘州。至于淮南。多者千餘人。少者數百人。詔淮南忠武宣武義成天平五軍節度使監軍。亟加討捕。及招懷。十二月。王仙芝寇沂州。平盧節度使宋威表請。以步騎五千。別爲一使。兼帥本道兵。所在討賊。仍以威爲諸道行營招討草賊使。仍給禁兵三千。甲騎五百。因詔河南方鎮。所遣討賊都頭。竝取威處分。三年春。正月。天平軍奏。遣將士張晏等。救沂州。還至義橋。聞北境復有盜起。留使扞禦。晏等不從。喧譟趣鄆州。都將張思泰。李承祐。走馬出城。裂袖與盟。以俸錢備酒殺慰諭。然後定。詔本軍宣慰。一切無得窮詰。○勅福建江西湖南諸道觀察刺史。皆訓練士卒。又令天下鄉村。